

2021 年度入試状況分析



私立大分析〈最終〉(志願者数 525 大学・合格者数 522 大学集計)

※本文中の()内の数値は、志願者数あるいは合格者数の前年度対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

- 延べ志願者数は14%以上減少、2016年度志願者数を約7万人上回る程度と予想
- 一般方式は16%減少、共通テスト利用方式は2年連続減少、新規を除くと大幅減少

②系統別志願状況・合格状況

- 志願者数は全系統で減少、人文科学、外国語、国際関係、生活科学、歯、農・水産、スポーツ・健康の減少が目立つ
- 合格者数は11系統で増加し、競争は緩和

③地区別志願状況・合格状況

- 志願者数は東北を除いた地区は、いずれも私立大全体とほぼ同じ減少率
- 合格者数は大都市圏で増加だが、地方では減少と対照的な状況

④模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

- 志願者数は全グループで減少、近年見られた極端な弱気な動向が変化
- 合格者数は文理とも増加し競争は緩和、ただしEグループは減少

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

- 文系は全グループでダウン、競争緩和
- 理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入」状態

⑥志願者数が多い大学

- 志願者数5万人以上の大学は12大学、前年度から6大学減少

⑦増減が目立った大学

- 大都市部の難関大で目立つ減少

⑧主要私立22大学 入試結果概況

⑨大学別志願状況

⑩医学部医学科志願状況

- 既卒志望者減少の影響などで3年連続減少

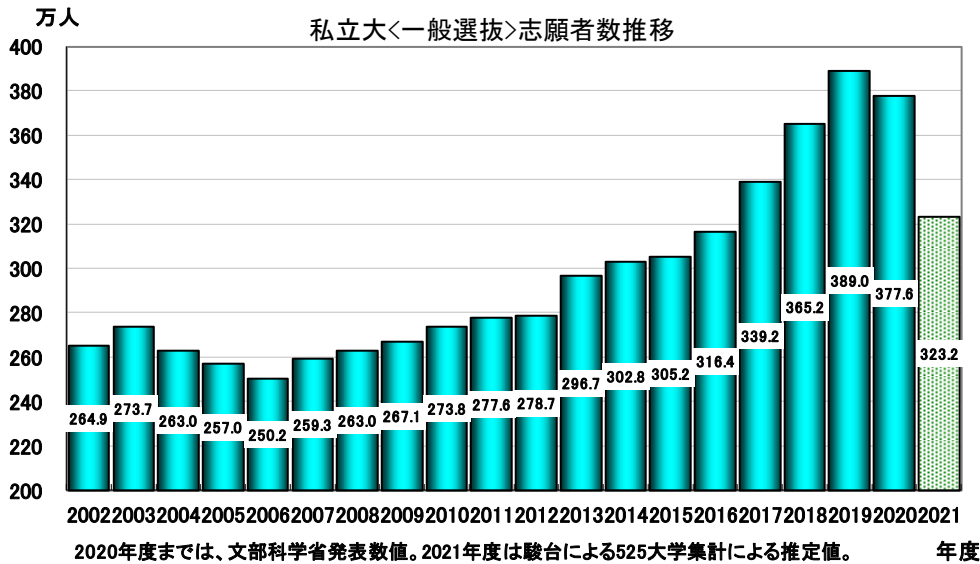
①志願状況全体概況

□延べ志願者数は14%以上減少、2016年度志願者数を約7万人上回る程度と予想

次ページのグラフは、私立大一般選抜の延べ志願者数の推移を表したものです。2020年度までは文部科学省の発表数値、2021年度は駿台で志願者数が確定した募集単位を集計した私立大525大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数をもとに推定した志願者数です。

駿台で集計した525大学の一般選抜の延べ志願者数は、約322万人(86)で前年度より約14%以上減少しました。この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は14年ぶりに減少した前年度から2年連続減少で、14%以上減少することが見込まれ、323万人余りとなり、2016年度の志願者数を約7万人上回る程度になったことが予想されます。この志願者数減少の背景には、以下の4点の要因が考えられます。

〔私立大志願者数推移〕



(1) 2020年度入試において、2021年度入試から予定されていた大規模な入試改革への不安(結果的には先送りとなったが、その発表時期が11月以降と遅かった)、これに入試時期から感染拡大が始まったコロナ禍への不安も加わり、かつてない弱気な出願となり、2020年度入試での大学進学を決めた受験生が多く、予想を超える既卒受験生の大幅減少

があった。

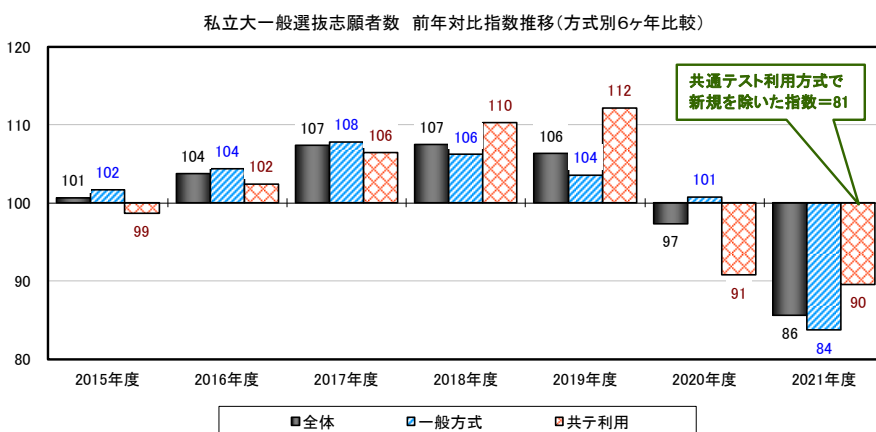
(2) 継続するコロナ禍の影響により、経済環境の悪化に加えて、地方在住者の感染への不安や対面授業の再開が不透明なことによる都市部の大学への進学の見直しなどから、1人あたりの併願校数が減少した。

(3) センター試験に代わり導入された共通テストの出題内容・難易レベルへの不安から共通テスト利用方式の志願者数が減少した。

(4) コロナ禍による厳しい経済環境や海外渡航制限の影響を強く受けている外国語系、経済・経営・商学系、国際関係系といった文系の系統への人気は低下し、文系定員の占める割合が大きい私立大の志願者数減少が拡大した。

□一般方式は16%減少、共通テスト利用方式は2年連続減少、新規を除くと大幅減少

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

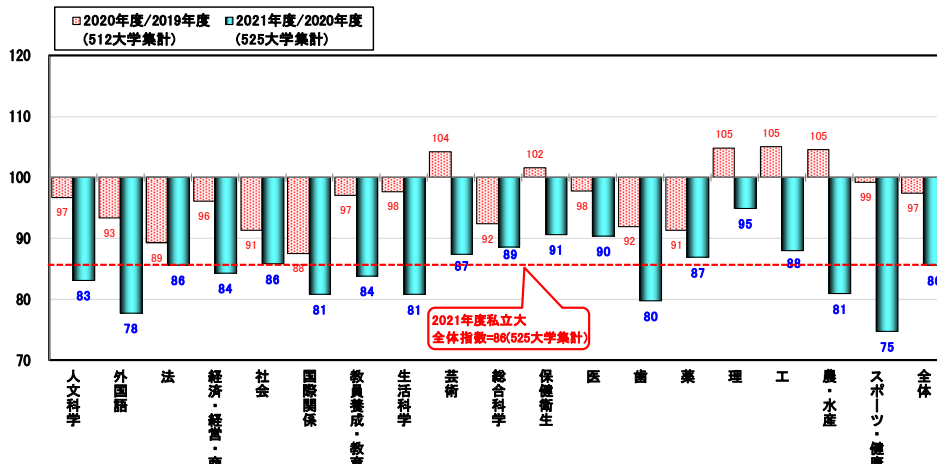
この入試方式別では、一般方式(84)が16%減少したのに対して、共通テスト利用方式(90)は、前年度までのセンター試験利用方式と比較すると2年連続減少ですが、10%の減少に留まりました。

しかし、これは早稲田大・政治経済、国際教養、スポーツ科学、青山学院大・経済除く、上智大などで多くの募集単位を一般方式から共通テスト併用方式に変更した影響が大きく、前年度から継続する募集単位のみを集計では(81)と一般方式よりも減少率は大きくなりました。これは、共通テスト実施前に出願を締め切った「事前出願」の募集単位では、センター試験から共通テストへの移行に伴い、出題形式の変化や難化予想に対する敬遠により、また共通テストの実施後に出願可能な「事後出願」の募集単位では私立大文系3教科型(国語、地歴・公民、英語)の平均点大幅ダウンにより、それぞれ志願者数が減少した影響によるものです。

②系統別志願状況・合格状況

□志願者数は全系統で減少、人文科学、外国語、国際関係、生活科学、歯、農・水産、スポーツ・健康の減少が目立つ

〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別延べ志願者数の前年度対比指数を2ヶ年分示したものです。

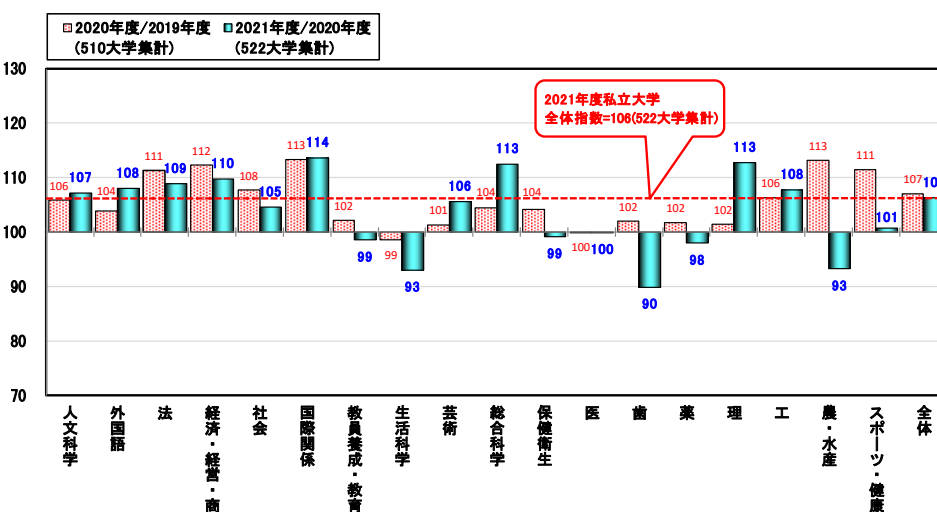
この系統別では、全ての系統が減少しました。その中で、私立大全体指数86を3ポイント以上下回ったのは、人文科学(83)、外国語(78)、国際関係(81)、生活

科学(81)、歯(80)、農・水産(81)、スポーツ・健康(75)でした。それぞれの減少要因は、人文科学は経済状況が悪化する中で就職に直結しないイメージによる人気の低下があり、これに入試変更により神奈川大・国際日本(47)、青山学院大・総合文化政策(53)などが半減前後の大幅減少だったことが影響しました。外国語と国際関係はコロナ禍の影響による海外との交流制限等による勉学や将来への不安、生活科学は女子大の志願者数減少、歯は医からの志望変更の減少、農・水産は高校生が関心を持つ話題が少ないことによる系統への人気低下、スポーツ・健康はオリンピック・パラリンピック後の関心や人気の低下などです。

一方で、私立大全体指数86を3ポイント以上上回ったのは、総合科学(89)、保健衛生(91)、医(90)、理(95)でした。特に、減少率が10%以下だった3系統の要因は、保健衛生はメディカル系全般への人気アップと藤田医科大・医療科学、保健衛生での新規募集単位の設置、医は聖マリアンナ医科大(136)の後期日程の新規実施、東北医科薬科大・医(107)、近畿大・医(103)の増加、理は理高文低の流れの中で、上智大・理工(機能創造理工)(物質生命理工)(情報理工)の合計が(126)の大幅増加、関西学院大・理も旧理工の理学系統の学科との比較で大幅増加(126)だったことが影響しました。

□合格者数は11系統で増加し、競争は緩和

〔私立大 系統別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別延べ合格者数の前年度対比指数を2ヶ年分示したものです。

駿台が集計した私立大522大学の合格者数(106)は増加しました。系統別でみると、私立大の中で最も募集人員の多い経済・経営・商(110)、次いで多い工(108)をはじめ、全18系統中11系統で増加しました。

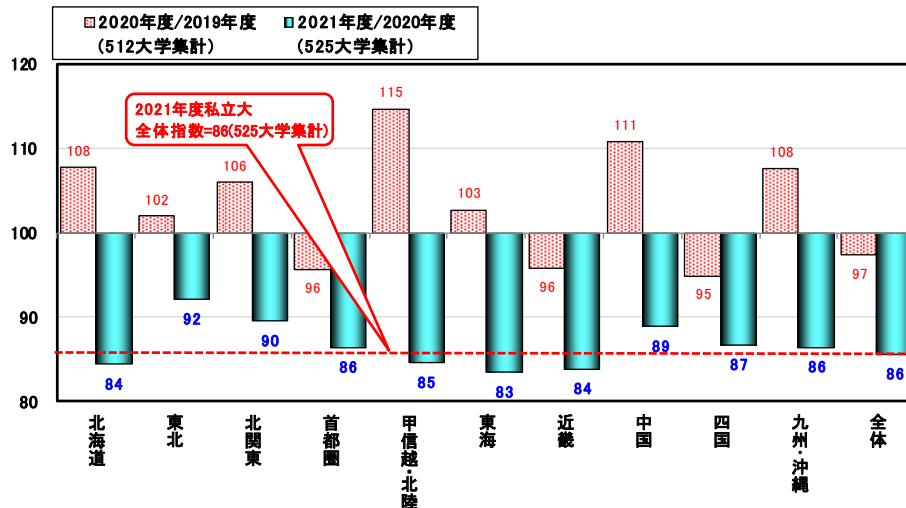
志願者数と合格者数の指数の比較では、全ての系統で、合格者指数が志願者指数を上回っており、競争の

緩和が見られました。「合格者指数-志願者指数」の値が大きいのは、国際関係(+33)、外国語(+30)、経済・経営・商(+26)でこれらの3系統の競争の緩和が大きかったといえます。これらは、コロナ禍の影響を強く受けた系統だといえます。また、スポーツ・健康(26)もオリンピック・パラリンピック後のこの系統への人気低下を反映して、競争の緩和が大きくなりました。

③地区別志願状況・合格状況

□志願者数は東北を除いた地区は、いずれも私立大全体とほぼ同じ減少率

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の大学所在地の地区別（以下「地区別」）の延べ志願者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

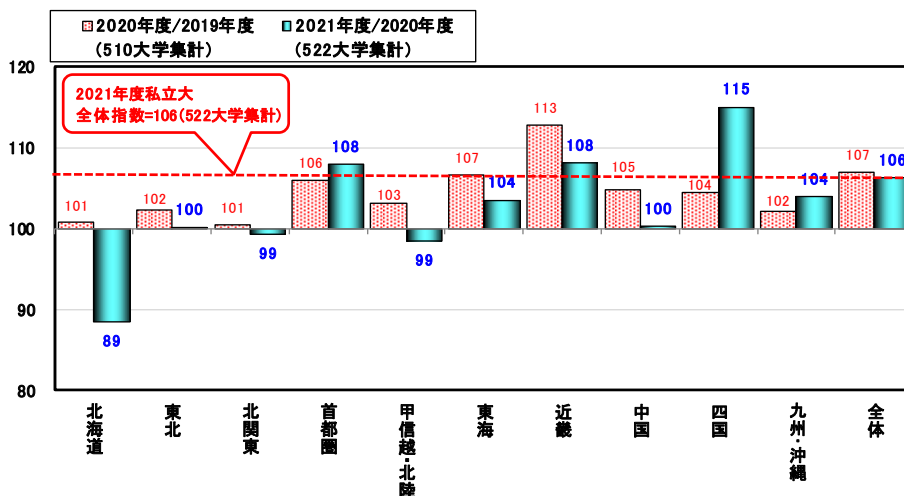
地区別の志願状況では、9地区全てで減少しました。東北(92)を除くと、いずれも私立大全体で(86)前後の減少率となりました。特に募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏を含む

首都圏(86)、東海(83)、近畿(84)についてはいずれも減少で、指数も私立大全体とほぼ同じでした。

前年度は、定員厳格化の中で、都市部の大学を敬遠し、地方が増加するという傾向でしたが、今年度は地方から都市部への移動の流れが止まり都市部の大学は減少、また地方では景気悪化もあって国公立大志向が高まり私立大が減少という流れの中で、いずれの地区でも私立大の志願者数は減少傾向となっており、近年とは大きく動向が変化しました。

□合格者数は大都市圏で増加だが、地方では減少と対照的な状況

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

四国では、地区内で最大規模の大学である松山大(143)が大幅に増加した影響で増加しました。本州では、首都圏(108)、東海(104)、近畿(108)と特に募集

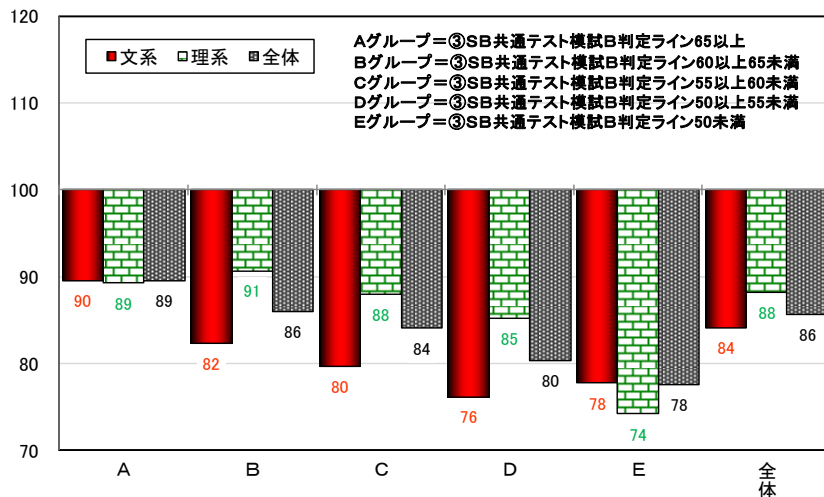
人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏での増加率が大きくなりました。一方で、北海道(89)、甲信越・北陸(99)など減少している地区もありました。地方では志願者数が減少したことで、合格者数を増やすことができず、入学者を確保するのが厳しい状況になったことが推察されます。

系統別と同じように、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、四国(+28)は先に述べた松山大の影響で、

最も競争が緩和した地区ですが、これを除くと首都圏(+22)、東海(+21)、近畿(+24)の3大都市圏で大きく競争が緩和しました。一方で、値の小さい北海道(+5)、東北(+8)でも競争は緩和していますが、3大都市圏ほど大きな緩和は見られませんでした。

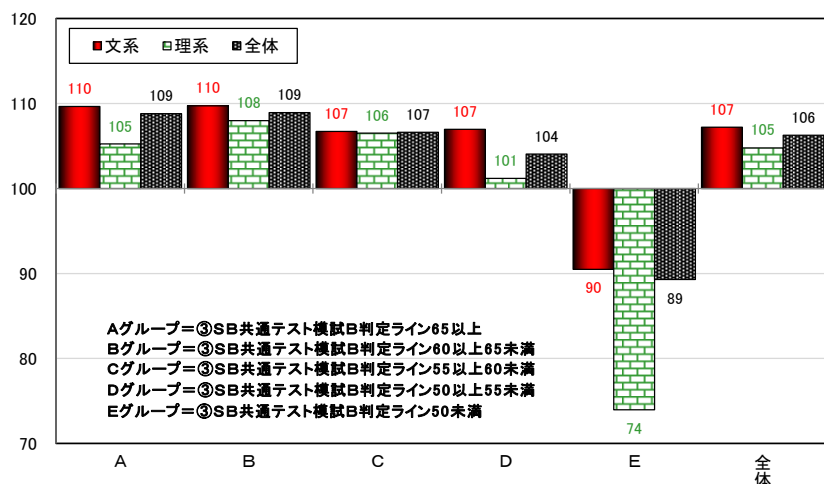
④模試合格判定ライングループ別志願状況・合格状況

□志願者数は全グループで減少、近年見られた極端な弱気な動向が変化



文系では、Aグループ(90)からDグループ(76)に向かって減少率が大きくなりました。コロナ禍による経済状況の悪化により出願校数を絞る傾向がありましたが、いわゆる安全校の絞込が顕著でした。近年の弱気な出願によって継続していたAグループからEグループに向かって、志願者指数がアップしていくという傾向は全く見られませんでした。コロナ禍で経済状況が厳しくなる中で、受験校選定にあたって、合格可能性のみを重視したような安易な選択は減少したようです。一方で、理系でもA・Bグループの減少率よりもC・Dグループの減少率が大きく、Eグループが最も大きくなりました。文系同様に安全校の絞込の傾向が見られました。

□合格者数は全体では文理とも増加し競争は緩和、ただしEグループは減少



文系はA・Bグループで約10%増加、C・Dグループで約7%増加しましたが、逆に志願者数は減少したため、競争が緩和したことがわかります。一方で、減少したEグループ(90)も志願者数の減少率の方が大きい

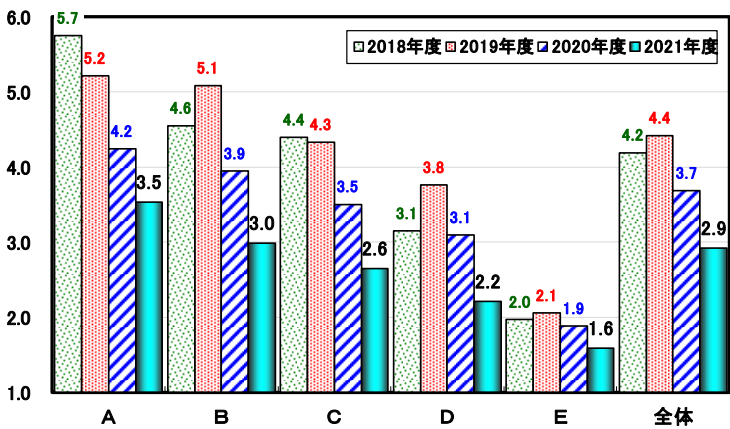
ため、競争が緩和しました。

理系は、A～Dグループで増加しましたが、志願者数は減少したため、競争が緩和しました。Eグループ(74)

は大幅減少ですが、志願者数の減少率と同じ数値となっており、文理を通して唯一競争の緩和がなかったグループでした。文系、理系のほとんどのグループで競争が緩和したことが、2021年度入試の大きな特徴でした。

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系は全グループでダウン、競争緩和

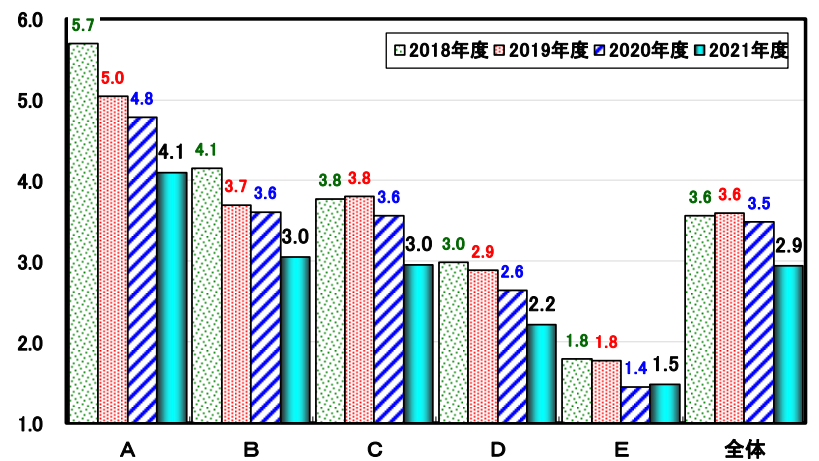


※2021年度基準で2021年度・2020年度を分類
2019年度は2020年度基準、2018年度は2019年度基準

Aグループ=③SBマーク判定Bライン65以上
Bグループ=③SBマーク判定Bライン60以上65未満
Cグループ=③SBマーク判定Bライン55以上60未満
Dグループ=②SBマーク判定Bライン50以上55未満
Eグループ=②SBマーク判定Bライン50未満

ープは、2年間で5.1倍から3.0倍と2.1ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和したのがわかります。一方で、Eグループは0.3ポイントダウンに留まりましたが、前年度に引続き2.0倍を下回りました。

□理系はA～Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入」状態



※2021年度基準で2021年度・2020年度を分類
2019年度は2020年度基準、2018年度は2019年度基準

Aグループ=③SBマーク判定Bライン65以上
Bグループ=③SBマーク判定Bライン60以上65未満
Cグループ=③SBマーク判定Bライン55以上60未満
Dグループ=②SBマーク判定Bライン50以上55未満
Eグループ=②SBマーク判定Bライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが左のグラフです。

文系は、全体では3.7倍から2.9倍と0.8ポイントダウンしており、競争ははっきりと緩和しました。グループ別では、A～Eグループ全てではっきりとしたダウンで競争が緩和しました。特に難関レベルのBグループ

理系は、全体では3.5倍から2.9倍と0.6ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は小さいものの、競争は緩和しました。

グループ別では、A～Dグループがダウンしていて、文系同様に受験生が自分の実力に合った学校を絞り込んで受験する傾向がみられました。一方で、Eグループのみ前年度並ですが、1.5倍前後という低倍率が前年度から継続しており、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。

⑥志願者数が多い大学

□志願者数 5 万人以上の大学は12大学、前年度から 6 大学減少

順位	大学名	志願者数			
		2021年度	2020年度	増減	指数
1	近畿大	135,830	145,320	-9,490	93
2	千葉工業大	108,707	103,269	+5,438	105
3	明治大	99,470	103,035	-3,565	97
4	日本大	97,948	113,902	-15,954	86
5	早稲田大	91,659	104,576	-12,917	88
6	法政大	90,956	103,628	-12,672	88
7	東洋大	89,808	101,776	-11,968	88
8	立命館大	83,512	103,669	-20,157	81
9	関西大	79,511	87,625	-8,114	91
10	中央大	78,534	86,476	-7,942	91
11	立教大	65,475	61,308	+4,167	107
12	龍谷大	56,379	53,281	+3,098	106
13	東京理科大	49,301	56,355	-7,054	87
14	専修大	47,381	51,024	-3,643	93
15	同志社大	44,481	49,946	-5,465	89
16	東海大	44,316	56,285	-11,969	79
17	福岡大	44,072	52,112	-8,040	85
18	京都産業大	40,925	56,220	-15,295	73
19	青山学院大	40,123	57,822	-17,699	69

左表は、私立大 525 大学の一般選抜の志願者数集計において、大学全体の志願者数が 4 万人以上の大学をまとめたものです。この中で、2021 年度の志願者数が 5 万人以上の大学は 12 大学で、前年度の 18 大学から 6 大学減少しました。

12 大学のうち 9 大学では志願者数が減少しましたが、これは 2020 年度入試での弱気な志望動向で既卒受験生が減少したことに加えて、コロナ禍の収束が見えないことによる不安や経済環境の悪化、さらには緊急事態宣言等による移動制限、大学での

長引くリモート授業などにより、地方在住者が都市部の大学への進学を敬遠する動きがあったことで、1 人あたりの併願校数が減少したことが要因です。

また、コロナ禍による海外渡航制限の影響を強く受けている外国語系、経済・経営・商学系、国際関係系といった文系の系統への人気は低下し、定員全体に文系系統の占める割合が大きい私立大において、志願者数減少がより顕著に表れた結果も加わりました。

志願者数が 10 万人を上回った大学はわずか 2 大学に留まり、前年度の 8 大学から 6 大学も減少しました。その中で、前年度初めて 10 万人を突破した千葉工業大(105)は、理・工系人気の上昇に加え、コロナ禍における経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を無料または減免にしたことで、この方式の志願者数が全学部で大幅増加した結果、志願者数は 2 年連続で 10 万人を上回りました。近畿大(93)は 3 年連続減少しましたが、8 年連続で全国最多の志願者数でした。立教大(107)はやや増加で、一般方式における全学部日程の試験日の増加によって、受験機会が増加したことが影響しました。志願者数が前年度減少した龍谷大(106)も、共通テスト利用方式の方式拡大(利用科目数、日程)で受験機会が増加し、やや増加しました。立命館大(81)は前年度増加して志願者数が 10 万人を上回った反動がはっきりと表れて、2 万人以上もの大幅減少で、全大学で志願者数の減少が最も多い大学となりました。

⑦増減が目立った大学

□大都市部の難関大で目立つ減少

私立大 525 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数が 1,000 人以上の大学、減少数が 7,000 人以上の大学について見ていきます。

増加している大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 5,438 人(105)、次いで立教大の 4,167 人(107)、龍谷大が 3,098 人(106)で、3,000 人以上の増加は 3 大学に留まり、1,000 人以上の増加まで含めても 8 大学です。前年度は私立大延べ志願者数が 14 年ぶりに減少しましたが、それでも 3,000 人以上増加の大学が 10 大学あったことから、2021 年度入試の私立大全体の志願者数減少が大きかったことが反映した結果となりました。千葉工業大は、理・工系への堅調な人気に支えられる中でも、一般方式は 6,811 人(89)の減少でしたが、コロナ禍による経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を無料または減免にしたことで、共通テスト利用方式(129)が全学部で大幅増加しました。立教大は、全学部日程の試験日を増加さ

せた一般方式が 4,282 人(111)で増加、龍谷大は方式拡大(利用科目数、日程)で受験機会が増加した共通テスト利用方式が 4,492 人(142)の大幅増加でした。聖学院大(172)は共通テスト利用方式、神戸女子大(129)では中期日程を新規導入しました。2021 年度の入試改革やコロナ禍への不安が長引く中、受験生目線で受験機会を増やした大学での増加が目立ちました。また、大阪産業大(111)は一般方式で新たに指定教科重視方式を導入したことに加え、コロナ禍の経済環境悪化への対策として受験料を一律減額にした効果で増加、駒澤大(104)は前年度の 41%減少という大幅減少の反動でやや増加しました。

7,000 人以上減少した大学は、前年度の 7 大学から 20 大学へ増加しました。大学別では、減少率の大きかった順に青山学院大(69)、京都産業大(73)、立命館大(81)、日本大(86)、東京理科大(87)、早稲田大(88)、法政大(88)、東洋大(88)、関西大(91)、中央大(91)、近畿大(93)といった首都圏、関西圏の難関大を中心に減少しました。これは、コロナ禍の中で地方から都市部への移動の流れが止まり都市部の私立大への出願が減少、これに景気悪化もあって、確実な進学先として地元国公立大(特に比較的難易度の低い公立大)への志向が高まったことが影響しました。

なお、減少数が多かった大学では、立命館大(81)が約 2 万人、青山学院大(69)が約 1.8 万人とこの東西の 2 大学が突出しました。

〔1,000 人以上増加した大学〕

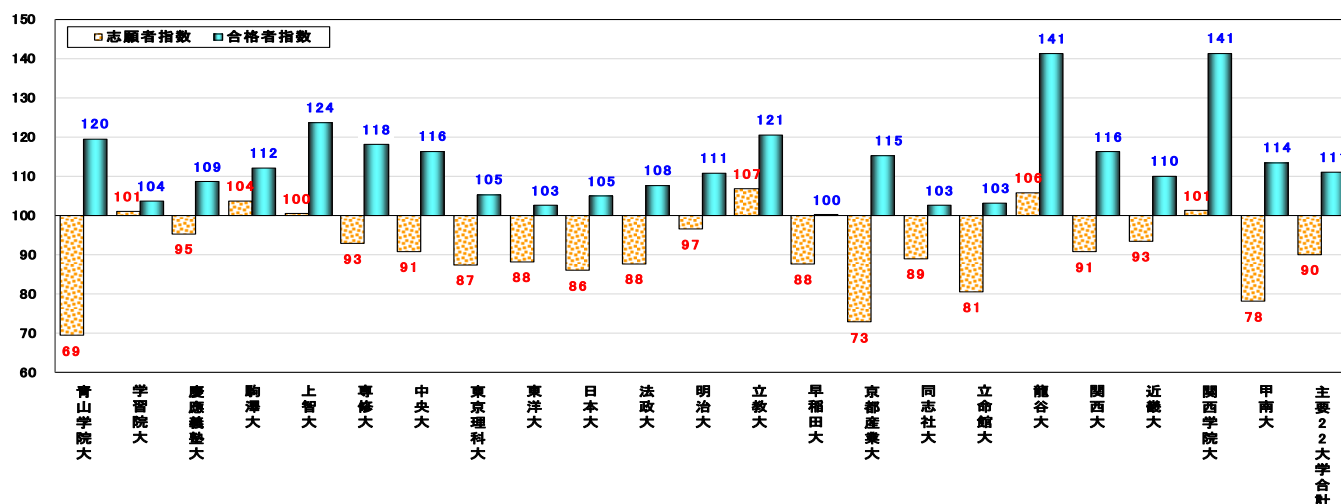
大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2021年度	2020年度	
千葉工業大	+5,438	105	108,707	103,269	コロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を無料または減免にした共通テスト利用方式(129)が大幅増加。一般方式(89)は減少。志願者数は2年連続10万人を上回った。
立教大	+4,167	107	65,475	61,308	大学全体では3年ぶりに増加。一般方式(111)は、全学部日程の試験日増加による受験機会の増加が影響。共通テスト利用方式(99)は微減だが3年連続減少。
龍谷大	+3,098	106	56,379	53,281	共通テスト利用方式の科目数増加や新規方式導入により、共通テスト利用方式(142)は大幅増加。一方で、一般方式(97)はやや減少で2年連続減少。
大和大	+1,622	119	10,321	8,699	社会(社会)を新設、志願者数は1,632人。政治経済(164)は大幅増加。他学部は減少。
聖学院大	+1,278	172	3,056	1,778	共通テスト利用方式を新規導入。5学科全て併願可能、同金額。大学独自試験との併願すると検定料を更に割引。共通テスト利用方式志願者数は827人、一般方式(125)も451人の大幅増加。
大阪産業大	+1,136	111	11,449	10,313	2017年度の改組以降5年連続増加。一般方式で新たに指定教科重視方式を導入したことや、コロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を一律減額にしたことが影響。
駒澤大	+1,077	104	29,902	28,825	大学全体(104)で、前年度大幅減少の反動でやや増加。特に、共通テスト利用方式(122)は、前年度60%近い大幅減少の反動で大幅増加し、8学科中7学科が増加。
神戸女子大	+1,019	129	4,543	3,524	中期日程入試を新規導入、志願者数は1,070人。大学全体では、一般方式(150)は、2年連続減少の反動で大幅増加。共通テスト利用方式(85)は、2年連続大幅減少。

〔7,000 人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2021年度	2020年度	
立命館大	-20,157	81	83,512	103,669	前年度増加の反動やコロナ禍による1人あたりの出願校数減少の影響を受け、大幅減少。一般方式(84)、共通テスト利用方式(75)のいずれも大幅減少。
青山学院大	-17,699	69	40,123	57,822	大きな入試変更を行わなかった経済(103)のみがやや増加で、他学部は減少。一般方式から多くの学部で共通テスト併用方式となった個別学部日程は(57)の大幅減少。
日本大	-15,954	86	97,948	113,902	大学全体(86)では減少で、志願者数10万人を下回った。既卒受験生の減少やコロナ禍による1人あたりの出願校数減少が影響。
京都産業大	-15,295	73	40,925	56,220	大学全体(73)では6年ぶりの大幅減少。志願者数は2018年度から続いた5万人台を大きく下回る結果。文化(89)が減少、他の9学部はすべて大幅減少。
早稲田大	-12,917	88	91,659	104,576	1972年度以来の志願者数が10万人を下回った。コロナ禍による情報発信が難しかったことで、入試方式を変更した学部についての理解が深まらなかったことも影響。
法政大	-12,672	88	90,956	103,628	一般方式(92)は減少、共通テスト利用方式は(78)で2年連続大幅減少。学部別では、15学部中12学部で減少。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
神奈川大	-12,221	66	24,251	36,472	コロナ禍対応のため給費生試験を2月実施とした影響で、全ての学部で大幅減少。特に前年度新設の国際日本(47)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響が大きく半減以下の減少、法(53)も半減近い減少。
東海大	-11,969	79	44,316	56,285	基盤工(112)を除く他18学部すべてで減少。特に文(62)、国際文化(63)、教養(69)で文系の大幅減少が目立った。
東洋大	-11,968	88	89,808	101,776	前年度まで4年連続10万人を上回っていた志願者数は、9万人を下回った。コロナ禍による系統への人気低下で国際観光(66)は30%以上の減少。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
近畿大	-9,490	93	135,830	145,320	理系8学部合計(88)の減少、一般方式(87)の減少が影響。共通テスト利用方式(115)は新規方式実施の影響で大幅増加、一般方式(87)は減少で対照的な結果。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
帝京大	-8,932	77	29,357	38,289	大学全体(77)では5年ぶりに減少。福岡医療技術(106)を除く、9学部で減少。教育(93)を除く8学部は大幅減少。特に、共通テスト利用方式(64)は30%を超える大幅減少で、経済(46)、法(48)は半減以下。
国士舘大	-8,746	60	12,924	21,670	全ての学部で大幅減少。特に政経(経済)(40)は一般方式(41)、共通テスト利用方式(37)で激減。
関西大	-8,114	91	79,511	87,625	一般方式(85)の大幅減少が影響して、大学全体(91)は2年連続の減少。共通テスト利用方式の(社会安全)(45)が半減以下の減少。
福岡大	-8,040	85	44,072	52,112	大学全体(85)では3年ぶりの減少。医(医)(68)は、コロナ禍でI期実施をIII期実施に変更した影響で、共通テスト方式が(11)で90%に近い激減。
中央大	-7,942	91	78,534	86,476	一般方式(93)、共通テスト利用方式(87)ともに2年連続減少。特に(総合政策)(63)の大幅減少が影響。
中京大	-7,303	81	30,925	38,228	大学全体(81)では2年ぶりの減少。スポーツ科学(131)のみ大幅増加だが、新設学科を除くとスポーツ科学(73)も大幅減少。
阪南大	-7,193	48	6,663	13,856	大学全体(48)では、半減以下の減少で2年連続減少。コロナ禍による系統への人気低下で、全ての学部で半減以下の減少。
東京農業大	-7,141	76	22,187	29,328	大学全体(76)では、大幅減少で4年連続の減少。特に、国際食糧情報(65)、生物産業(70)が30%以上の減少。
名古屋学院大	-7,073	57	9,284	16,357	大学全体(57)では、〈一般・中期〉×〈共テ・中期〉を廃止した影響もあって、40%を超える減少。6年ぶりの減少で、2017年度以来となる1万人を下回った。方式別では、一般方式(67)、共通テスト利用方式(37)。
東京理科大	-7,054	87	49,301	56,355	先進工(128)を除く他の6学部が減少で、方式別では4方式すべてで減少。共通テスト利用方式の経営(経営)(38)は2年連続半減以下の激減。

⑧主要私立22大学 入試結果概況

大学名	2021年度		2020年度		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2021年度 /2020年度	2020年度 /2019年度	2021年度 /2020年度	2020年度 /2019年度
青山学院大	40,123	9,884	57,822	8,262	69	96	120	102
学習院大	17,108	3,790	16,932	3,656	101	88	104	97
慶應義塾大	36,681	9,327	38,454	8,590	95	92	109	98
駒澤大	29,902	9,130	28,825	8,139	104	59	112	115
上智大	26,270	6,775	26,156	5,476	100	94	124	115
専修大	47,381	13,650	51,024	11,559	93	91	118	138
中央大	78,534	19,829	86,476	17,026	91	93	116	100
東京理科大	49,301	16,579	56,355	15,727	87	93	105	101
東洋大	89,808	27,731	101,776	27,048	88	83	103	113
日本大	97,948	35,737	113,902	34,060	86	113	105	119
法政大	90,956	20,033	103,628	18,591	88	90	108	104
明治大	99,470	24,732	103,035	22,304	97	92	111	101
立教大	65,475	14,659	61,308	12,152	107	89	121	108
早稲田大	91,659	14,532	104,576	14,513	88	94	100	100
京都産業大	40,925	11,340	56,220	9,834	73	102	115	113
同志社大	44,481	15,804	49,946	15,412	89	93	103	101
立命館大	83,512	31,943	103,669	30,962	81	110	103	113
龍谷大	56,379	17,835	53,281	12,625	106	96	141	122
関西大	79,511	18,815	87,625	16,189	91	94	116	96
近畿大	135,830	37,484	145,320	34,034	93	94	110	122
関西学院大	33,617	11,783	33,209	8,332	101	86	141	90
甲南大	14,845	5,163	18,999	4,546	78	83	114	105
主要22大学合計	1,349,716	376,555	1,498,538	339,037	90	93	111	109



上のグラフと表は、2021 年度入試における主要私立 22 大学の大学別入試結果をまとめたものです。

□志願者が増加したのは6大学のみ

志願者数が、前年度より増加したのは、立教大(107)、龍谷大(106)、駒澤大(104)の3大学で、学習院大(101)、関西学院大(101)、上智大(100)の3大学が前年度並、他の16大学は前年度より減少で、主要私立22大学合計(90)でも減少しました。

これは、2020年度入試での弱気な志望動向で既卒受験生が減少したことに加えて、収束が見えないコロナ禍に対する先行き不安から、できるだけ受験校を絞り込んで、無理に最難関大を受験しないという動きが強まったためです。

方式別では、一般方式(86)の減少に対して、共通テスト利用方式(101)は前年度並です。ただし、これは早稲田大・政治経済、国際教養、スポーツ科学、上智大、青山学院大・経済除く のように一般方式から共通テスト利用方式への募集方式を変更や、学習院大の共通テスト利用方式の新規導入などの影響が大きく、前年度から継続する募集単位での集計では共通テスト利用方式は(83)と大幅減少で一般方式よりも減少しました。私立大全体と同様に主要22大学においても共通テスト利用方式への敬遠傾向が見られました。

志願者数が増加した大学から見ていくことにします。まず、立教大(107)はやや増加ですが、一般方式において全学部日程の試験日を増加させたことにより受験機会が増加したことが影響しました。龍谷大(106)は共通テスト利用方式での2教科型や4教科型といった従来になかった教科数の方式を導入や実施日程の追加などで、共通テスト利用方式(142)が大幅増加したことが全体のやや増加につながりました。前年度2万人近く志願者数を減らし、2019年度対比41%減だった駒澤大(104)は、その反動は小さく、やや増加に留まりました。

一方で、大幅減少した大学です。青山学院大(69)は、多くの学部で個別学部日程を一般方式から共通テスト併用方式に変更しましたが、個別試験での記述式を含む出題や小論文について、コロナ禍の影響でその内容が周知されなかったことも加わり、強い敬遠傾向が見られました。京都産業大(73)は5年連続増加の反動が要因でした。甲南大(78)は募集方式の廃止や募集単位の廃止もあって、2年連続大幅減少しました。立命館大(81)は前年度増加して志願者数が10万人を上回った反動で、全大学中で最も多い2万人を上回る大幅減少となりました。

近畿大(93)はやや減少ですが、志願者数13万5千人を上回り、8年連続で全国最多となりました。なお、志願者数が10万人を上回ったのは、主要私立22大学では近畿大のみでしたが、全国でも近畿大と千葉工業大の2大学のみとなり、前年度の8大学から大きく減少しました。

□合格者は22大学全てで増加

合格者数は、全ての大学で増加し、主要私立22大学合計(111)では3年連続増加となりました。志願者数と合格者数を比べると、志願者数が増加した6大学も含めて、主要私立22大学全てで競争が緩和しました。合格者数が2千人以上増加した大学が前年度の6大学から8大学に、15%以上の大幅増加だった大学は、前年度の6大学から9大学にそれぞれ増加しました。

大学別では、龍谷大(141)が5,210人、関西学院大(141)は3,451人といずれも40%以上の大幅増加でした。前年度6千人を上回る合格者を発表した近畿大(110)は、今年度も3,450人の増加でした。入試方式を多く変更した早稲田大(100)は、主要私立22大学で最も少ない19人の微増に留まりました。

「合格者指数-志願者指数」の数値でみると、学習院大が+3ポイントで最も数値が小さく、前年度50ポイントを超えて最も数値が大きかった駒澤大は+8ポイントに留まりました。一方で、青山学院大は+50ポイントと最も数値が大きく、志願者数の大幅減少(69)にもかかわらず合格者数は大幅増加でした。同様に、志願者数が大幅減少(73)した京都産業大も+43ポイントで、合格者数が大幅増加となりました。これらの2大学では競争が大きく緩和しました。

なお、今年度は各大学では入学者数確保のために、補欠繰り上げや追加合格の発表が遅くまで行われた結果、最終的な進学校決定が遅れたり、複数の大学に支払った結果として入学金の負担が大きくなるなど、いろいろな物議を醸した入試となりました。

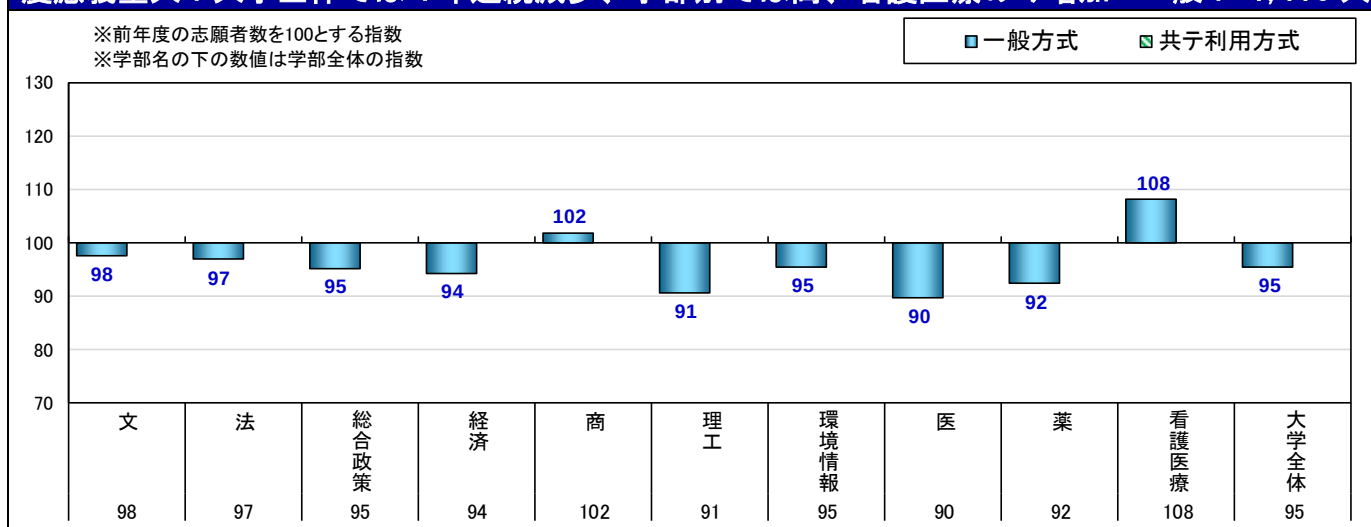
⑨大学別志願状況

※入試変更点があった学部・学科、増減の目立った学部・学科を中心に分析しています。

※各大学名の一歩右にある人数は、一般方式、共通テスト利用方式の各合計での志願者増減数を表しています。

※〈 〉内は入試方式を表しています。〈共テ〉と表記されている方式は共通テスト利用方式を表しています。

慶應義塾大：大学全体では4年連続減少、学部別では商、看護医療のみ増加 一般：-1,773人



入試変更点	出願書類：出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」をどのように考え、心掛けてきたかについて記入を求める ※合否判定には使用しない
	選抜方法：看護医療…〈2次〉論＋面→論(コロナ禍により2021年度は面なし)
	募集人員：総合政策…〈一般〉275人、〈A O〉100人→〈一般〉225人、〈A O〉150人
	環境情報…〈一般〉275人、〈A O〉100人→〈一般〉225人、〈A O〉150人

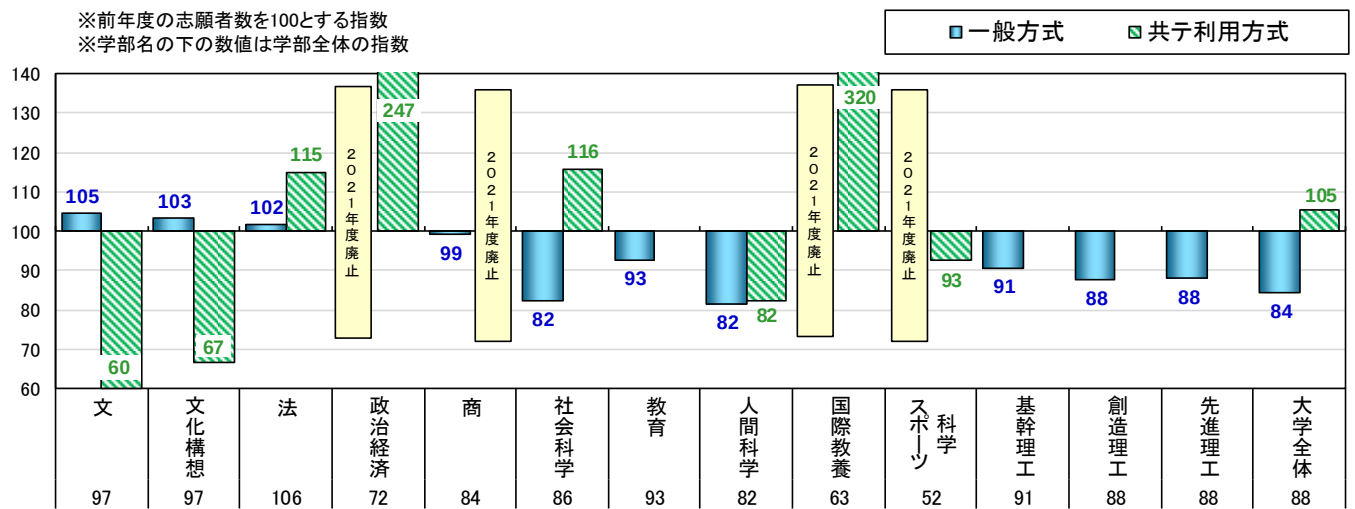
COMMENT ※〈 〉内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,773人(95)のやや減少で4年連続減少。コロナ禍による首都圏の大学への敬遠傾向と最難関大を無理に狙わない傾向が影響。学部別では商、看護医療を除く8学部で減少。

〈一般方式〉

- 文(98)は、微減だが4年連続減少。
- 法(97)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(法律)(106)は前年度の大幅減少の反動もあって、やや増加で4年ぶりに増加、(政治)(88)は減少で前年度4年ぶりに増加したが、再び減少に転じた。
- 総合政策(95)は、やや減少で4年連続減少だが、募集人員が18%減少したことで、志願倍率は12.1倍→14.1倍にアップし、競争は激化。
- 経済(94)は、やや減少で5年連続減少。方式別では、〈A方式〉(89)は減少、一方で〈B方式〉(106)はやや増加と対照的。
- 商(102)は、微増だが4年ぶりに増加。方式別では、〈A方式〉(95)はやや減少で2年連続減少、一方で〈B方式〉(113)は増加で4年ぶりの増加。
- 理工(91)は、減少で7年連続減少。学門別では、全ての学門で減少した。学門A(100)、学門B(98)は微減だったが、学門E(92)、学門C(88)は減少、学門D(79)は20%以上の大幅減少だった。
- 環境情報(95)は、やや減少で2年連続減少だが、募集人員が18%減少したことで、志願倍率は10.9倍→12.7倍にアップし、競争は激化。
- 医(90)は、難関大医学部医学科を敬遠する動きから、2年連続約1割前後の減少が継続し、志願者数は1,250人を下回った。
- 薬(92)は、減少。学科別では、薬剤師過剰への不安から6年制の(薬)(90)は7年連続減少。4年制の(薬科学)(97)は前年度の大幅増加の反動もあってやや減少となった。
- 看護医療(108)は、4年連続減少の反動で増加。

早稲田大：大学全体で3年連続減少、1972年度以来の志願者数10万人未満 一般：-13,789人 共テ：+872人



入試変更点	選抜方法：出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験の提出を求める ※得点化はしない 文<セ・センターのみ>…実施→廃止 文化構想<セ・センターのみ>…実施→廃止 政治経済…<一般>→<共テ併用> (<共テ>国+数①+外+(歴公 or 数② or 理 or 理基2) + <個>総合問題(日英両言語を含む長文読解) 商<一般>…<一般>→<一般>地歴・公民型、数学科型、英語4技能型 一般・地歴・公民型：募集人員 355人…国+歴公+外 一般・数学科型：募集人員 150人…国+数+外 一般・英語4技能型：募集人員 30人…国+外+(歴公 or 数) ※英語外部試験…英検、TOEFL iBT(出願要件、得点加算) 商<セ>…実施→廃止 国際教養…<一般>→<共テ併用>、英語外部試験 英検、TOEFL iBT→英検、TOEFL iBT、IELTS 国際教養<セ・センターのみ>…実施→廃止 スポーツ科学<一般>、<セ>→<共テ併用>一般A群>、<共テ併用>一般B群>、<共テ併用>一般C群> 募集人員：政治経済(経済)…<一般>200人、<セ>35人→<共テ併用>140人、<共テ>25人 政治経済(政治)…<一般>150人、<セ>25人→<共テ併用>100人、<共テ>15人 政治経済(国際政治経済)…<一般>100人、<セ>15人→<共テ併用>60人、<共テ>10人 国際教養…<一般>150人→<共テ併用>175人 スポーツ科学…<一般>100人、<セ>+一般50人→<共テ併用>150人 (<共テ>外+(国 or 数) <個>論) 入試科目：社会科学<一般>…国+外+(歴公 or 数) ※歴公：世Bor日Bor政経→国+外+(歴 or 数) ※歴：世Bor日B 人間科学<一般・文系>…国+外+(歴公 or 数) ※歴公：世Bor日Bor政経→国+外+(歴 or 数) ※歴：世Bor日B スポーツ科学<共テ併用・競技歴>…外+調+(国 or 歴公 or 数 or 理 or 理基2)→2 →外+調+(国 or 数)+(国 or 歴公 or 数 or 理 or 理基2) ※同一教科選択不可 スポーツ科学<共テ>…国+数+外+(歴公 or 理 or 理基2) ※数：数① or 数②→国+数+外+(歴公 or 理 or 理基2) ※数：数①
-------	--

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、12,917人(88)の減少で3年連続減少した結果、1972年度以来となる志願者数が10万人を下回った。コロナ禍の中で地方から首都圏の大学を敬遠する傾向、最難関大を敬遠する傾向などが影響。さらに、コロナ禍による情報発信が難しかったことで入試方式変更への理解が深まらなかったことも影響。方式別では、一般方式(84)は政治経済、国際教養、スポーツ科学が共通テスト利用方式のみに変更したこともあって、15%を超える大幅減少で3年連続減少。これらの3学部を除いても(94)の減少。共通テスト利用方式(105)は先に述べた3学部が共通テスト利用方式のみへ変更したことで2年ぶりに増加したが、逆に商が共通テスト利用方式を廃止したこともあって、やや増加に留まった。前年度と募集方式に大きな変化がない学部では、法(115)、社会科学(116)の2学部が大幅増加。

<一般方式>

- 文(105)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、<英語4技能>(160)が大幅増加で4年連続増加。
- 文化構想(103)は、やや増加で3年ぶりに増加。方式別では、<英語4技能>(149)が大幅増加で4年連続増加、<一般>(93)はやや減少で4年連続減少と対照的。
- 法(102)は、前年度減少の反動は小さく微増。
- 商(99)は、微減だが4年連続減少。なお、<共テ利用>を廃止したので、学部全体としては(84)の大幅減少。
- 社会科学(82)は、3年連続減少。今年度は大幅減少して、志願者数は9千人を下回った。
- 教育(93)は、やや減少で、3年連続減少。学科・専攻・専修別では、(教育/教育)(156)、(社会/地理歴史)(121)が大幅増加。一方で、(教育/生涯教育)(66)、(教育/初等教育)(74)、(理/生物学)(75)、(国語国文)(76)、(数学)(78)、(社会/公共市民学)(79)はいずれも20%を上回る大幅減少。
- 人間科学(82)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(健康福祉科学)(78)、(人間環境科学)(80)がいずれも大幅減少。
- 基幹理工(91)は、前年度3年ぶりの増加から再び減少。学系別では、(学系I)(85)は2年連続増加の反動で、(学系II)(85)も前年度増加の反動で、いずれも大幅減少。一方で、(学系III)(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

- 創造理工(88)**は4年連続減少。学科別では、(総合機械理工)(101)、(社会環境工)(99)が前年度並だった以外は減少で、特に、(環境資源工)(62)、(経営システム工)(82)は大幅減少。
- 先進理工(88)**は、減少で6年連続減少。学科別では、増加した学科はなく、(応用物理)(79)。(生命医科)(79)、(化学・生命化)(84)が大幅減少。

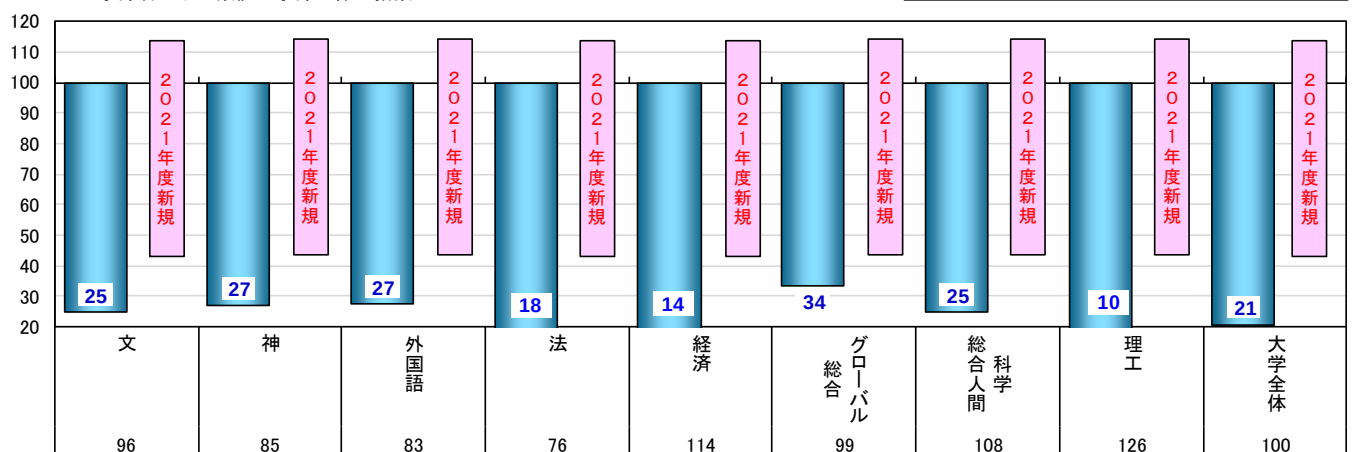
＜共通テスト利用方式＞

- 文(60)**は、大幅減少で4年ぶりに減少。方式別では、＜＋一般＞(113)は増加で2年連続増加だったが、前年度志願者数1,000人だった＜共テのみ＞を廃止した影響が大きかった。
- 文化構想(67)**は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、＜＋一般＞(114)は3年ぶりに増加したが、前年度志願者数835人だった＜共テのみ＞を廃止した影響が大きかった。
- 法(115)**は、前年度の大幅減少の反動で大幅増加。
- 政治経済(247)**は、全ての募集単位で共通テストを利用する方式に変更したことで、志願者数は2.5倍近く増加した。従来からある＜共テのみ＞(95)はやや減少だったが、新たに導入された＜共テ併用＞は志願者数3,495人だった。この志願者数は前年度の＜一般方式＞と比較すると(63)の大幅減少だった。募集人員の減少、共通テストの負担増、学部独自試験として導入された記述式問題への敬遠などの影響が大きかった。
- 社会科学(116)**は、前年度大幅減少の反動により大幅増加。前年度の増減による反動が続いた。
- 国際教養(320)**は、全ての募集単位で共通テストを利用する方式に変更したことで、志願者数は3.2倍に増加した。なお、＜一般方式＞を廃止したため、学部全体では(63)の大幅減少。共通テストと学部独自試験の2つの受験が必要となり負担増となった影響は大きかった。
- スポーツ科学(93)**は、やや減少で3年連続減少。方式別では、全ての方式で減少。特に＜競技歴＞は4年連続減少。さらに、＜一般方式＞を廃止したため、学部全体では(52)の半減近い減少。

上智大：大学全体では前年度並、理工、経済、総合人間科学の3学部が増加

一般：-20,744人 共テ：+20,858人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点

選抜方法：全学部…＜一般＞廃止→＜共テ併用＞新設、

英語外部試験利用＝得点加算、対象試験(ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT)

文(英文、国文、ドイツ文、フランス文)…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞学科試験

文(新聞)…＜個＞国+歴+外+学科試験→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞学科試験

文(史)…＜個＞国+歴+外+学科試験→＜共テ＞国+歴+外、＜個＞学科試験

文(哲)…＜個＞国+外+学科試験+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞学科試験

神…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞面+学科試験

外国語…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞外+学科試験

法…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞学科試験

経済(経営)…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞数 or 外

経済(経済)…＜個＞国+数+外→＜共テ＞国+数2+外、＜個＞数

総合グローバル(総合グローバル)…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞学科試験

総合人間科学(教育)…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞学科試験

総合人間科学(心理)…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞面+学科試験

総合人間科学(社会、社会福祉)…＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞学科試験

総合人間科学(看護)…＜個＞国+外+(数 or 理)→＜共テ＞国+外+(数2 or 理 or 理基2)、＜個＞面+学科試験

理工…＜個＞数+理+外→＜共テ＞数2+理+外、＜個＞数+理

全学部…＜共テ利用＞新設、英語外部試験利用＝得点加算、対象試験(ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT)

文(英文、国文、ドイツ文、フランス文)…国+歴公+数+外 文(新聞)…国+歴公+数+外

文(史)…国+歴+数+外

文(哲)…国+歴公+数+外

	神…〈1次〉国+歴公+数+外〈2次〉面 法…国+歴公+数+外 経済(経済)…国+歴公+数2+外 総合人間科学(教育)…国+歴公+数+外 総合人間科学(社会、社会福祉)…国+歴公+数+外 理工…国+数2+理2+外 募集人員：文(英文、国文、ドイツ文、フランス文) …〈一般〉英文：57人、国文：35人、ドイツ文：24人、フランス文：29人 〈TEAP〉英文：10人、国文：10人、ドイツ文：10人、フランス文：10人 →〈共テ併用〉英文：37人、国文：32人、ドイツ文：18人、フランス文：20人、 〈共テ利用〉英文：3人、国文：3人、ドイツ文：3人、フランス文：3人、 〈TEAP〉英文：27人、国文：10人、ドイツ文：13人、フランス文：16人 文(新聞)…〈一般〉78人、〈TEAP〉20人→〈共テ併用〉50人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉20人 文(史)…〈一般〉40人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉27人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉20人 文(哲)…〈一般〉30人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉19人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉14人 神…〈一般〉14人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉12人、〈共テ利用〉2人、〈TEAP〉8人 外国語…〈一般〉イスパニア：40人、英：80人、ドイツ：30人、フランス：36人、ポルトガル：28人、ロシア：28人、 〈TEAP〉イスパニア：10人、英：20人、ドイツ：10人、フランス：10人、ポルトガル：10人、ロシア：10人 →〈共テ併用〉イスパニア：29人、英：50人、ドイツ：21人、フランス：25人、ポルトガル：20人、ロシア：20人、 〈共テ利用〉イスパニア：3人、英：5人、ドイツ：3人、フランス：3人、ポルトガル：3人、ロシア：3人、 〈TEAP〉イスパニア：18人、英：45人、ドイツ：16人、フランス：18人、ポルトガル：15人、ロシア：15人 法…〈一般〉国際関係法：63人、法律：89人、地球環境法：40人、〈TEAP〉国際関係法：15人、法律：26人、地球環境法：12人 →〈共テ併用〉国際関係法：45人、法律：65人、地球環境法：30人、 〈共テ利用〉国際関係法：3人、法律：5人、地球環境法：3人、 〈TEAP〉国際関係法：30人、法律：45人、地球環境法：19人 経済(経営)…〈一般〉108人、〈TEAP〉22人→〈共テ併用〉85人、〈共テ利用〉20人、〈TEAP〉25人 経済(経済)…〈一般〉105人、〈TEAP〉25人(文系：20人、理系5人) →〈共テ併用〉73人、〈共テ利用〉5人、〈TEAP〉52人(文系：40人、理系12人) 総合グローバル…〈一般〉100人、〈TEAP〉40人→〈共テ併用〉70人、〈共テ利用〉5人、〈TEAP〉65人 総合人間科学(教育)…〈一般〉37人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉26人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉18人 総合人間科学(心理)…〈一般〉30人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉21人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉16人 総合人間科学(社会、社会福祉)…〈一般〉社会：35人、社会福祉：30人、〈TEAP〉社会：10人、社会福祉：10人 →〈共テ併用〉社会：25人、社会福祉：21人、〈共テ利用〉社会：3人、社会福祉：3人、 〈TEAP〉社会：17人、社会福祉16人 総合人間科学(看護)…〈一般〉30人、〈TEAP〉10人→〈共テ併用〉21人、〈共テ利用〉3人、〈TEAP〉16人 理工…〈一般〉各学科50人、〈TEAP〉各学科20人→〈共テ併用〉各学科40人、〈共テ利用〉各学科5人、〈TEAP〉各学科20人 入試科目：文(英文、国文、ドイツ文、フランス文)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経 →国+歴 ※歴：世B、日B 文(新聞)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経→国+歴 ※歴：世B、日B 文(哲)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 神〈TEAP〉…国+歴公 ※歴公：世B、日B、倫、政経→〈1次〉国+歴 ※歴：世B、日B、〈2次〉面 外国語〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 法〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 経済(経営)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 総合グローバル〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 総合人間科学(教育)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、倫、政経→国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 総合人間科学(心理)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経 →〈1次〉国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B、〈2次〉面 総合人間科学(社会、社会福祉)〈TEAP〉…国+(歴公 or 数) ※歴公：世B、日B、地B、倫、政経 →国+(歴 or 数) ※歴：世B、日B 総合人間科学(看護)〈TEAP〉…国+数→〈1次〉国+数、〈2次〉面
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較 大学全体では、114人(100)の微増で前年度並。学部別で増加したのは、理工(126)、経済(114)、総合人間科学(108)の3学部 で、他学部は減少。特に法(76)、外国語(83)、神(85)は大幅減少。方式別では、〈共テ利用〉〈共テ併用〉を新設し、〈一般〉を廃 止。前年度から継続する〈TEAP〉は280人減少で、前年度対比指数は(95)とやや減少。新設された方式の志願者数は、〈共テ併用 〉が15,435人で、〈共テ利用〉が5,423人。この両方式合計と前年度〈一般〉との比較では394人増加で、前年度対比指数102の 微増で、〈一般〉廃止による影響は2方式の新設でほぼカバーできた。	

＜一般方式＞ ※前年度までの＜TEAP＞との比較

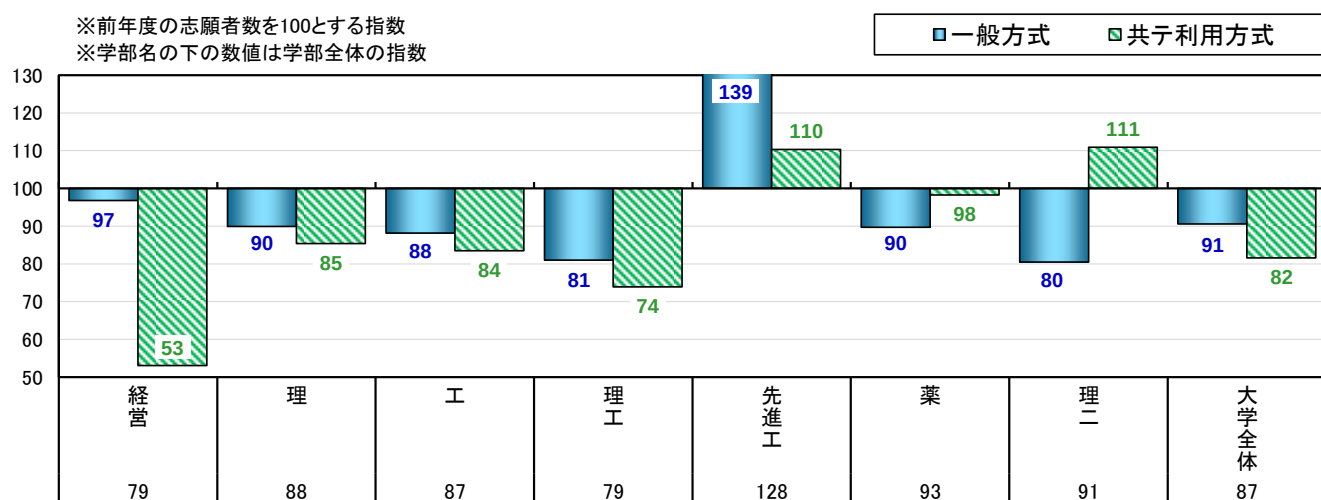
- ＜一般＞を廃止し＜TEAP＞のみとなったので、以下は前年度の＜TEAP＞との比較による分析を行う。
- 文(79)は、大幅減少。学科別では、(英文)(173)が大幅増加、(新聞)(111)の増加だが、他の5学科はいずれも大幅減少で、特に(哲)(51)、(ドイツ文)(53)は半減近い減少。
- 神(78)は、2年連続大幅減少。
- 外国語(121)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(英語)(237)が約2.4倍になったことが学部全体の大幅増加につながった。他の5学科は、(イスパニア語)(104)がやや増加。一方で(ポルトガル語)(92)が減少、(ドイツ語)(96)がやや減少。(ロシア語)(102)、(フランス語)(101)は前年度並で、いずれも増減は小さかった。
- 法(70)は、2年連続大幅減少。学科別では、(地球環境法)(44)が半減以上、(法律)(77)も大幅減少で3年連続減少。
- 経済(117)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(経営)(134)は大幅増加、(経済)(97)はやや減少、特に(経済／TEAP 理系)(70)が大幅減少。
- 総合グローバル(126)は、大幅増加で2年連続増加。
- 総合人間科学(112)は、2年連続増加。学科別では、(看護)(144)、(社会)(135)、(教育)(132)の3学科は大幅増加、一方で心理(79)は大幅減少、(社会福祉)(87)は減少と学科間で大きく増減が分かれた。
- 理工(58)は、3年連続増加の反動もあって、大幅減少。学科別では、3学科ともに大幅減少で、(機能創造理工)(52)、(物質生命理工)(53)の2学科は半減近い減少。

＜共通テスト利用方式＞ ※前年度までの＜TEAP＞を除く＜一般＞の募集単位との比較

- ＜TEAP＞を除く＜一般＞を廃止して、＜共テ利用＞＜共テ併用＞を新設したので、以下は前年度までの＜TEAP＞を除く＜一般＞との比較による分析を行う。なお、以下の分析中の「＜一般＞」は「＜TEAP＞を除く＜一般＞」を示すこととする。
- 文(104)は、従来の＜一般＞が3年連続減少だった反動もありやや増加。学科別では、(史学)(126)、(新聞)(123)、哲(123)が大幅増加、一方で(フランス文)(65)、(ドイツ文)(68)は大幅減少と増減が分かれた。
- 神(88)は、減少で従来の＜一般＞から2年連続減少。
- 外国語(72)は、大幅減少で従来の＜一般＞から3年連続減少。学科別では、(英語)(106)はやや増加だが、他の5学科はすべて減少。特に、(ポルトガル語)(42)は半減以上、(ドイツ語)(60)、フランス語(66)、イスパニア語(70)もそれぞれ30%を超える減少。
- 法(78)は、従来の＜一般＞から2年連続大幅減少。学科別では、(法律)(112)は増加だが、(国際関係法)(52)、(地球環境法)(73)はともに大幅減少。
- 経済(114)は、従来の＜一般＞から4年ぶりに増加。学科別では、(経営)(121)は大幅増加、(経済)(102)は微増。
- 総合グローバル(89)は、前年度＜一般＞の大幅増加の反動で減少。
- 総合人間科学(107)は、従来の＜一般＞が4年連続減少だった反動で増加。学科別では、(社会)(125)が大幅増加、一方で(社会福祉)(86)の減少が目立った。
- 理工(140)は、従来の＜一般＞の2年連続減少の反動もあって、大幅増加。学科別では、3学科ともに大幅増加で、(情報理工)(149)、(機能創造理工)(141)の2学科は40%を超える増加。

東京理科大：大学全体では2年連続減少。4方式全てが減少

一般：-3,476人 共テ：-3,578人



入試変更点

学部改組：基礎工→先進工

学科新設：経営(国際デザイン経営)

募集人員：経営(経営)〈A方式〉…56人→37人、〈B方式〉…132人→72人、〈C方式〉…24人→12人、
(ビジネスエコノミクス)〈A方式〉…30人→37人、〈B方式〉…62人→73人、
〈C方式〉…13人→15人、〈グローバル〉…7人→8人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では7,054人(87)の減少で2年連続減少。一般方式は3,476人(91)の減少で2年連続減少。方式別では〈B方式〉は3,472人(90)の減少で4年連続減少、〈グローバル〉は全学部導入された2018年度以降2年連続増加だったが、4人(100)の微減だが減少に転じた。共通テスト利用方式は3,578人(82)の2年連続大幅減少。方式別では〈A方式〉は3,231人(80)の大幅減少、〈C方式〉は347人(90)の減少でいずれも2年連続減少。

〈一般方式〉

- 経営(97)は、やや減少で2年連続減少だが、新設の(国際デザイン経営)を除くと(78)の大幅減少。学科別では、(経営)(61)は2年連続大幅減少、一方で(ビジネスエコノミクス)(106)はやや増加で2年連続増加と対照的。新設の(国際デザイン経営)は志願者数585人で、志願倍率は12.4倍で学部全体の志願倍率14.1倍を下回った。
- 理(90)は、3年ぶりに減少。全ての学科で減少し、(応用化学)(85)は大幅減少。
- 工(88)は、3年連続減少。学科別では、(情報工)(112)は増加だが、他の4学科は減少し、特に(電気工)(68)、機械工(80)の大幅減少が目立った。
- 理工(81)は、大幅減少で2年連続減少。全ての学科で減少し、半数以上の学科が大幅減少。
- 基礎工から改組した先進工(139)は、改称効果もあって大幅増加で、基礎工から2年連続増加。学科別では、3学科とも旧学科と募集人員には変化はないので、そのまま比較する。(生命システム工)(166)は(生物工)との比較では大幅増加で2年連続増加。(電子システム工)(151)も(電子応用工)との比較で大幅増加、(マテリアル創成工)(111)は(材料工)との比較では2年連続増加。
- 薬(90)は、3年連続減少。学科別では、(生命創薬科学)(89)は2年ぶりの減少、(薬)(90)は3年連続。

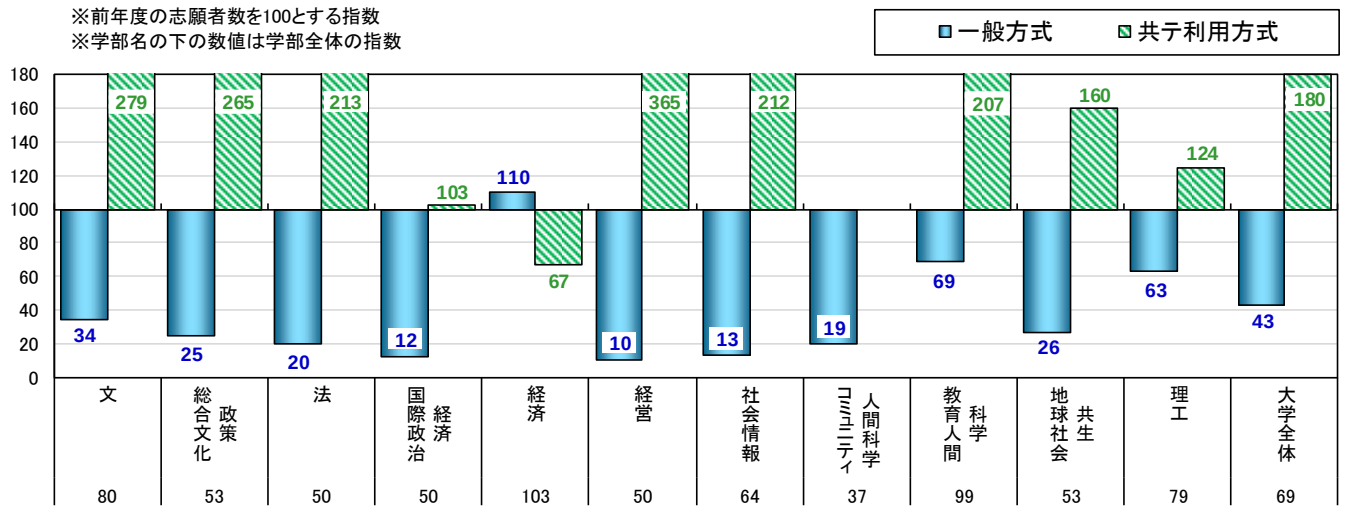
〈共通テスト利用方式〉

- 経営(53)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続半減近い減少。学科別では、(経営)(38)は2年連続半減以下の激減、(ビジネスエコノミクス)(56)は大幅減少で3年連続減少。新設の(国際デザイン経営)は志願者数185人で志願倍率は7.4倍で学部全体の志願倍率8.8倍を下回った。
- 理(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、(化学)(125)は大幅増加だが、その他の学科はいずれも減少し、特に(応用数学)(67)、(応用化学)(68)の30%以上の大幅減少が目立った。
- 工(84)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(情報工)(115)は大幅増加だが、その他の学科はいずれも減少し、特に(電気工)(48)は半減以下の減少。
- 理工(74)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(土木工)(100)は微減に留まったが、全ての学科で減少し、特に(先端化学)(49)、(経営工)(50)、数学(55)の40%以上の大幅減少が目立った。
- 基礎工から改組した先進工(110)は、前年度基礎工の大幅増加の反動はなく2年連続増加。学科別では、3学科とも旧学科と募集人員には変化はないので、そのまま比較する。(生命システム工)(134)は(生物工)との比較では大幅増加で2年連続増加。(マテリアル創成工)(69)の大幅減少、(電子システム工)(174)の大幅増加はいずれも前年度の(材料工)、(電子応用工)の大幅増減の反動。
- 薬(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、(生命創薬科学)(116)は大幅増加で前年度の反動による増減が継続、一方で(薬)(89)は2年連続減少。

青山学院大：入試改革が浸透せず、大学全体で大幅減少

一般：-26,627 人 共テ：+8,928 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点

学科改組：理工…(物理・数理)→(物理科学)、(数理サイエンス)

選抜方法：一般方式→共テ併用方式

文(英米文)＜共テ併用・個別A＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞外

文(英米文)＜一般・個別C＞…英語外部試験利用(出願要件、得点換算)→利用しない

文(史)＜共テ併用・個別＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)、＜個＞歴

文(日本語)＜共テ併用・個別A＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞歴+外、＜個＞国

文(日本語)＜共テ併用・個別B＞…＜個＞国2+外→＜共テ＞国+外、＜個＞国

文(フランス文)＜共テ併用・個別A＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞総合問題

文(フランス文)＜共テ併用・個別B＞…＜個＞外+論述→＜共テ＞外、＜個＞総合問題(論述)

文(比較芸術)＜共テ併用・個別＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+歴+外、＜個＞論

総合文化政策＜セ・4教科型＞…廃止

総合文化政策＜共テ併用・個別A＞…英語外部試験＝利用しない

→出願資格として利用(対象試験：英検、GTEC、

IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEIC LR&TOEIC SW)

＜個＞国+外+(歴公 or 数)→＜共テ＞国+(歴公 or 数)、＜個＞総合問題

総合文化政策＜共テ併用・個別B＞…＜共テ＞外+(歴公 or 数)、＜個＞論

英語外部試験＝出願要件として利用→利用しない

法…＜共テ併用・個別A＞…＜個＞国+外+(歴公 or 数 or 外)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞総合問題

法…＜共テ併用・個別B＞…＜個＞国+外+(歴公 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞総合問題

国際政治経済(国際経済)＜共テ併用・個別＞…＜個＞国+外+(歴公 or 数)

→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞総合問題+論述

国際政治経済(国際政治、国際コミュニケーション)＜共テ併用・個別A＞

…＜個＞国+外+(歴公 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞総合問題+論述

国際政治経済(国際政治、国際コミュニケーション)＜共テ併用・個別B＞

…＜個＞国+外→＜共テ＞国+外、＜個＞総合問題+論述

＜英語外部試験の対象試験＞英検、IELTS、TOEFL iBT、TOEIC LR

→英検、IELTS、TOEFL iBT

経済(現代経済デザイン)＜セ・3教科型＞…廃止

経営＜共テ併用・個別A＞…＜個＞国+外+(歴公 or 数)→＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞外

経営＜共テ併用・個別B＞…＜個＞国+外+(歴公 or 数)→＜共テ＞数+外+(国 or 歴公)、＜個＞外

経営＜セ・4教科型＞…廃止

社会情報＜共テ併用・個別A＞…個別A：＜個＞国+外+(歴 or 数)→＜共テ＞国+歴公、＜個＞外

社会情報＜共テ併用・個別B＞…新規実施(募集人員25人)＜共テ＞国+外、＜個＞数

社会情報＜共テ併用・個別C＞…個別B：＜個＞数+外→＜共テ＞数+外、＜個＞数

社会情報＜共テ併用・個別D＞…新規実施(募集人員15人)＜共テ＞外+(国 or 歴公)、＜個＞総合問題

コミュニティ人間科学＜共テ併用・個別＞…新規実施(募集人員34人)＜共テ＞国+外、＜個＞論

コミュニティ人間科学＜一般・個別A＞、＜一般・個別B＞、＜一般・個別C＞…廃止

コミュニティ人間科学＜共テ＞…新規実施(募集人員12人)＜共テ＞国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)

教育人間科学＜共テ併用・個別＞…＜個＞国+歴+外→＜共テ＞国+外、＜個＞論

地球社会共生＜共テ併用・個別＞…新規実施(募集人員30人)＜共テ＞国+外+(歴公 or 数)、＜個＞論

地球社会共生＜一般・個別A＞、＜一般・個別B＞…廃止

理工＜共テ併用・個別B＞…＜個＞数+理+外→＜共テ＞数2+理+外、＜個＞数+理

理工(化学・生命科学)＜一般・個別A＞…数+理+外 ※理：物 or 化→数+理+外 ※理：化

	募集人員：文(英米文)…＜一般・個別A方式＞…110人、＜一般・個別C方式＞10人、＜セ＞5人 →＜共テ併用・個別A方式＞70人、＜一般・個別C方式＞40人、＜共テ＞15人 文(史)…＜一般・個別＞65人、＜全学部＞10人→＜共テ併用・個別＞55人、＜全学部＞20人 文(フランス文)…＜一般・個別A＞50人、＜セ＞5人→＜共テ併用・個別A＞45人、＜共テ＞10人 総合文化政策…＜一般・個別A＞69人、＜一般・個別B＞55人、＜全学部＞50人、＜セ・3教科型＞7人 →＜共テ併用・個別A＞70人、＜共テ併用・個別B＞50人、＜全学部＞55人、＜共テ＞10人 法…＜一般・個別A＞150人、＜一般・個別B＞50人、＜全学部＞50人 →＜共テ併用・個別A＞100人、＜共テ併用・個別B＞80人、＜全学部＞70人 国際政治経済(国際コミュニケーション)…＜一般・個別A＞32人、＜一般・個別B＞15人 →＜共テ併用・個別A＞27人、＜共テ併用・個別B＞20人 経済(経済)…＜一般・個別A＞230人、＜一般・個別B＞50人 →＜一般・個別A＞180人、＜一般・個別B＞100人 経済(現代経済デザイン)…＜一般・個別A＞60人、＜一般・個別B＞15人、＜セ・4教科型＞5人 →＜一般・個別A＞50人、＜一般・個別B＞25人、＜共テ＞10人 経営(経営)…＜一般・個別A＞200人、＜一般・個別B＞20人、＜セ・3教科型＞7人 →＜共テ併用・個別A＞160人、＜共テ併用・個別B＞40人、＜共テ＞10人 経営(マーケティング)…＜一般・個別A＞100人、＜一般・個別B＞15人、＜セ・3教科型＞3人 →＜共テ併用・個別A＞80人、＜共テ併用・個別B＞20人、＜共テ＞5人 社会情報…＜一般・個別A＞90人、＜セ＞20人→＜共テ併用・個別A＞45人、＜共テ＞15人 コミュニティ人間科学…＜全学部＞24人→50人 教育人間科学(教育)…＜一般・個別＞60人、＜全学部＞30人→＜共テ併用・個別＞20人、＜全学部＞70人 教育人間科学(心理)…＜一般・個別＞65人、＜全学部＞10人、＜セ＞8人 →＜共テ併用・個別＞15人、＜全学部＞58人、＜共テ＞10人 理工(機械創造工)…＜共テ併用・個別B＞21人→20人 理工(化学・生命科学)…＜一般・個別A＞45人、＜一般・個別B＞25人 →＜一般・個別A＞50人、＜共テ併用・個別B＞20人 入試科目：文(英米文)＜一般・個別B＞…外2→外+総合問題 ※総合問題：英語による記述式問題および論文(英米文)＜一般・個別C＞…国+歴+外→国+外 総合文化政策＜共テ＞…国+外+(歴公 or 数) ※公：現 or 倫 or 政 or 倫政 →国+外+(歴公 or 数) ※公：現 or 倫政 法＜共テ＞…国+外+(歴公 or 数 or 理) ※歴：日Bor世Bor地B ※数：数I・Aor数II・B →国+外+(歴公 or 数 or 理) ※歴：日Aor日Bor世Aor世Bor地Aor地B ※数：数Ior数I・Aor数IIor数II・B 経済＜一般・個別A＞…国+外+(歴公 or 数)→歴公+外 社会情報＜共テ＞…(国 or 歴公 or 数 or 外)⇒3→外+(国 or 歴公 or 数)⇒2 理工(電気電子工)＜共テ＞数2+理+外 ※理：物→数2+理+外 ※理：物 or 化
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較	
大学全体では、17,699人(69)の大幅減少で3年連続減少。学部別では、大きな入試変更を行わなかった経済(103)のみがやや増加で、他学部は減少。特に、コミュニティ人間科学(37)は激減、法(50)、国際政治経済(50)、経営(50)は大幅減少。方式別では、一般方式は経済と理工＜個別A＞を除いて、個別学部日程を共通テスト併用方式に変更したことで、26,627人(43)の減少と半減以下になった。ただし、前年度から継続する従来型出題の全学部日程のみでは、574人(107)のやや増加。共通テスト利用方式は、8,928人(180)の大幅増加だが、多くの学部で共通テスト併用方式に変更となった個別学部日程を除いた、前年度から継続する共通テスト利用入学者選抜のみでは、1,670人(85)の大幅減少で2年連続減少。一般方式から多くの募集単位で共通テスト併用方式となった個別学部日程では、16,603人(57)の大幅減少。個別学部日程で、経済と理工の一部を除いた共通テスト併用方式に変わった募集単位のみでは、17,253人(40)と60%も減少。個別試験での記述式を含む出題や小論文について、コロナ禍の影響で周知が拡がらなかったことも影響して、強い敬遠傾向が見られた。	
＜一般方式＞ ○従来は一般方式だった個別学部日程を共通テスト併用方式に変更したので、大幅な減少が目立つ。併せて、従来から継続している全学部日程のみの分析も行う。 ○文(34)は、激減。従来型の出題で英語外部試験利用をやめた(英米文)＜個別C＞(1463)は15倍近い増加。＜全学部＞(79)は大幅減少。 ○総合文化政策(25)は、激減。ただし、＜全学部＞(110)は2年ぶりに増加。 ○法(20)は、激減。ただし、＜全学部＞(131)は2年連続減少に反動で大幅増加。 ○国際政治経済(12)は、激減。＜全学部＞(85)は大幅減少で2年連続減少。 ○経済(110)は、大きな入試変更がなかったことで増加。募集人員が2倍になった＜個別B＞(243)は志願者数が2.4倍となり、競争が激化。学科別では、(経済)(112)が2年連続減少の反動で増加。 ○経営(10)は、激減。＜全学部＞(67)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。 ○社会情報(13)は、激減。＜全学部A＞＜全学部B＞の合計は(92)の減少で4年連続減少。 ○コミュニティ人間科学(19)は、激減。ただし、＜全学部＞(113)は前年度の大幅増加に続いて、増加。	

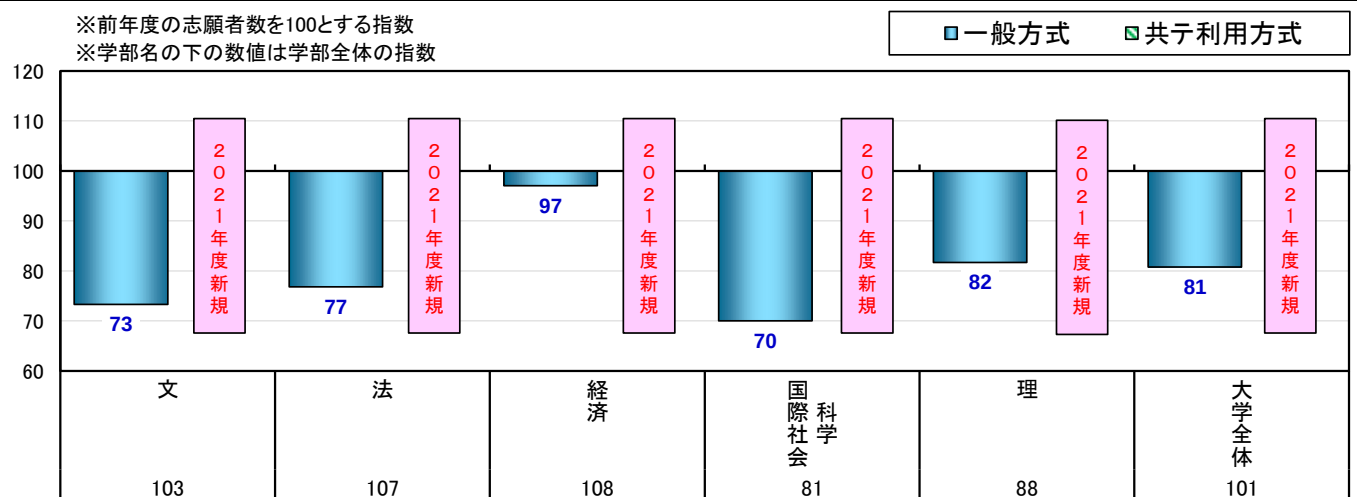
- 教育人間科学(69)は、大幅減少。ただし、〈全学部〉(192)は倍増近い大幅増加。
 ○地球社会共生(26)は、激減。なお、〈全学部〉(102)は前年度半減以下だった反動は小さく微増に留まった。
 ○理工(63)は、大幅減少で、〈個別B〉のみを共通テスト併用方式に変更した。一般方式に残った2方式では、〈個別A〉(98)は前年度やや増加の反動は小さく微減、〈全学部〉(89)は3年連続増加の反動で減少だった。

〈共通テスト利用方式〉

- 従来は一般方式だった個別学部日程を共通テスト併用方式に変更したので、大幅な増加が目立つ。併せて、従来から継続している共通テスト利用入学者選抜のみの分析も行う。
 ○文(279)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(94)では、やや減少で3年連続減少。学科別では、(英米文)(205)が2年連続大幅減少の反動で倍増以上。
 ○総合文化政策(265)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(89)は、〈4教科型〉を廃止したことで減少。
 ○法(213)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(86)は、2年ぶりに減少。
 ○国際政治経済(103)は、やや増加。共通テスト利用入学者選抜のみ(56)は、2年連続大幅減少。
 ○経済(67)は、大きな入試変更がなかったが、(現代経済デザイン)〈3教科型〉の廃止により大幅減少。これを除いても(89)の減少。
 ○経営(365)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(89)は、〈4教科型〉を廃止したことで減少。
 ○社会情報(212)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(57)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 ○コミュニティ人間科学は、今年度より共通テスト利用方式を新設。志願者数および志願倍率は〈共テ併用・個別〉が203人で6.0倍、〈共テ〉が173人で14.4倍だった。
 ○教育人間科学(207)は、激増。共通テスト利用入学者選抜のみ(139)は、前年度半減近かった反動で大幅増加。
 ○地球社会共生(160)は、大幅増加。共通テスト利用入学者選抜のみ(103)は、やや増加で前年度半減以下の反動は小さい。
 ○理工(124)は、大幅増加。共通テスト利用入学者選抜のみ(81)は、2年連続増加の反動で大幅減少。

学習院大：大学全体ではやや増加し、3年ぶりに増加

一般：-3,257人 共テ：+3,433人



- 入試変更点**
- 選抜方法：新規…文(英語英米文化)、(史)、(哲)、(ドイツ語圏文化)、(フランス語圏文化)〈共テ・3教科型〉
 (教育)〈共テ・5教科型〉
 法〈共テ・3教科型〉
 経済(経済)〈共テ・4科目型〉、〈共テ・6科目型〉
 国際社会科学(国際社会科学)〈共テ・4科目型〉
 理(化学)〈共テ・4教科6科目型〉
 中止(コロナ禍のため2021年度のみ)…国際社会科学(国際社会科学)〈プラス〉
 廃止…法〈プラス〉、理(化学)〈プラス〉
 募集人員：文(英語英米文化)〈コア〉…80人→70人、(史)〈コア〉…60人→55人、
 (哲)〈コア〉…60人→55人、(フランス語圏文化)〈コア〉…40人→35人、
 (教育)〈コア〉…30人→25人
 経済(経済)〈コア〉…150人→130人
 国際社会科学(国際社会科学)〈コア〉…80人→95人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、176人(101)の微増で3年ぶりに増加。方式別では、新規実施の共通テスト利用方式の志願者数は3,433人だったが、一般方式は3,257人(81)の大幅減少。この結果、共通テスト利用方式の導入にもかかわらず、大学全体では微増に留まった。なお、共通テスト利用方式の志願倍率は、募集人員が少ないことから最も低い経済(経済)〈6科目〉の19.2倍から最も高い文(史学)の85.4倍までいずれの募集単位も高倍率となった。

＜一般方式＞

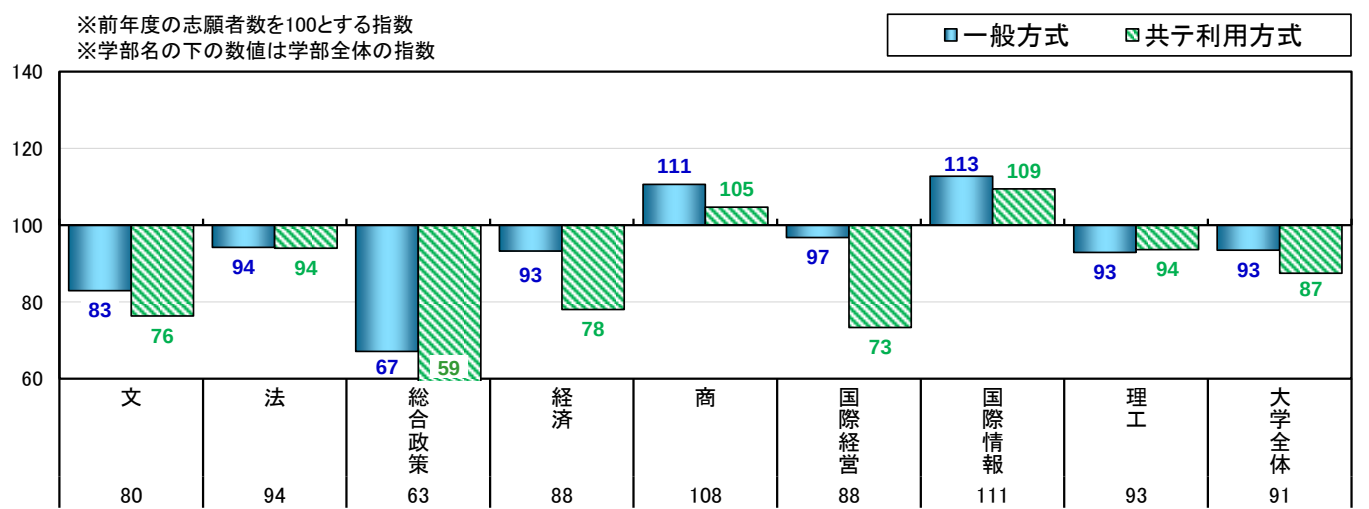
- 文(73)は、＜コア＞の募集人員が30人減ったことも影響し、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、全ての学科で減少。特に、(心理)(64)、(フランス語圏文化)(69)、(史学)(69)の大幅減少が目立った。
- 法(77)は、大幅減少で3連続減少。前年度志願者数が362人だった＜プラス＞の廃止も影響した。
- 経済(97)は、やや減少で3年連続減少。学科・方式別では、(経営)＜コア＞(102)は2018年度の＜コア＞＜プラス＞の2方式導入後初めて増加したが、(経営)＜プラス＞(93)はやや減少で3年連続減少。(経済)＜コア＞(95)、経済＜プラス＞(86)はともに3年連続減少。
- 国際社会科学(70)は、大幅減少で2年連続減少。英語外部試験の成績提出が必要だった＜プラス＞は、コロナ禍で実施中止となり、その募集人員15人は、＜コア＞に加えられたが、＜コア＞のみでも(93)のやや減少。
- 理(82)は、大幅減少で2年連続減少。学科・方式別では、(生命科学)＜プラス＞(135)が2年連続大幅増加、(物理)＜プラス＞(113)は前年度半減以上の減少の反動で増加。一方で、(化学)＜コア＞(75)2年連続大幅減少、(数学)＜コア＞(77)、数学＜プラス＞(79)の大幅減少が目立った。

＜共通テスト利用方式＞

- 文は、(日本語日本文学)(心理)を除く学科で実施。学部全体で募集人員29人、志願者数1,570人で、志願倍率は54.1倍。
- 法は、学科別では(政治)が募集人員15人、志願者数434人で、志願倍率は28.9倍。(法)が募集人員15人、志願者数637人で志願倍率は42.5倍。
- 経済は、(経済)のみ実施。方式別では＜4科目＞は募集人員10人、志願者数273人で志願倍率27.3倍。＜6科目＞は募集人員10人、志願者数192人で志願倍率19.2倍。
- 国際社会科学は、募集人員5人、志願者数196人で、志願倍率は39.2倍。
- 理は、(化学)のみ実施。募集人員5人、志願者数131人で26.2倍。

中央大：大学全体では2年連続減少、国際情報、商のみ増加

一般：-3,161人 共テ：-4,781人



入試変更点

プログラム新設…文(人文／学びのパスポートプログラム)

学科名称変更：理工(経営システム工)→(ビジネスデータサイエンス)

選抜方法：文＜一般＞＜一般・英語外部試験利用＞…国+外+(歴公 or 数)→国+外+(歴 or 数)
※歴公の選択から、公を除外
(人文社会／日本史学)は日Bを必須化
(人文社会／東洋史学)、(人文社会／西洋史)は歴を必須化

入試方式廃止…総合政策＜一般・英語外部試験利用＞、経済＜セ・併用英語選抜＞

入試方式新規実施…総合政策＜一般・英語外部検定換算＞ ※利用方法：出願要件、得点換算 国+外

英語外部試験の対象変更…経済＜一般・英語外部試験利用＞

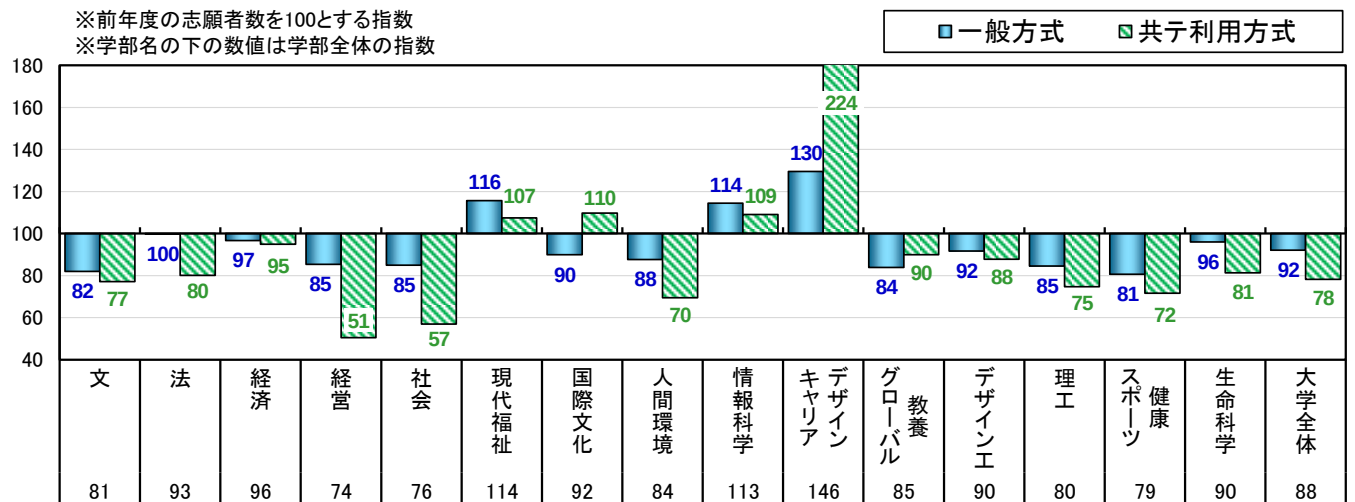
英語外部試験のスコア変更…文、経済、国際情報(国際情報)＜一般・英語外部試験利用＞

募集人員：文(人文社会／国文学)＜統一＞…8人→7人、＜一般＞…31人→29人、
＜共テ・前期3教科＞…12人→11人
(人文社会／英語文学文化)＜統一＞…8人→7人、＜一般＞…80人→77人、
＜共テ・前期3教科＞…12人→11人
(人文社会／ドイツ語文学文化)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…20人→22人
(人文社会／フランス語文学文化)＜統一＞…4人→3人、＜共テ・前期3教科＞…6人→5人
(人文社会／中国言語文化)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…21人→23人
(人文社会／日本史学)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…51人→43人、
＜共テ・前期3教科＞…8人→5人
(人文社会／東洋史学)＜一般＞…24人→25人
(人文社会／西洋史学)＜一般＞…24人→25人
(人文社会／哲学)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…39人→36人、＜共テ・前期3教科＞…6人→5人
(人文社会／社会学)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…61人→47人、＜共テ・前期3教科＞…7人→5人
(人文社会／社会情報学)＜統一＞…4人→3人、＜一般＞…44人→43人、

	〈共テ・前期3教科〉…7人→3人 (人文社会／教育学)〈統一〉…4人→3人、〈共テ・前期3教科〉…4人→3人 (人文社会／心理学)〈統一〉…4人→3人、〈一般〉…45人→41人、〈共テ・前期3教科〉…4人→3人 総合政策(国際政策文化)〈統一〉…10人→16人、〈一般〉…54人→50人 (政策科学)〈統一〉…10人→16人、〈一般〉…58人→50人 理工(ビジネスデータサイエンス)〈一般〉…60人→65人、〈共テ・前期〉…15人→13人 (情報工)〈一般〉…60人→61人、〈共テ・併用〉…15人→16人、〈共テ・前期〉…5人→6人
COMMENT	※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較 大学全体では、7,942人(91)の減少で2年連続減少。方式別でも、一般方式(93)、共通テスト利用方式(87)ともに2年連続減少。一般方式では、8学部中、国際情報(113)、商(111)の2学部は増加したが、他の6学部でいずれも減少。共通テスト利用方式でも、国際情報(109)、商(105)は増加したが、他の6学部はいずれも減少。 〈一般方式〉 ○文(83)は、前年度増加の反動で大幅減少、2016年度より前年度の反動による増減が継続。専攻別では、既存の13専攻中で(人文社会／西洋史学)(100)が前年度並だったが、他の12専攻はいずれも減少。新設の(人文／学びのパスポートプログラム)は、募集人員12人、志願者数172人、志願倍率14.3倍だった。 ○法(94)は、2019年度より前年度の反動による増減が継続しやや減少。学部別では、(政治)(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。(国際企業関係法)(97)はやや減少で、3年連続減少。(法律)(97)もやや減少。 ○総合政策(67)は、大幅減少で3年連続減少。学科別でも、(国際政策文化)(65)、(政策科学)(69)はともに大幅減少で、3年連続減少。 ○経済(93)は、やや減少で、6年ぶりに減少。学科別では、(国際経済)(106)は増加で、4年連続増加。一方で、他の3学科はいずれも減少。特に、(公共・環境経済)(76)、(経済情報システム)(84)は大幅減少で、いずれも2年連続減少。 ○商(111)は、2年連続減少の反動で増加。学科・コース別では(金融／フレックス)(157)、(金融／フレックス Plus1)(130)の大幅増加が目立った。一方で、(フリーメジャー)(86)は前年度増加の反動で減少。 ○開設3年目の国際経営(97)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや減少で、2年連続減少。募集単位別では、〈統一4教科〉(57)、〈統一3教科〉(62)の大幅減少が目立った。 ○開設3年目の国際情報(113)は、前年度半減以下だった反動は小さく、178人(113)の増加。募集単位別では、〈一般〉は前年度半減以下だった反動は小さく、166人(114)の増加に留まった。〈英語外部試験利用〉も、前年度大幅減少の反動は見られず12人(105)のやや増加。 ○理工(93)は、やや減少で志願者数が9,000人を下回った。学科別では、(電気電子情報通信工)(105)、(数学)(103)、(応用化学)(101)の3学科は増加。学科名称を変更した(ビジネスデータサイエンス)は、前年度の(経営システム工)と比較すると募集人員が5人増加にもかかわらず、26人(97)の微減。他の6学科はいずれも減少。 〈共通テスト利用方式〉 ○文(76)は、大幅減少で3年連続減少。専攻別では、既存の13専攻中で(人文社会／哲学)(112)は増加だったが、他の12専攻はいずれも減少。特に、(人文社会／フランス語文学文化)(45)は半減以下で、3年連続減少。新設の(人文／学びのパスポートプログラム)は、募集人員2人、志願者数96人、志願倍率48倍だった。 ○法(94)は、やや減少で、2017年度より前年度の反動による増減が継続。学科別では、(政治)(82)は前年度増加率60%以上の激増の反動で大幅減少。(国際企業関係法)(95)、(法律)(99)は、いずれも3年連続減少。 ○総合政策(59)は、2年連続大幅減少。学科別でも、(国際政策文化)(56)、(政策科学)(62)はともに大幅減少。 ○経済(78)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(公共・環境経済)(58)、(国際経済)(69)、(経済情報システム)(75)、(経済)(84)の4学科はいずれも大幅減少。 ○商(105)は、2年連続大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科・コース別では、(経営)(114)、(金融)(110)は増加、(フリーメジャー)(103)がやや増加。一方で、(会計)(95)はやや減少、(商業・貿易)(100)は前年度並。 ○開設3年目の国際経営(73)は、前年度半減近かった反動はなく2年連続大幅減少。志願倍率は、41.2倍→30.2倍にダウン。 ○開設3年目の国際情報(109)は、前年度半減以下の反動は小さく、147人(109)の増加に留まった。 ○理工(94)は、2年連続減少し、4年ぶりに志願者数8,000人を下回った。学科別では、(数学)(141)が大幅増加。一方で、(生命科学)(72)、(人間総合理工)(80)が大幅減少。

法政大：大学全体では3年連続減少、15学部中12学部が減少

一般：-5,667人 共テ：-7,005人



入試変更点

選抜方法：出願要件として、「主体性」「多様な人々との協働性」についての経験の記入を求める

※合否判定には使用しない

＜英語外部試験利用＞対象試験変更：法(政治)、キャリアデザイン、グローバル教養以外

＜英語外部試験利用＞新規実施…法(政治)：募集人員：5人、利用方法：出願要件

キャリアデザイン：募集人員：5人、利用方法：出願要件

グローバル教養＜T日程＞…実施→廃止

＜英語外部試験利用＞…利用方法：出願要件→出願要件、得点換算、

＜共テ・B方式＞…出願資格に英語外部試験を追加

募集人員：法(政治)＜T日程＞…25人→20人

国際文化＜A方式＞…120人→123人

情報科学(コンピュータ科学)＜共テ・C方式＞…3人→5人

情報科学(デジタルメディア)＜共テ・C方式＞…3人→5人

キャリアデザイン＜共テ・B方式＞…20人→15人

グローバル教養＜英語外部試験利用＞…3人→12人

＜A方式＞26人→15人

入試科目：グローバル教養＜共テ・B方式＞…国+外+(歴公 or 数)→国+(歴公 or 数)

生命科学(応用植物科学)＜A方式＞…外+(数 or 理)※選択は高得点の1教科→数+理+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、12,672人(88)の減少で3年連続減少。方式別では、一般方式(92)の減少、共通テスト利用方式(78)は2年連続大幅減少。一般方式の＜英語外部試験利用＞(132)は、キャリアデザイン、法(政治)の新規実施とグローバル教養の募集人員が4倍になったことで大幅増加だが、新規実施を除くと法(国際政治)(25)の激減が影響して、(100)の微減。学部別では、キャリアデザイン(146)、現代福祉(114)、情報科学(113)は増加したが、他の12学部は減少し、経営(74)、社会(76)、スポーツ健康(79)、理工(80)、文(81)、人間環境(84)、グローバル教養(85)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(82)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、全ての学科で減少だが、特に(心理)(70)、史学(77)は20%を超える大幅減少で2年連続減少。
- 法(100)は、微減だが4年連続減少。学科別では、(法律)(111)は4年ぶりに増加。(国際政治)(101)は前年度並。方式別では、＜A方式＞(148)は大幅増加だが、＜英語外部試験利用＞(25)は激減、＜T日程＞(65)は大幅減少。一方で、(政治)(73)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(97)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(現代ビジネス)(88)は減少で4年連続減少、(経済)(97)もやや減少で3年連続減少。
- 経営(85)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(市場経営)(104)は3年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。(経営)(78)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続、(経営戦略)(88)は減少で2年連続減少。
- 社会(85)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、全てが減少で、(社会政策)(74)が前年度激増の反動で大幅減少、(メディア社会)(83)も大幅減少で2年連続減少、(社会)(96)はやや減少で2年連続減少。
- 現代福祉(116)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(福祉コミュニティ)(136)は大幅増加で3年ぶりの増加。(臨床心理)(87)は減少で＜英語外部試験利用＞を導入した翌年の2017年度以降5年連続減少。
- 国際文化(90)は、減少で2年連続減少。方式別では、2方式とも減少。
- 人間環境(88)は、減少で2年連続減少。方式別では、3方式とも減少。
- 情報科学(114)は、系統への人気の高さもあって、増加で3年ぶりに増加。学科別では、(デジタルメディア)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加、(コンピュータ科学)(108)は2年連続増加。
- キャリアデザイン(130)は、新規に＜英語外部試験利用＞を導入した影響で大幅増加だが、既存の2方式のみでは前年度並。
- グローバル教養(84)は、T日程を廃止したこともあって、大幅減少で3年連続減少。方式別では、＜英語外部試験利用＞(359)は募集人員を4倍にしたこともあり大幅増加。

- デザイン工(92)は、減少で10年ぶりの減少。学科別では、(システムデザイン)(104)はやや増加だが、(都市環境デザイン工)(83)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続、(建築)(90)は減少で2年連続減少。
- 理工(85)は、大幅減少で2年連続減少。学科・専攻別では、全てが減少で、(創生科学)(66)は大幅減少で5年ぶりに減少。
- スポーツ健康(81)は、系統への人気の低さも影響して、大幅減少で3年連続減少。
- 生命科学(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(生命機能)(92)は減少だが、(応用植物科学)(98)は微減、(環境応用化学)(101)は微増。

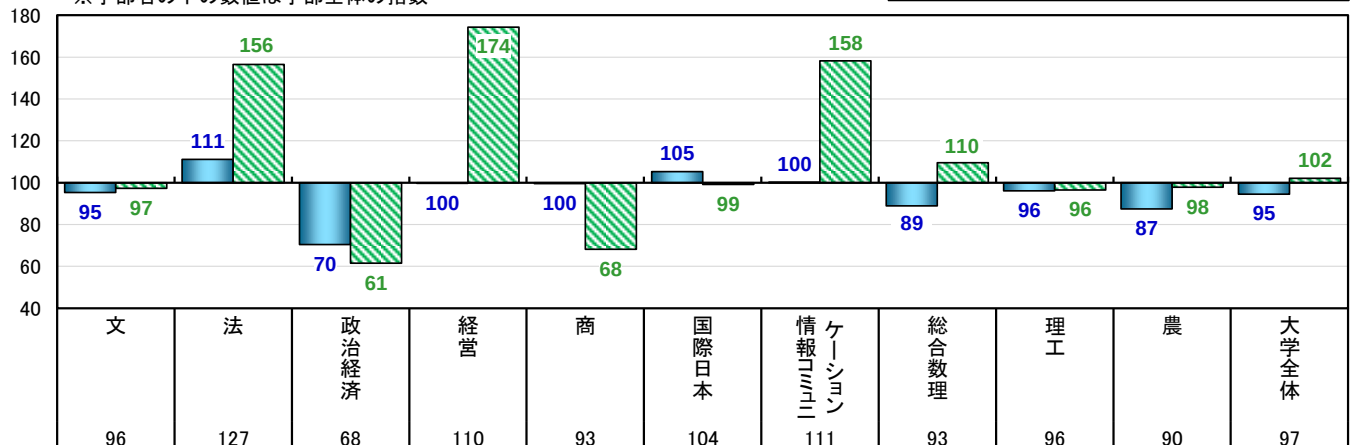
＜共通テスト利用方式＞

- 文(77)は、2年連続大幅減少。学科別では、(地理)(106)はやや増加で3年ぶりの増加、(日本文)(104)はやや増加で前年度大幅減少の反動は小さかった。その他の4学科はいずれも大幅減少。
- 法(80)は、大幅減少で2年連続減少。学科別でも、3学科全てで大幅減少。
- 経済(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(国際経済)(189)は前年度激減の反動で大幅増加、(経済)(111)は前年度半減以下の減少の反動から増加、(現代ビジネス)(25)は前年度大幅増加の反動から4分の1の激減で、前年度の反動による大幅増減が継続。
- 経営(51)は、前年度大幅増加の反動で半減近い大幅減少。学科別では、(経営)(106)は2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加、(経営戦略)(13)は前年度5倍近い増加の反動で1割近くまで激減、(市場経営)(82)は2年連続大幅減少。
- 社会(57)は、大幅減少。学科別では、(メディア社会)(112)は前年度半減以下の大幅減少の反動で増加、(社会政策)(24)は前年度4倍近い激増の反動から4分の1以下の激減、(社会)(80)は2年連続大幅減少。
- 現代福祉(107)は、前年度半減の反動は小さくやや増加。学科別では、(福祉コミュニティ)(152)は前年度3割以下の激減の反動で大幅増加、(臨床心理)(77)は大幅減少で4年連続減少。
- 国際文化(110)は、増加で前年度の反動による増減が継続。
- 人間環境(70)は、前年度減少の反動はなく2年連続大幅減少。
- 情報科学(109)は、前年度減少の反動から増加。学科別では、(デジタルメディア)(122)は大幅増加で3年ぶりの増加、(コンピュータ科学)(101)は前年度並。
- キャリアデザイン(224)は、2倍を超える激増で、前年度の反動による増減が継続。方式別では、＜共テ・B方式＞(287)が前年度激減の反動で激増、＜共テ・C方式＞(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
- グローバル教養(90)は、減少で2年連続減少。
- 理工(75)は、大幅減少で2年連続減少。学科・専修別では、全てが減少で、(創生科学)(44)は前年度激増の反動で半減以下の激減。
- スポーツ健康(72)は、系統への人気の低さも影響して、大幅減少で4年連続減少。
- 生命科学(81)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(生命機能)(77)が前年度大幅増加の反動から大幅減少、(応用植物科学)(77)は大幅減少で4年連続減少。

明治大：大学全体では3年連続減少、共テ利用方式は微増

一般：-4,142人 共テ：+577人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点

選抜方法：理工(情報科学)…＜共テ・前期4教科＞新規実施
経営…＜全学部英語4技能＞新規実施

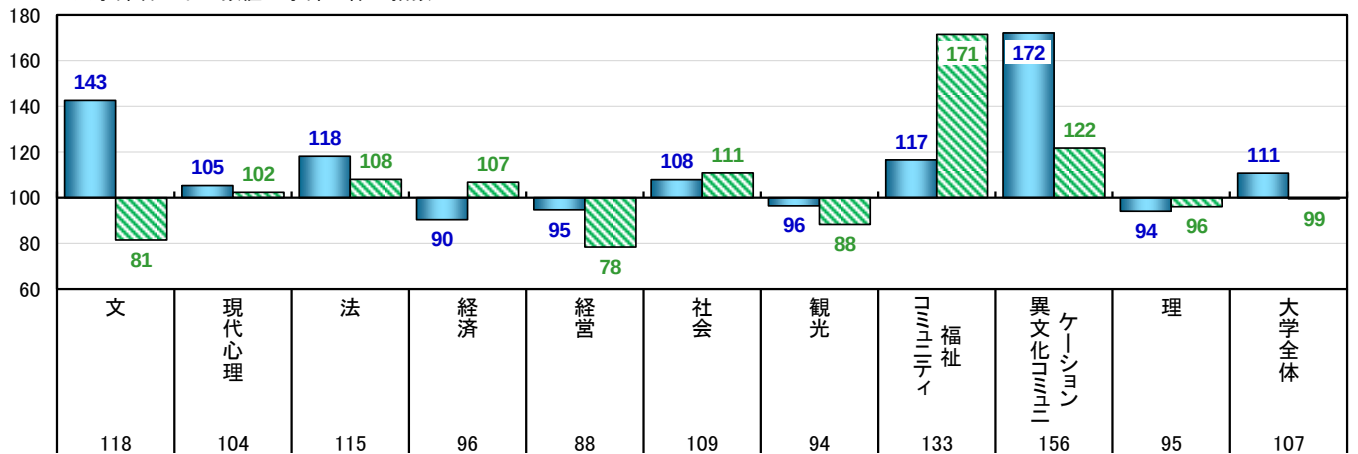
募集人員：文(史学/西洋史)…＜学部別＞31人→32人、＜共テ・前期5科目＞2人→1人
文(史学/考古学)…＜共テ・前期3科目＞3人→4人、＜共テ・前期5科目＞2人→1人
文(史学/地理)…＜学部別＞26人→27人、＜共テ・前期5科目＞2人→1人
文(文/フランス文)…＜全学部3科目＞7人→8人、＜共テ・前期5科目＞2人→1人
文(文/演劇)…＜学部別＞28人→29人、＜共テ・前期5科目＞2人→1人
文(心理/現代社会)…＜共テ・前期3科目＞4人→3人
政治経済(経済)…＜共テ・前期3科目＞20人→15人
政治経済(政治)…＜共テ・前期3科目＞10人→8人
政治経済(地域行政)…＜共テ・前期7科目＞15人→12人
経営…＜全学部3科目＞30人→27人、＜全学部英語4技能＞0人→3人

	理工(情報科学)…<共テ・前期 3 科目>10 人→7 人、<共テ・前期 4 教科>0 人→7 人 農(農芸化学)…<学部別>100 人→90 人、<全学部 3 科目>10 人→15 人、<共テ>10 人→12 人 入試科目：商(商)…<共テ・前期 3 科目>：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基 2) →<共テ・前期 4 科目>：国+数+外+(歴公 or 理 or 理基 2) <共テ・前期 4 科目>：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基 2)→2 ※同一教科の複数選択可 →<共テ・前期 5 科目>：国+数+外+(歴公 or 理 or 理基 2)→2 ※同一教科の複数選択可 国際日本(国際日本)…<共テ・前期 4 科目>：国+歴公+外+(数 or 理 or 理基 2) →<共テ・前期 5 科目>：国+数①+外+(歴公 or 数② or 理 or 理基 2)→2 情報コミュニケーション(情報コミュニケーション)…<学部別>国+外+(歴公 or 数 or 情報総合) →国+外+(歴公 or 数)
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較	
大学全体では 3,565 人(97)のやや減少で、3 年連続減少。学部別では、法(127)は大幅増加、情報コミュニケーション(111)、経営(110)は増加、国際日本(104)はやや増加。一方で、前年度唯一増加した政治経済(68)は大幅減少、農(90)は減少、商(93)、総合数理(93)、文(96)、理工(96)はやや減少。	
＜一般方式＞ ○文(95)は、やや減少で 3 年連続減少。学科・専攻別では、(文/英米文)(138)、(史学地理/アジア史)(115)は大幅増加、(心理社会/現代社会)(108)は増加、(史学地理/西洋史)(101)、(文/演劇)(101)は微増で、他の 9 学科・専攻はいずれも減少。 ○法(111)は、2 年連続減少の反動で増加。方式別では、<学部別>(126)は大幅増加。一方で、<全学部 3 科目>(88)は減少。 ○政治経済(70)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3 学科とも減少し、(地域行政)(58)、(経済)(65)は大幅減少。 ○経営(100)は、前年度並だが、新方式の<全学部英語 4 技能>を除くと(94)のやや減少。方式別では、<英語 4 技能>(149)は 2 年連続で 5 割増に近い大幅増加。一方で、<全学部 3 教科>(40)は激減で 2 年連続減少。 ○商(100)は、前年度並だが微減で 2 年連続減少。方式別では、<英語 4 技能>(109)は増加で 2018 年度の新設以降 3 年連続増加、<学部別>(103)はやや増加。一方で、<全学部 3 科目>(82)は大幅減少で 3 年連続減少。 ○国際日本(105)は、やや増加で 3 年ぶりに増加、志願者数は 5,000 人を上回った。方式別では、<学部別>(95)はやや減少で 3 年連続減少。新設 2 年目の<英語 4 技能>(156)は大幅増加だが、<全学部英語 4 技能>(94)はやや減少と対照的。 ○情報コミュニケーション(100)は、前年度並。方式別では、<全学部 3 科目>(95)はやや減少で 2 年連続減少。 ○総合数理(89)は、減少で 2 年連続減少。3 学科とも減少し、(先端メディアサイエンス)(86)、(現象数理)(90)は減少、(ネットワークデザイン)(95)はやや減少。 ○理工(96)は、やや減少で 3 年連続の減少。学科・専攻別では、系統への人気が高い(情報科学)(111)は増加で 2 年連続増加、(電気電子生命/生命理工)(107)はやや増加で 3 年ぶりに増加。一方で、(電気電子生命/電気電子)(86)、(物理)(86)、(応用化学)(87)は減少、(建築)(95)、(機械工)(96)はやや減少。 ○農(87)は、系統への人気低下もあり 7 年連続減少。学科別では、(農)(106)はやや増加で唯一増加。一方で、他の 3 学科は大幅減少。特に、(農芸化学)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
＜共通テスト利用方式＞ ○文(97)は、やや減少で 3 年連続減少。学科・専攻別では、(心理社会/現代社会)(124)は大幅増加、(文/英米文)(113)、(文/日本語)(112)は増加。一方で、他の 11 学科・専攻は減少で、特に(文/ドイツ文)(68)、(史学地理/地理学)(73)、(文/フランス文)(75)、(史学地理/考古学)(85)は大幅減少。 ○法(156)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。 ○政治経済(61)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3 学科とも減少で、特に(地域行政)(32)は前年度 4 倍増の反動で激減、(経済)(59)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。 ○経営(174)は、2 年連続大幅減少の反動で激増。 ○商(68)は、2 年連続大幅減少。 ○国際日本(99)は、微減だが 3 年連続減少。 ○情報コミュニケーション(158)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。 ○総合数理(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(ネットワークデザイン)(173)は前年度大幅減少の反動で激増。一方で、(現象数理)(88)、(先端メディアサイエンス)(91)はどちらも減少で 2 年連続減少。 ○理工(96)は、やや減少。学科・専攻別では、(数学)(133)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(情報科学)(132)は 3 年連続減少の反動で大幅増加、(電気電子生命/生命理工)(111)は 2 年連続減少の反動で増加。他の 6 学科・専攻はいずれも減少で、特に(電気電子生命/電気電子)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(機械情報工)(80)も大幅減少。 ○農(98)は、微減だが 3 年連続減少。学科別では、(農)(125)は大幅増加、(食料環境政策)(104)はやや増加。一方で、(農芸化学)(77)は大幅減少、(生命科学)(88)は減少。	

立教大：大学全体では3年ぶりに増加、特に一般が10%以上増加 一般：+4,282人 共テ：-115人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式

**入試変更点**

出願書類：出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験の提出を求める

※可否判定には使用しない

入試科目：一般の外を廃止し、共テの外か英語外部試験利用の選択制

対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT

選抜方法：文以外…個別学部日程廃止、全学部日程の試験日増加

文…国+歴+外 ※歴：日 or 世

文(ドイツ文)…<共テ・6科目型>：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)→4

理以外…<共テ併用・英語外部試験利用①全学部>：<共テ>外+<個>国+(歴 or 数) ※歴：日

<共テ併用・英語外部試験利用②全学部>：<共テ>外+<個>国+(歴 or 数) ※歴：世

<共テ併用・英語外部試験利用③全学部>：<共テ>外+<個>国+歴公 ※歴公：日 or 世 or 政経

<共テ併用・英語外部試験利用④全学部>：<共テ>外+<個>国+歴 ※歴：日 or 世 or 地

<共テ併用・英語外部試験利用⑤全学部>：<共テ>外+<個>国+歴 ※歴：日 or 世

理…<共テ併用・英語外部試験利用①全学部>：<共テ>外+<個>数+理

<共テ併用・英語外部試験利用②全学部>：<共テ>外+<個>数+理

募集人員：文(ドイツ文)<共テ>…7人→9人

文(英米文)<共テ>…32人→27人

経営(経営)<共テ>…20人→25人

経営(国際経営)<共テ>…15人→20人

理(数学)<共テ>…6人→11人

理(物理)<共テ>…13人→14人

理(生命理)<共テ>…10人→14人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、4,167人(107)のやや増加で3年ぶりに増加。方式別では、一般方式(111)は全学部日程の試験日増加の影響で増加。共通テスト利用方式(99)は微減だが3年連続減少。学部別では、経営(88)は減少、観光(94)、理(95)、経済(96)はやや減少、一方で異文化コミュニケーション(156)、コミュニティ福祉(133)、文(118)、法(115)は大幅増加、社会(109)は増加、現代文化(104)はやや増加で10学部中6学部が増加。

<一般方式>

- 文(143)は、大幅増加で3年ぶりの増加。学科・専修別では、全て増加で(教育)(164)、(文/英米文学)(159)、(文/日本文学)(155)、(文/ドイツ文学)(140)はいずれも大幅増加で3年ぶりに増加、(文/文芸・思想)(132)は2年ぶりに大幅増加。
- 現代心理(105)は、前年度6年ぶりに減少した反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(映像身体)(116)は前年度減少の反動で大幅増加、(心理)(95)は2年連続減少と対照的。
- 法(118)は、前年度減少の反動で大幅増加。学科別では、(法)(128)は大幅増加で3年ぶりに増加、(国際ビジネス法)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。(政治)(101)は前年度まで2年連続の大幅増加だったが、反動は全く微増。
- 経済(90)は、減少で2年連続減少。学科別では、(経済政策)(75)は大幅減少で3年ぶりに減少、(会計ファイナンス)(89)は減少で2年連続減少。(経済)(100)は微減だが、4年連続減少。
- 経営(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(経営)(92)は減少で3年連続減少。一方で、(国際経営)(102)は微増だが2年連続増加と対照的。
- コミュニティ福祉(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(スポーツウェルネス)(90)は減少で3年連続減少、(福祉)(97)もやや減少だが3年連続減少、一方で、(コミュニティ政策)(158)は4年連続減少の反動で大幅増加。
- 異文化コミュニケーション(172)は、前年度まで7年連続減少の反動で激増。
- 理(94)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(物理)(103)はやや増加だが、残りの3学科はいずれも減少。

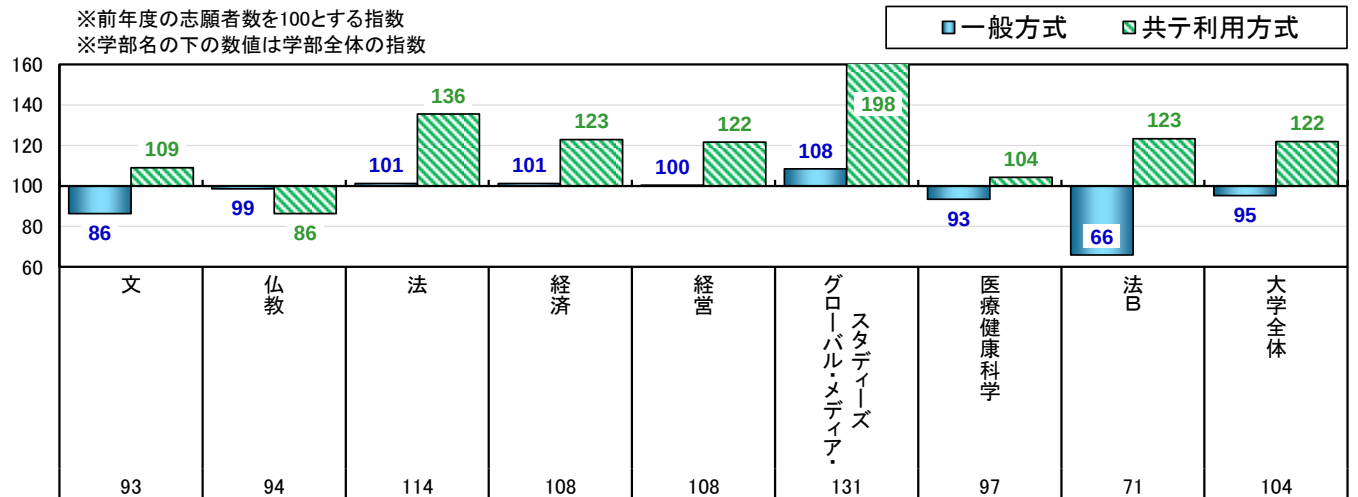
<共通テスト利用方式>

- 文(81)は、大幅減少。学科・専修別では、(文/フランス文学)(37)が前年度2倍以上の激増の反動で激減、(キリスト教)(44)は前年度激増の反動で大幅減少、(文/日本文学)(66)は大幅減少で3年連続減少、(文/ドイツ文学)(70)は大幅増加の反動で大幅減少、(史学)(74)は大幅減少で2年連続減少、(教育)(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(文/英米文学)(133)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。

- 現代心理(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(心理)(111)は前年度大幅減少の反動で増加、一方で、(映像身体)(95)は前年度増加の反動でやや減少と対照的。
- 法(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(政治)(129)は前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。法(120)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(国際ビジネス法)(54)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(会計ファイナンス)(89)は前年度の激減に続いての減少で2年連続減少。一方で、(経済政策)(143)は前年度半減近い減少の反動で大幅増加。(経済)(105)はやや増加で2年連続増加。
- 経営(78)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際経営)(51)は前年度大幅増加の反動で半減近い大幅減少。経営(99)は微減だが、3年連続減少。
- 社会(111)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(メディア社会)(93)は前年度大幅増加の反動でやや減少、一方で、(現代文化)(131)は大幅増加、(社会)(112)は増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
- 観光(88)は、コロナ禍の影響も受けて、減少で3年連続減少。学科別では、(観光)(117)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加、一方で、(交流文化)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- コミュニティ福祉(171)は、前年度激減の反動で激増。3学科全てが増加で、(福祉)(220)、(コミュニティ政策)(201)は2倍以上の激増。
- 異文化コミュニケーション(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理(96)は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、(生命理)(126)は大幅増加、(数学)(107)はやや増加。一方で、(化学)(79)は大幅減少、(物理)(88)は減少と増減が別れた。いずれも前年度の反動による増減。

駒澤大：大学全体では前年度大幅減少の反動でやや増加

一般：-930 人 共テ：+2,007 人



入試変更点

選抜方法：全学部…英語外部試験の対象試験変更

文(地理、歴史、社会、心理)、仏教、医療健康科学<一般・T方式3月>…新規実施

経営(市場戦略)<一般・S方式>…廃止

グローバル・メディア・スタディーズ<一般・S方式>…英語学部試験新規導入

入試科目：仏教<共テ・中期>…国+(歴公 or 数理 or 理基2 or 外)

→国+外+歴公 or 数 or 理 or 理基2) ※外が選択から必須へ①

グローバル・メディア・スタディーズ<一般・T方式2月><一般・S方式>

…外+(国 or 歴公 or 情報) ※歴公：世B、地B

→国+外+(歴公 or 数 or 情報) ※歴公：世B、日B、地B、政経

※国が選択から必須へ、歴公の選択に日B、政経追加、選択に数追加

<共テ・前期>…外+(国 or 歴 or 数) ※数：数②

→国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2) ※数：数① or 数②

※国が選択から必須へ、選択に公、理追加、数の選択範囲変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

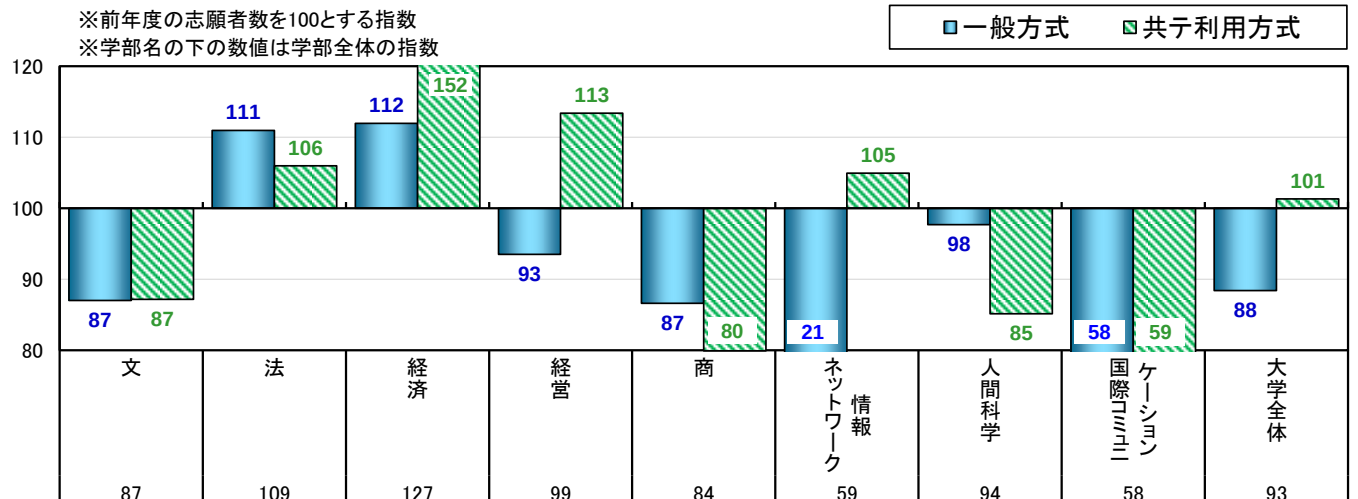
大学全体では、前年度大幅減少の反動で1,077人(104)のやや増加。方式別では、一般方式(95)は、やや減少で、2年連続減少。共通テスト利用方式(122)は、前年度60%近い大幅減少の反動で大幅増加し、8学科中7学科が増加。特に、グローバル・メディア・スタディーズ(198)は、前年度80%近い激減の反動でほぼ倍増。

<一般方式>

- 文(86)は、3年連続減少。学科・専攻別でも全て減少。特に(地理/地域環境研究)(71)、(国文)(77)の大幅減少が目立った。
- 法(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別でも、(法律/フレックスA)(102)、(政治)(99)とも前年度大幅減少の反動はなく前年度並。
- 経済(101)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科別では、(経済)(92)、(商)(92)はいずれも3年連続減少。一方で(現代応用経済)(176)は、前年度激減の反動で激増。
- 経営(100)は、前年度大幅減少した反動はなく前年度並。学科別では(経営)(103)はやや増加で、54人と僅かだが3年ぶりの増加。(市場戦略)(96)は、<S方式>廃止の影響で前年度大幅減少の反動はなくやや減少で、2年連続減少。継続する方式のみの比較では(114)と増加。
- グローバル・メディア・スタディーズ(108)は、前年度半減以下だった反動は小さく95人の増加に留まった。
- 医療健康科学(93)は、前年度4年ぶりに増加した反動で、再び減少に転じた。

<共通テスト利用方式>

- 文(109)は、2年連続大幅減少の反動で増加。学科・専攻別では、前年度唯一増加した(社会/社会福祉)(69)は反動で大幅減少。一方で、他の9学科・専攻はいずれも増加に転じた。
- 法(136)は、前年度激減の反動で大幅増加。2学科とも前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(123)は、前年度激減の反動で3年ぶりに大幅増加。募集単位別では、(経済)<共テ・中期>(62)の大幅減少以外は、いずれも増加。特に、(現代応用経済)<共テ・中期>(175)、<共テ・前期>(171)の激増が目立った。
- 経営(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営)(125)は大幅増加、(市場戦略)(112)も増加。
- グローバル・メディア・スタディーズ(198)は、前年度80%近い激減の反動で激増。前年度の反動による増減が継続。
- 医療健康科学(104)は、やや増加で5年ぶりに増加に転じた。

専修大：大学全体では2年連続減少、6学部中4学部が減少 一般：-3,870人 共テ：+227人


入試変更点 入試科目：ネットワーク情報(ネットワーク情報)〈一般・前期A方式〉、〈全学部統一〉、〈後期〉
…個別：国+外+(歴公 or 数)→個別：国+外+(歴公 or 数)、共テ：数①
※共通テストの数①受験を必須とし、合計点には含めず、基準点以上を合格判定対象に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、3,643人(93)のやや減少で2年連続減少。方式別では、一般方式(88)は2年連続減少。共通テスト利用方式(101)は前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。学部別では、経済(127)、法(109)を除く6学部は、いずれも減少。

＜一般方式＞

- 文(87)は、前年度大幅減少の反動はなく減少で、2年連続減少。学科別では6学科中、(英語英米文)(117)のみ増加。これを除く5学科は減少で、(環境地理)(91)のみ減少、その他の4学科はいずれも大幅減少。
- 法(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(政治)(117)は前年度減少の反動で大幅増加。(法律)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 経済(112)は、3年連続増加。(経済)から2学科に改組し2年目の(生活環境経済)(189)は激増、志願倍率も7.8倍→13.4倍にアップ。一方で、(現代経済)(82)は大幅減少と対照的。(国際経済)(107)は2年連続増加。
- 経営(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科別では、(経営)(93)、(ビジネスデザイン)(95)で、いずれもやや減少。
- 商(87)は、2年連続減少。学科別では(マーケティング)(86)は4年連続増加の反動で減少。(会計)(89)は2年連続減少。
- ネットワーク情報(21)は、〈全学部統一〉〈前期A方式〉〈後期〉が、一般方式から共通テスト利用方式に変わったことで、集計上は激減。以上の3方式を除いても(60)の大幅減少。募集単位別では、〈全国〉(37)は、募集人員減少(募集人員の前年度対比指数67)もあって激減、〈スカラ〉(47)の半減以下の減少。
- 人間科学(98)は、前年度減少の反動はなく微減で、2年連続減少。学科別では、(社会)(103)はやや増加で、3年ぶりに増加。(心理)(92)は、前年度大幅減少の反動はなく減少で、2年連続減少。
- 国際コミュニケーション(58)は、コロナ禍の影響による系統の人気低下もあり、新設2年目で大幅減少。志願倍率は27.4倍→16.1倍に大幅ダウン。学科別では、(日本語)(57)、(異文化コミュニケーション)(58)はいずれも大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞

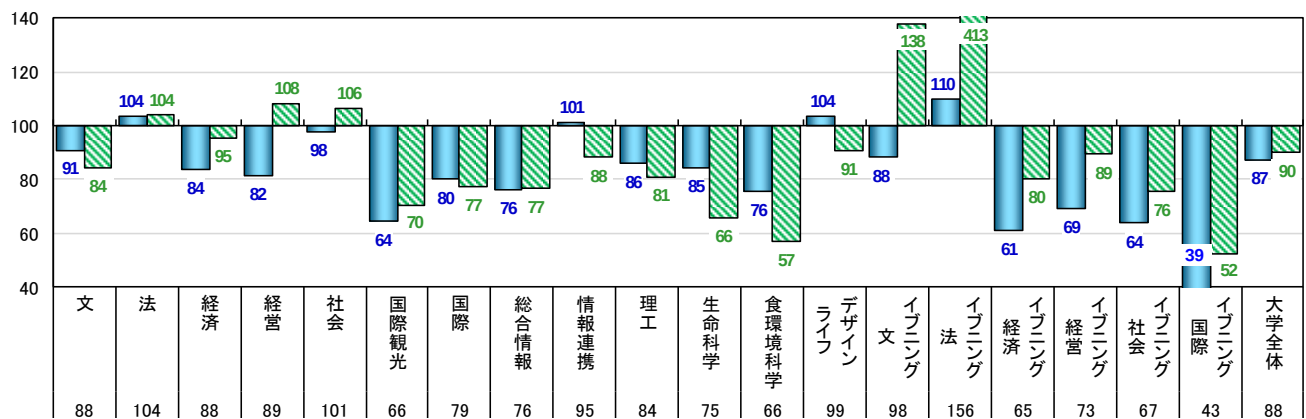
- 文(87)は、前年度大幅減少の反動はなく減少で2年連続減少。学科別では、(環境地理)(158)、(ジャーナリズム)(130)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。その他の4学科はいずれも減少、特に(哲学)(55)は半減近い大幅減少。
- 法(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。2017年度より、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(政治)(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(法律)(101)は、前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。
- 経済(152)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2016年度より、前年度の反動による増減が継続。学科別では、改組2年目の(生活環境経済)(339)は3倍以上の激増だが、(現代経済)(97)はやや減少と対照的。(国際経済)(140)は前年度大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数は2年ぶりに1,200人を上回った。
- 経営(113)は、前年度大半減以下だった反動は小さく増加に留まった。学科別では、(ビジネスデザイン)(190)は、前年度激減の反動で激増。(経営)(90)は前年度半減以下の反動はなく減少で、2年連続減少。
- 商(57)は、6年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(会計)(79)は大幅減少で、2年連続減少。(マーケティング)(80)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- ネットワーク情報(105)は、集計上はやや増加だが、一般方式から共通テスト利用方式に変わった〈全学部統一〉〈前期A方式〉〈後期〉の3方式を除くと(76)の大幅減少で2年連続減少。
- 人間科学(85)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(心理)(103)はやや増加、(社会)(73)は大幅減少。
- 国際コミュニケーション(59)は、コロナ禍の影響による系統の人気低下もあり、新設2年目で大幅減少。

東洋大：2年連続減少、志願者数は5年ぶりに10万人を下回る

一般：-8,320人 共テ：-3,648人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

学科改組：社会(社会文化システム)→(国際社会)

選抜方法：新規実施…文(東洋思想)〈一般・前期4教科〉

(日本文学、史、教育、東洋思想)〈共テ・前期5教科〉

(英米文、教育／初等)〈共テ・中期3教科〉

経済(国際経済)〈共テ・前期4教科英語重視〉

(総合政策)〈共テ・前期5科目〉

経営(経営、マーケティング)〈一般・前期3教科数学重視〉

(マーケティング)〈一般・後期2教科均等配点(英・数)〉

(会計ファイナンス)〈一般・中期3教科最高点重視〉

社会(社会、社会福祉)〈一般・中期3教科国語重視〉

(社会心理)〈一般・中期3教科数学重視〉

理工(機械工)〈共テ・前期3教科理科重視〉

食環境科学(食環境科学)〈一般・前期3教科理科重視〉

(健康栄養)〈共テ・前期4科目〉

ライフデザイン(人間環境デザイン)〈一般・中期3教科〉

廃止…経済(国際経済)〈セ・前期2教科外部試験利用〉

(総合政策)〈セ・前期3教科ベスト2〉

経営(マーケティング)〈一般・前期3教科国語重視〉

(会計ファイナンス)〈一般・前期3教科地公重視〉〈一般・中期3教科ベスト2〉

国際(国際地域)〈一般・中期3教科英語重視〉

情報連携(情報連携)〈総合問題前期〉

理工(機械工、生体医工)〈セ・前期3教科ベスト2〉

生命科学(応用生物科学)〈一般・前期3教科ベスト2〉

食環境科学(食環境科学)〈一般・前期3教科ベスト2〉

ライフデザイン(人間環境デザイン)〈一般・中期3教科ベスト2〉

入試科目：理工(建築)…〈一般・前期3教科〉数+外+(国 or 理)→数+理+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、11,968人(88)の減少で、前年度大幅減少に続いて2年連続減少し、前年度まで4年連続で10万人を上回っていた志願者数は、9万人を下回った。方式別では、一般方式(87)、共通テスト利用方式(90)のいずれも減少。イブニングコースを除いても、大学全体(89)、一般方式(90)、共通テスト利用方式(89)といずれも減少。第1部では、法(104)、社会(101)を除いた11学部が減少。

〈一般方式〉

- 文(91)は、前年度の大幅減少の反動もなく2年連続減少。学科・専攻別では、(英米文)(110)が前年度大幅減少の反動で、8つの学科・専攻の中で唯一の増加。他の7学科・専攻は(哲)(100)の微減を含めて、いずれも2年連続減少。(東洋思想文化)(79)は、前期4教科入試を新規実施したが数学が必須だったので、志願者数はわずか4人だった。(教育／人間発達)(80)は大幅減少、(国際文化コミュニケーション)(81)、(教育／初等教育)(83)は2年連続大幅減少。
- 法(104)は、前年度やや減少の反動でやや増加。学科別では、(法律)(108)が前年度減少の反動で増加、(企業法)(95)は前年度やや増加の反動でやや減少。
- 経済(84)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(経済)(103)が2年連続減少の反動でやや増加、(総合政策)(70)、(国際経済)(70)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少。
- 経営(82)は、6年連続増加の反動で大幅減少。既存の募集単位のみでも(85)の大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に、(会計ファイナンス)(74)は前年度増加率が30%近い大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会(98)は、2年連続前年度並。学科別では、(国際社会)は前年度の(社会文化システム)からの改組だが、前年度激増の反動で(71)の大幅減少。一方で、(社会福祉)(126)が前年度減少の反動で大幅増加。
- 国際観光(64)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響が大きく、大幅減少で2年連続減少。

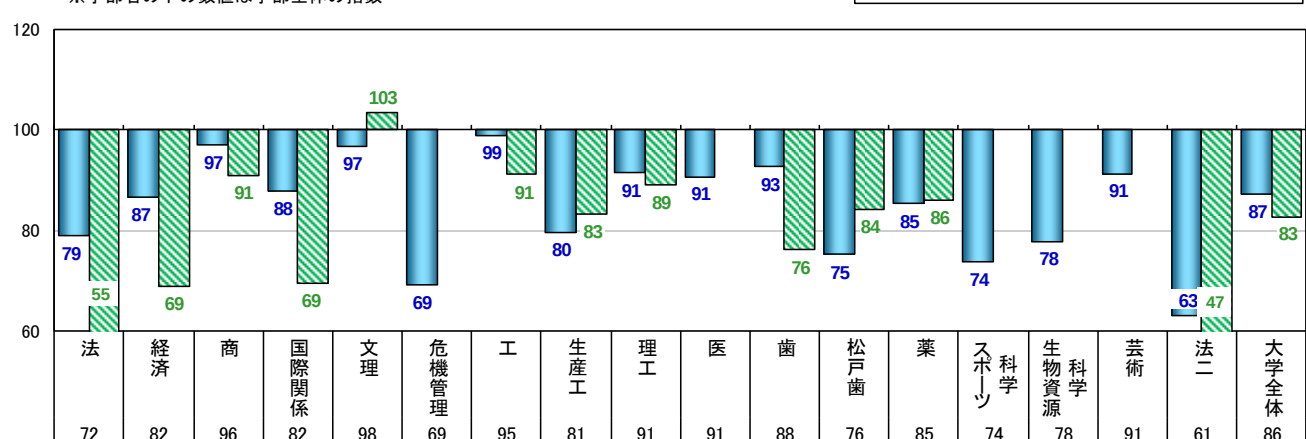
- 国際(80)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響が大きく、2年連続大幅減少。学科別では、2学科ともに大幅減少だが、(国際地域)(79)は2年連続大幅減少。
- 総合情報(76)は、3年連続増加の反動で大幅減少。
- 情報連携(101)は、前年度減少の反動は小さく、前年度並。
- 理工(86)は、6年連続増加の反動で減少。学科別では、6学科全てが減少。特に、(応用化学)(78)が3年連続増加の反動で大幅減少、(機械工)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 生命科学(85)は、2年連続減少。学科別では、(応用生物科学)(80)が3年連続増加の反動で大幅減少、(生命科学)(89)は2年連続減少。
- ライフデザイン(104)は、前年度減少の反動でやや増加。学科・専攻別では、(人間環境デザイン)(97)が6年連続増加の反動でやや減少。新規実施・廃止方式を除いても(105)のやや増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(84)は、大幅減少で3年連続減少。学科・専攻別では、(教育／初等教育)(101)、(日本文学文化)(101)が微増だが、他の6学科・専攻は減少。(国際文化コミュニケーション)(65)は2年連続大幅減少、(教育／人間発達)(71)、(哲)(73)も大幅減少。
- 法(104)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(企業法)(107)はやや増加、(法律)は前年度並。
- 経済(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(経済)(111)が唯一増加。一方で、(国際経済)(82)、(総合政策)(76)はいずれも3年連続大幅減少。
- 経営(108)は、前年度ほぼ半減の反動で増加。学科別でも、3学科全てが前年度ほぼ半減の反動で増加。
- 社会(106)は、2年連続大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(国際社会)は前年度の(社会文化システム)からの改組だが、前年度大幅増加の反動で(87)の減少。既存の4学科はいずれも増加で、((社会心理)(103)を除き、大幅増加。
- 国際観光(70)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響が大きく、大幅減少で2017年度の新設以降4年連続減少。
- 国際(77)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下の影響が大きく、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(グローバル・イノベーション)(103)はがやや増加、(国際地域)(70)が3年連続となる大幅減少。
- 総合情報(77)は、大幅減少で3年連続減少。
- 情報連携(88)は、2年連続減少。
- 理工(81)は、2年連続大幅減少。学科別では、(電気電子情報工)(103)がやや増加だが、これ以外の5学科は全て大幅減少。特に(生体医工)(64)、(建築)(73)、(応用化)(77)が20%以上の減少率だった。
- 生命科学(66)は、2年連続大幅減少。学科別では、(生命科学)(63)が2年連続大幅減少、(応用生物科学)(69)は大幅減少で3年連続減少。
- 食環境科学(57)は、大幅減少で2年連続減少。学科・専攻別では、(食環境科学／スポーツ・食品機能)(35)が激減で2年連続減少、(健康栄養)(71)が2年連続大幅減少、(食環境科学／フードサイエンス)(57)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- ライフデザイン(91)は、2年連続減少。学科・専攻別では、全学科・専攻で前年度に引続き減少。

日本大：大学全体の志願者数は2年ぶりに10万人を下回る 一般：-10,943人 共テ：-5,011人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



- 入試変更点**
- 提出書類等…「主体性」「多様な人々との協働性」について活動・経験したことを通して自分がどのように成長したかを500文字以内で入力。(合否判定には使用しない)
- 選抜方法：新規…文理＜N2期＞、生産工＜CA方式＞
第二志望制度新規実施…工＜A方式＞
第二志望制度廃止…国際関係＜A1期＞、＜A2期＞、文理＜A1期＞
廃止…文理(化学、国文)＜C2期＞、生産工＜A3期＞、＜C2期＞
- 入試科目：文理、生産工＜共テ・C方式＞…リスニングの成績は利用しない→リスニングの成績を利用
生産工(マネジメント工、環境安全工、創生デザイン)＜N1期＞…数+理+外→数+外+(国 or 理) ※国と数②の組合せは不可
生物資源科学(森林資源科学、生物環境工)＜N2期＞…外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→理+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、15,954人(86)の減少。法二を除いた第一部のみでも同じく(86)の減少。前年度は2019年度入試での大学を取り巻く厳しい環境による減少の反動から増加したが、既卒受験生の減少やコロナ禍による併願校の絞り込みなどが影響して、志願者数は2019年度も下回った。学部別では、全ての学部で減少。文理(98)は微減、商(96)、工(95)はやや減少に留まった。一方で、法二(61)、危機管理(69)、法(72)、スポーツ科学(74)、松戸歯(76)、生物資源科学(78)、生産工(81)、経済(82)、国際関係(82)は大幅減少。

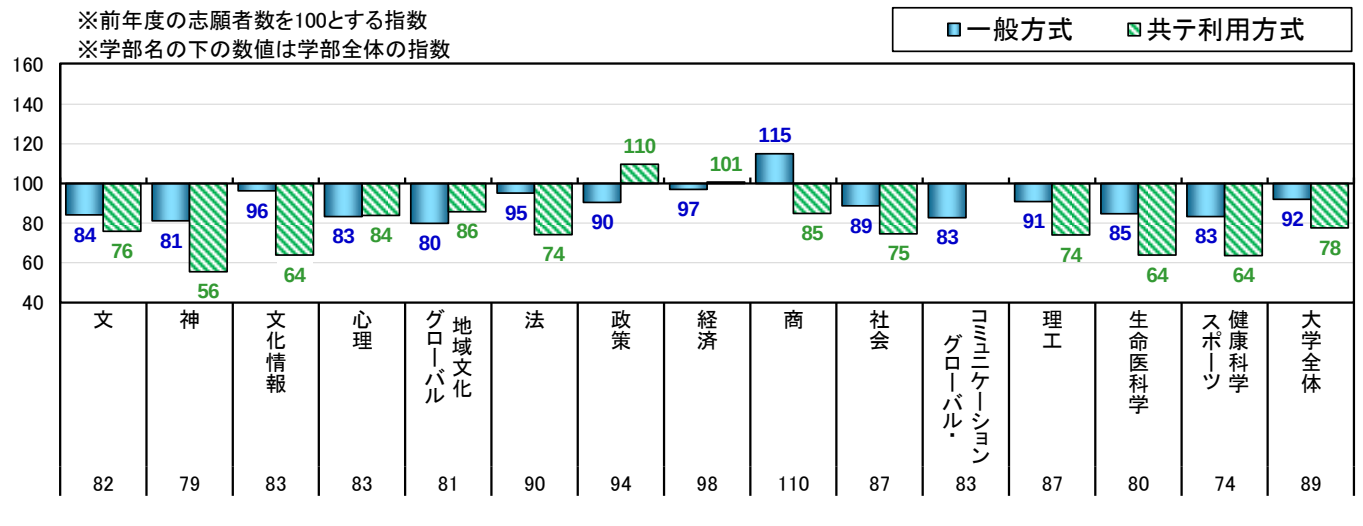
<一般方式>

- 法(79)**は、大幅減少。学科別では、5学科全てが大幅減少。(法律)(83)を除いた4学科は指数80を下回る大幅減少。特に、(経営法)(71)は減少率が30%近い大幅減少。
- 経済(87)**は、減少。学科別では、3学科全てが減少。(産業経営)(72)は大幅減少。(金融公共経済)(86)は3年連続減少。
- 商(97)**は、2年連続やや減少。学科別では、(商業)(107)が前年度減少の反動でやや増加。(経営)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。(会計)(87)は前年度の大幅減少に引き続き減少。
- 国際関係(88)**は、コロナ禍の影響を強く受けた系統の人気低下により減少。学科別では、2学科とも減少で、(国際総合政策)は大幅減少。
- 文理(97)**は、やや減少。新規実施の<N2期>を除くと、(92)の減少。学科別では、18学科中8学科が2年連続増加、特に(哲学)(119)、(数学)(118)、(中国語中国文化)(117)、(情報科学)(115)は大幅増加。一方で、(ドイツ文)(76)、(体育)(85)は大幅減少。
- 危機管理(69)**は、前年度激増の反動で大幅減少。方式別では、3方式全てが大幅減少。
- 工(99)**は、福島県郡山市にキャンパスがあることから、地方の地元志向の影響で微減に留まった。学科別では、系統への人気が高い(情報工)(118)、(電気電子工)(115)が2年連続大幅増加。一方で、土木工(68)は大幅減少。
- 生産工(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、9学科全てが減少。特に(機械工)(68)、(土木工)(68)、(建築工)(73)、(応用分子化学)(81)、(数理情報工)(82)が大幅減少。
- 理工(91)**は、減少。学科別では、(電子工)(110)は3年連続増加。一方で、(まちづくり工)(76)、(電気工)(79)、(物理)(85)は大幅減少。
- 医(91)**は、3年連続減少。方式別では、<N1期>(132)が2年連続大幅増加、<A方式>(85)は5年連続減少。
- 歯(93)**は、系統への低い人気も影響して2年連続減少。方式別では、<A方式>(93)、<N1期>(93)はいずれもやや減少。
- 松戸歯(75)**は、系統への低い人気も影響して2年連続大幅減少。方式別では、<N1期>(97)はやや減少だが、<A1期>(65)、<A2期>(77)はいずれも2年連続大幅減少。
- 薬(85)**は、3年連続減少。方式別では、<N1期>(95)がやや減少だが、<A1期>(82)は3年連続減少。
- スポーツ科学(74)**は、系統への低い人気も影響して大幅減少。方式別では、3方式とも大幅減少。特に<N2期>(69)は、3年連続減少。
- 生物資源科学(78)**は、前年度<N2期>を3学科から11学科に拡大したことによる大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、12学科全てが減少。特に(森林資源科学)(54)、(生物環境工)(56)の減少率が大きかったが、いずれも<N2期>で理科を必須にしたことで(森林資源科学)<N2期>(21)、(生物環境工)<N2期>(30)と激減したことが影響。

<共通テスト利用方式>

- 法(55)**は、前年度大幅増加の反動で半減近い大幅減少。学科別では、(公共政策)(92)を除いた4学科が大幅減少。特に、(政治経済)(28)が激減。
- 経済(69)**は、系統への人気低下と反動で大幅減少。学科別では、3学科全てで減少。特に、(金融公共経済)(39)、(産業経営)(40)が激減。
- 商(91)**は、前年度半減以下に引き続き減少。学科別では、(商業)(104)がやや増加、一方で経営(78)は大幅減少で5年連続減少。
- 国際関係(69)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際総合政策)(62)が大幅減少、(国際教養)(82)は3年連続大幅減少。
- 文理(103)**は、3年連続減少の反動でやや増加。今年度廃止された方式を除くと(104)のやや増加。実施2年目の(体育)(187)は周知が進み激増、系統への人気が高い(情報科学)(148)は大幅増加、(英文)(137)、(中国語中国文化)(130)、哲学(120)も大幅増加。一方で、(ドイツ文)(41)、(社会福祉)(57)、化学(80)、心理(85)が大幅減少。
- 工(91)**は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、系統への人気が高い(情報工)(117)が4年連続増加、それ以外の5学科はいずれも減少。特に、(土木工)(69)、(生命応用化学)(77)、(電気電子工)(83)、建築(85)は大幅減少。
- 生産工(83)**は、大幅減少。学科別では、(創生デザイン)(106)のみ増加、(電気電子工)(99)が微減、これらを除く7学科はいずれも大幅減少。特に、(マネジメント工)(72)、(環境安全工)(72)、(応用分子化学)(74)、(数理情報工)(79)が減少率20%を上回る大幅減少。
- 理工(89)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、(応用情報工)(104)がやや増加、(海洋建築工)(101)が微増だが、これらの2学科を除く12学科はいずれも減少。特に、電気工(64)、精密機械工(79)、機械工(80)、まちづくり工(84)、土木工(84)は大幅減少。
- 歯(76)**は、系統への低い人気も影響して2年連続大幅減少。
- 松戸歯(84)**は、系統への低い人気も影響して3年連続大幅減少。
- 薬(86)**は、4年連続減少。

同志社大：大学全体では3年連続減少、14学部中13学部で減少 一般：-3,164人 共テ：-2,301人



入試変更点 募集人員：心理(心理)〈学部個別〉…75人→79人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、5,465人(89)の減少で3年連続減少となり、志願者数は2年連続5万人を下回った。方式別では、一般方式(92)は減少で3年連続減少、共通テスト利用方式(78)は大幅減少で2年連続減少。学部別では、商(110)のみが増加で、その他の13学部はいずれも減少で、特にスポーツ健康科学(74)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(84)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、全ての学科で減少し、(文化史)(96)はやや減少だが、他の4学科はいずれも大幅減少。特に、(哲)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 文化情報(96)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈学部文系〉(110)は増加だが、残りの3方式はいずれも減少。
- 心理(83)は、大幅減少で3年連続減少。3方式とも大幅減少。
- グローバル・地域文化(80)は、大幅減少。コース別では、3コース全てで減少で、特に(グローバル・地域文化／アメリカ)(58)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 法(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(政治)(113)は前年度大幅減少の反動で増加、(法)(92)は減少で3年連続減少。
- 政策(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(97)は、やや減少で3年連続減少。
- 商(115)は、大幅増加で3年ぶりに増加。コース別では、(商／商学総合)(121)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(商／フレックス複合)(81)は、大幅減少で4年連続減少。
- 社会(89)は、減少で3年連続減少。学科別では、(社会)(122)は大幅増加だが、その他の学科はいずれも減少。
- グローバル・コミュニケーション(83)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。コース別では、いずれのコースも大幅減少で、(グローバル・コミュニケーション／中国語)(81)は前年度激増の反動で大幅減少、(グローバル・コミュニケーション／英語)(83)は3年連続減少。
- 理工(91)は、減少。学科別では、(機械システム工)(61)、(数理システム)(84)は前年度増加の反動で大幅減少。一方で、(インテリジェント情報)(116)は大幅増加。
- 生命医科学(85)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(医工)(121)が2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(医情報)(61)は大幅減少で3年ぶりに減少、(医生命システム)(78)も大幅減少で4年ぶりに減少。
- スポーツ健康(83)は、系統への低い人気も影響して大幅減少で2年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

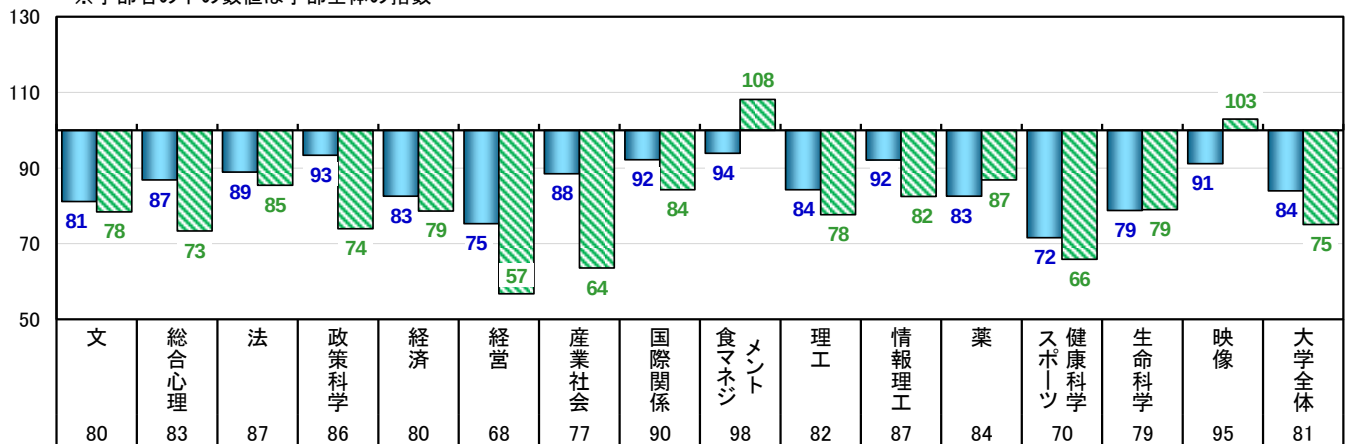
- 文(76)は、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、全ての学科で減少し、(国文)(69)、(英文)(73)、(哲)(82)、(美学芸術)(82)は大幅減少、(文化史)(86)は減少。
- 文化情報(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- グローバル・地域文化(86)は、減少で2年連続減少。コース別では、(グローバル・地域文化／アジア・太平洋)(109)は増加だが、(グローバル・地域文化／ヨーロッパ)(67)は大幅減少。
- 法(74)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 政策(110)は、増加で2年連続増加。方式別では〈共テ・3科目〉(124)は大幅増加、〈共テ・4科目〉(81)は大幅減少と対照的。
- 商(85)は、2年連続大幅減少。
- 社会(75)は、2年連続大幅減少。学科別では、5学科とも減少で、(社会福祉)(19)は前年度4倍以上の激増の反動で激減、(産業関係)(61)は2年連続大幅減少、(社会)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(74)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、全ての学科で減少し、(電気工)(55)、(機械システム工)(56)、(機能分子・生命化)(70)、(環境システム)(70)、(数理システム)(71)、(機械理工)(80)、(電子工)(83)、(情報システムデザイン)(85)は大幅減少、(インテリジェント情報)(86)、(化学システム・創成工)(88)は減少。
- 生命医科学(64)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科とも大幅減少。特に(医情報)(48)は2年連続大幅減少。
- スポーツ健康(64)は、系統への低い人気も影響して大幅減少で2年連続減少。方式別では、3方式とも大幅減少。

立命館大：大学全体では2万人以上の減少

一般：-10,221 人 共テ：-9,936 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

選抜方法：文、法、政策科学、経済、経営(国際経営除く)、産業社会、国際関係、食マネジメント、理工、情報理工、生命科学、映像…共テ・3月3教科型、5教科型新規実施
総合心理、経営(国際経営)、スポーツ健康科学…共テ・3月5教科型新規実施
薬…共テ・3月3教科型新規実施

※新型コロナウイルス感染症対応…共テ・3月選考について、3教科型、5教科型を設定

募集人員：総合心理(総合心理)…<学部個別・理科1科目型>10人→15人、<共テ併用>10人→5人
法(法)…<学部個別・文系型>60人→65人、<共テ併用>70人→65人、<後期分割>22人→23人
経営(国際経営)…<学部個別・文系>12人→10人
産業社会(現代社会/現代社会)…<全学統一・文系>127人→130人、<後期分割>18人→15人
(現代社会/メディア社会)…<全学統一・文系>65人→68人、<後期分割>10人→7人
(現代社会/スポーツ社会)…<全学統一・文系>33人→35人、<後期分割>5人→3人
(現代社会/子ども社会)…<全学統一・文系>21人→23人、<後期分割>4人→2人
(現代社会/人間福祉)…<全学統一・文系>46人→48人、<後期分割>5人→3人
情報理工(情報理工)…<全学統一理系>149人→169人
生命科学(生命医科学)…<全学統一理系>20人→21人、<学部個別>8人→9人、<共テ・2月>10人→8人
(応用化学)…<全学統一理系>35人→39人、<学部個別>13人→15人、<共テ・2月>17人→13人
<共テ・3月>3人→2人、<後期分割>5人→4人
(生物工)…<全学統一理系>27人→29人、<学部個別>10人→11人、<共テ・2月>13人→11人
<後期分割>4人→3人
(生命情報)…<全学統一理系>20人→21人、<学部個別>8人→9人、<共テ・2月>10人→8人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、前年度増加の反動やコロナ禍による1人当たりの出願校数減少の影響を大きく受けた結果、20,157人(81)の大幅減少で2年ぶりの減少となり、前年度志願者数が10万人をこえたが、9万人も下回り83,512人に留まった。方式別では、一般方式(84)、共通テスト利用方式(75)のいずれも大幅減少。学部別では、全ての学部で減少。特にスポーツ健康科学(72)、経営(75)、生命科学(79)は2割以上の減少。

<一般方式>

- 文(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学域別では、全て減少で、特に(人文/人間研究)(64)は30%以上の大幅減少で、前年度の反動による大幅増減が継続。
- 総合心理(87)は、減少で3年連続減少。方式別では、<学部理1>(60)、<学部文系>(77)はいずれも大幅減少。
- 法(89)は、減少で3年連続減少。方式別では、<学部個別>(106)はやや増加、<全学部統一文系>(85)は大幅減少で、それぞれ増減は2年連続継続。
- 政策科学(93)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、<学部個別>(110)は増加、一方で、<後期分割>(61)は大幅減少。
- 経済(83)は、系統への人気低下と前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(経済/国際)(81)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(経済/経済)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(75)は、系統への人気低下と2年連続増加、特に前年度の30%を上回る大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際経営)(70)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(経営)(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 産業社会(88)は、減少で2年連続減少。専攻別では、(現代社会/メディア社会)(119)は3年連続減少の反動で大幅増加、一方で(現代社会/子ども社会)(61)、(現代社会/人間福祉)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(現代社会/現代社会)(86)は減少で2年連続減少。
- 国際関係(92)は、減少で前年度の反動による増減が継続。専攻別では、(国際関係/グローバル・スタディーズ)(92)は前年度大幅増加の反動で減少、(国際関係/国際関係)(92)は減少。
- 食マネジメント(94)は、やや減少で2018年度の新設以降は3年連続減少。方式別では、<学部個別>(120)が前年度大幅減少の反動で唯一大幅増加、<全学統一文系>(88)は減少で3年連続減少、<理系3教科型>(93)、<後期分割>(94)はいずれもやや減少。

- 理工(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・コース別では、9学科・コース全てが減少し、(数理科学/数学)(78)、(電子情報工)(79)、(物理科学)(79)、(電気電子工)(80)、(環境都市工)(80)は大幅減少。
- 情報理工(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 薬(83)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも減少だが、(創薬化学)(73)は大幅減少、(薬)(86)は減少。
- スポーツ健康科学(72)は、系統への人気低下もあり、大幅減少で2年連続減少。方式別では、3方式とも大幅減少。
- 生命科学(79)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(生命情報)(64)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(生命医科学)(73)、(応用化)(83)はどちらも3年連続増加の反動で大幅減少、(生物工)(93)はやや減少で2年連続減少。
- 映像(91)は、減少で2年連続減少。方式別では、導入2年目の〈学部理1型〉(147)は周知が広まったため、大幅増加。一方で、〈全学部統一文系〉(87)は2年連続減少、〈学部文系〉(89)は減少。

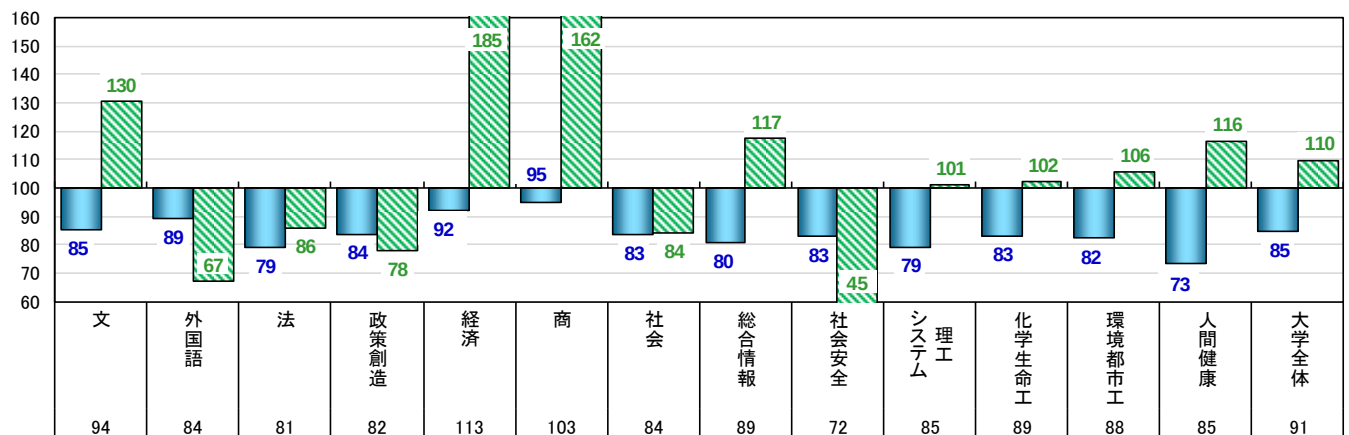
〈共通テスト利用方式〉

- 文(78)は、大幅減少で5年連続減少。学域別では、8学域中6学域が大幅減少。その中で、(人文/言語コミュニケーション)(51)は半減に近く、(人文/日本史研究)(72)は3年連続減少。
- 総合心理(73)は、大幅減少で5年連続減少。
- 法(85)は、2年連続大幅減少。
- 政策科学(74)は、大幅減少で3年連続減少。
- 経済(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(経済/経済)(77)は前年度増加の反動で大幅減少、(経済/国際)(96)は2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 経営(57)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際経営)(43)、(経営)(60)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 産業社会(64)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、5専攻すべてが大幅減少。特に(現代社会/人間福祉)(48)は前年度大幅増加の反動で半減以下の減少、(現代社会/子ども社会)(49)は前年度2倍以上の増加の反動で半減以下の減少、(現代社会/スポーツ社会)(62)は2年連続大幅減少、(現代社会/現代社会)(66)、(現代社会/メディア社会)(83)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。
- 国際関係(84)は、(国際関係)のみの募集だが4年連続減少。
- 食マネジメント(108)は、前年度半減以下の大幅減少の反動で増加したが、志願者数は900人に達しなかった。
- 理工(78)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別・コース別では、(数理科学/データサイエンス)(127)は系統への人気も高く大幅増加。他の8学科・コースは全て減少。特に、(環境都市工)(65)、(数理科学/数学)(68)、(物理科学)(70)、(建築都市デザイン)(75)、(機械工)(78)、(電子情報工)(83)は大幅減少。
- 薬(87)は、減少で4年連続減少。2学科とも減少し、特に(薬)(83)は大幅減少。
- 生命科学(79)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てが減少。特に、(生命医科学)(74)、(生命情報)(76)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少、(応用化)(75)は4年連続増加の反動で大幅減少。
- 映像(103)は、やや増加で2年ぶりに増加。

関西大：11 学部が減少し、大学全体では2年連続減少 一般：-10,198人 共テ：+2,084人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



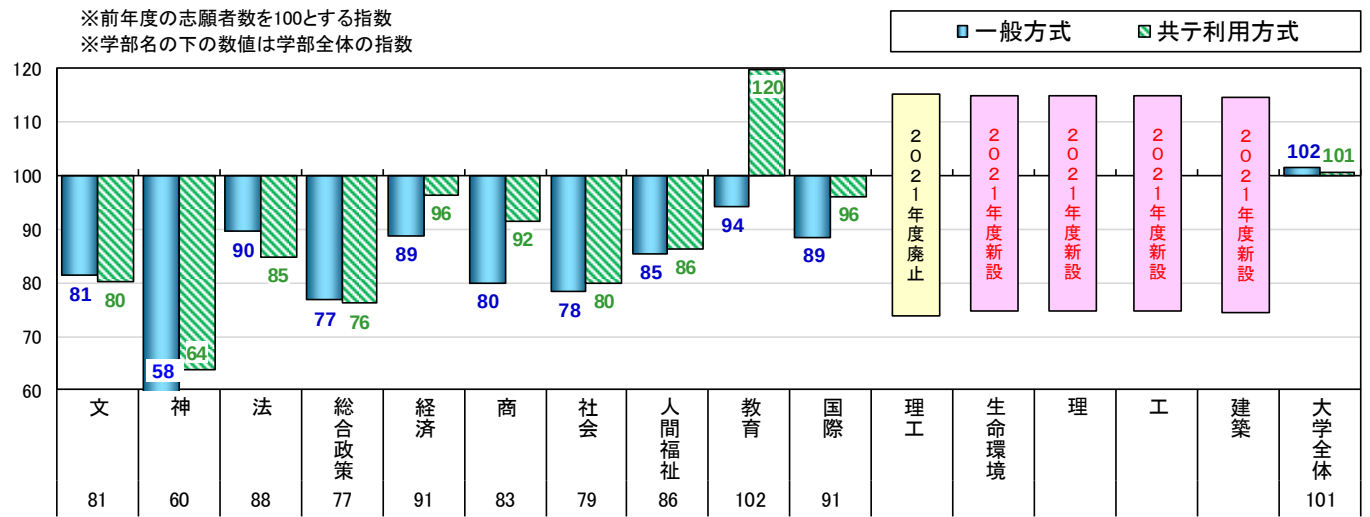
入試変更点

学科名称：政策創造(国際アジア法政策)→(国際アジア)
 選抜方法：新規実施…文<共テ・英語外部試験重視>
 社会安全(安全マネジメント)、人間健康(人間健康)<一般・英語外部試験利用>
 廃止…全学部<一般・後期>
 試験日程追加…全学部<一般・全学>、<共テ・併用>
 募集人員：文<共テ・併用>…12人→25人、<共テ・前期>…43人→45人、<共テ・後期>…5人→10人
 外国語<共テ・併用>…6人→5人、<共テ・後期>…4人→8人
 法<共テ・併用>…15人→40人、<共テ・前期>…40人→50人、<共テ・後期>…10人→15人
 政策創造<共テ・後期>…10人→18人
 経済<共テ・併用>…16人→26人、<共テ・前期>…12人→24人、<共テ・後期>…12人→10人
 総合情報<共テ・後期>…5人→10人

	社会安全<共テ・併用>…14人→5人、<共テ・前期…>12人→10人 人間健康(人間健康)<共テ・併用>…13人→15人、<共テ・後期…>4人→5人 システム理工<共テ・併用>…43人→55人 環境都市工<共テ・併用>…22人→27人 化学生命工<共テ・併用>…15人→18人、<共テ・後期…>6人→10人 入試科目：法<共テ併用・2科目型I>…(共テ)歴公が国に、(個別)国から論へ
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較	
大学全体では8,114人(91)の減少で2年連続減少。方式別では、一般方式は10,198人(85)の大幅減少で3年連続減少。廃止方式の<一般・後期>を除いても(94)のやや減少。共通テスト利用方式は2,084人(110)の増加で、再度増加に転じたが、募集人員の大幅増加(募集人員の前年度対比指数116)により、競争は緩和。	
<一般方式> ○文(85)は、大幅減少で2年連続減少。 ○外国語(89)は、3年連続減少。 ○法(79)は、前年度増加の反動で大幅減少。 ○政策創造(84)は、大幅減少で3年連続減少。志願者数は3,000人を下回った。 ○経済(92)は、前年度増加の反動で減少。募集人員減少(募集人員の前年度対比指数94)により、志願倍率は23.2倍→22.6倍のわずかなダウンに留まる。 ○商(95)は、やや減少で4年連続減少。 ○社会(83)は、3年連続減少、最近2年は大幅減少。 ○総合情報(80)は、大幅減少で2年連続減少。 ○社会安全(83)は、大幅減少で4年連続減少。 ○システム理工(79)は、4年連続増加の反動で大幅減少。 ○化学生命工(83)は、大幅減少で2年連続減少。 ○環境都市工(82)は、大幅減少で3年連続減少し、志願者数は3,000人を下回った。 ○人間健康(73)は、前年度やや増加の反動で大幅減少。志願倍率は、23.4倍→17.2倍にダウン。	
<共通テスト利用方式> ○文(130)は、前年度大幅減少の反動と募集人員増加により大幅増加。 ○外国語(67)は、2年連続大幅減少。志願倍率は51.9倍→29.1倍に大幅ダウン。 ○法(86)は、3年連続減少。 ○政策創造(78)は、2年連続大幅減少。 ○経済(185)は、募集人員増加もあり激増で、前年度5年ぶりに減少したが再度増加に転じた。 ○商(162)は、前年度大幅減少の反動で激増。 ○社会(84)は、大幅減少で3年連続減少。 ○総合情報(117)は、前年度減少の反動で大幅増加。 ○社会安全(45)は、募集人員減少の影響もあり、前年度大幅減少の反動はなく半減以下の減少。 ○システム理工(101)は、4年連続増加の反動はなく、さらに微増。 ○化学生命工(102)は、微増だが4年連続増加。 ○環境都市工(106)は、やや増加で2年連続増加。 ○人間健康(116)は、大幅増加で2年ぶりに増加。	

関西学院大：大学全体では4年ぶりに増加

一般：+335人 共テ：+73人



入試変更点

学部改組：理工(化学、物理、生命科学、情報科学、数理科学、人間システム工、先進エネルギーナノ工、環境・応用化学、生命医化学)
→理(数理科学、物理・宇宙、化学)、工(物質工、電気電子応用工、情報工、知能・機械工)
生命環境(生物科学、生命医科学、環境応用化学)、建築(建築)

選抜方法：廃止…総合政策、経済、教育<学部個別理系>

募集人員：総合政策<一般・全学>…95人→90人、<一般・学部個別>…90人→85人、
<一般・独自>…80人→50人、<共テ・1月>…50人→45人
社会(社会)<共テ・1月>…85人→70人
人間福祉(社会福祉)<一般・全学>…24人→20人、<一般・学部個別>…24人→20人
<一般・独自>…19人→15人、<共テ・1月>…20人→17人
(社会起業)<一般・全学>…12人→19人、<一般・学部個別>…12人→19人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では408人(101)の微増だが学部改組の効果により4年ぶりに増加。方式別でも、一般方式は335人(102)、共通テスト利用方式は73人(101)といずれも微増で、4年ぶりに増加。学部別では、学部改組があった4学部は改組前の理工と比較すると、募集方式と募集人員の増加により(177)の大幅増加。一方で、既存の10学部のみでは(85)の大幅減少。

<一般方式>

- 文(81)は、前年度3年ぶりに増加だが、再度減少に転じた。学科別では、3学科全てが減少し、(総合心理科学)(70)、(文学言語)(84)は大幅減少。
- 法(90)は、3年連続減少。学科別では、(政治)(81)は3年連続大幅減少、(法律)(92)は2年連続減少。
- 総合政策(77)は、大幅減少で2年連続減少。廃止方式の<学部個別理系>を除いても(82)の大幅減少。
- 経済(89)は、3年連続減少。方式別では、<学部文系>(79)、<英数>(85)は大幅減少。
- 商(80)は、前年度やや増加の反動で大幅減少。3方式全てが減少。
- 社会(78)は、大幅減少で4年連続減少。方式別では、<英数型>(111)のみ増加。志願倍率も8.3倍→6.5倍にダウン。
- 人間福祉(85)は、3年連続大幅減少。3学科全てが3年連続減少し、特に(社会起業)(77)は3年連続大幅減少。
- 教育(94)は、やや減少で4年連続減少。コース別では、(教育/幼児教育)(108)は増加だが、他の2コースは減少。
- 国際(89)は、系統への低い人気も影響し、2年ぶりに減少。志願者数は1,000人を下回った。
- 理工から改組した生命環境、理、工、建築のそれぞれの志願倍率は11.7倍、17.3倍、15.7倍、16.8倍と、理の競争が最も激しかった。

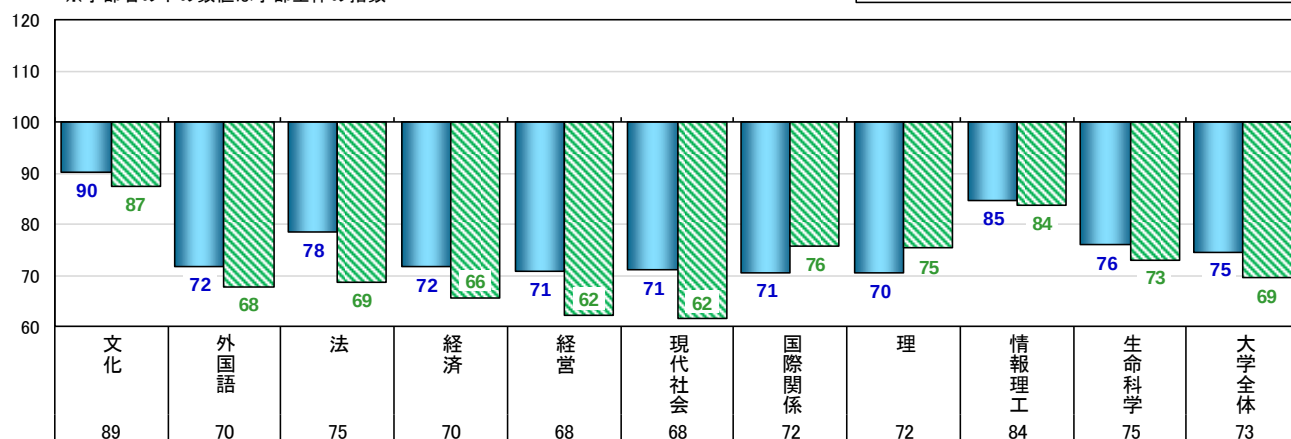
<共通テスト利用方式>

- 文(80)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少、(文学言語)(72)、(総合心理科学)(81)は大幅減少。
- 法(85)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、2学科とも減少し、特に(政治)(75)は3年連続大幅減少。
- 総合政策(76)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、<共テ・数学併用型>(52)のほぼ半減が目立った。
- 経済(96)は、やや減少で4年連続減少。
- 商(96)は、やや減少で3年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。
- 社会(80)は、大幅減少で4年連続減少。志願倍率は募集人員減少により11.0倍→10.3倍にわずかにダウン。
- 人間福祉(86)は、3年連続減少。学科別では、3学科全てが減少し、(人間科学)(78)は大幅減少、(社会起業)(82)は3年連続大幅減少。
- 教育(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。コース別では、3コース全てが増加し、特に(教育/教育科学)(140)の40%の増加が目立った。
- 理工から改組した生命環境、理、工、建築のそれぞれの志願倍率は67.3倍、59.5倍、62.4倍、60.9倍と、生命環境の競争が最も激しかった。

京都産業大：大学全体では6年ぶり減少 9学部で大幅減少 一般：-9,232人 共通：-6,063人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共通利用方式



入試変更点 選抜方法：外国語〈一般・英語1科目型〉…実施→廃止

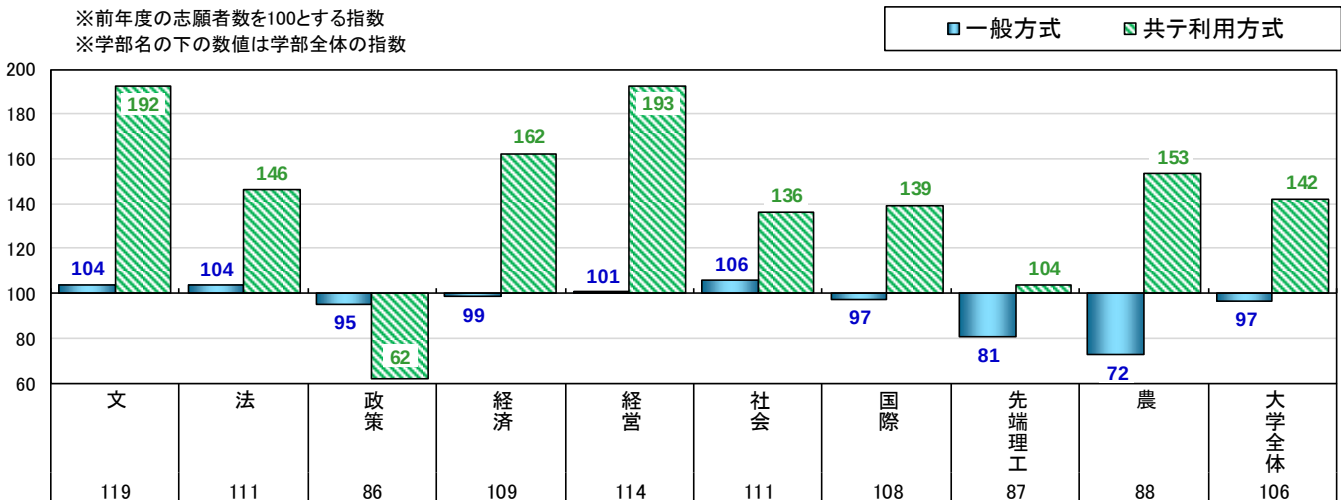
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、15,295人(73)の大幅減少で6年ぶりの減少。志願者数は、2018年度から続く5万人台を大きく下回る結果となった。学部別では、文化(89)が減少、他の9学部は経営(68)、現代社会(68)、外国語(70)、経済(70)、国際関係(72)、理(72)、法(75)、生命科学(75)、情報理工(84)といずれも大幅減少。方式別では、一般方式は9,232人(75)、共通テスト利用方式は6,063人(69)のいずれも大幅減少。

<一般方式>

- 文化(90)は、減少。学科別では、(京都文化)(121)が大幅増加、(国際文化)(72)が大幅減少と対照的。
- 外国語(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、ヨーロッパ言語(53)が半減に近い減少、英語(80)が大幅減少、アジア言語(88)が減少。
- 法(78)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(法政策)(66)が大幅減少、(法律)(86)が減少と、いずれも減少。
- 経済(72)は、大幅減少。方式別では、〈中期〉(63)は2年連続増加の反動で大幅減少、〈後期〉(74)は大幅減少、〈前期〉(74)は大幅減少で、2年連続減少。
- 経営(71)は、大幅減少で6年ぶりの減少。方式別では、〈前期〉(72)、〈中期〉(72)、〈後期〉(59)の全てが大幅減少。
- 現代社会(71)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(現代社会)(68)、(健康スポーツ科学)(76)といずれも大幅減少。
- 国際関係(71)は、大幅減少で2019年度新設から2年連続減少。
- 理(70)は、大幅減少で前年度3年ぶりの増加から再び減少。学科別では、(数理科学)(62)、(物理科学)(66)、(宇宙物理・気象)(80)の全てが大幅減少。
- 情報理工(85)は、大幅減少、2019年度の学部改組後は前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈後期〉(58)は2年連続大幅減少、〈中期〉(73)は大幅減少、〈前期〉(90)が減少。
- 生命科学(76)は、大幅減少で2019年度の学部改組後は2年連続減少。学科別では、(産業生命科学)(66)、(先端生命科学)(80)といずれも大幅減少。

龍谷大：大学全体では2年ぶりに増加 共テが大幅増加 一般：-1,394人 共テ：+4,492人



入試変更点

選抜方法：新規実施…文<共テ・前期2科目><共テ・前期4科目><共テ併用・前期><共テ・中期2科目>
 <共テ・中期3科目><共テ併用・中期2科目><共テ併用・中期3科目>
 法<共テ・前期2科目><共テ・前期4科目><共テ併用・前期><共テ・中期2科目>
 <共テ併用・中期2科目><共テ併用・中期3科目>
 政策<共テ・前期2科目><共テ併用・前期2科目><共テ・中期2科目>
 <共テ併用・中期2科目><共テ併用・中期3科目>
 経済、経営、社会<共テ・前期2科目><共テ併用・前期><共テ・中期2科目>
 <共テ・中期3科目><共テ併用・中期2科目><共テ併用・中期3科目>
 国際<共テ・前期4科目><共テ・中期2科目><共テ・中期3科目>
 <共テ併用・中期2科目><共テ併用・中期3科目>
 国際(グローバルスタディーズ)<共テ併用・前期>
 国際(国際文化)<共テ・前期2科目><共テ・後期3科目>
 先端理工<共テ・前期5科目><共テ・前期理科重視><共テ・中期数学重視>
 <共テ・中期理科重視>
 農<共テ・前期数理><共テ併用・前期農学><共テ・中期数理><共テ併用・中期農学>
 <共テ併用・後期><共テ併用・後期農学>
 農(植物生命科学、食品栄養、資源生物科学)<共テ・前期5科目>
 農(資源生物、食料農業システム)<共テ併用・前期文系>
 農(食料農業システム)<共テ・中期2科目>
 選抜方法：廃止…文、法、政策、経済、経営、社会<併用・中期1科目>
 法、国際、先端理工<併用・中期4科目>
 農(植物生命科学)<一般・前期文系型>
 入試科目：先端理工<共テ・後期>…〔(国 or 数 or 理 or 外)→3〕→数+理
 農(植物生命科学、食品栄養、資源生物科学)<共テ・後期>…理+外→外+(数 or 理)
 農(食料農業システム)<共テ・後期>…外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→〔(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→3〕

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、3,098人(106)のやや増加で前年度9年ぶりの減少から再び増加。学部別では、9学部中6学部が増加。文(119)が大幅増加、経営(114)、法(111)、社会(111)、経済(109)、国際(108)が増加。方式別では、共通テスト利用方式の科目種類の増加や新規方式導入により共通テスト利用方式は4,492人(142)の大幅増加、一方で一般方式は1,394人(97)のやや減少で2年連続減少。

<一般方式>

- 文(104)は、やや増加で2年ぶりの増加。学科・専攻別では、(哲学/教育学)(168)は、前年度大幅減少の反動で激増、(歴史/東洋歴史)(140)は大幅増加で2年連続増加。一方、(歴史/文化遺産)(76)、(歴史/仏教史)(82)、(英語英米文)(82)は大幅減少で2年連続減少。
- 法(104)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、<中期高得点>(118)が大幅増加、一方で<後期スタンダード>(85)が大幅減少。
- 政策(95)は、やや減少で前年度大幅減少の反動はなく2年連続の減少。方式別では、<前期高得点>(117)が大幅増加、<後期スタンダード>(50)が半減。
- 経済(99)は、前年度並み。方式別では、<後期スタンダード>(136)、<後期高得点>(131)が大幅増加。
- 経営(101)は、3年連続前年度並。方式別では、<後期スタンダード>(87)がはっきりとした減少。
- 社会(106)は、系統への人気は低下しているが、やや増加で2年ぶり増加。学科別では、(コミュニティマネジメント)(131)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加、(社会)(103)はやや増加で前年度の反動による増減が継続、(現代福祉)(89)は3年連続減少。
- 国際(97)は、コロナ禍の影響から系統への人気低下したこともあって、やや減少だが3年連続減少。学科別では、(国際

文化(103)はやや増加だが2年ぶりに増加。一方でグローバルスタディーズ(83)は留学必須であることでコロナ禍の影響が大きく3年連続大幅減少。

○先端理工(81)は、大幅減少。学科別では、(応用化学)(94)がやや減少、(数理・情報科学)(86)が減少、その他全ての学科で大幅減少。

○農(72)は、大幅減少で3年ぶりの減少。学科別では、(食品栄養)(89)を除く全ての学科で大幅減少だが、特に<一般・前期文系型>方式を廃止した(植物生命科学)(58)の大幅減少が目立った。

＜共通テスト利用方式＞

○文(192)は、共通テスト利用方式の科目種類増加や併用方式の新規実施で激増。学科別では、仏教(101)の前年度並を除いた10学科で大幅増加。特に、(歴史／東洋史学)(301)は3倍以上の激増。

○法(146)は、前年度大幅減少の反動に加え、共通テスト利用方式の科目種類増加や併用方式の新規実施で大幅増加。

○政策(62)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、特に実施2年目の<共テ・中期3科目>(16)と<共テ併用・前期>(41)の大幅減少が目立った。

○経済(162)は、2年連続減少の反動に加え、共通テスト利用方式の科目種類増加や併用方式の新規実施で激増。既存の方式別では、<共テ・後期>(192)が倍増近い激増、募集人員減少もあり志願倍率も4.8倍→15.3倍で大幅アップ。<共テ・前期4科目>(51)は大幅減少、<共テ・前期3科目>(86)は減少。

○経営(193)は、倍増近いが、既存の方式のみでの比較では(99)で前年度並。

○社会(136)は、前年度大幅減少の反動に加え、共通テスト利用方式の科目種類増加や併用方式の新規実施で大幅増加。学科別では、3学科全てで大幅増加。

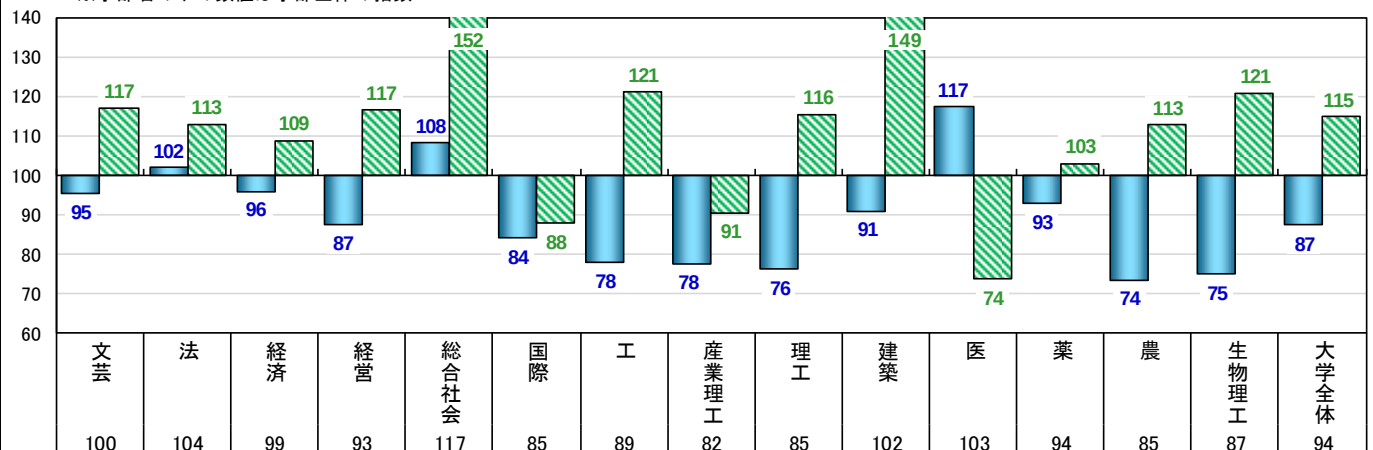
○国際(139)は、前年度大幅減少の反動に加え、共通テスト利用方式の科目種類増加や併用方式の新規実施で大幅増加。ただし、既存の方式のみでの比較では(59)の大幅減少。特に(国際文化)<共テ併用・前期リスニング>(45)の大幅減少が目立った。

○先端理工(104)は、やや増加で旧理工から引き続いて4年連続増加。学科別では、(応用化学)(125)が大幅増加、(数理・情報科学)(111)が増加。

○農(153)は、大幅増加で3年連続増加。既存の方式のみでの比較でも(164)の激増。

近畿大：大学全体では3年連続減少 理系学部の減少目立つ 一般：-14,252人 共テ：+4,868人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点 選抜方法：文芸(芸術／造形芸術)、国際(国際／東アジア)、医、薬を除く…<共テ併用・A日程>新規実施
文芸、産業理工…<セ・PC・後期>実施→廃止
入試科目：工…<共テ併用・B日程> 選択科目から歴公除外
<セ>(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→2、<個>(数 or 理 or 外)→2
→<共テ>(国 or 数 or 理 or 外)→2、<個>数 or 理 or 外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、9,384人(94)の減少で3年連続減少だが、志願者数は8年連続で全国最多。文理別では、理系8学部合計(88)で減少、文系6学部合計(99)が前年度並。学部別では、総合社会(117)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、法(104)、医(103)がやや増加、建築(102)、文芸(100)、経済(99)が前年度並だが、その他8学部は全て減少。方式別では、共通テスト利用方式4,868人(115)が大幅増加、一般方式14,252人(87)は減少と対照的。

＜一般方式＞

○文芸(95)は、3年連続減少。学科・専攻別では、(文／英語英米文)(116)は、前年度の反動による増減が継続、(文化デザイン)(116)は、2年連続減少の反動でいずれも大幅増加。(芸術／舞台芸術)(69)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、(文化・歴史)(83)は、大幅減少で4年連続減少、(芸術／造形芸術)(89)は前年度大幅増加の反動で減少、(文／日本文)(96)はやや減少で3年連続減少。

○法(102)は、微増で4年ぶりに増加。方式別では、<後期>(105)がやや増加、<前期>(101)は前年度並。

○経済(96)は、系統への人気低下で3年連続減少。学科別では、(総合経済政策)(111)が、2年連続減少の反動で増加。(経済)(90)は減少、(国際経済)(98)は前年度並。

○経営(87)は、前年度2年ぶりの増加から再び減少。学科別では、(商)(84)は大幅減少、(経営)(88)は減少で、いずれも前年

- 度の反動による増減が継続。(会計)(87)は減少で3年連続減少、(キャリア・マネジメント)(90)も減少で2年連続減少。
- 総合社会(108)は、系統への人気は低下しているが、前年度大幅減少の反動で増加。特に、(総合社会／環境・まちづくり系)(129)の大幅増加が目立った。
 - 国際(84)は、大幅減少で4年連続減少。専攻別では、(国際／グローバル)(83)は、大幅減少で4年連続減少。(国際／東アジア)(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。
 - 工(78)は、大幅減少。6学科全てが減少し、特に(ロボティクス)(68)の大幅減少が目立った。
 - 産業理工(78)は、前年度まで11年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(生物環境化)(62)、(電気電子工)(71)、(建築・デザイン)(75)が大幅減少。(経営ビジネス)(87)、(情報)(92)は減少。
 - 理工(76)は、大幅減少で5年ぶりの減少。学科・コース別では、(応用化)(65)、(理／物理学)(65)、(電気電子工)(70)、(機械工)(75)、(情報)(76)、(理／数学)(78)が大幅減少。(生命科学)(86)、(理／化学)(91)、(社会環境工)(92)は減少。
 - 建築(91)は、2年連続減少。方式別では、〈後期〉(106)がやや増加で、前年度の反動による増減が継続。〈前期B〉(82)は8年連続増加の反動で大幅減少、〈前期A〉(96)はやや減少。
 - 医(117)は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、〈前期A〉(131)は4年連続減少の反動で大幅増加、〈後期〉(95)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。
 - 薬(93)は、系統への人気低下が続き4年連続減少。学科別では、(創薬科学)(85)は2年連続増加の反動で大幅減少、(医療薬)(95)はやや減少で4年連続減少。
 - 農(74)は、大幅減少で前年度3年ぶりの増加から再び減少。学科別では、全ての学科で大幅減少。方式別では、特に〈前期B〉(61)の大幅減少が目立った。
 - 生物理工(75)は、大幅減少で4年連続減少。学科別では、(生命情報工)(67)、(遺伝子工)(68)、(医用工)(72)、(生物工)(77)、(人間環境デザイン工)(81)が大幅減少。(食品安全工)(89)は、前年度大幅減少の反動はなく3年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

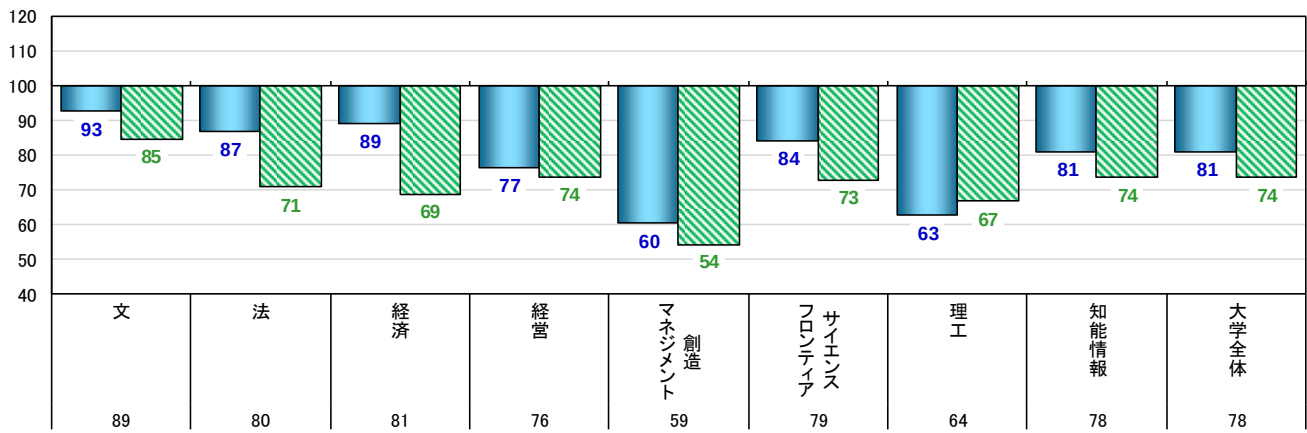
- 文芸(117)は、大幅増加だが、新規実施方式を除くと(77)の大幅減少。学科・専攻別では、(文化デザイン)(159)、(文／英語英米文)(127)、(芸術／造形芸術)(118)、(文／日本文)(117)が大幅増加、(文化・歴史)(104)がやや増加。しかし、新規実施方式を除くと(文化デザイン)(100)は前年度並、新規方式を実施しない(芸術／造形芸術)(118)は大幅増加、他の4学科は全て減少。
- 法(113)は、大幅増加だが、新規実施方式を除くと(81)の大幅減少。
- 経済(109)は、3年ぶりの増加だが新規実施方式を除くと(78)の大幅減少。学科別では、(経済)(117)が大幅増加、(総合経済政策)(111)が増加で。(国際経済)(86)は、3年連続の減少。
- 経営(117)は、大幅増加だが、新規実施方式を除くと(84)の大幅減少。学科別では、(経営)(121)、(会計)(119)、(商)(118)が大幅増加、(キャリア・マネジメント)(103)はやや増加。
- 総合社会(152)は、系統への人気は低下しているが前年度大幅減少の反動で大幅増加、新規実施方式を除いても(108)の増加。学科別では、(総合社会／環境・まちづくり系)(179)、(総合社会／社会・マスメディア系)(151)、(総合社会／心理系)(135)と3学科全てで大幅増加。
- 国際(88)は、減少で2年連続減少。新規実施方式を除くと(74)の大幅減少。学科別では、(国際／東アジア)(102)は前年度並、(国際／グローバル)(85)は大幅減少。
- 工(121)は、大幅増加で4年連続増加だが、新規実施方式を除くと(87)の減少。
- 産業理工(91)は、減少で前年度2年ぶりの増加から再び減少。新規実施方式を除くと(67)の大幅減少。唯一微増の(建築・デザイン)(101)だが、新規実施方式を除くと(75)の大幅減少。
- 理工(116)は、大幅増加で5年連続増加だが、新規実施方式を除くと(87)で減少。学科・コース別では、全ての学科で増加。
- 建築(149)は、大幅増加で、新規実施方式を除いても(103)のやや増加。
- 医(74)は、大幅減少で前年度の増減による反動が継続。方式別では、〈後期〉(111)は増加、〈前期〉(67)、〈中期〉(75)はいずれも大幅減少。
- 薬(103)は、系統への人気は低下しているが2年連続減少の反動でやや増加。学科別では、(医療薬)(104)がやや増加で3年ぶりの増加。(創薬科学)(101)は、前年度増加の反動はなく前年度並。
- 農(113)は、増加だが、新規実施方式を除くと(88)の減少。学科別では、全学科が前年度と逆の増減で、(生物機能科学)(89)のみ減少。
- 生物理工(121)は、大幅増加だが、新規実施方式を除くと(98)の前年度並。学科別では、唯一減少の(遺伝子工)(97)は前年度大幅増加の反動でやや減少。

甲南大：大学全体では2年連続減少、7学部で大幅減少

一般：-2,234人 共テ：-1,920人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共通テスト利用方式



入試変更点 学科改組：マネジメント創造(マネジメント創造／マネジメント)、(マネジメント創造／特別留学)
→マネジメント創造(マネジメント創造)
選抜方法：文<一般・後期>…実施→廃止
法<併用・前期2教科型(英語重視型)>…実施→廃止
入試科目：マネジメント創造(マネジメント創造)<一般・後期>…外+論→外+面

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、4,154人(78)の大幅減少で2年連続減少。学部別では、文(89)が減少、他の7学部はマネジメント創造(59)、理工(64)、経営(76)、知能情報(78)、フロントサイエンス(79)、法(80)、経済(81)で大幅減少。特に、学科改組で特別留学コースが廃止となったマネジメント創造(59)の大幅減少が目立った。方式別では、一般方式は2,234人(81)の大幅減少、共通テスト利用方式も1,920人(74)で2年連続の大幅減少。

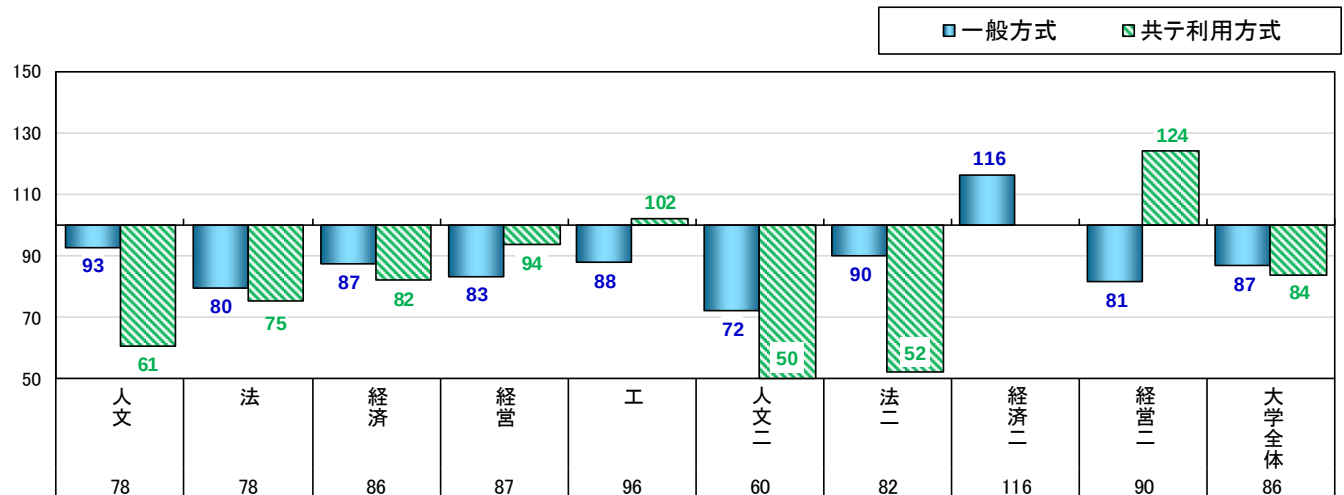
<一般方式>

- 文(93)は、やや減少。学科別では、唯一増加の(日本語日本文)(111)は、3年ぶり増加。(歴史文化)(79)、(社会)(81)は大幅減少、(英語英米文)(96)はやや減少、(人間科学)(98)は前年度大幅減少の反動はなく前年度並。方式別では、前年度大幅減少の<前期・2教科型>(120)は大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。一方で、<前期・3教科型>(96)はやや減少で、2年連続減少。
- 法(87)は、前年度大幅減少の反動はなく減少で、全方式で2年連続減少。
- 経済(89)は、3年連続減少。方式別では、<後期>(136)は大幅増加、<前期・2教科型>(84)は大幅減少で、いずれも前年度の反動による増減が継続、<前期・3教科型>(85)は大幅減少で、3年連続減少。
- 経営(77)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、<後期>(41)が激減に近い大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。<前期・2教科型>(74)は大幅減少、<前期・3教科型>(86)は減少でいずれも3年連続減少。
- マネジメント創造(60)は、2年連続大幅減少。コース改組で廃止となった(マネジメント創造／特別留学)を除いても(66)と大幅減少。
- フロントサイエンス(84)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、<前期・2教科型>(81)、<前期・3教科型>(88)といずれも3年連続減少。
- 理工(63)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(機能分子化学)(63)、(生物)(63)、(物理)(63)と3学科のいずれも30%以上の減少。
- 知能情報(81)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、<前期・3教科型>(78)の大幅減少が目立った。

<共通テスト利用方式>

- 文(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、(英語英米文)(76)、(社会)(81)、(歴史文化)(83)が大幅減少、(人間科学)(91)が減少、(日本語日本文)(93)はやや減少。方式別では、(日本語日本文)<前期>(132)の大幅増加が目立った。一方で、(英語英米文)<前期・外部試験利用>(67)は大幅減少、募集人員増加で志願倍率も19.3倍→7.8倍に大幅ダウン。
- 法(71)は、2年連続大幅減少。志願者数は1,000人を下回った。方式別では、<後期・4教科型>(120)と<前期・外部試験利用>(100)を除く5方式が減少。
- 経済(69)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、<後期>(126)を除く全ての方式が大幅減少で、特に<前期>(57)の減少が目立った。
- 経営(74)は、2年連続大幅減少。方式別では、<前期・外部試験利用型>(110)が増加、その他の方式は全て減少。
- マネジメント創造(54)は、前年度半減以下だった反動はなく2年連続半減近い減少。
- フロントサイエンス(73)は、2年連続大幅減少。方式別では、<前期・外部試験利用型>(50)が、2017年度外部試験利用型導入以来3年連続大幅増加の反動で半減。
- 理工(67)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(機能分子化学)(64)、(物理)(64)、(生物)(74)の3学科全てが大幅減少。方式別では(物理)<前期・外部試験利用>(100)、(機能分子化学)<併用・後期>(100)がそれぞれ前年度と同数だったが、これらを除く全ての方式で減少。
- 知能情報(74)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、<後期>(150)を除く全ての方式で減少。

北海学園大：大学全体では4年ぶりに減少、昼間部は5学部全て減少 一般：-681人 共テ：-429人



入試変更点

選抜方法：人文二…＜共テ・II期＞廃止
 経営二…＜一般・英語外部試験利用＞新規実施
 募集人員：経営（経営）…＜一般＞84人→69人、＜共テ＞40人→55人
 （経営情報）…＜一般＞70人→55人、＜共テ＞40人→55人
 入試科目：人文（日本文化）、法、経済、工（建築除く）、法二、人文二（日本文化）、経済二
 …＜共テ＞英（筆記）→英（リーディング）＋英（リスニング）

COMMENT ※（ ）内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、1,110人(86)で減少、コロナ禍の影響が厳しかった札幌都市圏への敬遠傾向と3年連続増加の反動で減少。昼間部のみでも(86)の減少。学部別では、2部の（経済二）(116)のみ大幅増加で、他の学部は全て減少。方式別では、一般方式(87)は6年ぶり減少。共通テスト利用方式(84)は、大幅減少で2年連続減少。昼間部のみでは、一般方式、共通テスト利用方式のいずれも(86)の減少。

＜一般方式＞

- 人文(93)は、やや減少で4年ぶり減少。学科別では、(英米文化)(84)は大幅減少、(日本文化)(102)は前年度並。
- 法(80)は、系統への人気低下と前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(87)は、系統への人気低下と3年連続増加の反動で減少。
- 経営(83)は、大幅減少で3年ぶり減少。学科別では、(経営情報)(70)が大幅減少、募集人員(前年度募集人員対比指数79)も減少したが、志願倍率は6.3倍→5.6倍へダウン。(経営)(94)はやや減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数82)が減少で、志願倍率は6.6倍→7.7倍へとアップ。
- 工(88)は、系統への人気上昇はあるが、2年連続大幅増加の反動で減少。学科・コース別では、(社会環境工／環境情報)(112)は唯一増加した学科で3年連続増加、(電子情報工)(100)は前年度並、他の3学科はいずれも大幅減少。

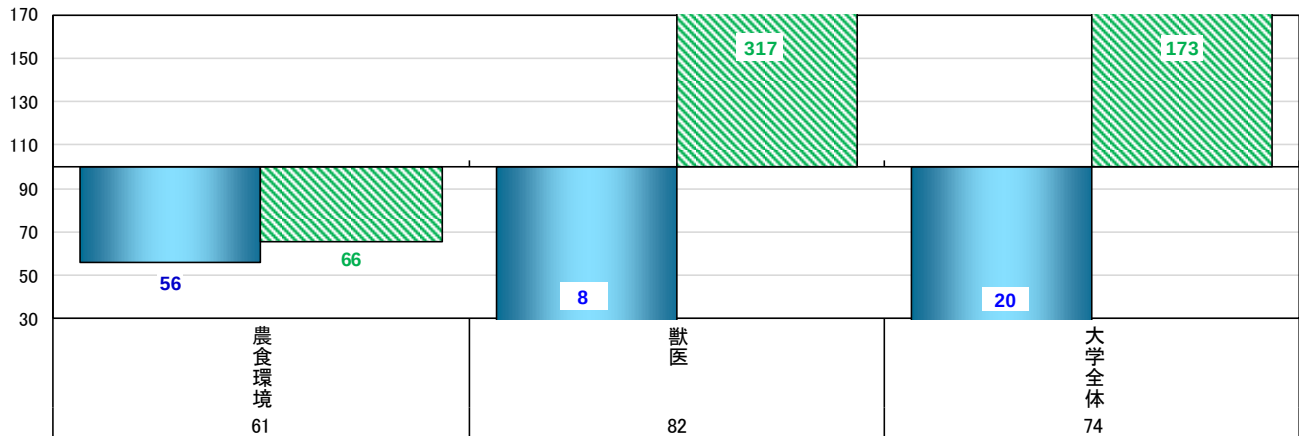
＜共通テスト利用方式＞

- 人文(61)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(英米文化)(57)、(日本文化)(61)といずれも大幅減少。
- 法(75)は、大幅減少で3年ぶり減少。方式別では、＜II期＞(195)が倍増に近い大幅増加で、前年度の反動による増減を継続。他の2方式はいずれも大幅減少。
- 経済(82)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、＜II期＞(275)が前年度減少率60%以上激減の反動で、倍増を超える大幅増加。一方で、＜I期＞(75)は2年連続減少。
- 経営(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(経営)(108)は増加だが、募集人員(前年度募集人員対比指数138)も増加で、志願倍率は7.7倍→6.0倍へダウン。(経営情報)(78)は大幅減少で、2年連続減少。募集人員(前年度募集人員対比指数138)増加も影響し、志願倍率も7.2倍→4.1倍へダウン。方式別では、＜II期＞が(経営)(311)が3倍増以上、(経営情報)(146)が約1.5倍増といずれも増加が目立った。
- 工(102)は、前年度並。学科・コース別では、(社会環境工／環境情報)(157)が大幅増加で3年連続増加、(社会環境工／社会環境)(124)は大幅増加、(電子情報工)(107)はやや増加で、いずれも前年度の反動による増減が継続。(生命工)(82)は、3年連続増加の反動で大幅減少、(建築)(90)は、2年連続減少。方式別では、＜I期＞(102)は微増だが3年連続増加、＜II期＞(100)は前年度半減以下だった反動はなく、志願者数は前年度と同数だった。

酪農学園大：大学全体では4年連続減少、獣医(獣医)は共テ利用・併用を拡大 一般：-1,179人 共テ：+590人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

選抜方法：獣医(獣医学類)…〈一般・第1期〉、〈一般・第2期〉廃止
 〈共テ・前期5教科〉新規実施 ※3教科方式と併願可能
 〈共テ併用・第1期(A日程)〉、〈共テ併用・第2期〉新規実施
 入試科目：獣医(獣医保健看護学類)…〈一般〉理+外→(国 or 外)+(数 or 理)
 〈共テ〉外+(理 or 理基2)→(国 or 外)+(数 or (理 or 理基2))
 募集人員：獣医(獣医学類)…〈共テ・前期〉5人→10人
 獣医(獣医保健看護学類)…〈一般・第1期〉24人→20人、〈共テ・前期〉7人→8人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、コロナ禍の中で遠距離大学への進学を敬遠する傾向や系統への低い人気が影響して、589人(74)の減少で4年連続減少。これに加えて、獣医(獣医)(79)は一般方式を共通テスト併用方式に変更した影響が大きく、募集人員(前年度募集人員対比指数124)の増加があったものの、大幅減少となった。方式別では、一般方式(20)は、獣医(獣医)の廃止で激減だが、これを除いても(64)の大幅減少。一方で、共通テスト利用方式(173)は、獣医(獣医)の一般方式の共通テスト併用方式への変更、共通テスト利用方式における5教科型の新規実施、併用方式の新規実施、獣医(獣医保健看護)で選択科目増加などの影響で激増。ただし、既存の募集単位合計では(72)の大幅減少。

〈一般方式〉

○農食環境(56)は、大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで減少。(食と健康)(31)が前年度激増の反動で激減、(環境共生)(51)、(循環農学)(69)はいずれも大幅減少で3年連続減少、(食と健康/管理栄養士)(89)は5年連続減少。
 ○獣医(8)は、(獣医)が一般方式を共通テスト併用方式に変更したことにより激減だが、前年度と募集方式の区分に大きな変更のない(獣医保健看護)(98)のみでは前年度並。

〈共通テスト利用方式〉

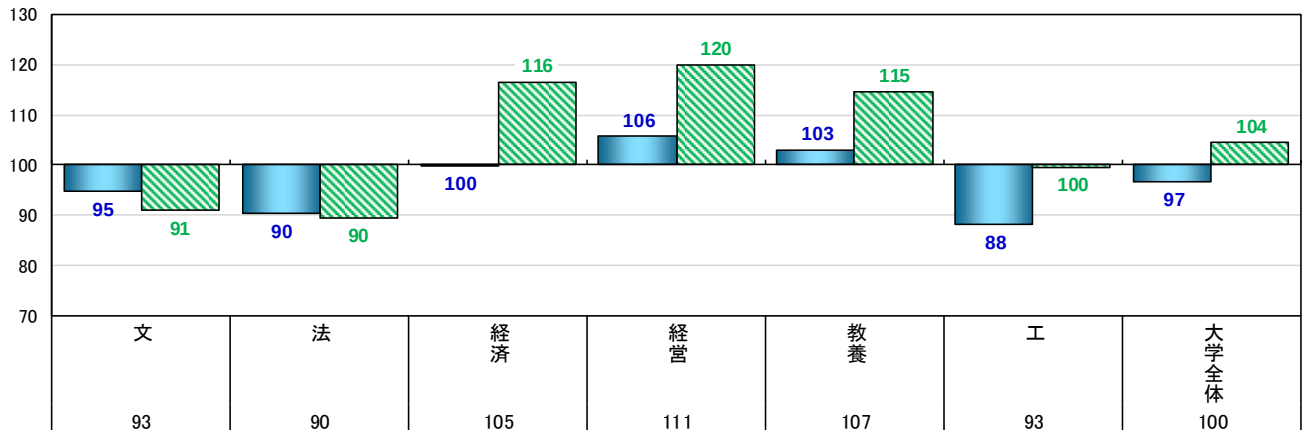
○農食環境(66)は、大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで大幅減少。特に、(循環農学)(62)、(食と健康)(62)、(環境共生)(65)が減少率30%以上で、(食と健康/管理栄養士)(81)も前年度増加の反動で大幅減少。
 ○獣医(317)は、共通テスト利用方式で5教科型の新規実施や一般方式の共通テスト併用方式への変更で3倍の激増だが、既存の募集単位のみでは(84)で大幅減少。学類別では、(獣医)(381)は4倍近い激増だが、既存の募集単位のみでは(77)で大幅減少。前年度と募集方式の区分に大きな変更のない(獣医保健看護)(107)はやや増加。

東北学院大：志願者数は2年連続1万人を下回る

一般：-205人 共テ：+158人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

選抜方法：法、経済、経営、教養、工…＜英語資格・検定利用＞新規実施

入試科目：文(英文、総合人文、教育)…＜共テ・前期＞外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→2

→外+(国 or 歴公 or 数 or 理 or 理基2)→2

文(歴史)…＜共テ・前期＞外+(国 or 歴公 or 数)→2

→外+(国 or 歴公 or 数 or 理 or 理基2)→2

工(電気電子工、機械知能工、環境建設工)…＜共テ・前期＞国+数2+理+外→国+数2+外+(理 or 理基2)

工(情報基盤工)…＜共テ・前期＞国+数2+理+外 →数2+外+(国 or 歴公 or 理 or 理基2)

＜共テ・後期＞数2+(理 or 外)→数①+(国 or 歴公 or 数② or (理 or 理基2) or 外)→2

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、47人(100)の減少で前年度並、志願者数は2年連続で1万人を下回った。方式別では、共通テスト利用方式は前年度減少の反動で158人(104)のやや増加、一般方式は205人(97)のやや減少で2年連続減少。学部別では、経営(111)が2年連続増加、教養(107)、経済(105)は前年度減少の反動でやや増加。一方、法(90)、文(93)は2年連続減少、工(93)はやや減少。

＜一般方式＞

- 文(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(歴史)(89)が減少し、その他3学科はいずれも前年度並。
- 法(90)は、2年連続減少。方式別では、＜全学部＞(81)が大幅減少、＜分割＞(87)が減少。
- 経済(100)は、系統への人気は低下しているが、前年度減少の反動もあって前年度並に留まった。学科別では、(共生社会経済)(196)が前年度半減以下の反動で倍増に近い激増。一方で、(経済)(86)は前年度3年ぶり増加したが再び減少。
- 経営(106)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、＜全学部＞(111)、＜分割＞(111)はいずれも2年連続増加。＜後期＞(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 教養(103)は、やや増加だが、新規実施方式を除くと(99)で前年度並。学科別では、(人間科学)(122)は大幅増加で前年度の反動による増減を継続、(言語文化)(112)が2年連続減少の反動で増加。一方、(情報科学)(86)は3年連続減少、(地域構想)(92)は2年連続減少。
- 工(88)は、系統への人気は上昇しているが2年連続増加の反動で減少。学科別では、4学科全てが減少、特に(機械知能工)(68)の3年連続増加の反動による大幅減少が目立った。

＜共通テスト利用方式＞

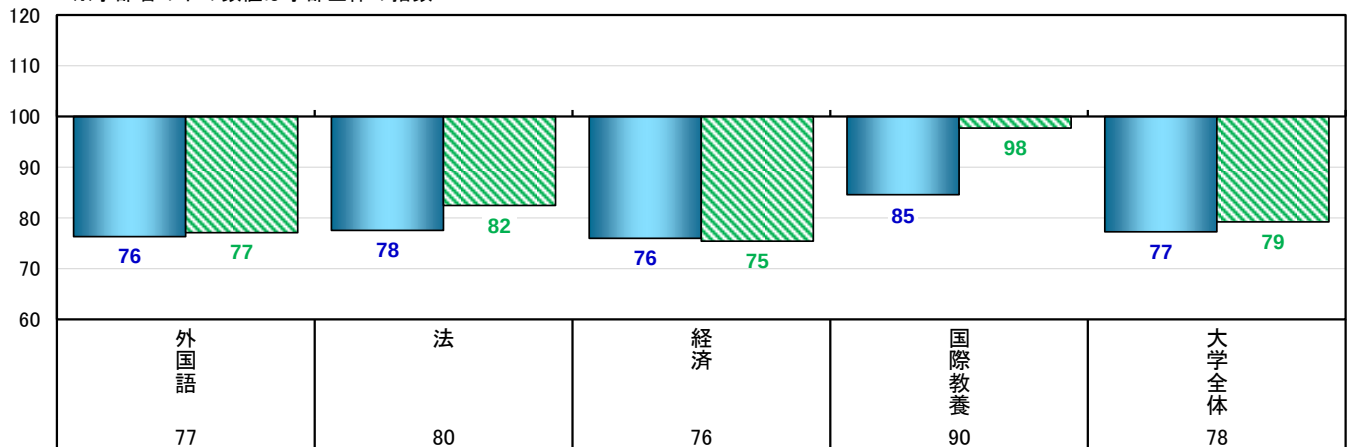
- 文(91)は、減少で2年連続減少。学科別では、(英文)(109)は前年度大幅減少の反動で増加だが、他の3学科は減少。(総合人文)(85)は2年連続大幅減少。
- 法(90)は、減少で2年連続減少。方式別では、＜後期＞(121)が大幅増加で前年度の反動による増減を継続、＜前期＞(86)は2年連続の減少。
- 経済(116)は、系統への人気は低下しているが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学部別では、(共生社会経済)(257)が前年度半減以下の反動で倍増以上の激増、前年度の反動による増減が継続。一方(経済)(90)は2年連続減少。方式別では、特に(共生社会経済)＜前期＞(277)の大幅増加が目立った。
- 経営(120)は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、＜前期＞(127)が大幅増加で2年連続増加、＜後期＞(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 教養(115)は、大幅増加で5年ぶりの増加。学科別では、(地域構想)(134)、(人間科学)(121)、(言語文化)(115)は大幅増加、(情報科学)(93)はやや減少でいずれも前年度の反動による増減。
- 工(100)は、前年度並。学科別では(情報基盤工)(115)が増加で3年連続大幅増加、(機械知能工)(103)はやや増加で前年度の反動による増減を継続。(環境建設工)(87)は2年連続減少、(電気電子工)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。

獨協大：志願者数は2年連続大幅減少

一般：-2,485 人 共テ：-1,895 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

選抜方法：全学部＜一般・C方式＞…試験日程を3月入試に変更(2/22→3/3)
法＜一般・A方式＞、法除く＜共テ・英語資格＞
…4技能のスコア利用に統一、対象試験に TEAP CBT、ケンブリッジ英検を追加
インターネット出願・入学手続への完全移行
共通テスト利用方式、＜一般・B方式＞に入学検定料割引制度導入
入試科目：外国語(英語、交流文化)…＜共テ・英語資格＞：{(国 or 歴公 or 数 or 外)→2}→外+(国 or 歴公 or 数)
※外が必須に
(ドイツ語、フランス語)…＜共テ・英語資格＞：[{(国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2) or 外)}→2]
→外+{(国 or 歴公 or 数 or (理 or 理基2))}
※外が必須に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、文系の人気低下と受験校数の絞り込みの影響で、4,380人(78)の大幅減少で2年連続大幅減少。方式別では、一般方式(77)が大幅減少で3年連続減少、外国語で外国語科目を必須科目とした共通テスト利用方式(79)も大幅減少で2年連続大幅減少。学部別でも4学部全てが減少し、国際教養(90)は減少だが、他の3学部はいずれも大幅減少。入試日程を3月入試に変更した＜一般・C方式＞(71)は大幅減少で、2月入試だった時代から3年連続大幅減少。

＜一般方式＞

- 外国語(76)は、コロナ禍の影響もあり大幅減少で3年連続減少。学科別では、4学科全てが大幅減少し、(ドイツ語)(79)は5年連続減少、(交流文化)(70)と(英語)(79)は3年連続減少、(フランス語)(72)は2年連続大幅減少。
- 法(78)は、大幅減少で前年度の微減に引続き2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少し、(法)(74)は5年連続増加の反動で大幅減少、(国際関係法)(78)は2年連続大幅減少、(総合政策)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(76)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、3学科全てが大幅減少し、(国際環境経済)(71)は2年連続大幅減少、(経営)(73)と(経済)(80)は2年ぶりにいずれも大幅減少。
- 国際教養(85)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、入試日程を変更した＜C方式＞(169)は大幅増加だが、＜B方式＞(81)は大幅減少で2年連続減少、＜A方式＞(83)は大幅減少で3年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

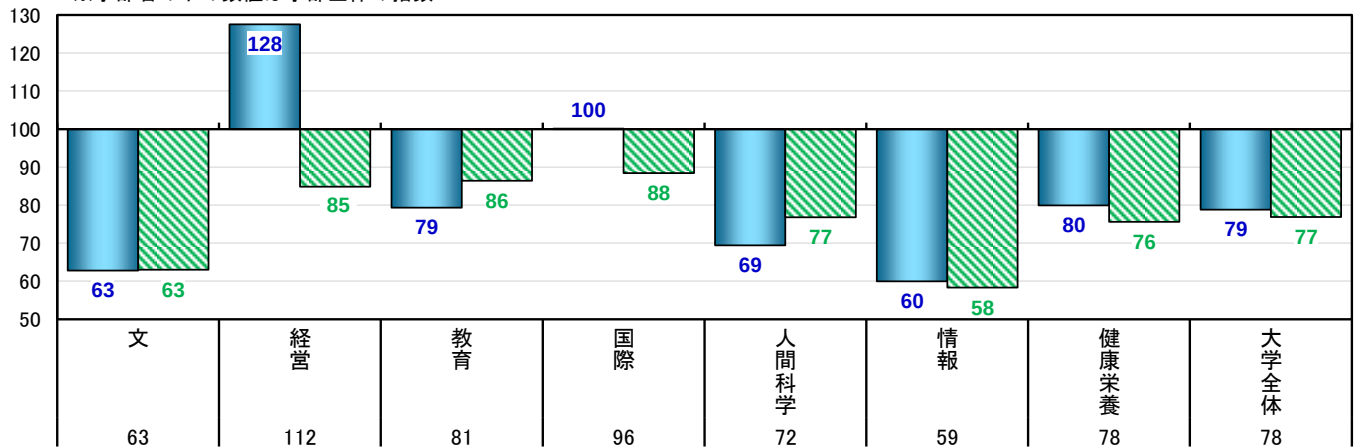
- 外国語(77)は、2年連続大幅減少。学科別では、4学科全てが減少し、(フランス語)(61)は2年連続大幅減少、(ドイツ語)(62)と(交流文化)(79)は大幅減少で3年連続減少、(英語)(88)は減少で2年連続減少。
- 法(82)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科全てが減少し、(総合政策)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(国際関係法)(83)は2年連続大幅減少、(法律)(93)はやや減少で2年連続減少。
- 経済(75)は、2年連続大幅減少。学科別では、(国際環境経済)(110)は前年度半減の反動で増加。一方で、(経営)(68)は2年連続大幅減少、(経済)(71)は3年連続大幅減少。
- 国際教養(98)は、微減だが2年連続減少。方式別では、＜C方式併用＞(155)、＜英語資格＞(147)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、＜後期＞(61)、＜中期＞(66)、＜前期4科目＞(75)はいずれも大幅減少。

文教大：志願者数は大幅減少で 2 年連続減少

一般：-2,803 人 共テ：-1,488 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

キャンパス移転：経営、国際…湘南キャンパス→東京あだちキャンパス
 選抜方法：全学部…〈一般・A日程1期〉、〈一般・A日程2期〉、〈一般・B日程〉
 →〈一般・A日程〉、〈一般・B日程〉、〈一般・C日程〉 ※方式名称変更
 文(英米語英米文)(外国語)…〈一般・A日程2期〉廃止
 入試科目：文(英米語英文文)(外国語)〈一般・C日程〉、国際〈一般・C日程〉…面→口頭試問
 文(日本語日本文)〈一般・C日程〉…(現代文 or 古文)→現代文+古文+漢文
 教育(学校教育/体育)〈一般・A日程〉…実技あり→実技なし
 教育(学校教育/体育)〈一般・全国〉、〈共テ・1期〉、〈共テ・3期〉…実技課題提出あり→実技課題提出なし
 募集人員：文(英米語英米文)…〈全国〉8人→13人、〈一般・A日程〉35人→30人
 (外国語)…〈全国〉5人→6人、〈一般・A日程〉22人→20人
 情報(メディア表現)…〈一般・A日程〉15人→16人、〈一般・C日程〉4人→若干名
 〈共テ・1期〉10人→12人、〈共テ・3期〉4人→若干名
 (情報システム)…〈一般・C日程〉4人→若干名

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、4,291人(78)の大幅減少で2年連続減少。学部別では、経営(112)が増加で3年連続増加。一方で、国際(96)は2年連続増加の反動は小さくやや減少、その他の5学部はいずれも大幅減少。特に、文(63)、健康栄養(78)、情報(78)の3学部は2年連続大幅減少。方式別では、一般方式(79)は2年連続増加の反動で大幅減少、共通テスト利用方式(77)は2年連続大幅減少。

〈一般方式〉

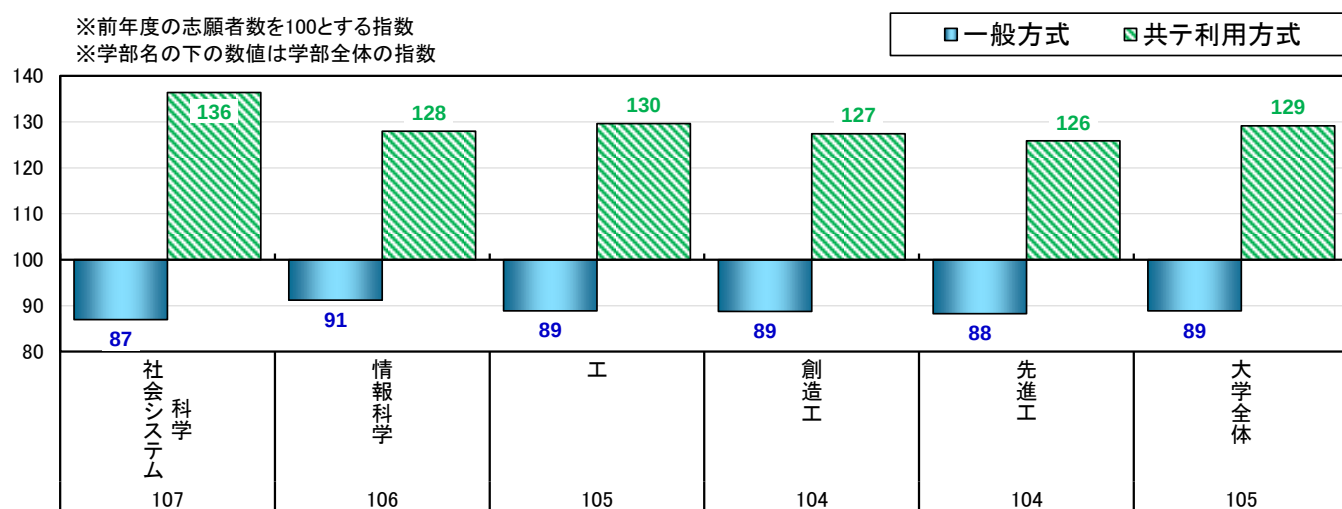
- 文(63)は、系統への人気低下の影響で、大幅減少で2年連続減少。廃止された文(英米語英米文)(外国語)〈一般・A日程2期〉を除いても(66)の大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少。特に(中国語中国文)(34)は66%の激減。
- 経営(128)は、湘南キャンパスから東京あだちキャンパスへの移転効果もあり、大幅増加で6年連続増加。志願者数は1,000人を上回った。
- 教育(79)は、前年度は微減だが、引続き大幅減少。課程・専修別では、(学校/体育)(106)はやや増加で、特に実技を廃止した〈一般・A日程〉(123)が大幅増加。これを除く12の課程・専修はいずれも減少。特に(発達/児童心理)(64)、(学校/家庭)(69)は減少率30%以上の大幅減少。
- 国際(100)は、2人の微増だが、系統への人気低下がある中で、湘南キャンパスから東京あだちキャンパスへの移転効果で、6年連続増加。学科別では、(国際理解)(105)はやや増加で6年連続増加。一方で、コロナ禍の影響を強く受ける(国際観光)(93)はやや減少と対照的。
- 人間科学(69)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが減少率30%前後の大幅減少。
- 情報(60)は、5年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少で、特に(情報システム)(57)、(情報社会)(54)の2学科は減少率40%を超えた。
- 健康栄養(80)は、大幅減少で5年連続減少。志願者数は200人を下回った。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(63)は、系統への人気低下の影響で、2年連続大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少。特に(中国語中国文)(30)は減少率70%の激減。
- 経営(85)は、2年連続大幅減少。
- 教育(86)は、前年度の微減に引続き、2年連続減少。課程・専修別では、(学校/体育)(142)は実技課題提出を廃止したことで大幅増加、(学校/美術)(119)も大幅増加、(学校/音楽)(114)は増加、(発達/特別支援)(104)はやや増加。一方で、(発達/幼児心理)(61)、(発達/初等連携)(69)、(発達/児童心理)(72)、(学校/社会)(84)は大幅減少、(学校/理科)(86)、(学校/国語)(87)、(学校/数学)(90)、(学校/英語)(92)は減少、(学校/家庭)(94)はやや減少。
- 国際(88)は、減少で前年度の大幅減少に引続き2年連続減少。(国際理解)(99)は4人減の微減だが2年連続減少。コロナ禍の影響を強く受ける(国際観光)(74)は2年連続大幅減少。
- 人間科学(77)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に、心理(80)は2年連続大幅減少。

- 情報(58)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが大幅減少で、特に(情報社会)(46)は半減以下の大幅減少。
(メディア表現)(66)は2年連続大幅減少。
○健康栄養(76)は、2年連続大幅減少。志願者数は100人を下回った。

千葉工業大：大学全体で志願者数は2年連続10万人超え 一般：-6,811人 共テ：+12,249人



入試変更点

選抜方法：〈共テ・後期〉…英語外部試験利用なし→利用可 ※得点換算

※以下コロナ禍対策として実施

〈共テ・前期・中期〉…タイプⅠまたはタイプⅡのどちらか1つ出願：検定料15,000円→無料
タイプⅠ、タイプⅡの両方出願：検定料20,000円→5,000円

〈共テ・後期〉…検定料15,000円→無料

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、5,438人(105)のやや増加で4年連続増加となり、志願者数は2年連続10万人を突破。方式別では、一般方式は6,811人(89)の減少だが、共通テスト利用方式はコロナ禍対策として共通テスト検定料を無料または減免したことから、12,249人(129)の大幅増加。

〈一般方式〉

○社会システム科学(87)は、減少で11年ぶりに減少。学科別では、3学科全てが減少し、特に(金融・経営)(85)は大幅減少。

○情報科学(91)は、減少で10年ぶりに減少。学科別では、(情報ネットワーク)(90)は減少、(情報工)(93)はやや減少。

○工(89)は、減少で3年ぶりに減少。学科別では、6学科全てが減少し、特に(先端材料工)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○創造工(89)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、3学科全てが減少し、特に(都市環境工)(84)は大幅減少。

○先進工(88)は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、3学科全てが減少。

〈共通テスト利用方式〉

○社会システム科学(136)は、大幅増加で4年連続増加。3学科全てが大幅増加。

○情報科学(128)は、4年連続大幅増加。2学科共に大幅増加。

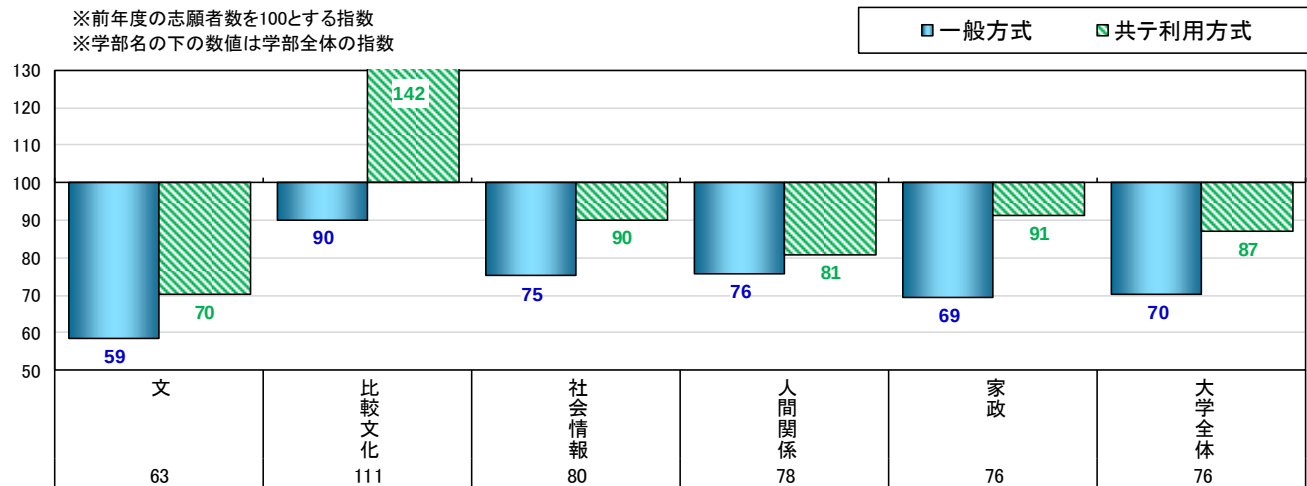
○工(130)は、大幅増加で4年連続増加。6学科全てが大幅増加。

○創造工(127)は、大幅増加で4年連続増加。3学科全てが大幅増加。

○先進工(126)は、大幅増加で4年連続増加。3学科全てが大幅増加。

大妻女子大：大学全体で 2 年連続大幅減少

一般：-1,113 人 共テ：-252 人



入試変更点

選抜方法：家政(児童／児童教育)＜共テ・B方式II期＞…新規実施(募集人員3人)
家政(ライフデザイン)＜一般・A方式I期＞…試験日1日→試験日2日を自由選択制、両日出願可
募集人員：家政(児童／児童教育)…＜一般・A方式I期＞15人→16人
＜一般・A方式II期＞8人→4人
社会情報(社会情報／環境情報)…＜共テ・B方式I期＞25人→20人
人間関係(人間関係／社会)…＜共テ・B方式I期＞8人→10人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、1,365人(76)の大幅減少で2年連続大幅減少。志願者数は、9年ぶりに5,000人を下回った。方式別では、一般方式(70)は2年連続大幅減少。16の学科・専攻の中で、比較文化(比較文化)(111)が唯一増加したが、これを除く学科・専攻はいずれも減少。共通テスト利用方式(87)は前年度半減近い減少の反動はなく、2年連続減少。

＜一般方式＞

- 文(59)は、減少率40%以上の大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少。特に(英語英文)(45)、(日本文)(49)はいずれも半減以下の大幅減少で、2年連続減少。コミュニケーション文化(86)は3年連続減少。
- 比較文化(90)は、前年度減少率60%近い大幅減少の反動はなくさらに減少で、2年連続減少。
- 社会情報(75)は、2年連続大幅減少。専攻別でも、3専攻全てが大幅減少で2年連続減少。特に(社会情報／情報デザイン)(71)、(社会情報／社会生活情報学)(75)は減少率25%の大幅減少。
- 人間関係(76)は、2年連続大幅減少で、3年連続減少。学科・専攻別では、(人間福祉)(68)、(人間関係／社会・臨床心理学)(71)は大幅減少、(人間関係／社会学)(87)は2年連続大幅減少に引続き減少。
- 家政(69)は、大幅減少で3年連続減少。学科・専攻別では、6学科・専攻全てが、大幅減少。特に(被服)(56)は、減少率40%以上の大幅減少で5年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

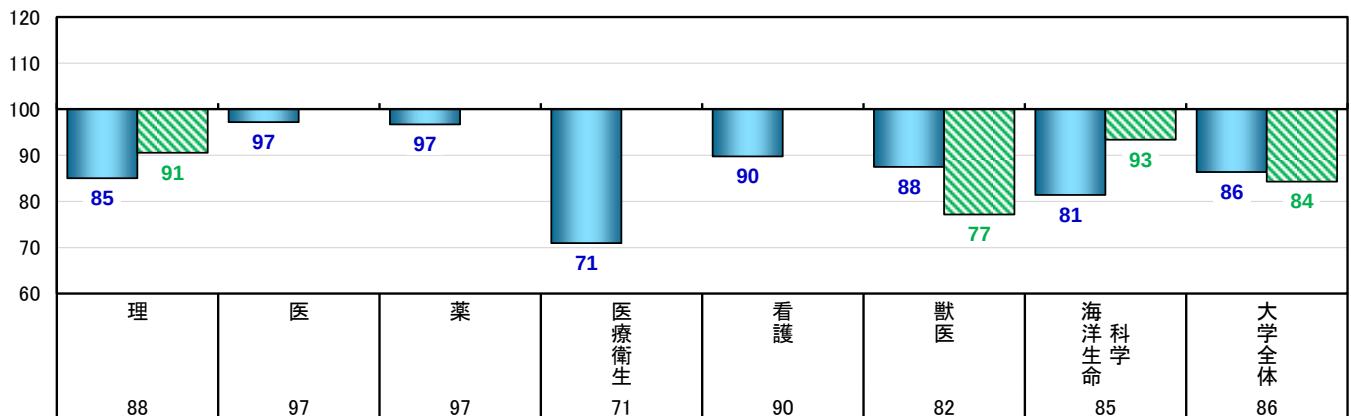
- 文(70)は、前年度の半減以下に引続き、2年連続大幅減少。学科別では、3学科が全て減少。特に(英語英文)(55)は2年連続大幅減少。(コミュニケーション文化)(70)は、2年連続増加の反動で大幅減少。(日本文)(86)は、前年度減少率80%近い激減の反動はなくさらに減少。
- 比較文化(142)は、前年度減少率70%の激減の反動で大幅増加。
- 社会情報(90)は、前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少。学科・専攻別では、(社会情報／社会生活情報学)(124)は前年度半減以下だった反動で大幅増加。一方で(社会情報／情報デザイン)(72)、(社会情報／環境情報学)(80)は2年連続大幅減少と対照的。
- 人間関係(81)は、前年度減少率60%近い大幅減少だった反動はなく2年連続大幅減少。学科・専攻別では、(人間福祉)(72)、(人間関係／社会・臨床心理学)(76)の大幅減少が目立った。(人間関係／社会学)(101)は2年連続大幅減少、特に前年度は減少率70%近い激減だった反動はなく前年度並。
- 家政(91)は、減少で2年連続減少。学科・専攻別では、(食物／食物学)(133)、(食物／管理栄養士)(123)は大幅増加、いずれも前年度大幅減少の反動。一方で(ライフデザイン)(67)は大幅減少で2年連続減少、(被服)(72)は大幅減少で4年ぶりに志願者数が70人台になった。

北里大：志願者数は減少で5年連続減少

一般：-1,426人 共テ：-529人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

学科名称変更：医療衛生…(健康科学)→(保健衛生)
 選抜方法：全学部(除く：獣医(獣医)、海洋生命科学)
 …＜一般・1期＞、＜一般・2期＞、＜一般・3期＞→＜一般・前期＞、＜一般・中期＞、＜一般・後期＞
 ※方式名称変更
 医…＜一般-2次＞：2日間(出願時に選択)→3日間(出願時に選択)
 ※試験日自由選択制の選択日程を2日間から3日間に変更
 理(物理)…＜セ・前期＞、＜セ・中期＞、＜セ・後期＞→＜共テ・前期＞、＜共テ・後期＞ ※中期廃止
 海洋生命科学…＜セ・前期＞、＜セ・後期＞→＜共テ・前期＞ ※後期廃止
 試験会場：海洋生命科学…＜一般・中期＞：相模原、仙台、大阪、福岡→相模原
 募集人員：理(物理)…＜一般・前期＞24人→30人、＜共テ・後期＞3人→5人
 獣医(獣医)…＜共テ・前期3教科＞15人→10人
 (動物資源科学)…＜一般・中期＞30人→25人、＜共テ・前期2教科＞10人→15人
 海洋生命科学…＜一般・中期＞55人→50人
 入試科目：理…＜共テ・前期＞、＜共テ・後期＞：英語(筆記)→英語(リーディング)+英語(リスニング)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、1,955人(86)の減少で5年連続減少。学部別では、全ての学部で減少。方式別でも、＜一般方式＞(86)は減少で5年連続減少、＜共通テスト利用方式＞(84)は2021年度では理、獣医、海洋生命科学の3学部のみでの募集だが、大幅減少で、この3学部合計では3年連続減少。

＜一般方式＞

- 理(85)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが減少で、(生物科学)(82)は大幅減少、(化学)(86)、(物理)(88)は減少。
- 医(97)は、試験日自由選択制の2次試験の試験日の選択日程を1日増やしたが、効果はなくやや減少。
- 薬(97)は、やや減少で7年連続減少。学科別では、(生命創薬科学)(106)は前年度減少の反動でやや増加、一方で(薬)(95)はやや減少で7年連続減少。
- 医療衛生(71)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科・専攻別では、(リハビリテーション/言語聴覚療法)(106)のみやや増加で、他の7学科・専攻は減少。学科名称を変更した(保健衛生)(57)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 看護(90)は、減少で2年連続減少。
- 獣医(88)は、系統への人気低下に加えて、募集人員減少(前年度募集人員対比指数97)もあって、減少率10%を超える減少で5年連続減少。学科別では、3学科全てが減少で、(獣医)(92)は減少で4年連続減少。(生物環境科学)(68)、(動物資源科学)(83)は大幅減少。
- 海洋生命科学(81)は、試験会場の縮小もあり、大幅減少で5年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

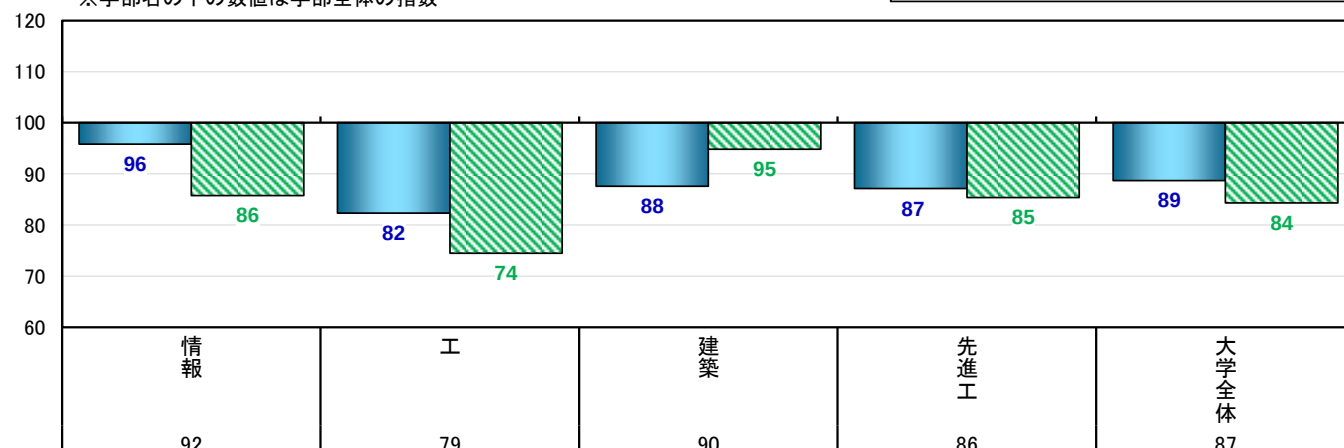
- 理(91)は、減少で志願者数は1,000人を下回った。学科別では、(生物科学)(105)は前年度減少の反動でやや増加。一方で、(物理)(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、廃止された＜セ・中期＞を除いても(92)の減少、(化学)(97)はやや減少で3年連続減少。
- 獣医(77)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。(獣医)(77)は前年度の微減に引続いて、大幅減少で2年連続減少。
- 海洋生命科学(93)は、前年度の大幅減少に引続き、やや減少で2年連続減少。廃止された＜セ・後期＞を除いても(95)のやや減少。

工学院大：志願者数は2年連続減少で、2万人を下回る

一般：-1,566人 共テ：-1,241人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

入試科目：先進工(生命化学、応用化学、環境化学)〈M日程〉
…数+(理 or 外) ※理：物 or 化 or 生→数+(理 or 外) ※理：物 or 化
※コロナ禍に対する措置
S日程・A日程・英語外部試験利用日程・B日程
…「数 III を範囲とする問題」と「数 III を範囲としない問題」から解答問題を選択可能

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、2,807人(87)の減少で2年連続減少。3年ぶりに大学全体の志願者数が2万人を下回った。学部別では、工(79)の大幅減少が目立った。方式別では、一般方式が1,566人(89)の減少、共通テスト利用方式が1,241人(84)の大幅減少で、いずれも2年連続減少。

＜一般方式＞

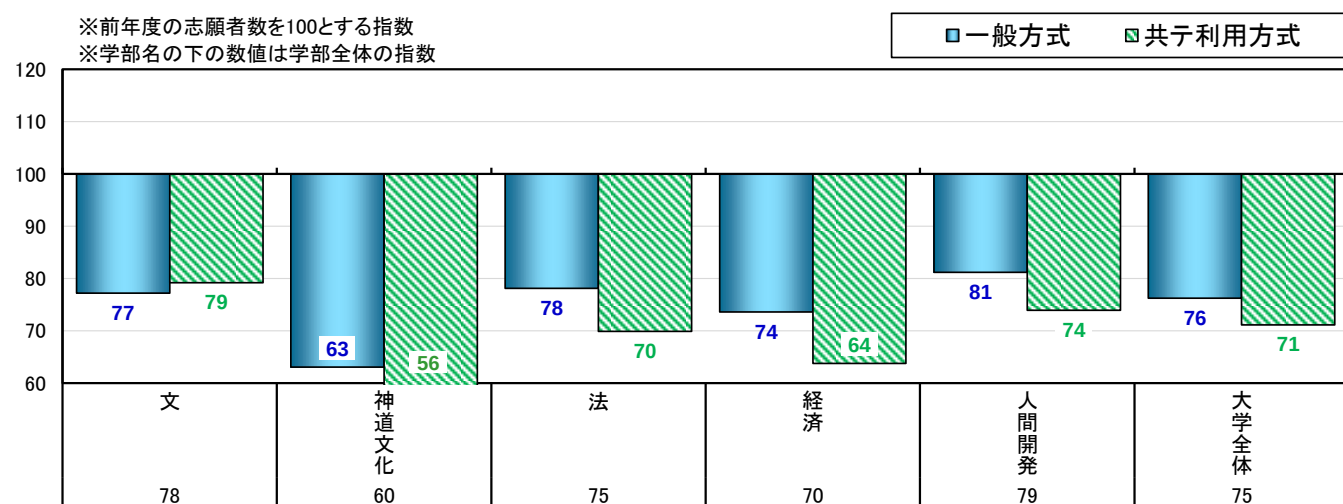
- 情報(96)は、2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科および学部総合の5つの募集単位別では、(コンピュータ)(113)は増加だが、他の4募集単位はいずれも減少で、(学部総合)(80)は大幅減少で2年連続減少、(システム数理)(82)は2年連続大幅増加の反動で大減少。
- 工(82)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少で、特に(機械システム工)(80)は2年連続増加の反動で大幅減少、(機械工)(81)は2年連続大幅減少。
- 建築(88)は、減少で2年連続減少。学科および学部総合の4つの募集単位別では、(まちづくり)(115)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、他の3つの募集単位はいずれも減少で、特に(建築)(75)は大幅減少で2年連続減少。
- 先進工(87)は、減少で2年連続減少。学科・専攻別および大学院接続型コースの7つの募集単位では、(機械理工/航空理工学)(153)は大幅増加で2019年度新設以降2年連続大幅増加、(応用物理)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、新設2年目の(大学院接続型)(65)は大幅減少、(環境化学)(66)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、(応用化学)(83)は3年ぶりの大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 情報(86)は、減少で、2017年度改組以降初の減少。学科および学部総合の5つの募集単位別では、5つの募集単位が全て減少で、特に(学部総合)(69)、(情報デザイン)(80)、(システム数理)(85)は大幅減少。
- 工(74)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。
- 建築(95)は、減少で2年連続減少。学科および学部総合の4つの募集単位別では、(まちづくり)(103)はやや増加だが、他の3の募集単位はいずれも減少。
- 先進工(85)は、大幅減少で2年連続減少。学科・専攻別および大学院接続型コースの7つの募集単位では、(機械理工/航空理工学)(186)は大幅増加で2019年度新設以降2年連続大幅増加。一方で、(環境化学)(66)は大幅減少で5年ぶりに減少、(機械理工/機械理工学)(83)は大幅減少で改組後2年連続減少。

國學院大：志願者数は2年連続減少で、2万人を下回る

一般：-4,141人 共テ：-2,462人



入試変更点

選抜方式：全学部…Ⅵ期、Ⅶ期→Ⅴ方式 ※Ⅶ期を廃止
入試科目：経済〈A日程〉…国+外+(歴公 or 数ⅠA)→国+外+(歴公 or 数ⅠA・数ⅠIB)
文(史)(哲学)、神道文化、法、人間開発…英語外部試験利用なし→英語外部試験利用可

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、6,603人(75)の大幅減少で2年連続減少となり、大学全体の志願者数が2万人を下回った。方式別では、一般方式は、4,141人(76)の大幅減少で、志願者数は14,000人を下回った。共通テスト利用方式も、6,603人(75)の大幅減少で2年連続減少、廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較では1,398人(81)の大幅減少で2年連続大幅減少。

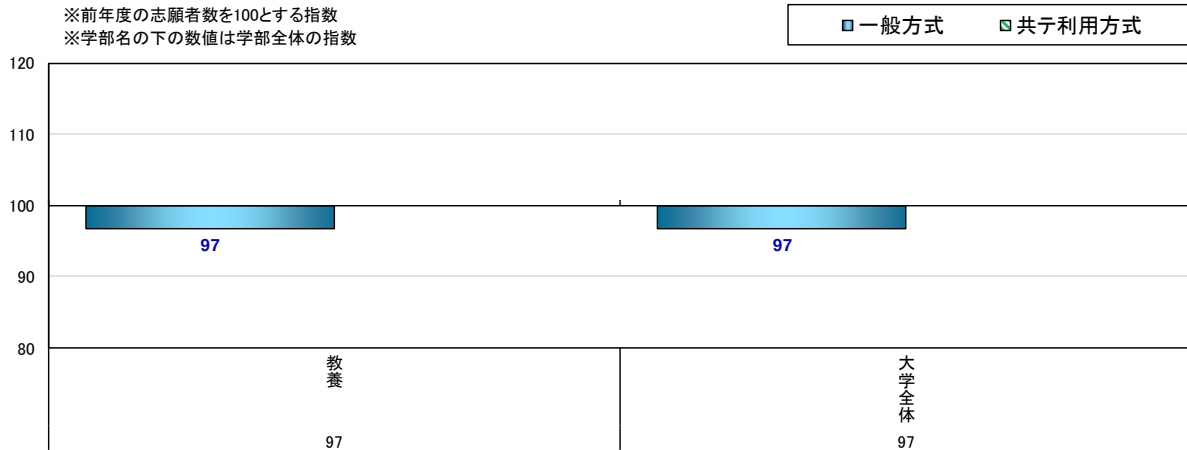
＜一般方式＞

- 文(77)は、2年連続やや増加だった反動以上の大幅減少。学科別では、5学科全てが大幅減少で、特に(中国文)(52)は6年連続増加の反動で半減に近い大幅減少。
- 神道文化(63)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は500人を下回った。
- 法(78)は、大幅減少で2年連続減少。専攻別では、(法律/法律専門職)(101)は前年度の大幅増加に引続き微増で、3年連続増加。一方で、(法律/法律)(74)は大幅減少で2年連続減少、(法律/政治)(81)も大幅減少で3年連続減少。
- 経済(74)は、前年度増加の反動に加えて系統への人気低下で大幅減少。学科別では、経営(71)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。経済(77)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 人間開発(81)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、全て減少で、特に(初等教育)(75)は系統への人気低下と前年度増加の反動で大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(79)は、2年連続大幅減少。廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較では(90)の減少。学科別では、全て減少で、特に(中国文)(55)は前年度半減以下の減少の反動はなく、半減近い大幅減少、Ⅴ(Ⅵ)方式のみの比較でも(74)の大幅減少。
- 神道文化(56)は、半減近い大幅減少。廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較でも(70)の大幅減少。
- 法(70)は、2年連続大幅減少。廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較でも(81)の大幅減少。専攻別では、(法律/法律専門職)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、Ⅴ(Ⅵ)方式のみの比較では(150)の50%の大幅減少。一方で、(法律/法律)(63)、(法律/政治)(64)はいずれも2年連続大幅減少。
- 経済(64)は、系統の人気低下もあり2年連続大幅減少。廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較でも(71)の大幅減少。学科別では、2学科のいずれも大幅減少。
- 人間開発(74)は、大幅減少で2年連続減少。廃止されたⅦ期を除いたⅤ(Ⅵ)方式のみの比較では(88)の減少。学科別では、3学科全てが(74)の大幅減少。

国際基督教大：志願者数は2年ぶりに減少だが、募集人員減少で競争は激化 一般：-42人



入試変更点 募集人員：教養(アーツ・サイエンス)…<A方式>290人→240人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

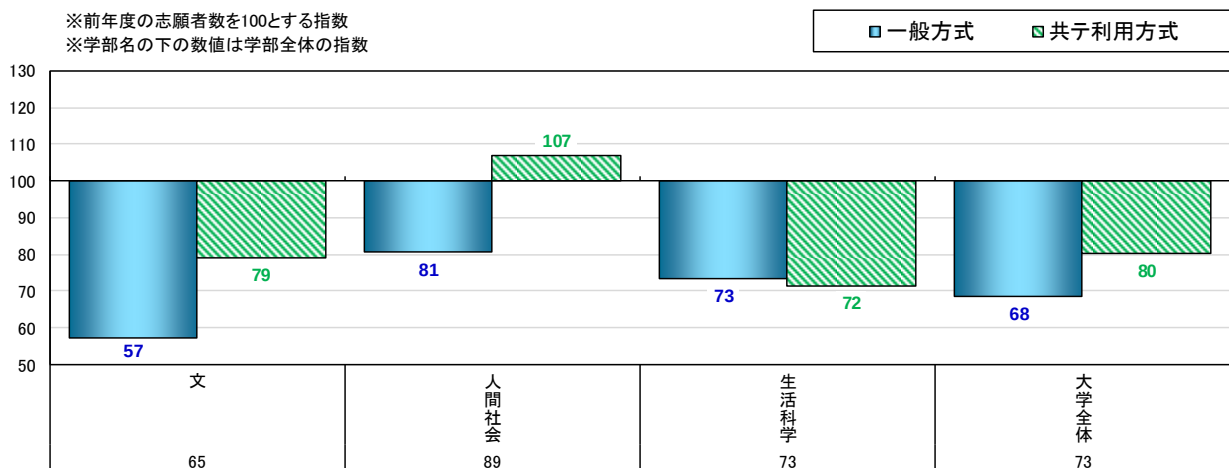
大学全体では、42人(97)のやや減少。前年度5年ぶりに増加したが、再び減少に転じた。

<一般方式>

○教養(97)は、やや減少で2年ぶりに減少。方式別では、入試で「人文・社会科学」または「自然科学」、「総合教養」、「英語」の3科目を課す、<A方式>(94)は、やや減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数83)の減少もあり競争は激化。第一次選考で「総合教養」および「英語外部テスト」、第二次選考で「個人面接」を課す<B方式>(英語外部試験利用)(139)は大幅増加、2年連続増加でこちらも競争は激化。

実践女子大：大学全体では2年連続大幅減少

一般：-1,260人 共テ：-443人



入試変更点 新規実施：文(英文)…<共テ・I期2科目型>：募集人員15人 ※外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→1
入試科目：生活科学(食生活科学/食生活科学)<一般・I期3科目型>…国+外+(数 or 理)→外+(国 or 歴公 or 数 or 理)→2
※国が必須から選択へ、歴公が選択可に
(食生活科学/食物科学、健康栄養)<一般・II期>…数+(国 or 外)→(国 or 数 or 外)→2
※数が必須から選択へ
人間社会<一般・III期>…国+外→外+(国 or 数) ※国が必須から選択へ、数が選択可に
生活科学(食生活科学/食物科学)<一般・III期>…外+(国 or 数)→(国 or 数 or 外)→2 ※外が必須から選択へ
(食生活科学/健康栄養)<一般・III期>…数+外→(国 or 数 or 外)→2
※数、外が必須から選択へ、国が選択可に
募集人員：文(英文)…<一般・I期3科目(外部)>3人→5人
(国文)…<一般・I期2科目、3科目>20人→21人、<一般・I期3科目(外部)>3人→5人、
<一般・III期>10人→5人、<共テ・I期>13人→16人、<共テ・II期>10人→8人
(美学美術史)…<一般・II期>6人→7人、<一般・III期>3人→4人
人間社会…<一般・I期3科目(外部)>3人→10人
生活科学(食生活科学/食物科学)…<一般・I期2科目、3科目>11人→12人
(食生活科学/健康栄養)…<一般・I期2科目、3科目>9人→10人
(生活文化/生活心理)…<一般・I期2科目、3科目>10人→11人
(生活文化/幼児保育)…<一般・I期2科目、3科目>10人→11人
(現代生活)…<一般・III期>2人→3人

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

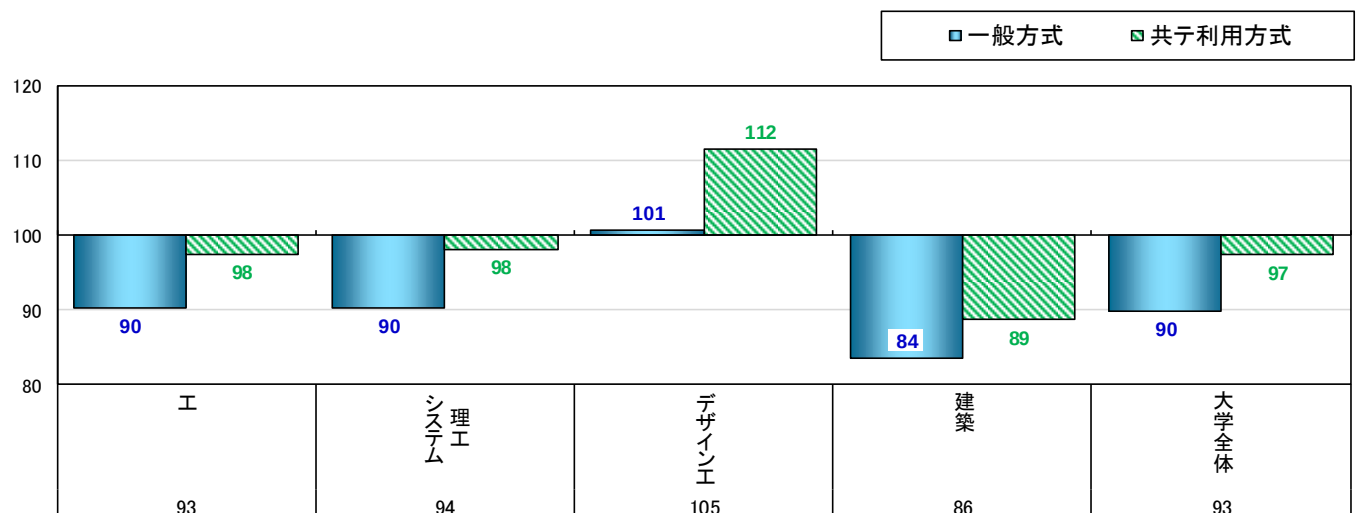
大学全体では、女子大全体への人気低下もあって 4,519 人(73)で 2 年連続大幅減少。学部別では、3 学部中、人間社会(89)は減少、文(65)、生活科学(73)はいずれも大幅減少。方式別では、一般方式(68)は、大幅減少で 2 年連続減少。共通テスト利用方式(80)は、2 年連続大幅減少で 3 年連続減少。新設の文(英文)〈共テ・I 期 2 科目型〉を除いた既存の方式では、(75)と減少率 25%の大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(57)**は、系統への人気低下により、40%以上の大幅減少で 2 年連続減少。学科別では、3 学科全てが大幅減少。国文(50)は半減で、志願者数は 5 年ぶりに 300 人を下回った。英文(52)も半減近く 2 年連続減少。美学美術史(76)は、4 年連続増加の反動で大幅減少。
- 人間社会(81)**は、大幅減少で 2 年連続減少。志願者数は 5 年ぶりに 700 人を下回った。
- 生活科学(73)**は、大幅減少で 2 年連続減少。学科・専攻別では、(食生活科学／健康栄養)(100)が唯一前年度と同数だったが、その他の 6 学科・専攻はいずれも大幅減少。特に、(生活文化／幼児保育)(51)は 3 年連続増加の反動で半減近い大幅減少。(生活文化／生活心理)(59)は 40%近い大幅減少で 2 年連続減少だった。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(79)**は、系統への人気低下により、2 年連続大幅減少。学部別では、(国文)(59)は 2 年連続大幅減少。志願者数は 5 年ぶりに 200 人を下回った。(英文)(89)は 2 年連続大幅減少に引続き減少で 3 年連続減少。(美学美術史)(94)は前年度大幅減少に引続きやや減少で、2 年連続減少。
- 人間社会(107)**は、前年度半減以下の大幅減少を含む 3 年連続減少の反動は見られず、やや増加に留まり、志願者数は 400 人を下回ったままだった。
- 生活科学(72)**は、2 年連続減少に引続き大幅減少で 3 年連続減少。学科・専攻別では、(食生活科学／食物科学)(97)がやや減少、(食生活科学／健康栄養)(92)が減少と減少率は小さかったがいずれも 4 年連続減少。これら以外の 5 学科・専攻はいずれも大幅減少。特に、(生活文化／幼児教育)(36)は前年度 2.6 倍以上の激増の反動で激減。(生活文化／生活心理)(49)は半減以上の大幅減少で 3 年連続大幅減少だった。

芝浦工業大：大学全体では 2 年連続減少、〈共テ・後期〉は入試科目減で激増**一般：-2,395 人 共テ：-439 人**

入試変更点 科目変更：工、システム理工(環境システム除く)、デザイン工〈共テ・後期〉…国+数2+理+外→数2+理+外
システム理工(環境システム)〈共テ・後期〉…国+数2+外+(理 or 歴公)→数2+外+(理 or 歴公)
建築(建築)〈共テ・後期〉…数2+理+外+(国 or 歴公)→数2+理+外

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,834 人(93)の減少で 2 年連続減少。学部別では、デザイン工のみ前年度大幅減少の反動でやや増加で、他 3 学部はいずれも 2 年連続減少。方式別では、一般方式、共通テスト利用方式のいずれも 2 年連続減少。ただし、〈共テ・後期〉(162)は導入 2 年目だが、工、システム理工、デザイン工で国語、建築で(国語 or 歴公)の入試科目を 1 教科減のため激増。

＜一般方式＞

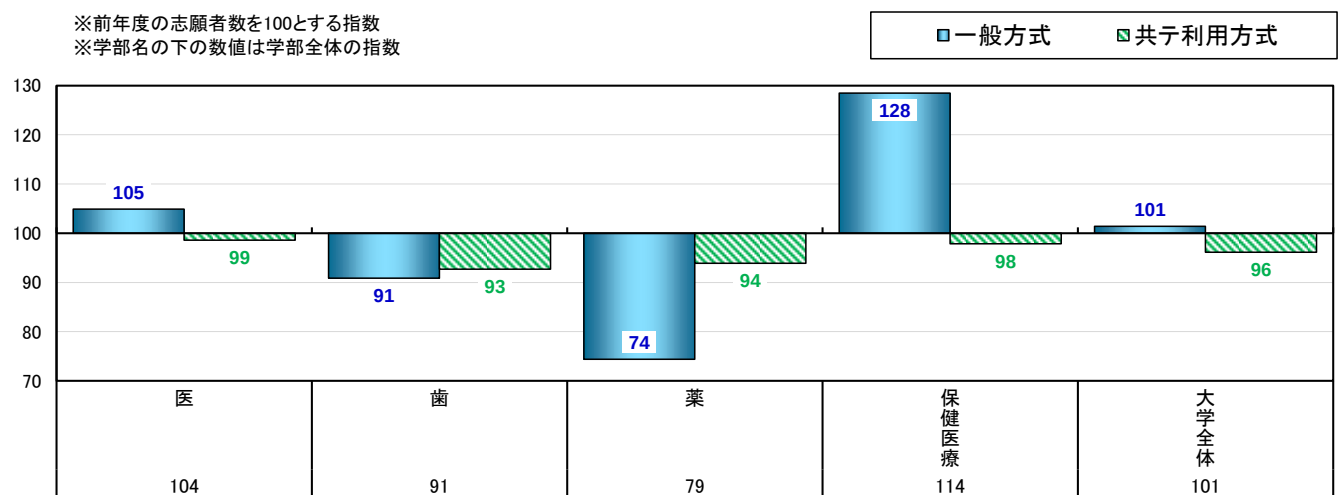
- 工(90)**は、3 年連続減少。学科別では、(電子工)(105)はやや増加で 2 年連続増加、(情報工)(101)は前年度やや減少の反動は小さく微増。これらを除く 7 学科はいずれも減少、特に、(土木工)(78)は大幅減少で 2 年連続減少、(材料工)(80)は大幅減少で 3 年連続減少、(機械機能工)(91)は減少で 6 年連続減少。
- システム理工(90)**は、減少で 2 年連続減少。学科・コース別では、(電子情報システム)(104)は前年度減少の反動でやや増加、これを除く 5 学科・コースはいずれも減少。特に(機械制御システム)(81)は 4 年連続増加の反動で大幅減少、(環境システム)(81)は 2 年連続大幅減少。(生命科学／生命医工)(83)は大幅減少で 3 年ぶりの減少。
- デザイン工(101)**は、2 年連続減少の反動もなく前年度並。学科・系別では、(デザイン工／ロボティクス・情報デザイン)(106)は前年度減少の反動でやや増加、(デザイン工／生産・プロダクトデザイン)(95)はやや減少で 3 年連続減少。
- 建築(84)**は、4 年連続減少。3 コース全てが減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 工(98)**は、微減だが2年連続減少、前年度から＜共テ・後期＞を新設した効果はなく、志願者数は3年ぶりに9,000人を下回った。学科別では、(情報工)(109)は増加、(電子工)(106)はやや増加、(情報通信工)(101)は微増で、これらを除く6学科が減少。特に(土木工)(80)は大幅減少で2年連続減少。募集単位別では、＜共テ・前期＞(96)はやや減少、国語を入試科目から除外した＜共テ・後期＞(157)は大幅増加。
- システム理工(98)**は、前年度から＜共テ・後期＞を新設したが大幅減少した反動はなく微減。学科・コース別では、(電子情報システム)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(機械制御システム)(79)は大幅減少。募集単位別では、＜共テ・前期＞(97)はやや減少、国語を入試科目から除外した＜共テ・後期＞(160)は激増。
- デザイン工(112)**は、前年度から＜共テ・後期＞を新設したが大幅減少だった反動で増加、ただし、2019年度対比では約18%の減少。学科・系別では、2学科・系のいずれも増加。募集単位別では、＜共テ・前期＞(107)はやや増加、国語を入試科目から除外した＜共テ・後期＞(297)はほぼ3倍の激増。
- 建築(89)**は、前年度＜共テ・後期＞を新設したが、大幅減少した反動はなく2年連続減少。学科・コース別では、3コース全てが減少。募集単位別では、＜共テ・前期＞(88)は減少、(国語 or 地歴)を入試科目から除外した＜共テ・後期＞(117)は大幅増加。

昭和大：大学全体では3年ぶりの増加

一般：+83人 共テ：-43人



入試変更点

入試科目：医(医)＜一般・I期、II期＞…数+理2+外→理2+外+(国 or 数)
 歯＜一般・I期、II期＞…数+理+外+面→理+外+(国 or 数)+面
 ＜共テ・A方式＞…数2+理+外+面→理+外+面+(国 or 数)
 薬＜共テ・A方式＞…数2+理+外+面→理+外+面+(国 or 数① or 数②)→2
 ＜共テ・B方式＞…＜1次＞国+外+(数① or 数② or 理)※理：物 or 化 or 生→3 ＜2次＞論+面
 →理+外+(国 or 数① or 数②)→2＜2次＞論+面
 保健医療(理学療法)…＜一般・I期、II期＞数+理+外 ※数：数I・II・A・B
 →理+外+(国 or 数) ※数：数I・A
 募集人員：保健医療(看護)＜共テ・B方式＞10人→6人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、40人(101)の微増で3年ぶりに増加。学部別では、保健医療(114)、医(104)が増加、薬(79)、歯(91)が減少。方式別では＜一般方式＞(101)は微増で5年ぶりに増加。＜共通テスト利用方式＞(96)は、やや減少で4学部すべて減少。

＜一般方式＞

- 医(105)**は、4年連続減少の反動は小さく、入試科目で数学が必須から国語との選択になったがやや増加に留まった。方式別でも、＜I期＞＜II期＞のいずれも前年度減少の反動は小さくやや増加。
- 歯(91)**は、系統への低い人気に影響し、前年度の大幅減少引続き2年連続減少で志願者数は500人を下回った。方式別では、＜I期＞(94)は2年連続減少、＜II期＞(83)は大幅減少。
- 薬(74)**は、3年連続大幅減少。方式別では、＜I期＞＜II期＞いずれも3年連続大幅減少、特に＜II期＞は5年連続減少で、志願者数は130人余りまで減少。
- 保健医療(128)**は、系統への人気の高まりと2年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(作業療法)＜I期＞(76)を除いた5つの募集単位は増加。学科別では、(理学療法)(145)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。数学が必須から国語との選択になり、さらに数学も数I・Aのみに負担減になったことが影響した。看護(128)は、2年連続減少の反動で大幅増加。特に＜II期＞(303)は2年連続大幅減少の反動で3倍以上の激増。一方で、(作業療法)(90)は減少。方式別では、＜I期＞(76)は大幅減少、＜II期＞(175)は大幅増加。

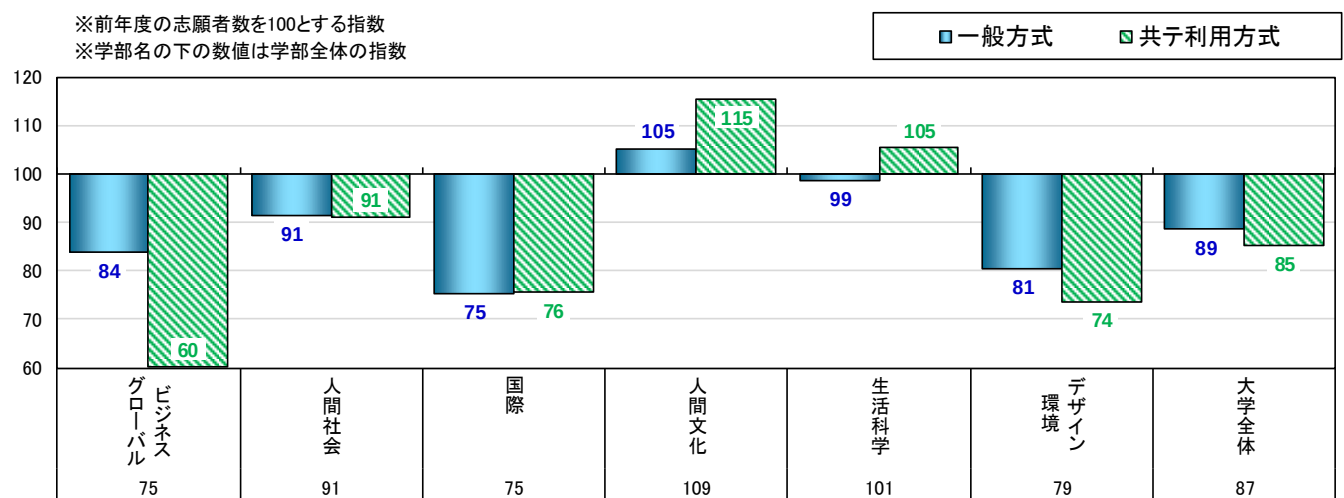
＜共通テスト利用方式＞

- 医(99)**は、微減だが3年連続減少。
- 歯(93)**は、やや減少で2年連続減少。方式別では、＜A方式＞(94)はやや減少、＜B方式＞(83)は大幅減少。
- 薬(94)**は、前年度大幅減少の反動はなく、さらにやや減少で2年連続減少。方式別では、＜A方式＞(90)は減少、一方で＜B方式＞(132)は大幅増加と対照的。

○保健医療(98)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(看護)(99)、(理学療法)(98)は前年度並、(作業療法)(91)は4年連続減少で志願者数は30人に留まった。

昭和女子大：グローバルビジネス、国際にコロナ禍の影響

一般：-886人 共テ：-550人



入試変更点

学部名称変更：生活科学→食健康科学(2021年4月より)

選抜方法：全学部<一般・A日程>…主体性評価を点数化して利用(合格ボーダーライン層(上位95%~105%)の受験生は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。インターネット出願時に任意登録)

グローバルビジネス(ビジネスデザイン)<共テ・II期(英語4技能試験活用方式)>
…{(国 or 歴公 or 国)→高得点1科目}→{(国 or 歴公 or 国)→高得点2科目}

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,436人(87)の2年連続減少。学部別では、人間文化(109)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で(グローバルビジネス)(75)、国際(75)はコロナ禍の影響を強く受けて、大幅減少。学部への改組2年目の(環境デザイン)(79)は大幅減少。方式別では、一般方式は886人(89)減少で4年連続減少、共通テスト方式は550人(85)の2年連続大幅減少。

<一般方式>

- グローバルビジネス(84)は、コロナ禍の影響が大きい系統であることに加えて、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 人間社会(91)は、2年連続減少。学科別では、(福祉社会)(149)は3年連続減少の反動で約1.5倍増。一方で、(初等教育)(77)、(心理)(80)は、いずれも2年連続大幅減少。(現代教養)(86)は3年連続減少。
- 国際(75)は、コロナ禍の影響が大きい系統であることから減少率25%の大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 人間文化(105)は、前年度大幅減少の反動は小さかったが、一般方式では唯一のやや増加。学科別では、(日本語日本文)(101)は前年度並。(歴史文化)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 生活科学(99)は、微減で前年度に学部へ改組された旧(環境デザイン)を除いた3学科合計で4年連続減少、前年度の減少率40%を超える大幅減少の反動はなかった。学科別では、(食安全マネジメント)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(健康デザイン)(85)は大幅減少。
- 環境デザイン(81)は、学部への改組2年目だが、前年度の旧生活科学(環境デザイン)から大幅増加した反動で大幅減少。

<共通テスト利用方式>

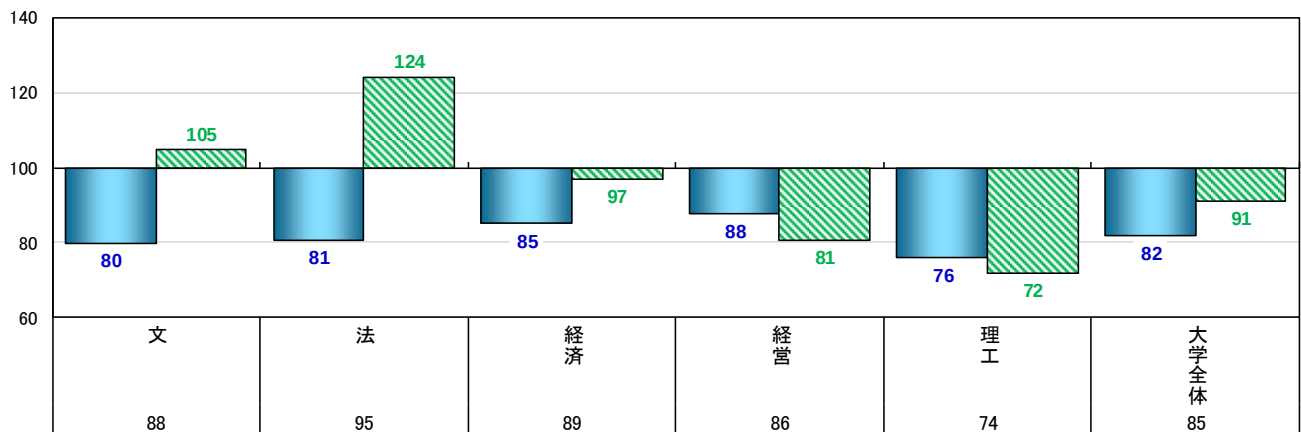
- グローバルビジネス(60)は、コロナ禍の影響が大きい系統であることから減少率40%の大幅減少。3年連続500人を上回っていた志願者数は300人余りに減少。特に、選抜方法を高得点1科目から高得点2科目に変更した(ビジネスデザイン)<共テ・II期(英語4技能試験活用方式)>(10)は志願者数が31人→3人に激減。
- 人間社会(91)は、前年度の大幅減少に引続き2年連続減少。学科別では、(福祉社会)は2年連続減少の反動で大幅増加。(現代教養)(108)は増加だが2年連続大幅減少の反動は小さかった。一方で、初等教育(73)、心理(80)はいずれも前年度減少率40%近い大幅減少に引続き2年連続大幅減少。
- 国際(76)は、コロナ禍の影響が大きい系統であることから2年連続大幅減少。学科別では、(国際)(72)は2017年度の新設後3年連続増加した反動で大幅減少、(英語コミュニケーション)(79)は2年連続減少率20%を上回る大幅減少。
- 人間文化(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(歴史文化)(122)は大幅増加、(日本語日本文)(110)は増加。
- 生活科学(105)は、前年度に学部へ改組された旧(環境デザイン)を除いた3学科合計で大幅減少だった反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、(食安全マネジメント)(128)は前年度減少率30%を超える大幅減少の反動で大幅増加、(健康デザイン)(76)は大幅減少。
- 環境デザイン(74)は、学部への改組2年目だが、旧生活科学(環境デザイン)から継続して2年連続で増加した反動で大幅減少。

成蹊大：2年連続減少、一般は全学部が減少

一般：-2,485人 共テ：-710人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

入試科目：法<共テ併用・P方式>…<セ>国+外+(歴公 or 数①)+(数②or 理 or 理基2)、<個>外
→<共テ>国+外+(歴公 or 数①)、<個>外
経済(経済数理)<学部個別A方式>…国+数+外→数+外・国
(現代経済)<学部個別A方式>…国+外+(歴公 or 数)→外・国+(歴公 or 数)
※外と国を「外・国」一体的に出題

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,195人(85)の大幅減少。一般方式は、2,485(82)人の大幅減少で、全ての学部が減少。共通テスト利用方式は、710人(91)の減少だが、法(124)が大幅増加、文(105)がやや増加。

<一般方式>

- 文(80)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、4学科全てが減少。特に、(日本文)(71)は30%近い大幅減少で3年連続減少、(英語英米文)(72)は30%近い大幅減少で2年連続減少。
- 法(81)は、2年連続大幅減少。学科別では、(政治)(75)は大幅減少、(法律)(85)は2年連続大幅減少。
- 経済(85)は、前年度の半減近い大幅減少に引続き大幅減少。学科別では、(経済数理)(132)が大幅増加。他学部を含む全学科の中で唯一増加。
- 経営(88)は、前年度新設で2年目は減少。志願倍率は21.3倍→18.7倍にダウン。方式別では、<2教科型グローバル>(48)は半減以下。
- 理工(76)は、大幅減少で2年連続減少。3学科全てが大幅減少で2年連続減少。

<共通テスト利用方式>

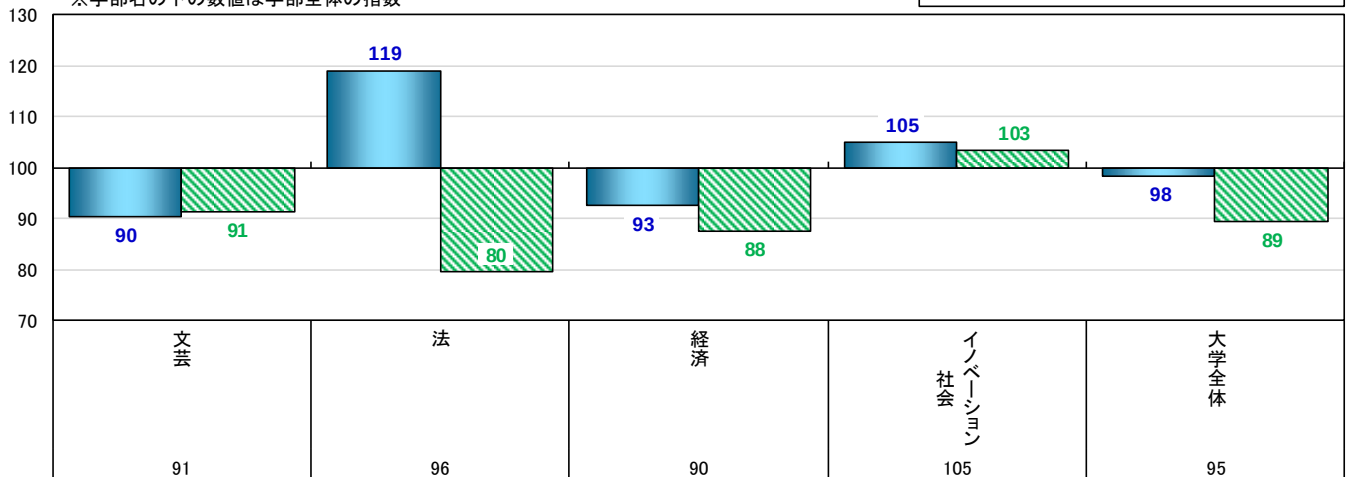
- 文(105)は、大幅減少の反動は小さくやや増加。(日本文)(74)は2年連続大幅減少。他の3学科はいずれも増加で、(国際文化)(126)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 法(124)は、前年度半減以下の反動により大幅増加で、反動による大幅な増減が継続。学科別では、2学科とも増加、(法律)(138)は前年度激減の反動で40%近い大幅増加。
- 経済(97)は、やや減少。学科別では、(現代数理)(168)は激増、(現代経済)(69)大幅減少と対照的。
- 経営(81)は、前年度新設で2年目は大幅減少。志願倍率も45.7倍→36.9倍にダウン。
- 理工(72)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、3学全てが大幅減少。方式別では、<共テ利用4教科奨学金>(49)が半減以下。

成城大：志願者数は3年連続減少

一般：-140人 共テ：-611人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共通利用方式



入試変更点

選抜方法：社会イノベーション…〈センター・後期〉→廃止

入試科目：法〈共テ・B方式後期〉…英語(筆記)→英語(リーディング)、英語(リスニング)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、751人(95)の減少で3年連続減少。学部別では、社会イノベーション(105)はやや増加だが、他の3学部はいずれも減少。方式別では、一般方式(98)は微減だが3年連続減少、共通テスト利用方式(89)は2年連続大幅減少に引き続き10%以上の減少、廃止の法〈共テ・B方式後期〉を除いても(91)の減少。

〈一般方式〉

- 文芸(90)は、減少で3年連続減少。学科別では6学科全てが減少。特に、(マスコミュニケーション)(85)は前年度増加の反動で大幅減少。英文(86)、国文(86)は前年度大幅減少に引き続き2年連続減少。(文化史)(89)は3年連続減少。(芸術)(98)、(ヨーロッパ文化)(99)はいずれも微減だが、それぞれ2年連続、3年連続で減少が継続。
- 法(119)は、2年連続減少の反動で大幅増加だが、2018年度比では約25%の減少。
- 経済(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(経済)(92)は3年連続減少、(経営)(93)も2年連続減少。
- 社会イノベーション(105)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(心理社会)(115)は前年度半減に近い大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数は1,100人台に留まった。一方で、(政策イノベーション)(96)は3年連続減少で志願者数は1,100人余りまで減少。

〈共通テスト利用方式〉

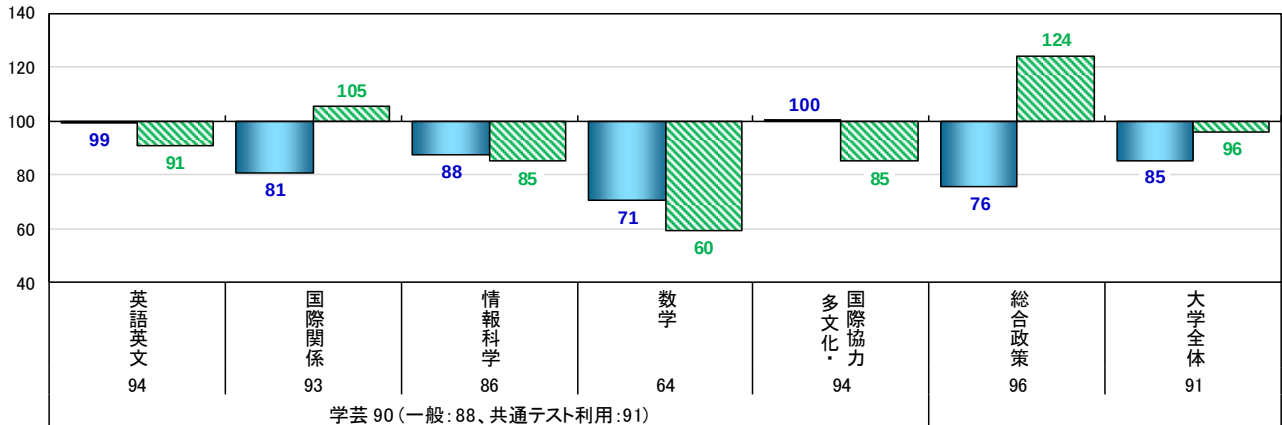
- 文芸(91)は、減少で3年連続減少。学科別では、(英文)(103)は4年連続減少の反動は小さく7人のみの増加、他の5学科はいずれも減少。(ヨーロッパ文化)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(国文)(80)は3年連続大幅減少。(文化史)(93)は2年連続大幅減少に引き続きやや減少。(芸術)(97)はやや減少だが3年連続減少。(マスコミュニケーション)(97)はやや減少で、2019年度以降は330人前後の志願者数が継続。
- 法(80)は、2年連続大幅減少で、3年連続減少。志願者数は1,200人台まで減少。
- 経済(88)は、前年度やや増加の反動で減少。学科別では、(経営)(79)は前年度増加の反動で大幅減少、(経済)(98)は2年連続前年度並。
- 社会イノベーション(103)は、前年度半減以下の大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。ただし、廃止した〈共テ・B方式後期〉を除くと、(112)の増加。学科別では、(心理社会)(115)は前年度半減以下の反動で大幅増加、一方で(政策イノベーション)(88)は前年度65%減少の激減に引き続いて減少。廃止した〈共テ・B方式後期〉を除くと、(心理社会)(122)は大幅増加、(政策イノベーション)(99)は前年度並。

津田塾大：学芸は2年連続減少、総合政策は4年連続減少

一般：-312人 共テ：-93人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の右、学科名の下の数値は全体の指数

■ 一般方式 ■ 共通利用方式



入試変更点

配点変更：学芸(英語英文)＜共テ+個別・B方式＞…＜共テ＞英語 150点→100点
共通テスト：学芸(数学、情報化学)＜共テ・C方式＞…英語(リスニング)選択→英語(リスニング)必須

COMMENT ※(())内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、405人(91)の減少で、前年度の大幅減少に引続き、2年連続減少。学部・学科別では、2学部6学科全てが減少。志願者数は、2年連続4,000人台に留まった。方式別では、一般方式(85)は前年度のやや減少に引続き、大幅減少。共通テスト方式(96)は前年度の大幅減少に引続きやや減少で、2方式のいずれも2年連続減少。

<一般方式>

○学芸(88)は、減少で2年連続減少。学科別では、新設3年目の(多文化・国際協力)(100)はコロナ禍の影響の大きい系統ということもあって、前年度大幅減少の反動はなく前年度比1人だけの増加に留まった。(英語英文)(99)は微減だが、2019年度に(英語英文)に学科名称を変更後最少の志願者数となった。一方で、(数学)(71)は前年度大幅増加の反動で減少率30%に近い大幅減少。(国際関係)(81)はコロナ禍の影響による系統の人気低下もあって大幅減少、(情報科学)(88)は減少で、2学科とも5年連続減少。

○総合政策(76)は、前年度初めて増加に転じたが、再び大幅減少し、志願者数は、400人を下回った。

<共通テスト利用方式>

○学芸(91)は、前年度大幅減少の反動もなく2年連続減少。学科別では、(国際関係)(105)はコロナ禍で系統の人気低下ながら、前年度半減の反動によりやや増加。他4学科はいずれも減少し、(英語英文)(91)は減少、他3学科は大幅減少。特に、(数学)は40%の大幅減少で、志願者数は4年連続約200人から118人となった。

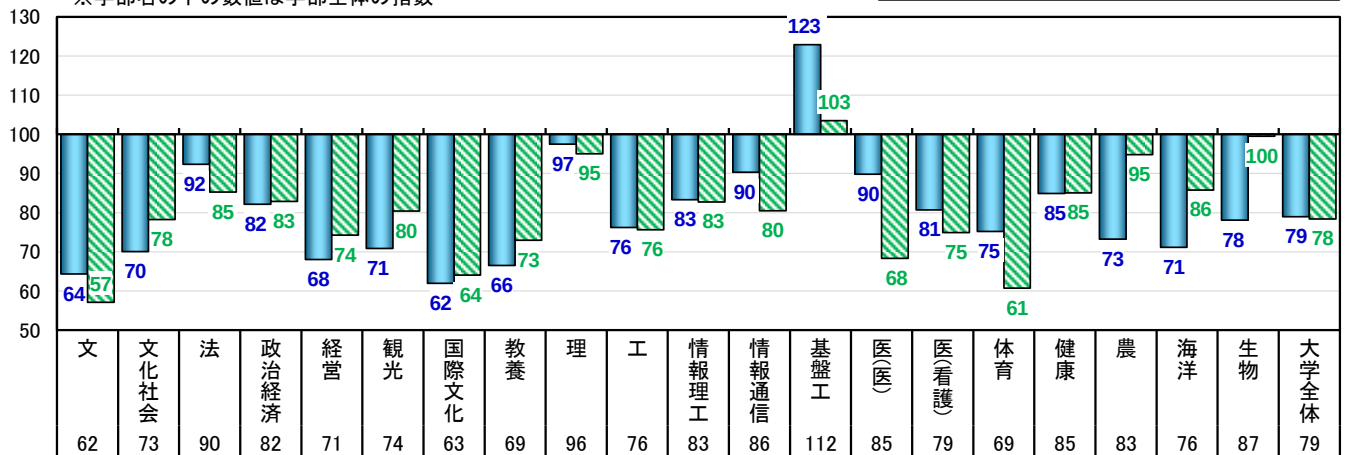
○総合政策(124)は、2017年度新設以降3年連続減少し、前年度は半減以下だった反動で大幅増加。それでも、志願者数は427人で新設された2017年度の約3分の1以下。

東海大：大学全体では2年連続の減少

一般：-7,110人 共テ：-4,859人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点 選抜方法：〈共テ・後期〉…英語は筆記のみを課す→英語はリーディングとリスニングを課す
2科目受験・2科目可否判定→3科目受験・3科目可否判定
体育(生涯スポーツ、スポーツ・レジャーマネジメント)…〈文系学部統一(前期)〉新規実施
工(航空宇宙／航空操縦)…募集中止 ※コロナ禍対策によるもの

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、コロナ禍の中で1人当たりの志願校数を絞り込む影響を受けて11,969人(79)の大幅減少で、2年連続減少。学部別では、熊本キャンパス設置の基盤工(112)以外の全ての学部が減少。方式別では、一般方式が7,110人(79)減少、共通テスト利用方式が4,859人(78)減少で、ともに大幅減少。

<一般方式>

- 文(64)は、大幅減少で3年ぶりの減少で大幅減少。学科・専攻別では、全てが減少し、特に(文明)(43)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
- 文化社会(70)は、大幅減少で2018年度改組後初めての減少。学科別では、全ての学科で大幅減少し、特に(ヨーロッパ・アメリカ)(52)、アジア(57)は半減近い大幅減少。
- 法(92)は、減少で2年連続減少。
- 政治経済(82)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、全ての学科で減少し、(政治)(79)、(経済)(80)はいずれも大幅減少、(経営)(87)は減少。
- 経営(68)は、熊本キャンパス設置の学部だが、大幅減少で6年ぶりの減少。2学科とも大幅減少で、コロナ禍の影響を強く受けた(観光ビジネス)(46)は半減以下の大幅減少で2年連続減少、(経営)(78)も大幅減少で5年ぶりの減少。
- 観光(71)は、コロナ禍の影響を強く受けて、大幅減少で2年連続減少。
- 国際文化(62)は、札幌キャンパスに設置の学部だが、系統への人気低下とコロナ禍による遠距離移動を敬遠する動向から、大幅減少で6年ぶりの減少。3学科とも大幅減少。
- 教養(66)は、大幅減少で7年ぶりに減少。学科・課程別では、全てで減少し、(人間環境／社会環境)(59)、(国際)(62)、(芸術)(73)が大幅減少、(人間環境／自然環境)(95)はやや減少。
- 理(97)は、やや減少で4年ぶりに減少。学科別では、(数学)(124)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(化学)(85)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 工(76)は、大幅減少で3年ぶりに減少。コロナ禍対策で募集中止の(航空／航空操縦)を除いても(76)の大幅減少。学科・専攻別では、(原子力工)(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。その他の学科・専攻はいずれも減少。
- 情報理工(83)は、大幅減少で4年ぶりに減少。2学科とも大幅減少。
- 情報通信(90)は、減少で2年連続減少。学科別では、(組込みソフトウェア工)(103)はやや増加だが、その他の学科はいずれも減少。特に(経営システム工)(79)は大幅減少で4年ぶりに減少。
- 基盤工(123)は、熊本キャンパス設置だが、地方の理工系志向の中で、大幅増加で4年連続増加。学科別では、(電気電子情報)(141)は大幅増加で5年連続増加だが、(医療福祉工)(88)は減少で4年ぶりに減少。
- 医(医)(90)は、減少で2年連続減少。
- 医(看護)(81)は、3年連続大幅減少。
- 体育(75)は、大幅減少で7年連続減少。学科別では、全ての学科で減少し、特に(武道)(19)は2割以下の激減。
- 健康(85)は、大幅減少で2018年度の改組後初めて減少。
- 農(73)は、熊本キャンパス設置だが、大幅減少で2年連続減少。3学科とも大幅減少。
- 海洋(71)は、清水キャンパス設置だが、大幅減少で2年連続減少。学科・専攻別では、全てが減少で、特に(航海工／海洋機械工)(43)は半減以下の大幅減少で2年連続の大幅減少。
- 生物(78)は、札幌キャンパス設置だが、2年連続大幅減少。2学科とも減少で、(生物)(66)は大幅減少、(海洋生物科学)(89)は減少。

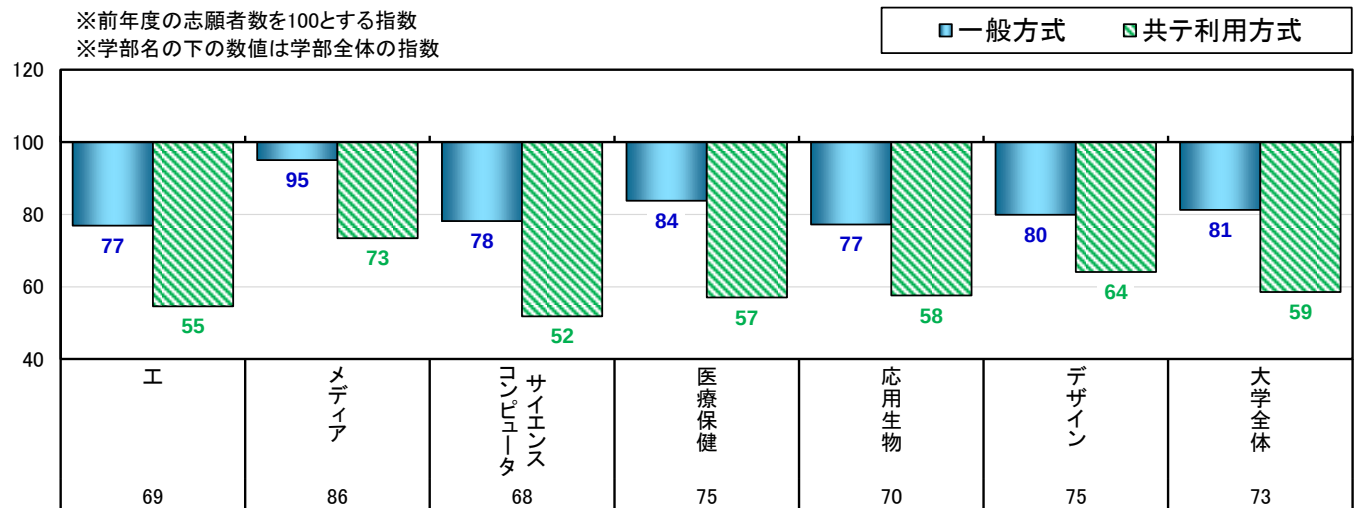
<共通テスト利用方式>

- 文(57)は、大幅減少で4年連続減少。学科・専攻別では、全てで大幅減少。
- 文化社会(78)は、2年連続大幅減少。学科別では、全ての学科で減少し、特に(北欧)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

- 少、(ヨーロッパ・アメリカ) (65) は2年連続大幅減少。
- 法 (85) は、2年連続大幅減少。
 - 政治経済 (83) は、2年連続大幅減少。学科別では、(政治) (118) は前年度半減近い大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(経済) (71)、(経営) (73) はいずれも大幅減少で2年連続減少。
 - 経営 (74) は、熊本キャンパス設置の学部だが、大幅減少で2年連続減少。
 - 観光 (80) は、コロナ禍の影響を強く受けて、2年連続大幅減少。
 - 国際文化 (64) は、札幌キャンパスに設置の学部だが、系統への人気低下とコロナ禍による遠距離移動を敬遠する動向から、大幅減少で5年ぶりに減少。3学科とも大幅減少。
 - 教養 (73) は、2年連続大幅減少。5学科・専攻(募集単位)の全てが2年連続大幅減少。
 - 理 (95) は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(数学) (116) は大幅増加、(情報数理) (105) はやや増加。一方で、(物理) (80) は大幅減少、(化学) (91) は減少と対照的。
 - 工 (76) は、大幅減少で3年ぶりに減少。学科・専攻別では、(原子力工) (115) は大幅増加だが、その他の学科・専攻はいずれも減少。
 - 情報理工 (83) は、大幅減少で6年ぶりに減少。学科別では、(情報科学) (80) は大幅減少、(コンピュータ応用工) (87) は減少。
 - 情報通信 (80) は、大幅減少で2年連続減少。全学科で大幅減少。
 - 基盤工 (103) は、熊本キャンパス設置だが、地方の理工系志向の中で、やや増加で5年連続増加。学科別では、(医療福祉工) (108) は増加で4年連続増加、(電気電子情報) (102) は微増だが5年連続増加。
 - 医(医) (68) は、2年連続大幅減少。
 - 医(看護) (75) は、大幅減少で2年ぶりの減少。
 - 体育 (61) は、共通テスト利用方式導入2年目で大幅減少。学科別では、全ての学科で大幅減少で、特に(競技スポーツ) (46)、(武道) (50)、(スポーツ・レジャーマネジメント) (54) の3学科はほぼ半減近い大幅減少。
 - 健康 (85) は、2年連続大幅減少。
 - 農 (95) は、熊本キャンパス設置だが、やや減少で2年連続減少。学科別では、(応用動物科学) (106) はやや増加。一方で、(応用植物科学) (87) は減少、(バイオサイエンス) (93) はやや減少。
 - 海洋 (86) は、清水キャンパス設置だが、2年連続減少。学科・専攻別では、(海洋生物) (108) のみ増加だが、その他の学科・専攻はいずれも減少。
 - 生物 (100) は、札幌キャンパス設置だが、前年度大幅減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(海洋生物科学) (111) は前年度大幅減少の反動で増加だが、(生物) (90) は2年連続減少。

東京工科大：一般は反動で、共テ方式は科目負担増で大幅減少

一般：-2,400 人 共テ：-3,078 人



入試変更点

学科改組：医療保健(理学療法)、(作業療法)

→医療保健(リハビリテーション/理学療法)、(リハビリテーション/作業療法)、(リハビリテーション/言語聴覚)

選抜方法：〈セ・前期2科目型〉、〈セ・前期3科目型〉、〈セ・前期4科目型〉→〈共テ・前期3科目型〉、〈共テ・前期4科目型〉
 〈セ・後期2科目型〉→〈共テ・後期3科目型〉

募集人員：医療保険(看護)…〈一般・奨学生〉7人→5人、〈一般・A日程〉32人→21人、

〈一般・B日程〉7人→5人、〈共テ・前期〉24人→16人

工(機械工)…〈一般・A日程〉22人→20人、〈一般・B日程〉6人→5人、

〈共テ・前期〉32人→26人、〈共テ・後期〉4人→3人

(電気電子工)…〈一般・A日程〉22人→20人、〈一般・B日程〉6人→5人、

〈共テ・前期〉32人→26人、〈共テ・後期〉4人→3人

(応用化学)…〈一般・A日程〉22人→18人、〈一般・B日程〉5人→4人、

〈共テ・前期〉29人→21人、〈共テ・後期〉3人→2人

デザイン(デザイン/視覚デザイン)…〈一般・A日程〉21人→25人、〈共テ・前期〉21人→23人

(デザイン/工業デザイン) …〈一般・A日程〉13人→17人

入試科目：全学部…〈共テ〉：英語(筆記)or{英語(筆記)+英語(リスニング) ※高得点採用

→英語(リーディング)+英語(リスニング) ※リスニングが選択から必須へ

工(機械工)、工(電気電子工)、コンピュータサイエンス

…〈一般〉：{(国 or 数 or 理 or 外)→3}→数+理+外 ※国を除外、数、理、外は必須

…〈共テ・前期3教科型〉：{(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→3}→数2+理+(国 or 外)

…〈共テ・前期3教科+1科目型〉：{(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→4}→数2+理+外+(国 or 理) ※選択の理は必須以外の科目

工(応用化学)、応用生物

…〈共テ・前期3教科型〉：{(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→3}→{(国 or 数 or 理 or 外)→3} ※選択から歴公除外

…〈共テ・前期4教科型〉：{(国 or 歴公 or 数 or 理 or 外)→4}→国+数+理+外 ※選択から歴公除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、前年度大幅増加の反動で、5,478人(73)の大幅減少。学部別では、メディア(86)が減少、その他の5学部はいずれも大幅減少。方式別では、一般方式(81)は6年ぶりの大幅減少。日程別では、〈B日程〉(57)が最も減少率が高かった。共通テスト利用方式(59)は、2教科型廃止による科目負担増の影響で大幅減少。日程別では、〈前期〉(60)は大幅減少、〈後期〉(39)は激減。

〈一般方式〉

○工(77)は、学部を再設置した2015年度以降、5年連続増加した反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。

○メディア(95)は、4年連続増加の反動は小さく、やや減少に留まった。

○コンピュータサイエンス(78)は、4年連続増加の反動で減少率が20%以上の大幅減少。専攻別では、2専攻とも大幅減少。

○医療保健(84)は、前年度増加の反動で大幅減少。新設の(リハビリテーション/言語聴覚)を除いても2,376人(79)の大幅減少。学科・専攻別では、(リハビリテーション/作業療法)(68)、(リハビリテーション/理学療法)(74)はいずれも大幅減少、(臨床検査)(87)は減少、(臨床工)(93)はやや減少だが3年連続減少。(看護)(74)も大幅減少だが、募集人員減少(前年度募集人員対比指数67)のため、志願倍率は16.4倍→18.1倍へアップ。

○応用生物(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(応用生物/生命科学・医薬品)(77)、(応用生物/食品・化粧品)(78)ともに大幅減少。

○デザイン(80)は、前年度倍増以上の激増の反動で大幅減少。専攻別では、(デザイン/工業デザイン)(79)、(デザイン/視覚デザイン)(81)ともに大幅減少。

〈共通テスト利用方式〉

○工(55)は、大幅減少。学部を再設置した2015年度以降、初めて志願者数が1,000人を下回った。日程別では、〈後期〉(29)が激減。

○メディア(73)は、大幅減少。日程別では、〈前期〉(73)、後期(81)といずれも大幅減少。

○コンピュータサイエンス(52)は、科目負担増に加えて、前年度増加率70%近い大幅増加の反動も加わり、ほぼ半減。専攻別

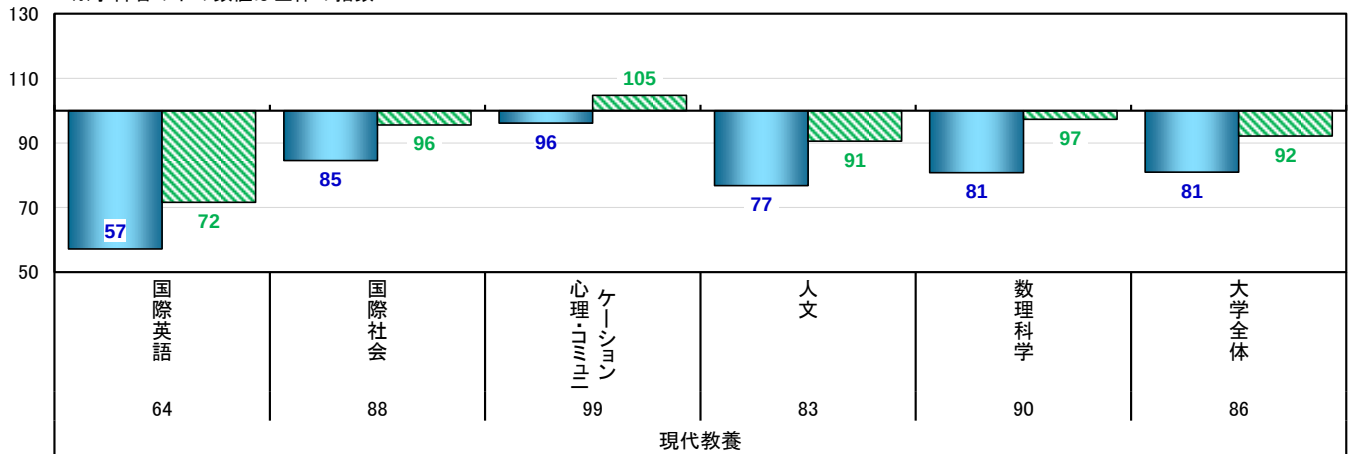
では、2 専攻とも大幅減少で、志願者数は 2 年ぶりに 1,000 人を下回った。日程別では〈後期〉(33)は前年度の 3 分の 1。
 ○医療保健(57)は、〈前期〉のみの募集だが、大幅減少。既存の学科・専攻はいずれも大幅減少。新設の(リハビリテーション／言語聴覚)は 640 人の志願者数だったが、これを除いた既存の学科・専攻のみの合計では(56)とさらに減少率がアップ。
 ○応用生物(58)は、減少率 40%以上の大幅減少。専攻別では、2 専攻とも大幅減少。日程別では、特に〈後期〉(37)が激減。
 ○デザイン(64)は、大幅減少。専攻別では、2 専攻とも大幅減少。日程別では、特に〈後期〉(45)は半減以下。

東京女子大：大学全体では減少で 3 年連続減少

一般：-931 人 共テ：-278 人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学科名の下の数値は全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

選抜方法：〈共テ・前期 5 科目〉、〈共テ・3 月期国公立併願型〉新規実施

現代教養(国際英語)…〈共テ併用型〉新規実施

(国際英語以外)〈英語外部〉…対象試験(英検、TEAP、TEAP CBT) ※いずれも LR の 2 技能→※いずれも 4 技能

募集人員：現代教養(国際英語)…〈個別〉77 人→55 人、〈共テ・前期 3 教科型〉19 人→16 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→5 人、〈共テ併用型〉0 人→5 人、

〈共テ・3 月期〉9 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉9 人

(人文／哲学)…〈個別〉21 人→16 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→2 人、

〈共テ・3 月期〉3 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉3 人

(人文／日本文学)…〈個別〉47 人→34 人、〈英語外部〉2 人→4 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→4 人、

〈共テ・3 月期〉5 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉6 人

(人文／歴史文化)…〈個別〉40 人→30 人、〈英語外部〉2 人→3 人、〈共テ・前期 3 教科型〉9 人→10 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→3 人、

〈共テ・3 月期〉5 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉5 人

(国際社会／国際関係)…〈個別〉52 人→40 人、〈共テ・前期 3 教科型〉10 人→8 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→3 人、

〈共テ・3 月期〉10 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉14 人

(国際社会／経済)…〈個別〉38 人→28 人、〈英語外部〉2 人→4 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→3 人、

〈共テ・3 月期〉4 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉4 人

(国際社会／社会)…〈個別〉27 人→20 人、〈英語外部〉2 人→3 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→2 人、

〈共テ・3 月期〉3 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉3 人

(国際社会／コミュニティ構想)…〈個別〉27 人→20 人、〈英語外部〉2 人→3 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→2 人、

〈共テ・3 月期〉3 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉3 人

(心理・コミュニケーション／心理)…〈個別〉42 人→32 人、〈英語外部〉3 人→5 人、〈共テ・前期 3 教科型〉11 人→9 人、

〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→4 人、

〈共テ・3 月期〉4 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉4 人

(心理・コミュニケーション／コミュニケーション)…〈個別〉64 人→46 人、〈英語外部〉4 人→7 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→6 人、

〈共テ・3 月期〉5 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉6 人

(数理科学／数学)…〈個別〉20 人→18 人、〈共テ・前期 3 教科型〉4 人→3 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→2 人、

〈共テ・3 月期〉2 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉3 人

(数理科学／情報理学)…〈個別〉20 人→18 人、〈共テ・前期 3 教科型〉4 人→3 人、〈共テ・前期 5 科目型〉0 人→2 人、

〈共テ・3 月期〉2 人→〈共テ・3 月期専攻特色型〉〈共テ・3 月期国公立併願型〉3 人

入試科目：現代教養(数理科学／情報理学)…〈個別〉：数+外+(数 or 理) ※理：物 or 化 or 生→数+外+(数 or 理) ※理：物 or 化

〈英語外部〉：数+(数 or 理) ※理：物 or 化 or 生→数+(数 or 理) ※理：物 or 化

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、1,209 人(86)の減少で 3 年連続減少。方式別では、一般方式 931 人(81)の大幅減少。共通テスト利用方式 278 人(92)は減少だが、既存の方式のみでは 834 人(73)の大幅減少。学科別では、全ての学科で減少し、特に(国際英語)(64)、(人文)(83)が大幅減少。

〈一般方式〉

○現代教養(国際英語)(57)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。

○現代教養(国際社会)(85)は、大幅減少で 3 年連続減少。専攻別では、(国際社会／コミュニティ構想)(108)以外の 3 専攻はいずれも減少で、特に(国際社会／社会学)(63)は大幅減少で 4 年連続減少、(国際社会／経済)(84)も大幅減少で 3 年連続減少。

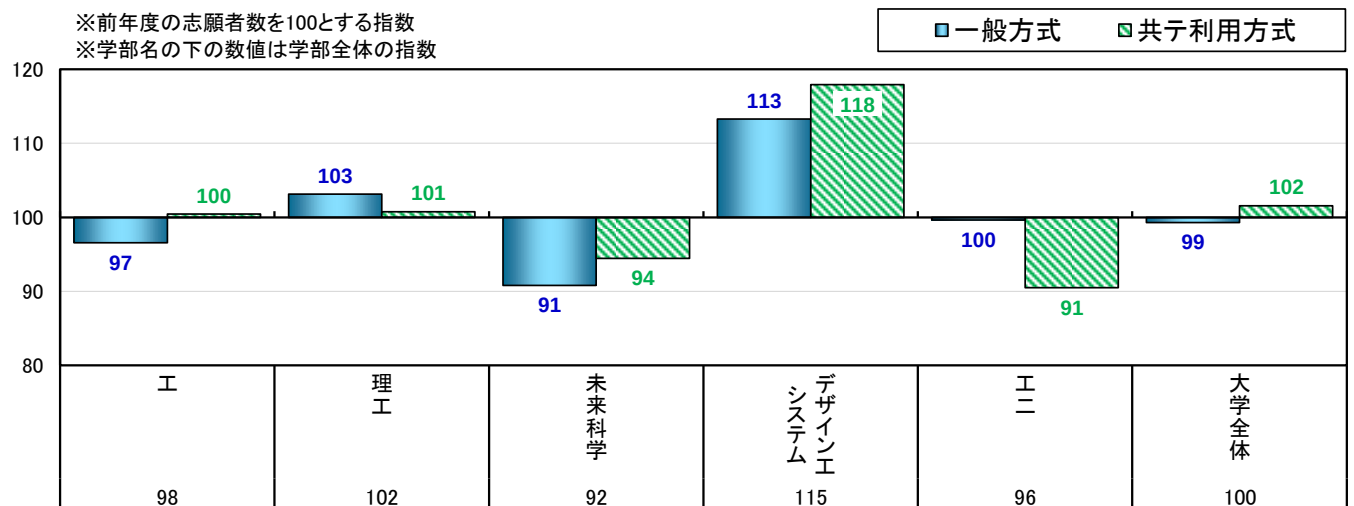
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(96)は、やや減少で2年連続減少。専攻別では、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(103)はやや増加、(心理・コミュニケーション/心理)(88)は減少で、いずれも前年度の反動。
- 現代教養(人文)(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、3専攻全てが大幅減少。
- 現代教養(数理科学)(81)は、2年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、(数理科学/数学)(101)は微増だが、(数理科学/情報理学)(66)は2年連続増加の反動で大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 現代教養(国際英語)(72)は、大幅減少で3年連続減少。
- 現代教養(国際社会)(96)は、やや減少で前年度の半減以下に引続き、2年連続減少。専攻別では、(国際社会/コミュニティ構想)(127)は前年度激減の反動で大幅増加。一方で、系統への低い人気とコロナ禍の影響を強く受けて、(国際関係/経済学)(88)は減少で3年連続減少、(国際社会/国際関係)(89)も減少で2年連続減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(105)は前年度半減近かった反動は小さくやや増加に留まった。専攻別では、(心理・コミュニケーション/コミュニケーション)(126)は前年度激減の反動で大幅増加。一方で、(心理・コミュニケーション/心理)(89)は3年連続減少。
- 現代教養(人文)(91)は、減少で改組後3年連続減少。専攻別では、(人文/日本文学)(111)は3年ぶりに増加だが、(人文/歴史文化)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人文/哲学)(80)は大幅減少で3年連続減少。
- 現代教養(数理科学)(97)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。専攻別では、系統への人気が高い(数理科学/情報理学)(104)はやや増加で2年連続増加。一方で、(数理科学/数学)(92)は前年度大幅増加の反動で減少。

東京電機大：志願者数は前年度並だが微増で3年連続増加

一般：-139人 共テ：+152人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、13人(100)の微増で前年度並だが3年連続増加だった。工三を除いても、49人(100)の微増で前年度並。学部別では、システムデザイン工(115)の大幅増加、一方で未来科学(92)は減少、理工(102)、工(98)は前年度並。方式別では、＜一般・英語外部試験利用＞(122)の2年連続増加と＜共テ・後期＞(121)の大幅増加が目立った。

＜一般方式＞

- 工(97)は、2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別では、(電子システム工)(115)は3年連続大幅増加。一方で、(先端機械工)(78)は2年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、＜英語外部試験利用＞(128)が2019年度新設以降、2年連続大幅増加。
- 理工(103)は、やや増加で2018年度の学系改組後4年連続増加。学系別では、(理工/電子工)(136)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(理工/情報システムデザイン)(107)、(理工/機械工)(105)はやや増加。一方で、(理工/建築・都市環境)(78)は2年連続大幅減少、(理工/生命科学)(93)、(理工/理)(96)はやや減少。方式別では、＜英語外部試験利用＞(110)が2019年度新設以降、2年連続増加。
- 未来科学(91)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(ロボット・メカトロニクス)(102)は微増だが3年連続増加。一方で、(情報メディア)(84)は3年連続増加の反動で大幅減少、(建築)(94)は2年連続増加の反動は小さくやや減少。方式別では、＜英語外部試験利用＞(108)が2019年度新設以降、2年連続増加。
- システムデザイン工(113)は、増加で3年連続増加。学科別では、2学科とも増加で、特に(情報システム工)(118)は大幅増加で3年連続増加。方式別では、＜英語外部試験利用＞(151)が2019年度新設以降、2年連続大幅増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 工(100)は、微増だが4年連続増加。学科別では、(電子システム工)(116)は大幅増加、(機械工)(108)は増加、(電気電子工)(107)はやや増加。一方で、(先端機械工)(86)は減少で2年連続減少、(応用化学)(90)は減少、(情報通信工)(93)はやや減少。方式別では、＜共テ・後期＞(117)が2年連続大幅増加。
- 理工(101)は、微増。学系別では、(理工/理)(114)は増加で2年連続増加。一方で、(理工/生命科学)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、＜共テ・後期＞(111)が2年連続増加。
- 未来科学(94)は、3年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(ロボット・メカトロニクス)(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(建築)(112)は増加で前年度の反動による増減が継続。一方で、(情報メディア)(76)は大幅減少で4年ぶりに減少。方式別では、＜共テ・後期＞(128)が大幅増加

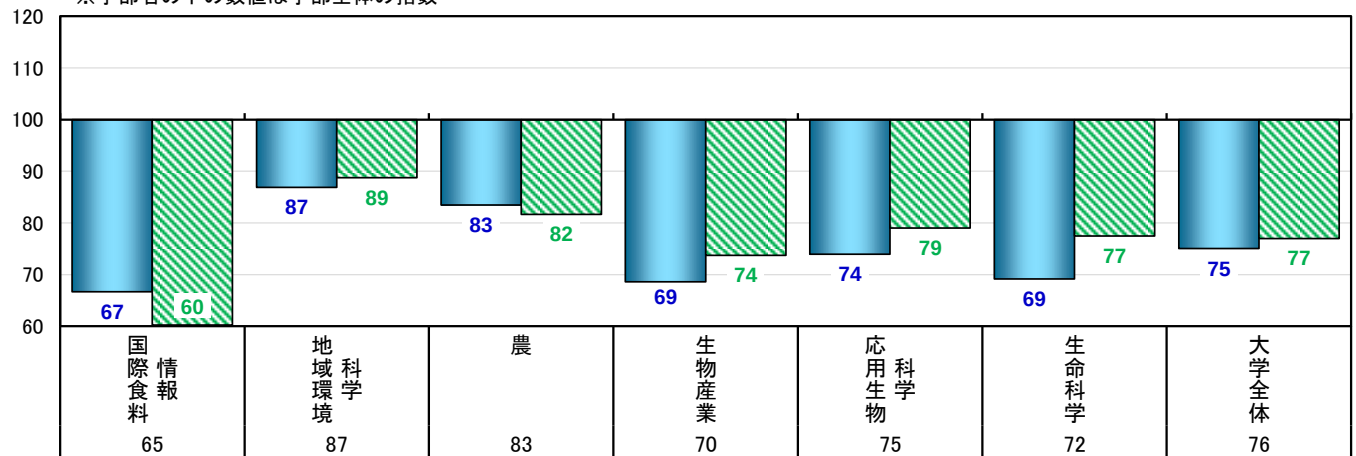
○システムデザイン工(118)は、大幅増加。学科別では、2学科とも大幅増加。いずれも2017年度開設以来、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈共テ・後期〉(148)が2年連続大幅増減少の反動で大幅増加。

東京農業大：大学全体では4年連続減少

一般：-4,986人 共テ：-2,155人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

募集人員：農(生物資源開発)…〈A日程〉74人→72人
 応用生物科学(農芸化学)…〈A日程〉98人→96人
 (醸造科学)…〈A日程〉96人→94人
 (食品安全健康)…〈A日程〉98人→96人
 (栄養科学)…〈A日程〉77人→76人
 生物産業(北方圏農学)…〈A日程〉40人→43人
 (海洋水産)…〈A日程〉40人→41人
 (食香料化学)…〈A日程〉40人→45人
 (自然資源経営)…〈A日程〉34人→40人
 生命科学(バイオサイエンス)…〈A日程〉98人→95人
 (分子生命科学)…〈A日程〉94人→93人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、系統への低い人気も影響して、7,141人(76)の大幅減少で4年連続減少。方式別では、一般方式は4,996人(75)の大幅減少で4年連続減少、共通テスト利用方式は2,155人(77)の大幅減少で2年ぶりの減少。

〈一般方式〉

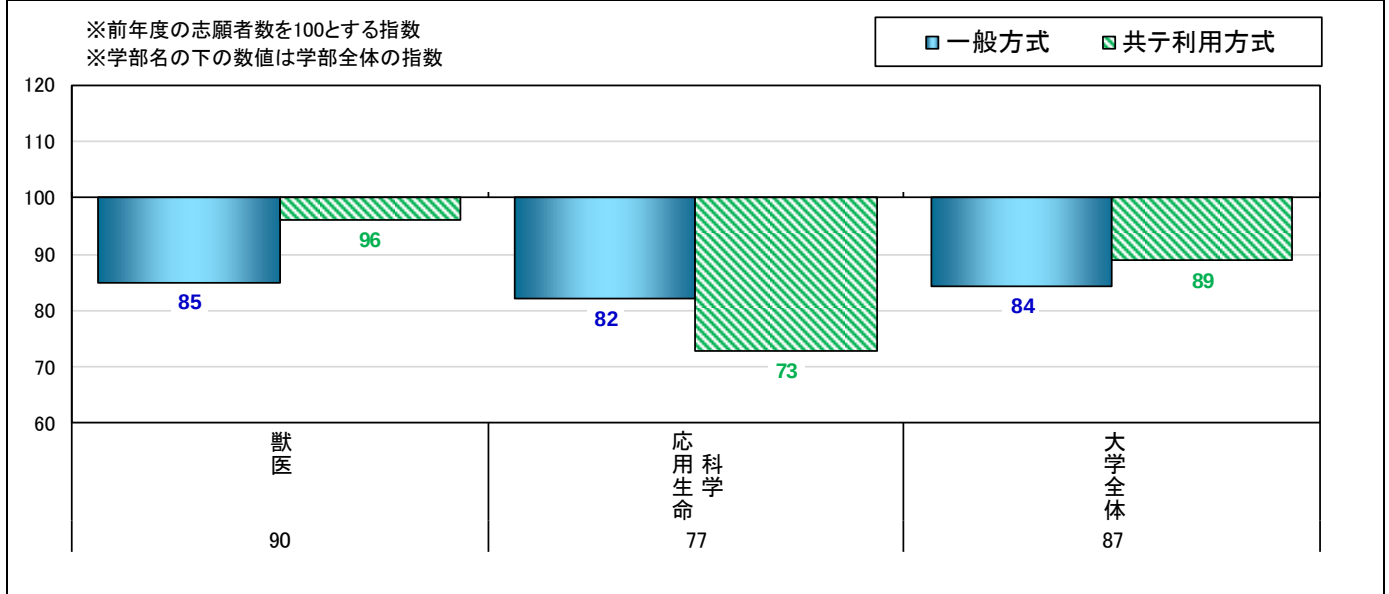
- 国際食料情報(67)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少し、特に(国際農業開発)(52)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減に近い大幅減少。
- 地域環境科学(87)は、2年連続減少。学科別では、4学科全てが減少し、特に(森林総合科学)(78)、(造園科学)(82)は大幅減少。
- 農(83)は、3年連続大幅減少。学科別では、(デザイン農)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、他の3学科はいずれも大幅減少。
- 生物産業(69)は、北海道オホーツクキャンパス設置であることから、コロナ禍による遠距離移動敬遠の影響もあって、大幅減少で7年連続減少。学科別では、4学科が全て大幅減少。
- 応用生物科学(74)は、2017年度の改組後、4年連続減少。学科別では、4学科全てが大幅減少。
- 生命科学(69)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、3学科全てが大幅減少。特に(分子微生物)(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 国際食料情報(60)は、大幅減少で3年ぶりの減少。4学科全てが大幅減少し、特に(国際農業開発)(46)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。
- 地域環境科学(89)は、減少で2年連続減少。学科別では、(生産環境工)(132)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。他の3学科はいずれも大幅減少。
- 農(82)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(デザイン農)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。他の3学科はいずれも大幅減少。
- 生物産業(74)は、北海道オホーツクキャンパス設置であることから、コロナ禍による遠距離移動敬遠の影響もあって、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、4学科全てが減少し、特に(北方圏農学)(56)は2018年度改組後初めての減少で大幅減少。
- 応用生物科学(79)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、4学科全てが減少で、(栄養科学)(87)を除いた3学科はいずれも大幅減少。
- 生命科学(77)は、大幅減少で2年ぶりの減少。学科別では、(分子生命化学)(98)は微減だが、他の2学科は(分子微生物)(69)、(バイオサイエンス)(71)といずれも大幅減少。

日本獣医生命科学大：大学全体では2年連続減少

一般：-290人 共テ：-193人



入試変更点	選抜方法：獣医(獣医)…<共テ・第1回5科目>→<共テ・第1回5科目>、<共テ・第1回3科目> ※3科目を新設 入試科目：全学部<共テ><共テ併用>…英(筆記)→英(リーディング)+英(リスニング) ※英(リスニング)追加 獣医(獣医)<共テ・第1回5科目>…共テ：理(化 or 生→1)→理(物 or 化 or 生→1) ※物の選択追加 応用生命科学<共テ併用>…共テ：数Ⅰ・A+数Ⅱ・B→(数Ⅰ・A or 数Ⅱ・B)→1 ※1科目選択に 募集人員：獣医(獣医保健看護)…<一般・第3回>6人→5人 <共テ・第1回>8人→7人、<共テ併用・第2回>8人→7人 応用生命科学(食品科学)…<一般・第1回>35→21人、<一般・第3回>8人→5人 <共テ・第1回>6人→5人、<共テ併用・第2回>10人→5人 (動物科学)…<一般・第1回>46→40人、<一般・第3回>8人→6人 <共テ・第2回>3人→2人、<共テ併用・第2回>8人→7人
-------	---

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、483人(87)の減少で2年連続減少だが、獣医(獣医)を除く2学部3学科で募集人員が減少したことで、大学全体の志願倍率は13.7倍→14.0倍へアップ。学部別では、2学部いずれも減少で、応用生命科学(77)は2年連続大幅減少、獣医(90)は2年連続減少。方式別では、一般方式(84)が大幅減少、共通テスト利用方式(89)は減少で、いずれも2年連続減少。

<一般方式>

- 獣医(85)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(獣医保健看護)(103)はやや増加、2018年度以降の志願者数は320人前後で推移。(獣医)(80)は大幅減少で2年連続減少。募集単位別では、(獣医保健看護)<第3回>(138)が大幅増加、募集人員(前年度募集人員対比指数83)減少も影響し、志願倍率は9.2倍→15.2倍へアップ。その他の方式は、いずれも減少。
- 応用生命科学(82)は、大幅減少で5年連続減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数74)の減少で、志願倍率は逆に3.9倍→4.3倍へアップ。

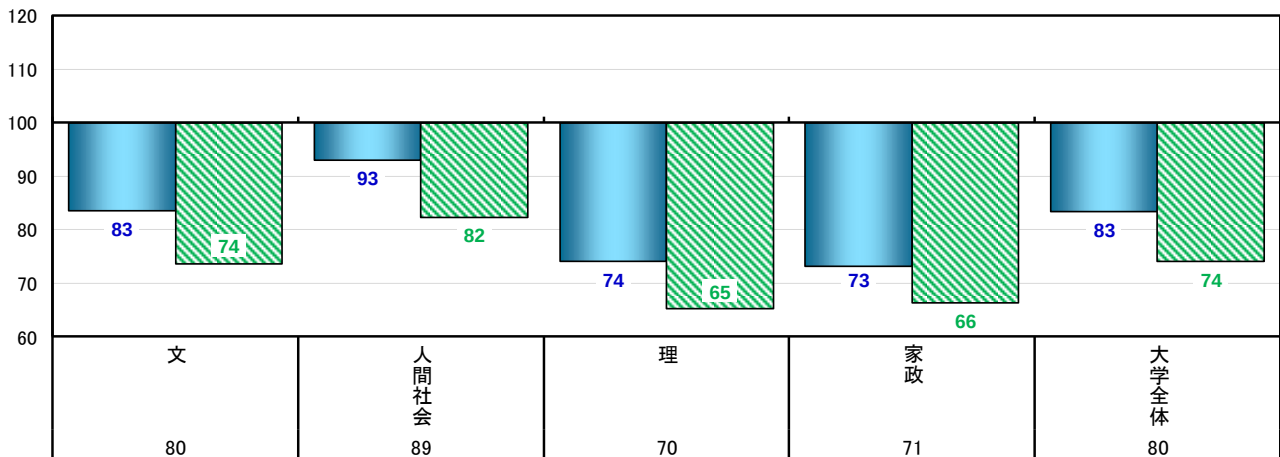
<共通テスト利用方式>

- 獣医(96)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(獣医保健看護)(89)は、減少で2年連続減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数88)減少で、志願倍率は19.1倍→19.5倍へアップ。(獣医)(98)は、微減で4年連続減少。新設の<共テ・第1回3科目>を除くと(58)と減少率40%を超える大幅減少。
- 応用生命科学(73)は、大幅減少で2年連続減少。<共テ併用>で数学の負担を軽減したが、特に影響はなかった。学科別では、(動物科学)(72)は、大幅減少で2年連続減少。(食品科学)(74)は2年連続大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数50)減少で、志願倍率は逆に10.1倍→14.8倍へとアップ。募集単位別では、(動物科学)<第2回>(220)が前年度70%以上激減の反動で、倍増を超える激増。

日本女子大：大学全体では2年連続減少 全ての学部で減少 一般：-1,181人 共テ：-1,193人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

キャンパス移転：人間社会…全学年とも目白キャンパスへ移転
 選抜方法：理、家政…＜一般・3教科型＞新規実施
 理…＜一般・英語外部試験利用型＞1科目判定→2科目判定
 家政(家政経済、食物、児童、被服、住居)…＜一般・英語外部試験利用型＞1科目判定→2科目判定
 募集人員：文(英文)…＜共テ・前期＞18人→10人、＜共テ・後期＞8人→5人
 (日本文)…＜共テ・前期＞15人→10人
 (史学)…＜共テ・前期＞14人→13人、＜共テ・後期＞8人→7人
 人間社会(現代社会)…＜共テ・前期＞10人→5人、＜共テ・後期＞3人→2人
 (社会福祉)…＜共テ・前期＞11人→4人、＜共テ・後期＞4人→3人
 (心理)…＜共テ・前期＞8人→3人
 (文化)…＜共テ・前期＞10人→5人、＜共テ・後期＞5人→3人
 理(数物科)…＜共テ・前期＞15人→14人、＜共テ・後期＞5人→4人
 入試科目：人間社会…＜一般＞、＜一般・英語外部試験利用型＞国+(歴 or 数) ※数：数IA+数II
 →国+(歴 or 数) ※数：数IA+数IIB
 理(数物科学)…＜一般・英語外部試験利用型＞数→数+理
 家政(住居/居住環境)…＜一般＞外+(国 or 数)→外+(国 or 数 or 理)
 (住居/居住環境)…＜一般・英語外部試験利用型＞(国 or 数)→(国 or 数 or 理)→2
 (住居/建築デザイン)…＜一般＞数+外→外+(数 or 理)
 (住居/建築デザイン)…＜一般・英語学部試験利用型＞数→(国 or 数 or 理)→2

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、2,374人(80)の大幅減少で2年連続減少。志願者数は1万人を下回った。学部別では、理(70)、家政(71)、文(80)の3学部が大幅減少、人間社会(89)が減少。方式別では、共通テスト利用方式(74)が2年連続大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数72)も減少し、志願倍率は19.7倍→20.2倍へアップ。一般方式(83)も大幅減少で3年ぶり減少。

＜一般方式＞

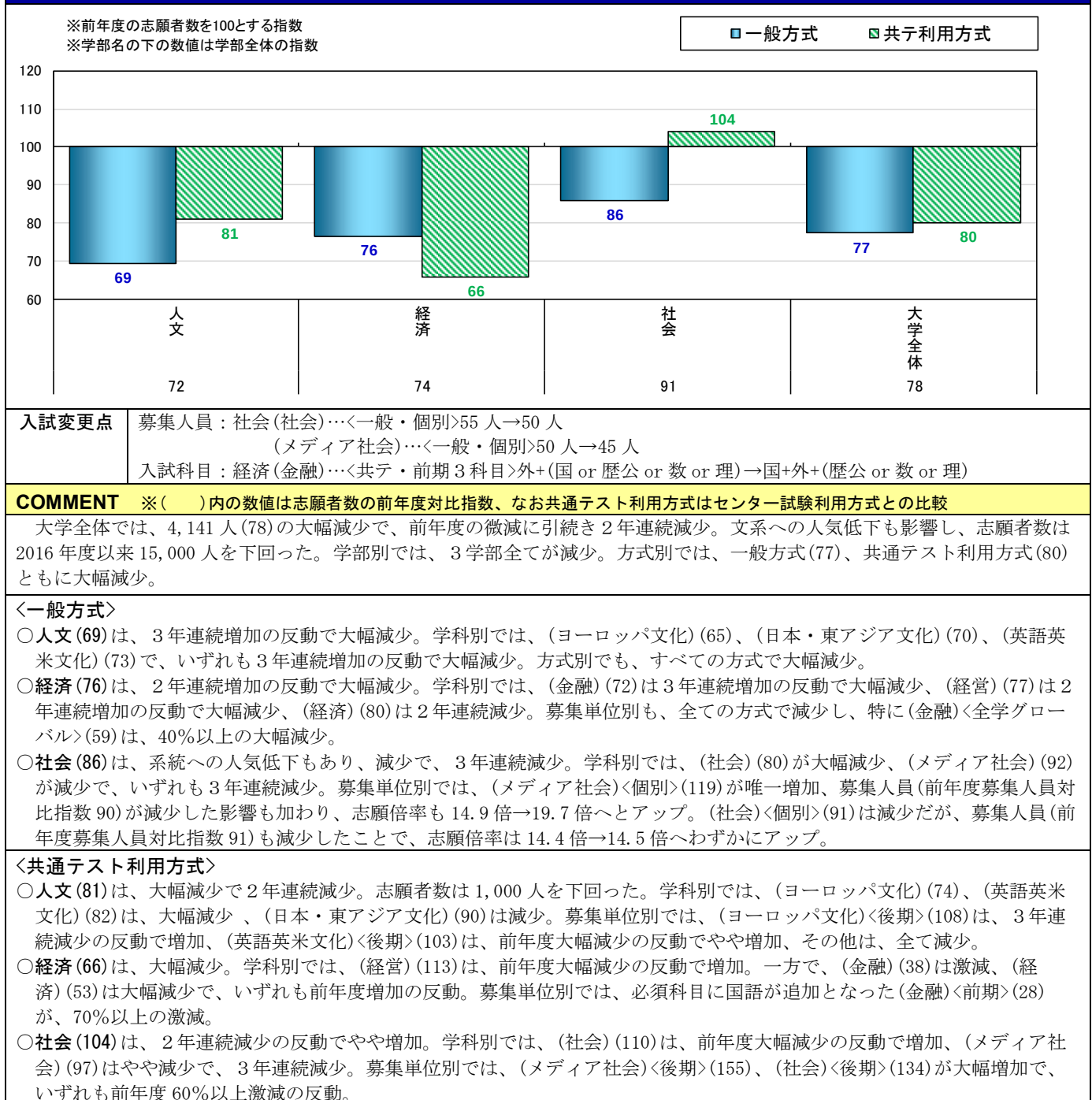
- 文(83)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(日本文)(79)が大幅減少で2年連続減少、(史学)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、英文(89)が2年連続増加の反動で減少。
- 人間社会(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(現代社会)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。(教育)(76)は2年連続増加の反動で大幅減少、(文化)(89)、(心理)(90)、(社会福祉)(92)は2年連続減少。
- 理(74)は、大幅減少、新規実施方式を除くと(56)で40%以上減少。前年度大幅増加の反動に加え、＜英語外部試験利用型＞(36)での判定科目数や入試科目の増加が影響した。学科別では、2学科いずれも大幅減少。
- 家政(73)は、大幅減少、新規実施方式を除くと(60)で40%減少。前年度増加の反動や、＜英語外部試験利用型＞(20)での判定科目数や入試科目増加が影響した。学科別では、特に(家政経済)(46)が、前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。

＜共通テスト利用方式＞

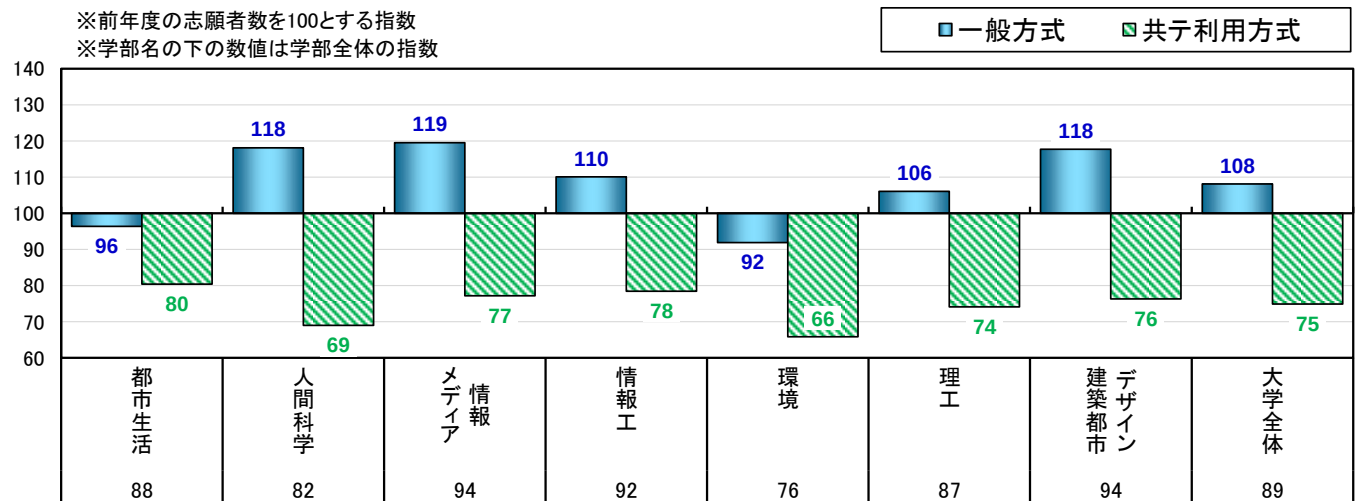
- 文(74)は、2年連続大幅減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数73)も大幅減少で、志願倍率は18.7倍→18.9倍とわずかにアップ。学科別では、3学科全てで大幅減少。
- 人間社会(82)は、大幅減少で2年連続減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数61)も大幅減少で、志願倍率は25.2倍→33.9倍へとアップ。学科別では、(現代社会)(68)、(心理)(68)の大幅減少が目立った。
- 理(65)は、大幅減少で2年ぶりに減少。学科別では、(数物科)(60)は2年連続大幅減少、(物質生物科学)(70)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 家政(66)は、2年連続大幅減少。学科別では、(家政経済)(45)、(被服)(49)は前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。(住居)(73)は大幅減少で3年連続減少、(児童)(81)は2年連続減少、(食物)(86)は3年連続減少。

武蔵大：大学全体では2年連続減少、人文、経済が大幅減少

一般：-3,174 人 共テ：-967 人



東京都市大：志願者数は4年ぶりに減少で3万人を下回る 一般：+1,033人 共テ：-4,460人



入試変更点

入試科目：全学部＜共テ・前期、後期＞…筆記 or (筆記+リスニング) ※高得点採用→英語にリスニングを課す
 全学部＜共テ・後期＞…調査書を点数化しない→調査書を点数化する
 理工、建築都市デザイン＜共テ・前期3教科＞＜後期＞
 …数2+(国 or 歴公 or 理 or 外)→2 →数2+理+(国 or 歴公 or 外) ※理科が選択から必須に
 名称変更：理工(エネルギー化学)→理工(応用化学)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、前年度に情報工、理工、建築都市デザイン3学部で改組を行ったが、今年度は3,427人(89)の減少で4年ぶりの減少で志願者数は3万人を下回った。方式別では、一般方式(108)は1,033人(108)増加だが、共通テスト利用方式(75)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 都市生活(96)は、減少で2年連続減少。方式別では、＜前期3＞(101)は微増だが、＜中期2＞(88)、＜後期2＞(88)は減少。
- 人間科学(118)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- メディア情報(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも増加し、(情報システム)(125)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(社会メディア)(112)は前年度減少の反動で増加。
- 情報工(110)は、改組2年目だが系統への高い人気もあり増加。学科別では、(情報科学)(132)は大幅増加だが、(知能情報工)(83)は大幅減少と対照的。
- 環境(92)は、減少で2年連続減少。学科別では、2学科とも減少で、(環境経営システム)(87)は減少、(環境創生)(96)はやや減少。
- 理工(106)は、改組2年目でやや増加。学科別では、(機械システム工)(131)は大幅増加、(電気電子通信工学)(109)、(自然科学)(108)は増加。一方で、(医用工)(92)、(機械工)(92)、(原子力安全工)(92)は減少と3学科ずつ増減が分かれた。
- 建築都市デザイン(118)は、改組2年目で大幅増加。学科別では、2学科とも増加で、(建築)(125)は大幅増加、(都市工学)(107)はやや増加。

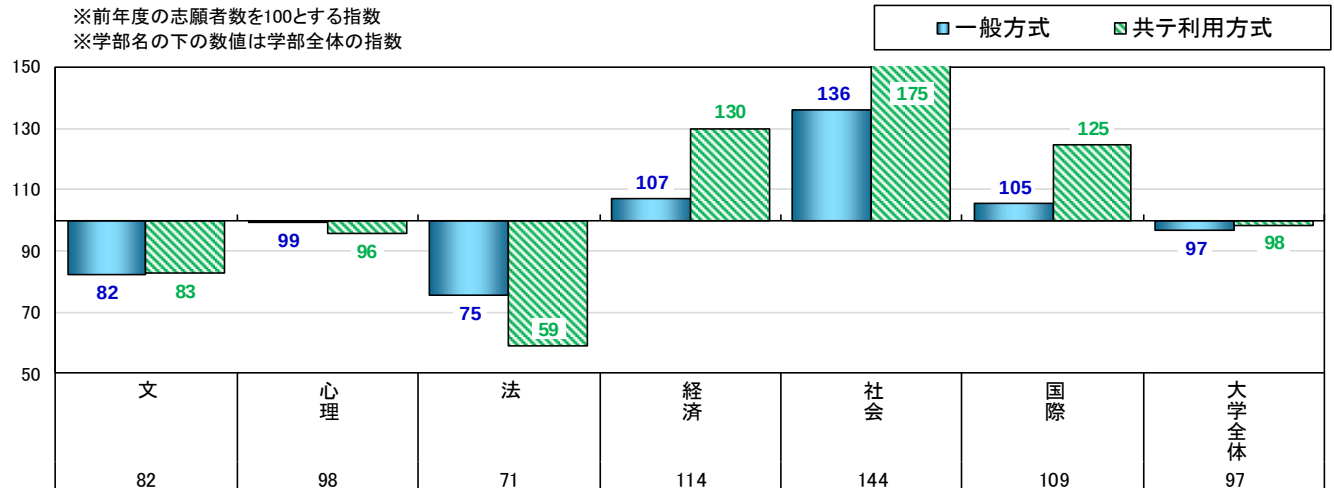
＜共通テスト利用方式＞

- 都市生活(80)は、前年度の微減に引続き大幅減少。
- 人間科学(69)は、3年連続増加の反動で大幅減少。
- メディア情報(77)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、2学科とも大幅減少。
- 情報工(78)は、改組2年目で大幅減少。学科別では、(知能情報工)、(情報科学)(82)のいずれも大幅減少。
- 環境(66)は、5年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(環境経営システム)(63)は大幅減少、(環境創生)(68)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 理工(74)は、大幅減少。学科別では、6学科全てが大幅減少で、特に(医用工)(64)は35%以上の大幅減少。
- 建築都市デザイン(76)は、改組2年目で大幅減少。学科別では、(都市工)(72)、建築(80)のいずれも大幅減少。

明治学院大：大学全体では3年連続減少

一般：-516人 共テ：-94人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、610人(97)のやや減少だが3年連続減少。学部別では、社会(144)が前年度60%近い大幅減少の反動で大幅増加、(法)(71)は前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、一般方式(97)でやや減少、共通テスト利用方式(98)は前年度並だが、いずれも3年連続減少。

<一般方式>

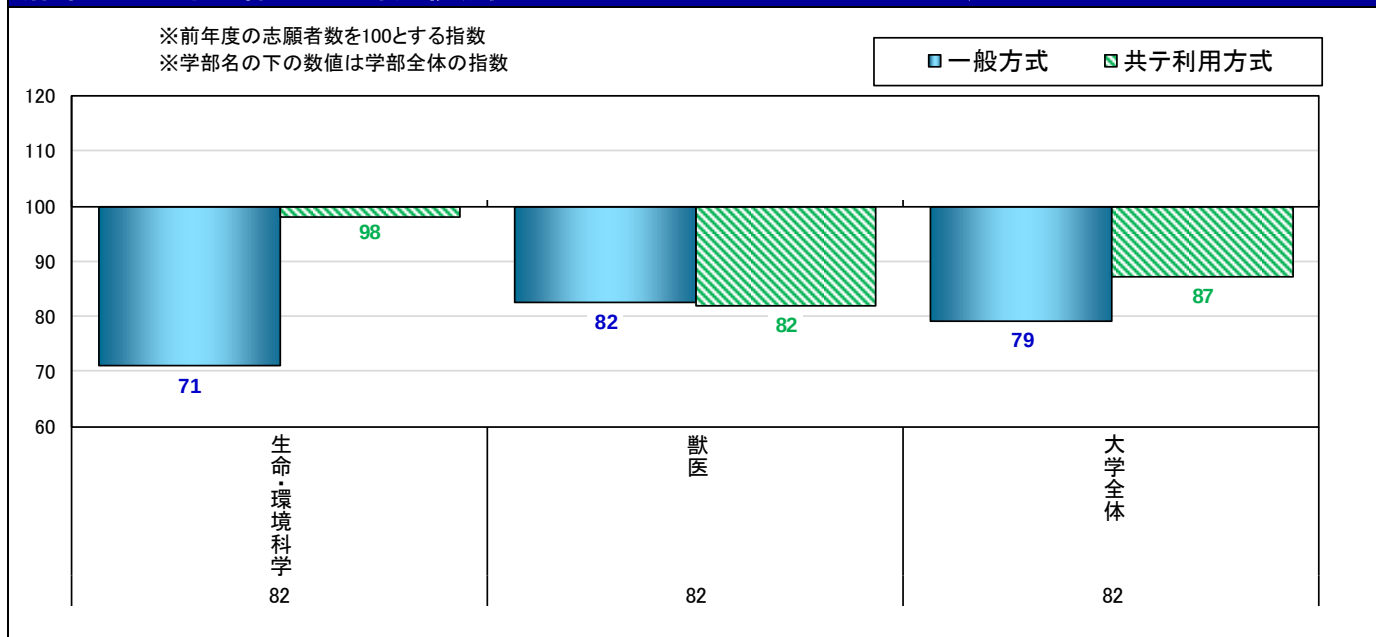
- 文(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(フランス文)(49)が半減以下の大幅減少、(芸術)(93)はやや減少、(英文)(98)は、前年度並だが3年連続減少。
- 心理(99)は、前年度並。学科別では、(教育発達)(115)は2年連続減少の反動で大幅増加。(心理)(91)は前年度減少の反動はなく、2年連続減少。
- 法(75)は、前年度やや増加の反動と系統への人気低下で大幅減少。学科別では、(法律)(102)が前年度並、他の3学科は全て大幅減少。特に、(消費情報環境法)(50)は前年度激増の反動で半減。
- 経済(107)は、系統への人気は低下しているが、2年連続減少の反動でやや増加。学科別では、(経営)(126)が、2年連続減少の反動で大幅増加。(国際経営)(96)、(経済)(97)はいずれもやや減少で、3年連続減少。
- 社会(136)は、系統への人気は低下しているが、前年度40%以上の大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科ともに大幅増加で、(社会福祉)(161)は前年度60%以上の激減の反動で激増、(社会)(126)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 国際(105)は、系統への人気は低下しているが、3年連続減少の反動でやや増加。学科別では、(国際キャリア)(128)は4年連続減少の反動で大幅増加、(国際)(99)は微減だが2年連続減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(芸術)(127)は大幅増加で2年連続増加、(英文)(125)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(フランス文)(22)は、前年度3倍増の反動でほぼ8割減となり、極端な増減が継続。
- 心理(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(教育発達)(106)は前年度40%以上の大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。心理(92)は、2年連続減少。
- 法(59)は、前年度大幅増加の反動と系統への人気低下で大幅減少、志願者数は900人を下回った。学科別では、すべての学科で減少、特に(消費情報環境法)(31)は激減で、前年度の反動による極端な増減が継続。
- 経済(130)は、系統への人気は低下しているが、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが大幅増加で、いずれも2年連続大幅減少の反動。
- 社会(175)は、前年度8割減の反動で大幅増加。学科別では、(社会)(163)、(社会福祉)(209)で2学科とも激増。
- 国際(125)は、系統への人気は低下しているが、前年度半減近い大幅減少の反動で大幅増加。

麻布大：大学全体では3年連続減少

一般：-564 人 共テ：-211 人



入試変更点

選抜方法：生命・環境科学、獣医…＜共テ・第II期＞新規実施
 募集人員：生命・環境科学(臨床検査技術)…＜一般・第I期＞50人→45人
 (食品生命科学)…＜一般・第I期＞45人→40人
 (環境科学)…＜一般・I期＞45人→40人
 入試科目：生命・環境科学…＜共テ＞(数 or 理 or 外)→2 ※理：物 or 化 or 生
 →(数 or 理 or 外)→2 ※理：物 or 化 or 生 or 地学

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、775人(82)の大幅減少で3年連続減少し、志願者数は2017年度以来の3千人台。学部別では、2学部が共に大幅減少し、いずれも3年連続減少。方式別では、一般方式(79)が大幅減少で3年連続減少、共通テスト利用方式(87)は減少だが、新規の第II期を除くと(83)の大幅減少で3年連続減少。

＜一般方式＞

○生命・環境科学(71)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(環境科学)(64)は30%以上の大幅減少、(臨床検査技術)(72)は2年ぶりの大幅減少、(食品生命科学)(76)は2年連続大幅減少。方式別でも、全ての方式で大幅減少し、特に(食品生命科学)＜第II期＞(35)は激減。

○獣医(82)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(動物応用科学)(64)が大幅減少、(獣医)(87)は減少で、いずれも3年連続減少。方式別では、(獣医)＜第I期＞(91)の減少を除く他の方式は全て大幅減少、特に(動物応用科学)＜第II期＞(38)は激減。

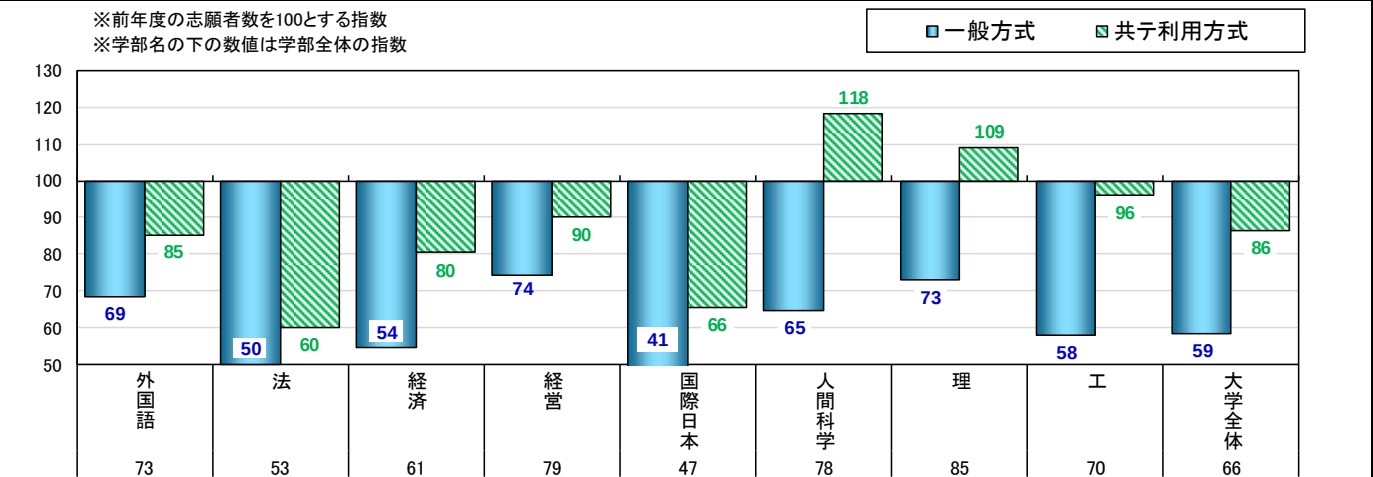
＜共通テスト利用方式＞

○生命・環境科学(98)は、前年度並だが既存の第I期(92)のみでは減少。学科別では、(食品生命科学)(114)、(臨床検査技術)(108)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(環境科学)(78)は、2年連続大幅減少。既存の第I期のみでは、(食品生命科学)(110)は増加、(臨床検査技術)(103)はやや増加。一方で、(環境科学)(71)は2年連続大幅減少。

○獣医(82)は、大幅減少で3年連続減少。志願者数は2017年度以来4年ぶりに1,000人を下回った。学科別では、(動物応用科学)(70)は大幅減少、(獣医)(89)は減少でいずれも3年連続減少。既存の第I期のみでは、(動物応用科学)(67)は大幅減少、(獣医)(84)も大幅減少。

神奈川大：大学全体では6年ぶり減少、全学部で大幅減少

一般：-10,806人 共テ：-1,415人



入試変更点

入試日程：全学部（給費生）…12/22→2/4 ※コロナ禍への対応のため
 募集人員：経営（国際経営）…＜一般・前期B＞30人→40人、＜一般・後期A＞12人→20人、
 ＜共テ・前期3教科＞40人→45人
 入試科目：経営（国際経営）＜共テ・後期4教科型＞…国+歴公+数+外→国+歴公+外+（数 or 理 or 理基2）

COMMENT ※（ ）内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、12,221人(66)の大幅減少で6年ぶり減少。学部別では、8学部全てが大幅減少で、特に、新設2年目の国際日本(47)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下もあり、半減以下の大幅減少。方式別では、一般方式(59)が大幅減少、志願者数は2018年度以降2万人を超えていたが、15,000人台まで減少した。特に、（給費生）(32)が、コロナ禍への対応として、試験日を12月から2月に変更した影響で前年度の3分の1以下に激減。共通テスト利用方式(86)は、前年度増加の反動で減少し、志願者数は2017年度入試以来9,000人を下回った。

＜一般方式＞

- 外国語(69)は、2年連続大幅減少。学科別では、3学科全てで大幅減少。特に、スペイン語(47)は、4年連続増加の反動で半減以下の減少。
- 法(50)は、半減で6年ぶりの減少。学科別では、（自治行政）(40)が60%の激減、（法律）(54)も大幅減少。
- 経済(54)は、大幅減少で2年連続減少。学科・専攻別では、（経済／経済分析）(35)が2年連続大幅増加の反動で60%以上の激減、（現代ビジネス）(48)は半減以下の大幅減少、（経済／現代経済）(61)は2年連続大幅減少。
- 経営(74)は、大幅減少で7年ぶり減少。募集人員（前年度募集人員対比指数103）増加も影響して、志願倍率は12.7倍→9.1倍へとダウン。
- 開設2年目の国際日本(41)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下で、激減に近い大幅減少。学部一括募集の（給費生）を除いた学科別では、（歴史民俗）(42)、（日本文化）(43)、（国際文化交流）(61)でいずれも大幅減少。
- 人間科学(65)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、＜給費生＞(35)は試験日を12月から2月に変更した影響もあって激減で、志願者数はわずかに300人を超えるに留まった。
- 理(73)は、3年連続増加の反動で大幅減少。全ての学科・プログラムで大幅減少。
- 工(58)は、3年連続増加の反動で40%以上の大幅減少。全ての学科・プログラムで大幅減少し、特に、（総合工学プログラム）(37)の激減が目立った。

＜共通テスト利用方式＞

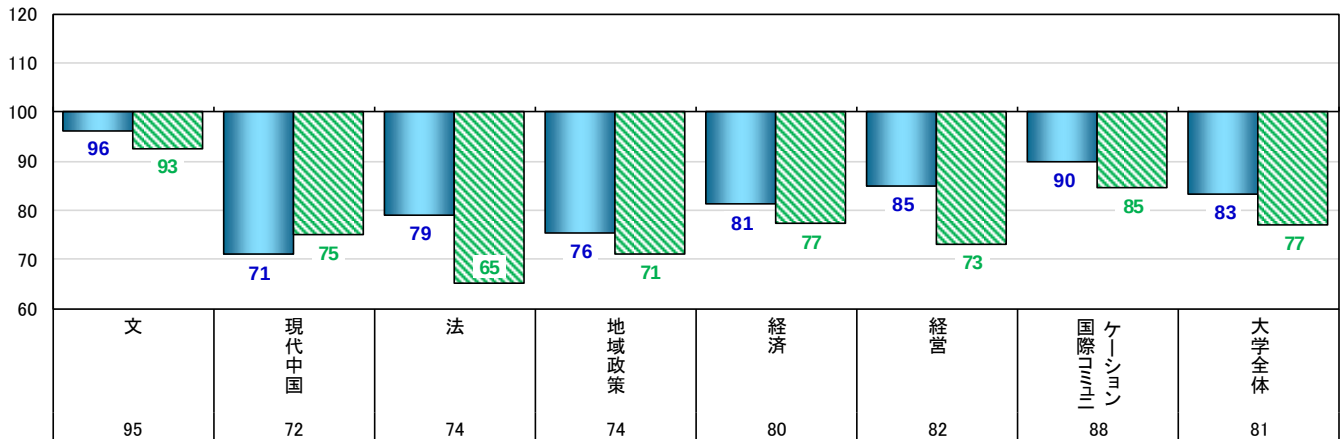
- 外国語(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、（スペイン語）(55)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、他の2学科はいずれも前年度並。
- 法(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、（法律）(59)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、（自治行政）(63)は、2年連続大幅減少。
- 経済(80)は、大幅減少で3年連続減少。学科・専攻別では、3学科・専攻とも減少し、（現代ビジネス）(78)、（経済／現代経済）(80)は3年連続減少、（経済／経済分析）(89)は2年連続減少。
- 経営(90)は、減少で3年連続減少。募集人員（前年度募集人員対比指数107）増加も影響して、志願倍率は15.9倍→13.4倍へとダウン。
- 開設2年目の国際日本(66)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下も影響し、大幅減少。全ての学科、全ての方式で大幅減少。
- 人間科学(118)は、大幅増加で、前年度5年ぶりの大幅減少から再び増加。
- 理(109)は、2年連続増加。学科・プログラム別では、（化学）(107)がやや増加で2年連続増加、（情報科学）(108)は5年連続増加、（総合理学プログラム）(108)は3年連続増加、（数理・物理）(110)は2年連続増加。前年度唯一減少だった（生物科学）(112)も増加。
- 工(96)は、やや減少で4年ぶり減少。学科・プログラム別では、（電気電子情報工）(119)が大幅増加、（機械工）(109)は増加で、いずれも2年連続増加。（情報システム創成）(109)は前年度微減だったが再び増加。一方で、（建築）(96)はやや減少だが、3年連続減少、（経営工）(77)、（物質生命化学）(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、（総合工学プログラム）(70)は2年連続大幅減少。

愛知大：大学全体では2年連続減少、全学部で減少

一般：-2,603人 共テ：-1,682人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■共テ利用方式



入試変更点

学科新設：文(人文社会／歴史・地理学)、文(人文社会／日本語日本文学)→文(歴史・地理学)、文(日本語日本文学)
 選抜方法：文(人文社会)＜一般・M方式＞＜一般・後期＞＜共テ・後期＞…学科一括募集→コース別募集
 ＜一般・M方式＞＜一般・前期＞＜一般・後期＞…英語外部試験の利用可
 対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL iBT、TOEIC L&R、TOEIC L&R+S&W
 得点加算・英の得点率が70%以上取得した場合のみ加算対象、30点上限加算
 募集人員：文(人文社会／現代文化)…＜一般・M方式＞22人→4人、＜一般・後期＞22人→5人、
 ＜共テ・併用＞7人→6人、＜共テ・前期3＞5人→6人、
 ＜共テ・後期＞10人→2人
 (人文社会／社会学)…＜一般・M方式＞22人→3人、＜一般・前期＞22人→18人、
 ＜一般・後期＞22人→3人、＜共テ・併用＞7人→6人、
 ＜共テ・前期3＞6人→5人、＜共テ・後期＞10人→2人
 (人文社会／欧米言語文化)…＜一般・M方式＞22人→3人、＜一般・前期＞18人→20人、
 ＜一般・後期＞22人→5人、＜共テ・併用＞6人→7人、
 ＜共テ・前期3＞4人→5人、＜共テ・後期＞10人→5人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,285人(81)の大幅減少で2年連続減少。方式別では、一般方式は2,603人(83)の大幅減少、共通テスト利用方式が1,682人(77)の大幅減少で2年連続減少。学部別では、全学部で減少。特に、文(95)、国際コミュニケーション(88)を除く5学部は大幅減少。なお、文は、学科を新設したが、一般方式(96)、共通テスト利用方式(93)のいずれもやや減少。

<一般方式>

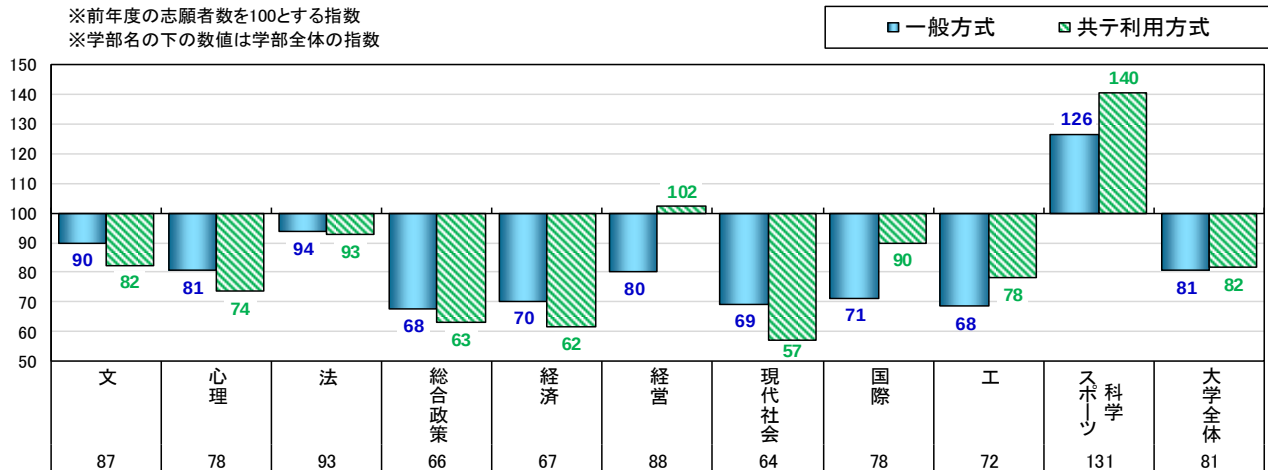
- 文(96)は、5年連続増加の反動は小さくやや減少。なお、＜一般・M方式＞＜一般・後期＞が学科一括募集からコース別募集に変わったので、単純に学科・専攻別の前年度との比較はできない。
- 現代中国(71)は、2年連続増加の反動で減少率30%近い大幅減少。
- 法(79)は、3年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は7年ぶりに2,000人を下回った。
- 地域政策(76)は、前年度2年ぶりの微増から大幅減少。専攻別では、(地域政策／食農環境)(104)が唯一のやや増加。一方で、(地域政策／公共政策)(87)が3年連続減少、それ以外の4専攻はいずれも大幅減少。特に、前年度大幅増加の(地域政策／地域文化)(54)が半減近い。
- 経済(81)は、前年度の大幅増加の反動で大幅減少、前年度3,000人を上回った志願者数は、2,500人を下回った。
- 国際コミュニケーション(90)は、系統への人気低下から減少。学科別では、(国際教養)(81)が大幅減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(93)は、系統の人気低下もあり、2年連続減少。なお、＜共テ・後期＞が学科一括募集からコース別募集に変わったので、単純に学科・専攻別の前年度との比較はできない。
- 現代中国(75)は、前年度大幅減少に引続き、2年連続大幅減少。志願者数は7年ぶりに300人を下回った。
- 法(65)は、系統の人気低下に加えて2年連続増加の反動もあって大幅減少。志願者数は900人を下回った。
- 地域政策(71)は、前年度大幅減少に引続き、2年連続大幅減少。専攻別では、(地域政策／食農環境)(136)が2年連続減少の反動で、増加率30%以上の大幅増加、それ以外の5専攻はいずれも大幅減少。特に、(地域政策／健康・スポーツ)(51)、(地域政策／まちづくり)(60)、(地域政策／公共政策)(65)は前年度大幅減少に引続き、2年連続大幅減少。
- 経済(77)は、大幅減少で2年連続減少。志願者数は3年ぶりに1,000人を下回った。
- 経営(73)は、2年連続大幅減少。学科別では、(会計ファイナンス)(55)が前年度大幅増加の反動でほぼ半減、(経営)(86)は2年連続減少。志願者数は6年ぶりに900人を下回った。
- 国際コミュニケーション(85)は、系統への人気低下もあって、2年連続大幅減少。学科別では、2学科がいずれも2年連続減少、特に(国際教養)(73)は大幅減少。

中京大：大学全体では大幅減少、2 学科新設のスポーツ科学のみ増加 一般：-4,577 人 共テ：-2,726 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点 学科新設：スポーツ科学(スポーツマネジメント)、(トレーナー)
 選抜方法：心理、経済、スポーツ科学<一般・前期M方式(理系)>…廃止
 経済、工<一般・後期F方式・理系1教科型>…廃止
 スポーツ科学<共テ・前期競技実績2科目型>、<共テ・後期競技実績2科目型>…新規実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、7,303 人(81)の大幅減少。方式別では、一般方式は、4,577 人(81)の大幅減少で、5 年ぶりに2 万人を下回った。共通テスト利用方式は、2,726 人(82)の大幅減少。学部・方式別では、学科を新設したスポーツ科学は一般方式(126)、共通テスト方式(140)のいずれも大幅増加。ただし、新設の2 学科を除くと、一般方式(99)は前年度並、共通テスト利用方式(75)は大幅減少。経営は、共通テスト方式(102)が微増、他は全て減少。

<一般方式>

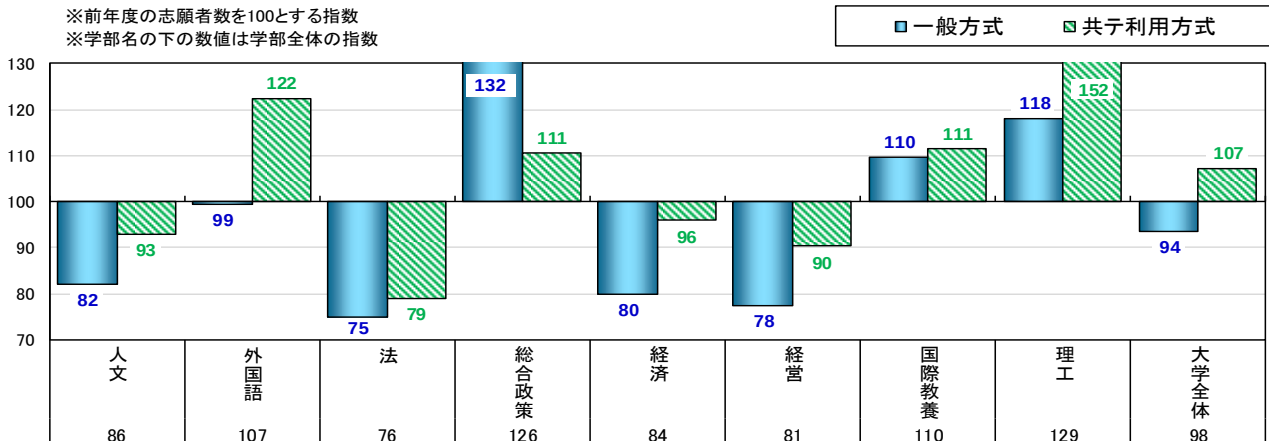
- 文(90)は、前年度やや増加の反動で減少。学科別では、(言語表現)(110)が唯一増加。一方で、歴史文化(82)、日本文(83)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。
- 心理(81)は、前年度増加の反動で大幅減少。
- 法(94)は、系統への低い人気もあり、やや減少で4 年連続減少。
- 総合政策(68)は、減少率 30%以上の大幅減少で2 年連続大幅減少。志願者数は約 1,200 人にまで減少。
- 経済(70)は、前年度大幅増加の反動と系統の人気低下で大幅減少。志願者数は2,000 人を下回った。
- 経営(80)は、前年度増加の反動と系統の人気低下で大幅減少。志願者数は2,000 人を下回った。
- 現代社会(69)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別でも、4 専攻全てが大幅減少、特に(現代社会／社会福祉)(54)は前年度増加率 70%近い大幅増加の反動で半減に近い大幅減少。
- 国際(71)は、改組2 年目だが、系統への低い人気から大幅減少。学科別では、5 学科全てで大幅減少。特に、(国際／国際経済学)(53)は半減に近い減少。
- 工(68)は、4 年連続増加の反動で減少率 30%以上の大幅減少。志願者数は3 年ぶりに3,000 人台となった。学科別では、4 学科全てで大幅減少。特に、(電気電子工)(61)は前年度激増の反動で減少率約 40%の大幅減少。(機械システム工)(66)は4 年連続増加の反動で大幅減少。
- スポーツ科学(126)は、学科新設で大幅増加。前年度募集人員対比指数(115)を上回った。ただし、新設2 学科を除くと(72)の大幅減少。学科別では、(スポーツ教育)(107)はやや増加、(競技スポーツ科学)(49)は2 年連続増加の反動で半減以下、(スポーツ健康科学)(57)は減少率 40%以上の大幅減少で2 年連続減少。新設2 学科の志願倍率は、(トレーナー)は36.9 倍で5 学科中最も高く、(スポーツマネジメント)は33.3 倍で2 番目だった。

<共通テスト利用方式>

- 文(82)は、大幅減少。学科別では(言語表現)(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(歴史文化)(70)、日本文(71)はいずれも大幅減少と対照的。
- 心理(74)は、大幅減少で2 年連続減少。
- 法(93)は、2 年連続やや減少。
- 総合政策(63)は、減少率 40%近い大幅減少で2 年連続減少。
- 経済(62)は、前年度大幅増加の反動で減少率 40%近くの大幅減少。
- 経営(102)は、微増だが、2 年ぶりに増加。
- 現代社会(57)は、前年度大幅増加の反動で減少率 40%以上の大幅減少。専攻別では、4 専攻全てが大幅減少で、(現代社会／社会福祉)(51)、(現代社会／国際文化)(52)、(現代社会／コミュニティ)(55)はほぼ半減。
- 国際(90)は、改組2 年目だが、系統への低い人気から減少。専攻別では、(国際／国際政治学)(126)は大幅増加。(国際／国際人間)はやや減少、他の3 専攻は減少率 10%以上の減少。
- 工(78)は、前年度の微減続いて大幅減少。学科別では、4 学科全てで減少。特に、(電気電子工)(66)、(機械システム工)(74)は大幅減少。
- スポーツ科学(140)は、学科新設で大幅増加。ただし、前年度募集人員対比指数(179)は下回った。なお、新設2 学科を除くと(75)の大幅減少。学科別では、(スポーツ健康科学)(50)は半減、(競技スポーツ科学)(58)は減少率 40%以上の大幅減少。新設2 学科の志願倍率は、(トレーナー)は19.3 倍で5 学科中最も高く、(スポーツマネジメント)は17.3 倍で2 番目だった。

南山大：大学全体では4年連続減少、ただし理工は4年連続増加 一般：-999人 共テ：+494人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数



入試変更点

学科改組：理工…(ソフトウェア工)、(システム数理)、(機械電子制御工)→(ソフトウェア工)、(データサイエンス)、(電子情報工)、(機械システム工)
出願書類：全学部…出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験の提出を求める。
「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験を記入。 ※可否判定には使用しない。
選抜方法：理工<一般・B方式>…廃止
理工…第2志望制実施
全学部<共テ併用・全学統一><共テ>
…英語外部試験の対象試験追加
英検、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL iBT→ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT
…英語外部試験のスコア変更
英検(総合)2,304点以上、GTEC CBT(総合)1,260点以上、GTEC CBT(各技能)250点以上、IELTS(総合)6.0以上、TEAP(総合)334点以上
→英検(総合)2,300点以上、GTEC CBT(総合)1,190点以上、GTEC CBT(各技能)175点以上、IELTS(総合)5.5以上、TEAP(総合)<共テ・後期>を新設したが309点以上
募集人員：人文(人類文化)…<一般>55人→56人、<セ・前3科>3人→<共テ・前3科>4人、
<セ・前5科>4人→<共テ・前5科>4人
外国語(フランス/フランス文化)…<一般>14人→13人
(フランス/フランス社会)…<一般>12人→13人
入試科目：経済<一般・B方式>…数{(数I・II・A・B)or(数I・II・III・A)}→(数I・II・A・B)
入試配点：理工(ソフトウェア工)…英(150点)→英(200点)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、505人(98)の微減だが4年連続減少。方式別では、一般方式(94)はやや減少で2年連続減少、共通テスト利用方式(107)はやや増加で6年ぶりに増加。学部別では、8学部中、増加4学部、減少4学部と半数ずつだった。

<一般方式>

- 人文(82)は、大幅減少。2017年度より4年連続2,700人台だった志願者数は、2,300人を下回った。学科別では、4学科全てが減少。(心理人間)(98)は微減だが、他の3学科はいずれも減少率30%を上回る大幅減少、特に(人類文化)(72)は前年度大幅増加の反動で減少率30%近い減少。
- 外国語(99)は、系統への人気低下の中、微減に留まったが2年連続減少。学科・専攻別では、(スペイン・ラテンアメリカ/ラテンアメリカ)(153)は2年連続大幅増加。一方で、(アジア/東南アジア)(45)は2年連続大幅増加で特に前年度が2.6倍以上の激増だった反動で半減以下の大幅減少、(ドイツ/ドイツ社会)(38)は前年度2.3倍以上の激増の反動で激減。
- 法(75)は、系統への低い人気と前年度増加の反動で大幅減少。
- 総合政策(132)は、前年度減少率40%を上回る大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(80)は、系統への人気低下の中、大幅減少で3年連続減少。
- 経営(78)は、系統への人気低下の中、大幅減少。方式別では、3教科型の<A方式>(78)、2教科型の<B方式>(77)、3教科型の<全学個別統一文系方式>(76)と全てで大幅減少。
- 国際教養(110)は、系統への向かい風の中だが、前年度大幅減少の反動で増加。
- 理工(118)は、<一般・B方式>廃止にもかかわらず、系統への人気の高まりと改組効果による大幅増加で4年連続増加。廃止になった<一般・B方式>を除くと(134)とさらに大幅増加。

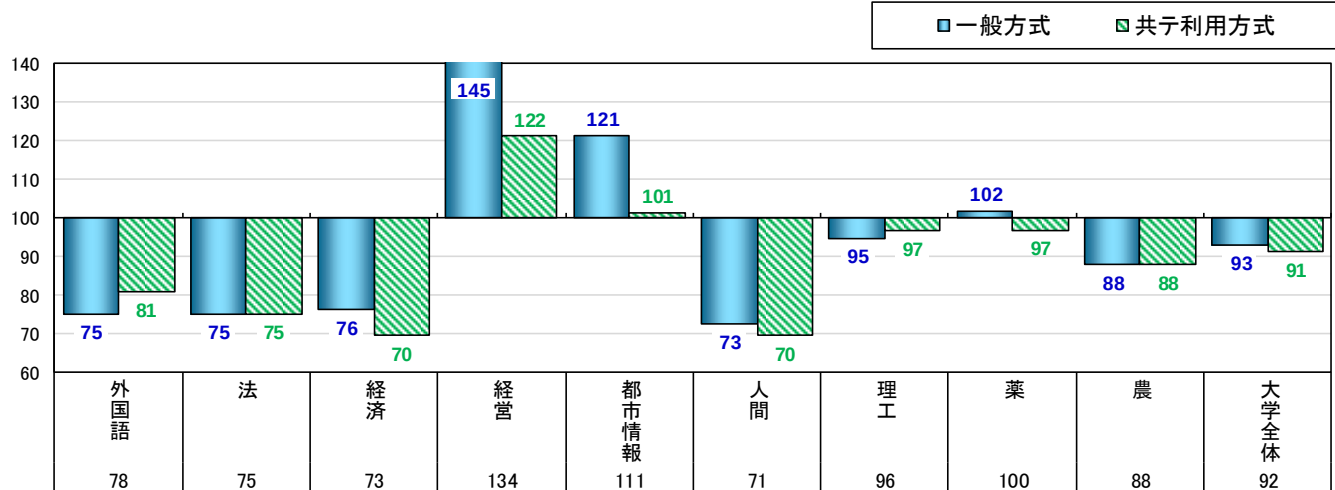
<共通テスト利用方式>

- 人文(93)は、系統への人気低下と前年度やや増加の反動でやや減少。学科別では、(日本文化)(103)は3年連続減少の反動でやや増加、それ以外の3学科はいずれも減少。特に(キリスト教)(76)は大幅減少で4年連続減少、志願者数は50人を下回った。
- 外国語(122)は、系統への人気低下する中で、5年連続減少の反動が大きく大幅増加。学科・専攻別では全てで増加し、特に(ドイツ/ドイツ文化)(171)は2年連続大幅減少の反動で激増。(フランス/フランス文化)(156)も2年連続大幅減少の反動で増加率50%以上の大幅増加。

- 法(79)は、大幅減少で2年ぶりの大幅減少。
- 総合政策(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。しかし、反動は小さく志願者数は2年連続で700人を下回った。
- 経済(96)は、系統への人気低下で6年連続減少。
- 経営(90)は、系統への人気低下で2年連続減少。
- 国際教養(111)は、系統への人気低下があるものの、3年連続減少の反動が大きく増加。
- 理工(129)は、系統への人気の高まりと改組効果、さらに3年連続減少の反動で増加。

名城大：経営、都市情報は増加、薬は前年度並、他の6学部は減少

一般：-1,527人 共テ：-1,489人



入試変更点	募集人員：経営(経営)・・・一般・A方式>75人→60人、〈共テ併用・F方式〉5人→20人 (国際経営)・・・一般・A方式>25人→20人、〈共テ併用・F方式〉5人→10人 経済(経済)・・・一般・A方式>78人→65人、〈一般・B方式〉12人→10人、〈共テ併用・F方式〉5人→20人 (産業社会)・・・一般・A方式>30人→25人、〈共テ併用・F方式〉5人→10人
-------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,016人(92)減少、過去3ヶ年は前年度並で変化が少なく、4年連続で志願者数が3万8千人を上回っていたが、3万5千人台となった。学部別では、経営(134)は大幅増加、都市情報(111)は増加、薬(100)は前年度並、これらを除く6学部は減少。方式別では、一般方式(93)はやや減少、共通テスト利用方式(91)は減少で2年連続減少。学部別では、経営(134)は大幅増加、都市情報(111)は増加、薬(100)は前年度並だが、これらを除く6学部はいずれも減少で、理工(96)、農(88)を除く4学部は減少率30%を上回る大幅減少。

<一般方式>

- 外国語(75)は、系統への人気低下で3年連続減少。方式別では、〈A方式〉(3教科型)。〈B方式〉(2教科)のいずれも大幅減少。
- 法(75)は、系統への人気低下と前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(76)は、系統への人気低下により大幅減少で、2年連続減少。学科別では、2学科とも大幅減少だが、(産業社会)(67)は減少率30%以上で3年連続大幅減少。
- 経営(145)は、系統への人気低下の中で、前年度大幅減少の反動が大きく大幅増加。学科別では、経営(154)は大幅増加、国際経営(107)はやや増加。
- 都市情報(121)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 人間(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 理工(95)は、2年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(情報工)(111)は増加、(数学)(100)が前年度並で、これらを除く9学科が減少。特に、(材料機能工)(75)は大幅減少で、2年連続減少。(メカトロニクス工)(80)、(交通機械工)(84)も大幅減少。
- 薬(102)は、前年度のやや増加に引続き微増。
- 農(88)は、減少で4年連続減少。学科別では、前年度唯一増加の(生物環境科学)(73)が反動で大幅減少。(生物資源)(90)は減少で2年連続減少。(応用生物化学)(98)は微減だが4年連続減少。

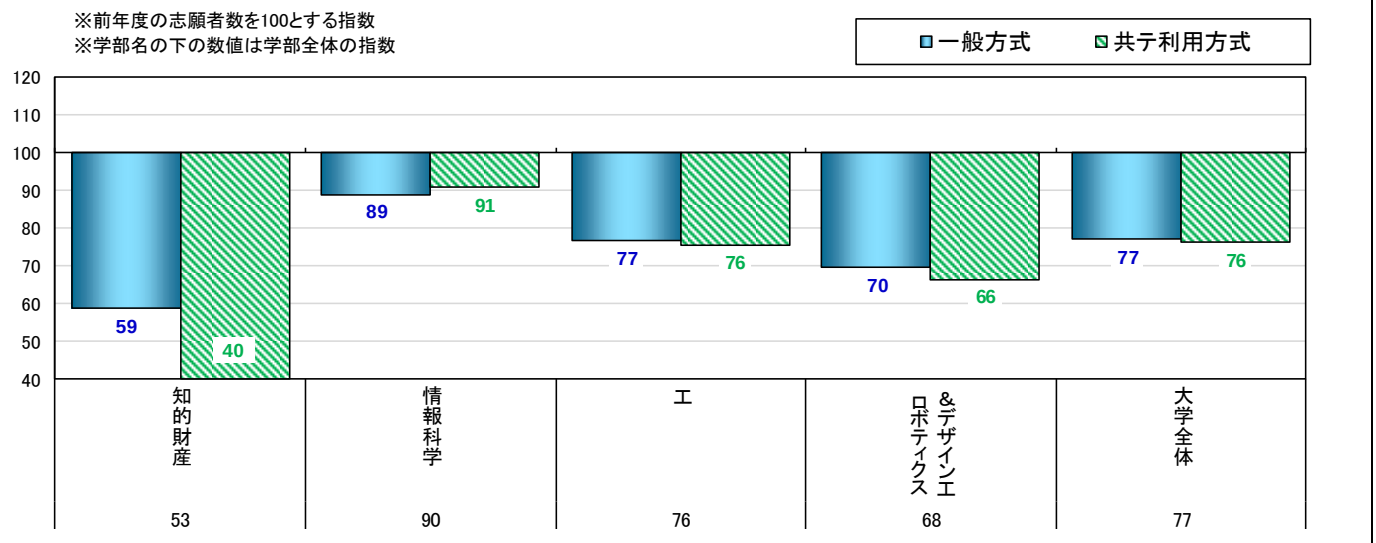
<共通テスト利用方式>

- 外国語(81)は、系統への人気低下で、3年連続減少。方式別では、〈共テ併用・F方式〉(71)の大幅減少が目立った。
- 法(75)は、大幅減少で2年連続減少。
- 経済(70)は、系統への人気低下により大幅減少で2年連続減少。学科別では、(産業社会)(54)は半減に近い大幅減少で、2年連続大幅減少。(経済)(75)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 経営(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営)(143)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(国際経営)(76)は系統の人気低下により、大幅減少で2年連続減少。募集単位別では、特に(国際経営)〈共テ・C前期〉(41)が激減。
- 都市情報(101)は、前年度並で、志願者数は2年連続で850人前後だった。
- 人間(70)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による大幅な増減が継続。

- 理工(97)は、前年度やや増加の反動でやや減少。学科別では、(情報工)(116)が大幅増加、(社会基盤デザイン工)(102)が微増、(数学)(100)が前年度並で、これらを除く8学科はいずれも減少。(環境創造工)(87)は4年連続減少、(材料機能工)(93)は3年連続減少。
- 薬(97)は、前年度増加の反動は小さいがやや減少。志願者数は2年ぶりに1,000人を下回った。
- 農(88)は、2年連続減少。学科別では、(生物環境科学)(75)、(生物資源)(84)の2学科が大幅減少。

大阪工業大：大学全体では2年連続減少、4学部全て減少

一般：-2,297人 共テ：-2,136人



入試変更点

学科新設：情報科学(データサイエンス)…〈一般・前期A日程〉、〈共テ併用・前期AC日程〉：募集人員20人
※データサイエンス学科新設 〈一般・前期B日程〉、〈共テ併用・前期BC日程〉：募集人員10人
〈共テ・前期C日程〉：募集人員3人
〈一般・後期D日程〉、〈共テ併用・後期DC日程〉：募集人員4人
〈共テ・後期C日程〉：募集人員2人

入試科目：知的財産(知的財産)〈一般・前期A日程〉、〈一般・B日程〉…外+(国 or 数)→国+外+(歴公 or 数)
〈共テ併用・前期AC日程〉、〈共テ併用・前期BC日程〉
…独自試験 外+(国 or 数)→国+外+(歴公 or 数)

募集人員：情報科学(情報知能)…〈一般・前期A日程〉、〈共テ併用・前期AC日程〉29人→25人
〈一般・前期B日程〉、〈共テ併用・前期BC日程〉15人→13人
〈一般・後期D日程〉、〈共テ併用・後期DC日程〉7人→6人
(ネットワークデザイン)…〈一般・前期A日程〉、〈共テ併用・前期AC日程〉29人→25人
〈一般・前期B日程〉、〈共テ併用・前期BC日程〉15人→13人
〈一般・後期D日程〉、〈共テ併用・後期DC日程〉7人→6人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、4,433人(77)の大幅減少で2年連続減少。志願者数は4年ぶりに15,000人を下回った。なお、新設の情報科学(データサイエンス)を除くと(73)の大幅減少。学部別では、4学部全てが減少、知的財産(53)、ロボティクス&デザイン工(68)、工(76)は大幅減少。情報科学(90)も減少だが、新設の(データサイエンス)を除くと(71)の大幅減少。方式別では、一般方式(77)、共通テスト利用方式(76)のいずれも大幅減少で2年連続減少。それぞれ、新設の情報科学(データサイエンス)を除くと一般方式(73)、共通テスト利用方式(72)と減少率30%近い大幅減少。

〈一般方式〉

- 知的財産(59)は、入試科目の負担増もあって2年連続大幅減少。志願者数は4年ぶりに500人を下回った。
- 情報科学(89)は、(データサイエンス)の新設があったが減少で、2年連続減少。(データサイエンス)を除いた既存4学科合計でも(70)の大幅減少、学科別でも4学科全てが大幅減少。(データサイエンス)の志願数は415人だった。
- 工(77)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では8学科全てが減少。(建築)(90)は減少、(電子情報システム)(95)はやや減少、これ以外の6学科はいずれも大幅減少。
- ロボティクス&デザイン工(70)は、大幅減少。2017年度新設以降、翌年度から4年連続減少。学科別では、3学科全て減少。(システムデザイン工)(59)は減少率40%以上の大幅減少で、3年連続減少。(ロボット工)(62)は大幅減少、(空間デザイン)(86)は減少でいずれも2年連続減少。

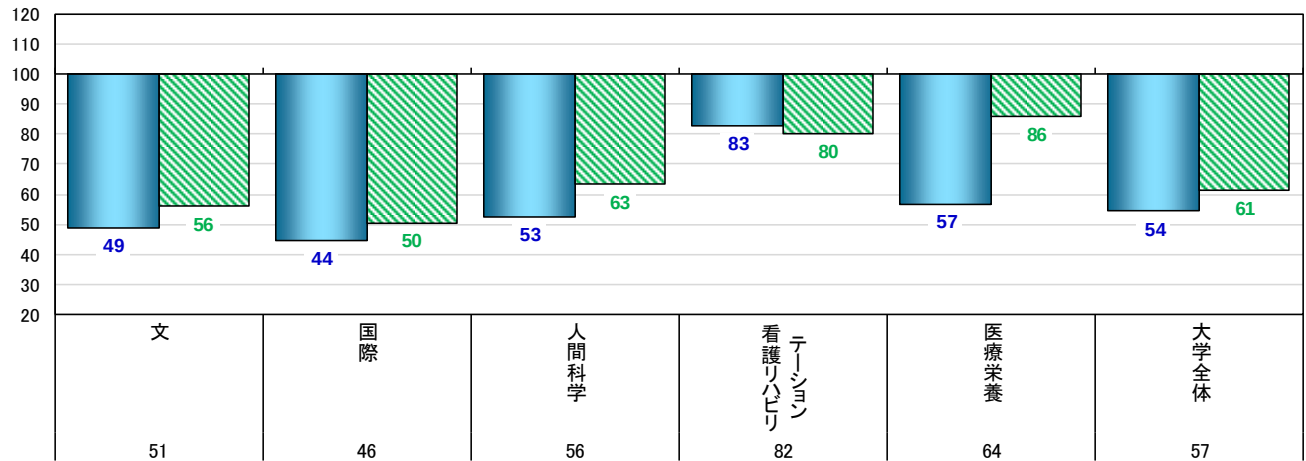
〈共通テスト利用方式〉

- 知的財産(40)は、入試科目の負担増もあって減少率60%の激減で、2年連続減少。志願者数はわずか100人余まで減少。
- 情報科学(91)は、(データサイエンス)の新設があったが減少で、2年連続大幅減少。(データサイエンス)を除いた既存4学科合計では(71)の大幅減少。学科別でも4学科全てが大幅減少。
- 工(76)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では8学科全て減少。(電子情報システム)(86)は減少、他の7学科はいずれも大幅減少。
- ロボティクス&デザイン工(66)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全て大幅減少。志願者数は1,000人を下回った。

甲南女子大：大学全体では2年連続減少、5学部全て大幅減少 一般：-2,808人 共テ：-1,151人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式



入試変更点

入試方式名：全学部…〈一般・AI〉、〈一般・AII〉、〈一般・B〉、〈一般・C〉
→〈一般 I 日程〉、〈一般 II 日程〉、〈一般 III 日程〉、〈一般 IV 日程〉
全学部…〈センター・前期〉、〈センター・後期〉→〈共テ・I 日程〉、〈共テ・II 日程〉

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、女子大全体への人気低下もあって3,959人(57)の大幅減少で2年連続減少。学部別では5学部全てが大幅減少。開設2年目の国際(46)はコロナ禍による系統への低い人気もあって半減以下、文(51)もほぼ半減。方式別では、一般方式(54)は、4年連続増加の反動で半減近い大幅減少。共通テスト利用方式(61)は、3年連続大幅減少。

〈一般方式〉

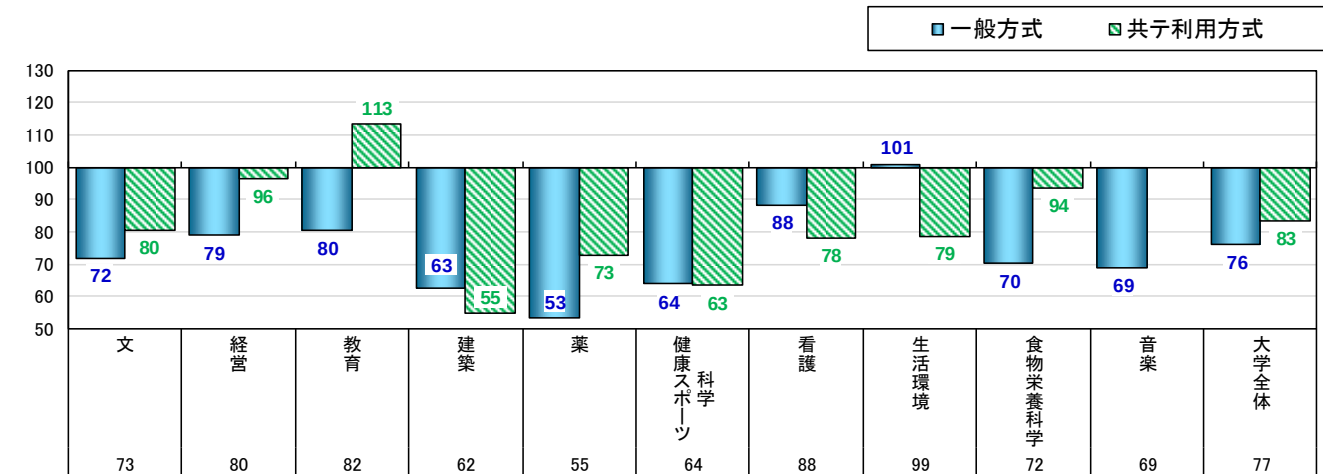
- 文(49)は、(英語文化)と(多文化コミュニケーション)を新設の国際に移管して(メディア表現)と(日本語日本文)の2学科になって2年目だが、半減以上の大幅減少。学科別でも、(日本語日本文)(47)は半減以下、(メディア表現)(51)もほぼ半減。
- 国際(44)は、文の(英語文化)と(多文化コミュニケーション)を移管して開設されて2年目だが、半減以下の大幅減少。文時代から4年連続の増加の反動と、コロナ禍による系統への人気低下が影響。学科別では、(国際英語)(40)は激減、(多文化コミュニケーション)(49)も半減以下。
- 人間科学(53)は、前年度の微減に引続き、半減近い大幅減少。学科別では、4学科全てが大幅減少で、(文化社会)(49)、(心理)(50)、(生活環境)(52)の3学科はほぼ半減。
- 看護リハビリテーション(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別でも、(理学療法)(77)、(看護)(85)のいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医療栄養(57)は、減少率40%を超える大幅減少で、志願者数は200人を大きく下回った。2018年度の開設以降反動による増減が継続。減少した年度はいずれも大幅減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 文(56)は、大幅減少。(メディア表現)と(日本語日本文)の合計では、改組前から3年連続大幅減少。学科別では、(日本語日本文)(47)は半減以下、(メディア表現)(64)も大幅減少で、いずれも3年連続大幅減少。
- 国際(50)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響で半減。文の(英語文化)と(多文化コミュニケーション)を移管して開設されて2年目だが、改組前から3年連続減少。学科別でも(国際英語)(50)、(多文化コミュニケーション)(51)はいずれもほぼ半減で、いずれも改組前から3年連続減少。
- 人間科学(63)は、2年連続大幅減少で3年連続減少。志願者数は800人余りまで減少した。学科別でも、4学科全て大幅減少で3年連続減少。
- 看護リハビリテーション(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(理学療法)(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(看護)(88)も前年度増加の反動で減少と同じ動向。
- 医療栄養(86)は、減少率20%を超える減少で志願者数は70人を下回り、2018年度の開設時の約3分の1。

武庫川女子大：大学全体では3年ぶりに減少、10学部全て減少

一般：-3,053人 共テ：-169人



入試変更点

募集人員：健康スポーツ科学(健康スポーツ科学)…＜一般・前期A 2科目＞25人→18人、
 ＜一般・前期A 3科目＞34人→22人、
 ＜一般・中期B 2科目＞12人→10人、
 ＜一般・中期B 3科目＞10人→8人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、3,222人(77)の大幅減少で3年ぶりに減少。学部別では10学部全てが減少。方式別では、一般方式(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。10学部の中で、生活環境(101)が唯一前年度並だったが、これを除く9学部はいずれも減少。特に薬(53)は半減近かった。共通テスト利用方式(83)は2年連続増加の反動で大幅減少。募集を行わない音楽を除く9学部の中で、教育(113)が唯一増加したが、これを除く8学部はいずれも減少。特に建築(55)は減少率40%を超える大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(72)は、(教育)を新設学部の教育に改組し、3学科体制となって3年目だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3学科全てが減少。(英語文化)(54)は5年連続増加の反動とコロナ禍の影響で海外留学への不安から半減近い大幅減少。(日本語日本文)(63)も前年度増加率40%以上の大幅増加の反動で大幅減少。(心理社会福祉)(97)は前年度やや増加の反動でやや減少。
- 経営(79)は、開設2年目で初年度効果がなくなり大幅減少。
- 教育(80)は、文(教育)を学部改組・新設して3年目だが、大幅減少で新設以降2年連続減少。
- 建築(63)は、生活環境(建築)の改組と(景観建築)の新設で、学部として新設されて2年目だが、初年度効果がなくなり減少率40%近い大幅減少。学科別では、(景観建築)(61)は大幅減少、(建築)(63)は前年度60%近い大幅増加の反動で大幅減少。ただし、初年度効果のあった前年度を除くと、生活環境(建築)時代からの志願者数200人台は維持した。
- 薬(53)は、コロナ禍による景気悪化による高学費への敬遠傾向に加えて、2年連続増加の反動で半減近い大幅減少。学科別では、6年制の(薬)(49)は半減以下、4年制の(健康生命薬科学)(82)は大幅増加の反動で大幅減少。
- 健康スポーツ科学(64)は、系統への人気低下もあって大幅減少で2年連続減少。募集人員(前年度募集人員対比指数73)が減少した影響もあり、志願者数は、500人を下回った。
- 看護(88)は、3年連続増加の反動で減少。志願者数は、3年ぶりに700人を下回った。
- 生活環境(101)は、(建築)(食物栄養)をそれぞれ建築、食物栄養科学の新設学部に改組し、(情報メディア)(生活環境)の2学科体制になって2年目だが、この2学科合計では前年度大幅減少だった反動はなく前年度並。学科別では、(生活環境)(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(情報メディア)(90)は、前年度大幅減少に引続き3年連続減少。
- 食物栄養科学(70)は、生活環境(食物栄養)の改組と(食物創造科学)の新設で、学部として新設されて2年目だが、初年度効果がなくなり減少率30%の大幅減少。学科別では、(食物栄養)(66)は生活環境(食物栄養)時代から4年連続大幅減少。(食物創造科学)(87)は減少。
- 音楽(69)は、2年連続大幅減少。特に、(応用音楽)(52)の半減近い大幅減少が影響。

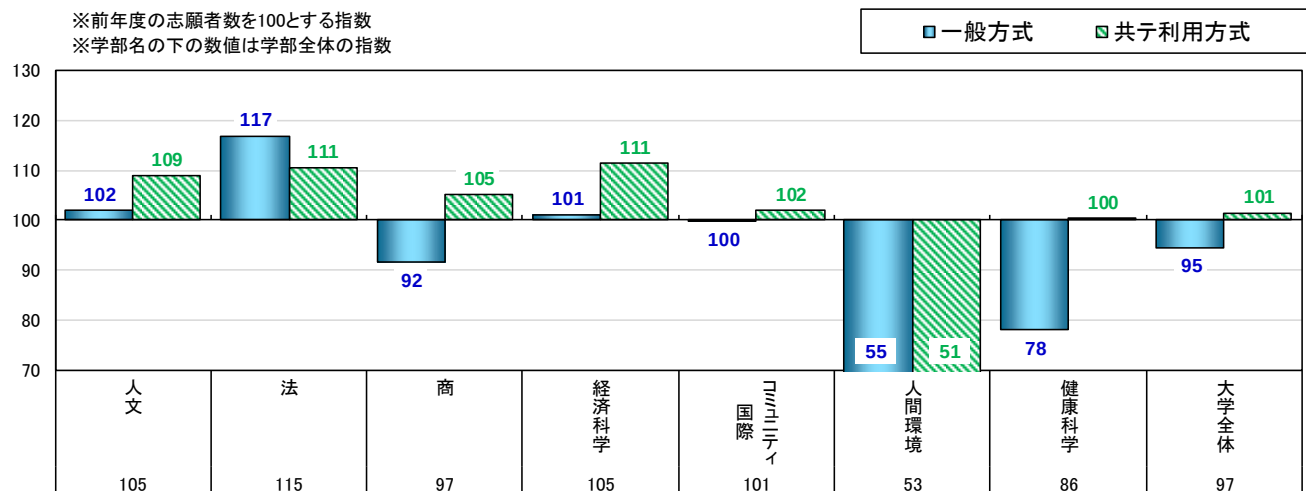
＜共通テスト利用方式＞

- 文(80)は、前年度9人だが改組後始めてやや増加したが、2年ぶりに大幅減少。学科別では、(心理社会福祉)(110)は6年ぶりに増加。一方で、(英語文化)(56)はコロナ禍の影響で海外留学への不安から大幅減少で2年連続減少、(日本語日本文)(78)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(96)は、開設2年目で初年度効果がなくなりやや減少。
- 教育(113)は、文(教育)を学部改組・新設して3年目だが、前年度大幅減少の反動で増加。
- 建築(55)は、生活環境(建築)の改組と(景観建築)の新設で、学部として新設されて2年目だが、初年度効果がなくなり半減近い大幅減少。学科別では、(建築)(53)は旧生活環境(建築)時代から4年連続増加した反動も加わり、半減近い大幅減少。(景観建築)(59)も減少率40%以上の大幅減少。
- 薬(73)は、コロナ禍による景気悪化による高学費への敬遠傾向もあって大幅減少で2年連続減少。学科別では、4年制の(健康生命薬科学)(114)は5年連続増加。一方で、6年制の(薬)(61)は2年連続大幅減少で、コロナ禍による経済環境の厳しさの影響が大きかった。
- 健康スポーツ科学(63)は、3年連続大幅減少。志願者数は30人台になった。

- 看護(78)は、大幅減少。2016 年度の新規実施以降、翌年度から前年度の反動による増減が継続。
- 生活環境(79)は、(建築)(食物栄養)をそれぞれ建築、食物栄養科学の新設学部へ改組し、(情報メディア)(生活環境)の 2 学科体制になって 2 年目だが、この 2 学科合計では 2 年連続大幅減少。志願者数は 3 年ぶりに 100 人を下回った。学科別では、(生活環境)(65)は 2 年連続大幅減少。(情報メディア)(93)は 2 年連続やや減少。
- 食物栄養科学(94)は、生活環境(食物栄養)の改組と(食物創造科学)の新設で、学部として新設されて 2 年目だが、初年度効果がなくなりやや減少。学科別では、(食物創造科学)(167)は激増。一方で、(食物栄養)(80)は大幅減少で生活環境(食物栄養)時代から 6 年連続減少。

広島修道大：大学全体ではやや減少で 2 年連続減少

一般：-347 人 共テ：+60 人



入試変更点	入試科目：全学部〈一般・後期〉 …調査書を加点しない→筆記試験で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書の「主体性」に関する情報を評価して、0点、1点、2点の3段階の評価で加点
	募集人員：健康科学(健康栄養) …〈一般・前期A～E日程〉42人→30人 〈共テ・前期〉5人→3人、〈共テ・後期〉2人→3人、〈共テ併用〉5人→3人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、10,123人(97)のやや減少で2年連続減少。学部別では、7学部中4学部が増加、3学部が減少。特に、法(115)は大幅増加、人間環境(53)は大幅減少だった。方式別では、一般方式(95)は、やや減少で2年連続減少。共通テスト利用方式(101)は、前年度やや減少だった反動はなく前年度並。

〈一般方式〉

- 人文(102)は、前年度減少の反動は小さく微増。学科別では、(人間関係)(115)は2017年度の改組以降3年連続減少の反動で大幅増加。(教育)(96)はやや減少で2年連続減少。(英語英文)(100)は2人増加のみで前年度並。
- 法(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2018年度に(国際政治)を、学部として国際コミュニティに改組して(法)のみの1学科体制になって以降、前年度の反動による大幅増減が継続。
- 商(92)は、減少で2年連続減少。学科別では、(商)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。2017年度から前年度の反動による増減が継続。(経営)(76)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済科学(101)は、12人の微増だが2年連続増加。学科別では、(現代経済)(107)は2年連続増加。(経済情報)(94)はやや減少で、志願者数は4年ぶりに500人を下回った。
- 国際コミュニティ(100)は、2人の微減で前年度並。学部新設2年目の2019年度から志願者数は620人前後が継続。学科別では、(地域行政)(103)は前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。(国際政治)(97)はやや減少で、2018年度に法(国際政治)から学部へ改組されて以降初めて減少に転じた。
- 人間環境(55)は、2年連続増加の反動で半減近い大幅減少。志願者数も300人余りに減少。
- 健康科学(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(心理)(74)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(健康栄養)(88)は、募集人員(前年度募集人員対比73)が減少した影響で減少。

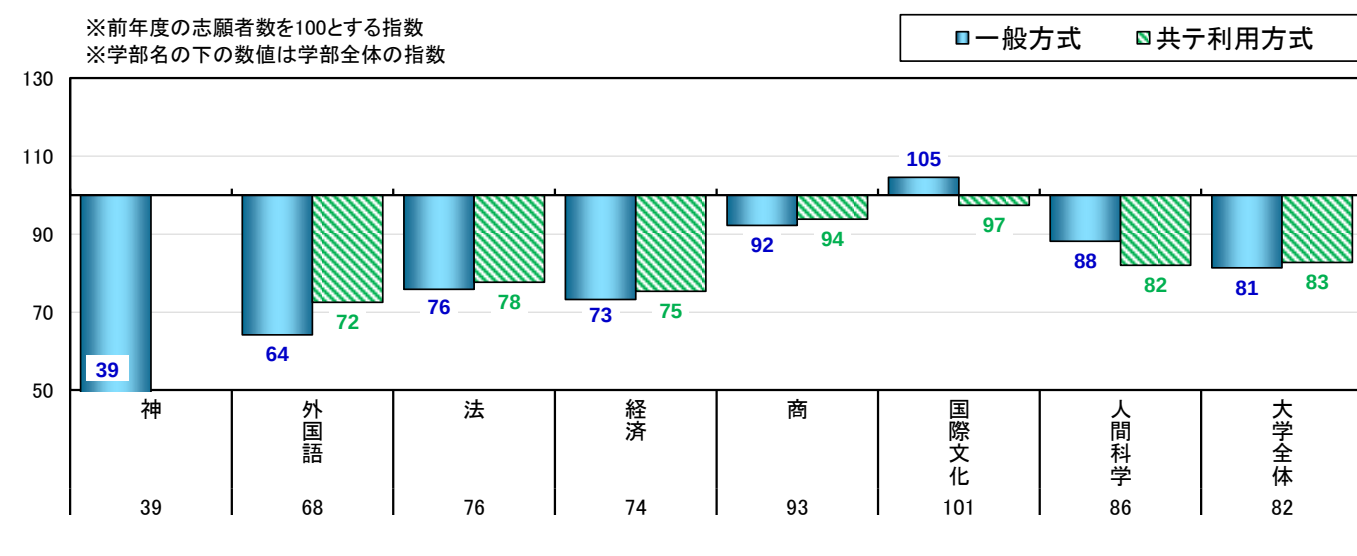
〈共通テスト利用方式〉

- 人文(109)は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(人間関係)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(教育)(112)は増加で、2018年度から前年度の反動による増減が継続。一方で、(英語英文)(86)は減少で4年連続減少。
- 法(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。2018年度に(国際政治)を、学部として国際コミュニティに改組して(法)のみの1学科体制になって以降、前年度の反動による増減が継続。
- 商(105)は、やや増加だが3年連続増加。学科別では、商(126)は前年度減少の反動で大幅増加。志願者数も500人に達した。一方で、(経営)(87)は2年連続増加の反動で減少。
- 経済科学(111)は、前年度やや増加に引続き2年連続増加。学科別では、(経済情報)(121)は2年連続減少の反動で大幅増加。(現代経済)(104)はやや増加で前年度大幅増加に引続き2年連続増加。
- 国際コミュニティ(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(地域行政)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(国際政治)(97)は前年度大幅減少に引続きやや減少で2年連続減少。

- 人間環境(51)は、前年度大幅増加の反動で半減近く、志願者数も200人余りとなった。
 ○健康科学(100)は、前年度減少の反動はなく1人の微増で前年度並。学科別では、(心理)(103)は前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(健康栄養)(93)はやや減少で3年連続減少。

西南学院大：大学全体では大幅減少で2年連続減少

一般：-2,480人 共テ：-1,382人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、3,862人(82)の大幅減少で2年連続減少。7学部中、国際文化(101)を除く6学部がいずれも減少。特に、学部改組2年目の外国語(68)、経済(74)、法(76)の大幅減少が目立った。方式別では、一般方式2,480人(81)、共通テスト利用方式1,382人(83)ともに大幅減少。大学全体の志願者数は6年ぶりに20,000人を下回った。

＜一般方式＞

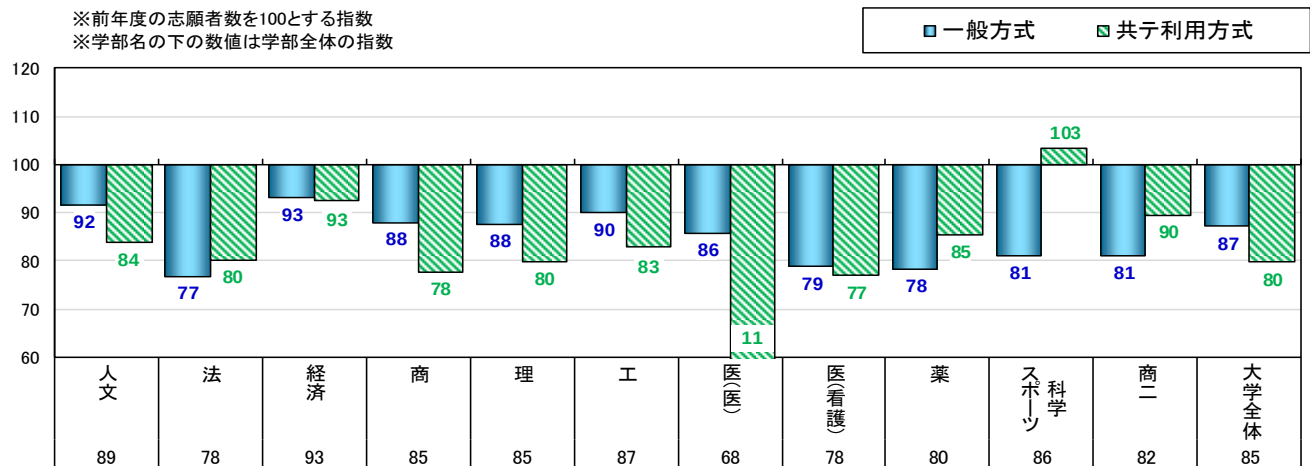
- 改組による新設2年目の外国語(64)は、大幅減少で志願者数は900人を下回った。志願倍率も11.0倍→7.0倍にダウン。
- 法(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3年ぶりに減少に転じた。2学科とも大幅減少で、国際関係法(65)は2年連続大幅増加の反動で35%の大幅減少。志願倍率も19.7倍→12.8倍にダウン。
- 経済(73)は、2年連続増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、(国際経済)(66)は前年度大幅増加の反動、(経済)(77)は2年連続増加の反動でいずれも大幅減少。
- 商(92)は、減少で3年連続減少。志願者数は6年ぶりに2,500人を下回った。学科別では、(経営)(90)は2年連続減少、(商)(94)は前年度やや増加の反動でやや減少。
- 国際文化(105)は、3年連続減少の反動でやや増加。
- 人間科学(88)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、心理(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(社会福祉)(92)は前年度大幅増加の反動で減少。児童教育(92)は3年連続減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 改組による新設2年目の外国語(72)は、大幅減少で志願者数は800人を下回った。志願倍率も17.9倍→13.0倍にダウン。
- 法(78)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(国際関係法)(64)、(法律)(83)ともに、大幅減少で2年連続減少。
- 経済(75)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(国際経済)(70)は30%の大幅減少で2年連続減少。経済(78)は2年連続大幅減少。
- 商(94)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。学科別では、商(90)は減少で3年連続減少。経営(99)は前年度大幅減少の反動はなく、前年度並。
- 国際文化(97)は、やや減少で2年連続減少。
- 人間科学(82)は、大幅減少で2年連続減少。3学科とも減少し、特に(心理)(71)は大幅減少、(児童教育)(80)は2年連続大幅減少。

福岡大：大学全体では3年ぶりに減少。

一般：-4,418人 共テ：-3,622人



入試変更点

選抜方法：商(経営-会計専門職プログラム)…＜一般・後期＞ ※コロナ禍対策のため後期を実施
 商二(商-会計専門職プログラム)…＜一般・後期＞ ※コロナ禍対策のため後期を実施
 医(看護)…＜一般・後期＞ ※コロナ禍対策のために実施
 全学部＜共テ併用＞、＜共テ・I期、II期＞…英語外部試験＝みなし満点→加点方式
 対象試験から TOEIC LR&TOEIC SW 除外

募集人員：医(医)＜一般・系統別＞…60人→65人、
 ＜セ・I期＞…10人→＜共テ・III期＞5人 ※コロナ禍対策のため実施日程を変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、8,040人(85)の大幅減少で3年ぶりに減少。学部別では10学部全てが減少で、その中の6学部が大幅減少。志願者数は、6年ぶりに45,000人を下回った。なお、商二を除いた昼間部のみでも(85)の大幅減少。方式別では、一般方式(87)は減少で10学部全てが減少、その中の5学部が大幅減少。共通テスト利用方式(80)は大幅減少で、スポーツ科学(103)を除く9学部が減少、その中の7学部が大幅減少。特に、医は(医)がコロナ禍対策として、I期からIII期へ入試日程を遅らせたことが大きく影響して(34)とほぼ3分の1の志願者数に激減。

＜一般方式＞

- 人文(92)は、5年連続増加の反動で減少。学科別では、(東アジア地域言語)(118)が大幅増加。一方で、(ドイツ語)(64)、(日本語日本文)(78)は大幅減少。
- 法(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、(経営法)(66)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(法律)(83)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 経済(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(産業経済)(89)は2年連続増加の反動で減少。(経済)(95)はやや減少で3年連続減少。
- 商(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・プログラム別では、(経営/会計専門職プログラム)(112)の2年連続増加、(貿易)(65)の前年度大幅増加の反動による大幅減少が目立った。
- 理(88)は、3年連続増加の反動で減少。学科・インスティテュート別では、(社会数理・情報インスティテュート)(111)が前年度大幅減少した反動で唯一増加、他の6学科・インスティテュートはいずれも減少。特に(ナノサイエンス/物理化学)(66)は3年連続大幅増加の反動で減少率30%以上の大幅減少。
- 工(90)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(電子情報工)(108)が唯一増加したが、他の5学科はいずれも減少。
- 医(医)(86)は、減少で2年連続減少。コロナ禍対策により、募集人員(前年度募集人員対比指数108)が増加したが志願者数は増加せず、志願倍率も、45.5倍→36.0倍にダウン。
- 医(看護)(79)は、前年度減少の反動はなく大幅減少で、3年連続減少。
- 薬(78)は、2年連続大幅減少で、8年連続減少。
- スポーツ科学(81)は、系統への人気低下もあって大幅減少。学科別では、(健康運動科学)(71)は大幅減少で2年連続減少、(スポーツ科学)(87)も2年ぶりに減少。

＜共通テスト利用方式＞

- 人文(84)は、5年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(東アジア地域言語)(130)は前年度大幅減少の反動で唯一大幅増加。一方で、(文化)(98)の微減を除く6学科はいずれも大幅減少。
- 法(80)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(経営法)(71)は前年度大幅増加の反動、(法律)(84)は2年連続増加の反動で、いずれも大幅減少。
- 経済(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(産業経済)(88)は減少。(経済)(94)はやや減少で、いずれも2年連続減少。
- 商(78)は、3年連続増加の反動で減少率20%以上の大幅減少。学科・プログラム別では、(経営/会計専門職プログラム)(109)の増加、一方で(貿易)(51)のほぼ半減、(商)(80)の大幅減少が目立った。
- 理(80)は、3年連続増加の反動で減少。学科・インスティテュート別では、7つの募集単位全てが減少。特に、(ナノサイエンス/物理化学)(43)は、3年連続大幅増加の反動で、半減以下の大幅減少。

- 工(83)**は、4年連続増加の反動で大幅減少。6学科全てが減少。(電子情報工)(98)の微減を除いた5学科は、いずれも大幅減少。
- 医(医)(11)**は、コロナ禍対策として、当初予定だったⅠ期(出願期間 1/3～1/14)をⅢ期(出願期間 2/15～2/24)に入試日程を遅らせたことで、共通テスト後の事後出願になったことや他大学の合格発表後の出願になったことで、志願者が絞り込まれた結果、志願者数は前年度の10分の1近くまで激減した。大学でも、志願者減少を予測して、募集人員を5人に減らし、その減員分を一般方式に振り替えたが一般方式も減少したことで、両方式の合計でも(68)と大幅減少だった。
- 医(看護)(77)**は、大幅減少で、2年連続減少。
- スポーツ科学(103)**は、やや増加。系統への人気低下で減少が続いていたが、5年ぶりに増加に転じた。

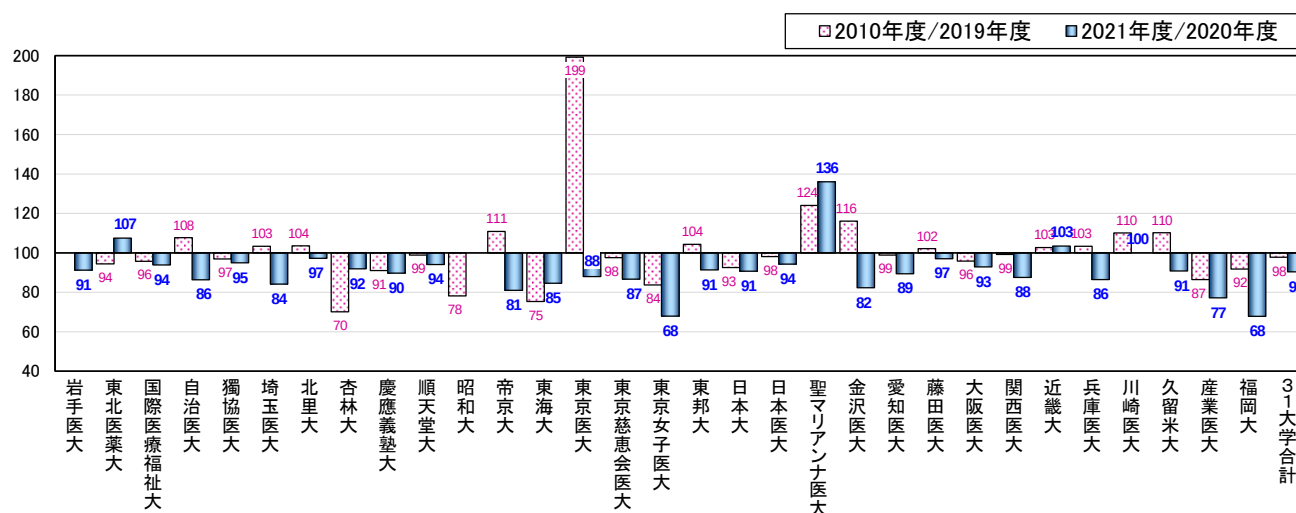
⑩医学部医学科志願状況

□既卒志望者減少の影響などで3年連続減少

〔志願者数推移〕

	2021年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
募集人員	2,864	-63	98	2,927	2,969	3,037	3,024	2,904	2,791	2,770	2,742
志願者数	90,920	-9,660	90	100,580	102,907	109,170	108,181	105,855	104,558	104,140	91,701
志願倍率	31.75			34.36	34.66	35.95	35.77	36.45	37.46	37.60	33.44

〔大学別志願状況〕



私立大医学部医学科(以下「医学部」)31大学合計の志願者数は、90,920人(90)で前年度より10%減少して、3年連続減少となりました。既卒受験生が大幅に減少しているのと、継続するコロナ禍の影響により悪化する経済環境下で私大医学部の学費の高さが敬遠されたことが大きな要因です。ただ、私立大全体指数は(86)ですから、医(90)は減少率が小さく、コロナ禍の厳しい医療体制の中で治療にあたる医師の姿を見ながらも、前向きに医学部を選択する受験生が一定数留まったとも言えます。

大学別では、志願者数が増加した大学は4大学しかありませんでした。その中で最も増加した大学は聖マリアンナ医科大(136)で、志願者数約850人増加で2年連続の大幅増加となりました。今年度から導入した後期入試の志願者数は1,212人で、大幅増加した要因です。東北医科薬科大(107)は、1次試験の日程重複が前年度は3大学あったのが、今年度は単独実施になったことが影響しました。その他の増加した大学では、昭和医大(104)はやや増加で5年ぶりの増加、近畿大(103)はやや増加で2年連続増加でした。

一方で、帝京大(81)は、前年度900人を上回る増加の反動で、1,800人近い大幅減少となりました。福岡大(68)も1,100人を上回る大幅減少で、特に<共通テスト・III期>方式(11)が激減しました。

コロナ禍対策で日程を遅らせましたが、共通テストの事後出願、他大学の合格発表後の出願となり、志願者が絞り込まれた結果、前年度の10分の1まで激減しました。その他の大学では、金沢医科大(82)、埼玉医科大(84)が志願者数800人を上回る減少となりました。埼玉医科大は<共通テスト>方式(41)が激減で、国語の現大文のみに古文・漢文を追加したために敬遠され、志願者数は100人を下回りました。東京女子医大(68)は、4大学と試験日が重複し、6年間の学費総額を1,200万円アップする影響もあり、2年連続減少となりました。

〔大学別分析〕

※表内の略語・記号は以下を表しています。

「共」…共通テスト利用方式、「論」…小論文、「面」…面接、「調」…調査書

「□」…方式合計の数値

大学	日程・方式	志願者数増減		2021年度		2020年度		2021コメント
		増減数	指数	募集 人員	志願 者数	募集 人員	志願 者数	
岩手医科大	大学合計	-213	91	83	2,207	85	2,420	<変更点><一般>2次試験の論文廃止:<2次>論+面→面 理科の配点変更:理科2<200>→<150> 募集人員:80人→78人 大学合計では、213人(91)の減少で、4年連続減少。方式別では、 <一般>(89)は減少で4年連続減少、志願者数も2,100人台となった。前年度から 新規実施の<地域枠C>(371)は4倍近い大幅増加。志願倍率は2.8倍→10.4倍 にアップ。
	一般	-254	89	78	2,152	80	2,406	
	地域枠C	+38	371	5	52	5	14	
	追試験	+3			3			
東北医科薬科大	一般枠	+123	107	45	1,765	45	1,642	大学合計では、123人(107)のやや増加で、5年ぶりに増加。1次試験日の日程 重複が、前年度は3大学あったのが、今年度は単独実施だったことが影響した。
	修学A			35		35		
	修学B			20		20		
国際医療福祉大	大学合計	-238	94	120	3,621	120	3,859	大学合計では、238人(94)のやや減少で、2年連続減少。方式別では、 <一般>(100)は前年度並。<共テ>(76)は大幅減少で2年連続減少。
		-6	100	105	2,881	105	2,887	
	共	-232	76	15	740	15	972	
自治医科大		-371	86	123	2,357	123	2,728	<変更点><一般>2次試験の論文廃止、数学と外国語追加: <2次>論+面→数+外+面 大学合計では、3年連続増加の反動で371人(86)の減少。
獨協医科大	大学合計	-180	95	78	3,376	83	3,556	<変更点><一般>論文を1次試験から2次試験へ: <1次>数+理2+外+論<2次>面 →<1次>数+理2+外<2次>論+面 <共テ>2次試験に論追加: <セ>数2+理2+外<2次>面 →<共テ>数2+理2+外<2次>論+面 配点変更:<一般><共テ・共通配点>英<200>数<200>理<400> →英<100>数<100>理<200> 募集人員:<一般>58人、<セ>15人、<栃木県枠>10人 →<一般>63人、<共テ>10人、<栃木県枠>5人 選抜方法:<セ・栃木県枠>廃止 大学合計では、180人(95)のやや減少で、2年連続減少。方式別では、<一 般>(120)は募集人員が5人(9%)増加した影響で大幅増加。一方で、 <共テ>(54)は募集人員が5人(33%)減少した影響で約半減で3年連続減少と対 照的。<共テ>志願倍率は73.7倍→60.1倍にダウン。
		+412	120	63	2,507	58	2,095	
	共	-505	54	10	601	15	1,106	
	栃木県枠	-87	75	5	268	10	355	
	共							
埼玉医科大	大学合計	-802	84	90	4,278	97	5,080	<変更点><前期><後期>1次試験の論文を2次試験の選考に使用 <1次>数+理2+外+論<2次>面(論:基礎学力試験) →<1次>数+理2+外+論<2次>面(論:和文・英文で実施) 配点変更:<一般>英<150>→<100> 論<50>→<0>※小論文の配点化を廃止 <共テ>国:近代以降の文章→近代以降の文章・古文・漢文 大学合計では、802人(84)の大幅減少。方式別では、<前期>(114)は増加で、2 年連続増加。<後期>(74)は大幅減少で、5年連続減少。<共テ>(41)は激減。
	前期	+279	114	65	2,253	52	1,974	
	後期	-583	74	20	1,676	35	2,259	
	共	-498	41	5	349	10	847	
北里大	大学合計	-55	97	74	1,915	74	1,970	<変更点>2次試験日程追加:(出願時に選択) <2次>2日間→3日間(自由選択制) 大学合計では、55人(97)の微減で、前年度のやや増加から2019年度並に戻っ た。
		-55	97	72	1,915	72	1,886	
	相模原枠			2		2	84	
杏林大	大学合計	-272	92	113	3,092	113	3,364	大学合計では、272人(92)の減少で、2年連続減少。<一般>(100)は前年度とほ ぼ同じ志願者数。<共テ・前期>(72)は大幅減少で、3年連続減少。前年度から実 施した<共テ・後期>(159)は、周知が進み60%近い大幅増加。
		-10	100	88	2,280	88	2,290	
	東京都枠			10		10		
	前期	-285	72	10	750	10	1,035	
	後期	+23	159	5	62	5	39	
慶應義塾大		-143	90	66	1,248	66	1,391	大学合計では、143人(90)の減少で、2年連続減少。無理して最難関大を敬遠す る傾向が影響した。

2021 年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式		志願者数増減		2021年度		2020年度		2021コメント
			増減数	指数	募集 人員	志願 者数	募集 人員	志願 者数	
順天堂大	大学合計		-238	94	128	3,807	127	4,045	<変更点><地域枠>セ併用方式から一般方式に <セ>国+歴公+数2+理2+外 <個>数+理2+外+論 →<1次>数+理2+外+論 <2次>面 大学合計では、238人(94)のやや減少で、4年連続減少。方式別では、 <A方式>(98)は微減で2年ぶりに志願者数は2,000人を下回った。 <B方式>(92)は減少で2年連続減少。<地域枠>はセ併用方式から一般方式に 変更となったが、志願者数253人で前年度のセ併用方式の志願者数233人に対 して、(109)の増加だった。
	A方式		-38	98	64	1,984	63	2,022	
	B方式		-19	92	5	214	5	233	
	東京都枠		+253		10	253			
	新潟県枠				2				
	千葉県枠				5				
	埼玉県枠				7				
	静岡県枠				5				
	前期	共	-76	89	10	635	10	711	
	併用	共	-128	79	15	495	15	623	
	東京都枠	共	-233				10	233	
	新潟県枠	共					2		
	千葉県枠	共					5		
	埼玉県枠	共					7		
	静岡県枠	共					5		
	後期	共	+3	101	5	226	5	223	
昭和大	大学合計		+198	104	107	4,617	107	4,419	<変更点><一般・I期、II期>数が必須から選択へ、選択へ国追加 数+理2+外→理2+外+(国or数) 大学合計では、198人(104)のやや増加で、5年ぶりに増加。方式別では、<I期> (104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。 <II期>(106)は4年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。<共テ・B方 式地域別>(99)は微減だが、3年連続減少。
	I 期		+118	104	75	2,761	75	2,643	
	II 期		+84	106	20	1,581	20	1,497	
	B地域別	共	-4	99	12	275	12	279	
帝京大	大学合計		-1,770	81	106	7,539	108	9,309	<変更点><一般><特別地域枠>国語：現代文のみ(古文・漢文除く) 現1問必須+(現2、古、漢)→2 →現のみ 募集人員：<一般>91人→89人 大学合計では、前年度増加の反動で、1,770人(81)の大幅減少。方式別では、< 一般>(81)は大幅減少で7,000人を下回った。<共テ>(75)は大幅減少で、3年連 続減少で、650人を下回った。新設2年目の<地域枠>は、 <千葉県枠>(155)、前年度推薦で募集ができずに一般で追加募集を行った<福 島県枠>(127)は大幅増加、<茨城県枠>(70)は大幅減少、<静岡県枠>(97)がや や減少と対照的だった。
			-1,589	81	89	6,640	91	8,229	
	福島県枠		+14	127	2	65	2	51	
	千葉県枠		+36	155	2	101	2	65	
	静岡県枠		-2	97	2	67	2	69	
	茨城県枠		-8	70	1	19	1	27	
	前期	共	-221	75	10	647	10	868	
東海大	大学合計		-746	85	78	4,090	78	4,836	大学合計では、746人(85)の大幅減少で、2年連続大幅減少。<一般>(90)は減 少で、2年連続減少。他の3方式は、いずれも大幅減少。 <共テ>(68)は大幅減少で、2年連続大幅減少。<静岡県枠>(65)も2年連続大幅 減少。<神奈川県枠>(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
			-373	90	60	3,286	60	3,659	
		共	-288	68	10	615	10	903	
	神奈川県枠	共	-42	72	5	109	5	151	
	静岡県枠	共	-43	65	3	80	3	123	
東京医科大	大学合計		-314	88	89	2,302	90	2,616	<変更点>募集人員:<一般>75人、<セ>14人 →<一般>79人、<共テ>10人 大学合計では、314人(88)の減少で、前年度のほぼ倍増の反動があった。方式 別では、<一般>(92)は減少で、募集人員が4人増加したこともあって、志願倍率 は25.2倍→22.3倍と若干緩和した。一方で、<共テ>(77)は前年度倍増以上だっ た反動で大幅減少で、募集人員が4人(29%)減少した減らしたこともあって、志 願倍率は50.0倍→53.7倍とアップ。
			-151	92	79	1,765	75	1,916	
	茨城県枠						*	1	
		共	-163	77	10	537	14	700	
東京慈恵会 医科大	大学合計		-261	87	110	1,702	110	1,963	大学合計では、261人(87)の減少で、8年連続減少。難関医学部医学科を敬遠 する傾向が続いていることから、志願者数は前年度2,000人を下回り、今年度は 1,700人にまで減少した。
			-239	87	105	1,625	105	1,864	
	東京都枠		-22	78	5	77	5	99	

2021 年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2021年度		2020年度		2021コメント
		増減数	指数	募集 人員	志願 者数	募集 人員	志願 者数	
東京女子医科大		-445	68	75	945	75	1,390	＜変更点＞学費改定： 1年次：9,431,000円、2年次以降：4,933,000円、6年計：34,096,000円 →1年次：11,449,000円、2年次以降：6,953,000円、6年計：46,214,000円 大学合計では、445人(68)の大幅減少で、2年連続減少。志願者数は1,000人を下回った。試験日の重複が、前年度は1次試験における藤田医科大1大学だったのが、今年度は1次試験2大学、2次試験2大学と増えたことが影響した。また、コロナ禍の経済状況悪化の中で、学費値上げも影響した。
東邦大	大学合計	-242	91	75	2,547	90	2,789	＜変更点＞募集人員：90人→75人※千葉県枠5人含む 大学合計では、242人(91)の減少で、前年度やや増加の反動。方式別では、＜一般＞(90)は募集人員を15人(18%)減少したことが影響した。一方で、＜千葉県枠＞(142)は大幅増加。
	一般	-281	90	70	2,415	85	2,696	
	千葉県枠	+39	142	5	132	5	93	
日本大	大学合計	-342	91	107	3,339	107	3,681	大学合計では、342人(91)の減少で、3年連続減少。方式別では、＜A方式＞(85)は大幅減少で5年連続減少。1次試験の日程重複が、今年度は全くなく単独実施になったが、増加につながらなかった。＜N1期＞(132)は大幅増加で2年連続大幅増加、1次試験の日程重複が、前年度は1次試験で2大学、2次試験で6大学と多かったのが、今年度は1次試験で1大学、2次試験で3大学と半減したのが影響した。
	A方式	-489	85	97	2,737	97	3,226	
	N1期	+147	132	10	602	10	455	
日本医科大	大学合計	-235	94	124	3,881	124	4,116	大学合計では、235人(94)のやや減少で、2年連続減少。方式別では、＜前期＞(89)は減少で、3年連続減少。＜後期＞(90)は2年連続減少で、2017年度の新設以降で最少の志願者数となった。＜共テ・後期併用＞(63)は2019年度の新設時の約40%の231人に留まった。前年度より新設の＜地域枠＞は周知が進み、4地区で全て1.5倍以上の増加、特に＜後期・福島県枠＞は倍増以上。
	前期	-243	89	81	1,886	81	2,129	
	後期	-115	90	17	1,086	17	1,201	
	前期・埼玉県枠	+79	164	3	203	3	124	
	後期・埼玉県枠			1		1		
	前期・千葉県枠	+87	153	4	251	4	164	
	後期・千葉県枠			3		3		
	前期・静岡県枠	+52	150	3	156	3	104	
	後期・静岡県枠			1		1		
	後期・福島県枠	+38	227	1	68	1	30	
	後期併用	共	-133	63	10	231	10	364
聖マリアンナ医科大	大学合計	+849	136	80	3,204	80	2,355	＜変更点＞募集人員＜前期＞80人→70人 新規実施＜後期＞募集人員10人 大学合計では、＜後期＞の新設により、849人(136)の大幅増加で、2年連続大幅増加。ただし、＜前期＞(85)のみでは、前年度大幅増加の反動と募集人員が10人(12%)減少したことで大幅減少。なお、志願倍率は29.4倍→28.5倍と大きな変化はなかった。新設の＜後期＞は、志願者数1,212人、志願倍率は121.2倍だった。
	前期	-363	85	70	1,992	80	2,355	
	後期			10	1,212			
金沢医科大	大学合計	-819	82	75	3,804	75	4,623	＜変更点＞＜一般＞面接(調査書含む)を点数化：面一面(割合)＜110点＞ 大学合計では、819人(82)の大幅減少。方式別では、＜前期＞(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、＜後期＞(83)は2018年度の新設以降増加が続いていたが、初めての大幅減少。
	前期	-557	82	65	2,481	65	3,038	
	後期	-262	83	10	1,323	10	1,585	
愛知医科大	大学合計	-361	89	90	3,055	90	3,416	大学合計では、361人(89)の減少で、2年連続減少。＜共テ・特別枠B＞(106)のみやや増加で、他方式はいずれも減少。特に、＜共テ・前期＞(75)は大幅減少で700人をわずかに上回る程度に留まった。
		-116	95	65	2,244	65	2,360	
	前期	共	-242	75	15	713	15	955
	後期	共	-5	93	5	63	5	68
	特別枠B	共	+2	106	5	35	5	33
藤田医科大	大学合計	-95	97	105	3,109	105	3,204	＜変更点＞配点変更：＜一般＞＜共テ・前期＞面+調…100点→50点 入試科目：＜共テ＞国(現・古)+歴公+数2+理2+外 →国(現のみ)+数2+理2+外※コロナ禍対応のため ＜共テ・後期＞面+調→総合問題+面+調 募集人員：＜前期＞75人、＜後期＞5人→＜前期＞72人、＜後期＞8人 ※＜後期＞は現役枠3人を含む 大学合計では、95人(97)のやや減少。方式別では、一般方式＜前期＞(106)は2年連続やや増加、＜後期＞(82)は前年度増加の反動で大幅減少。共通テスト利用方式では、今年度はコロナ禍対策として歴公が除外されたが、＜前期＞(92)は前年度の大幅減少に引き続き減少、＜後期＞(104)は前年度の大幅減少の反動は見られたが、総合問題追加の負担増でやや増加に留まった。
	前期	+99	106	72	1,841	75	1,742	
	前期愛知県枠	±0		5		5		
	後期	-147	82	8	671	5	818	
	後期愛知県枠			5		5		
	前期	共	-49	92	10	547	10	596
	後期	共	+2	104	5	50	5	48

2021 年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式		志願者数増減		2021年度		2020年度		2021コメント	
			増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
大阪医科大	大学合計		-220	93	109	2,868	109	3,088	＜変更点＞＜共テ>国(現・古)+歴公+数2+理2+外 →国(現のみ)+数2+理2+外 ※コロナ禍対応のため ＜統合＞大阪薬科大と統合、大阪医科薬科大(2021年4月より) 大学合計では、220人(93)のやや減少で、2年連続減少。方式別では、一般方式<前期>(85)は大幅減少、<後期>(111)は増加と対照的。共通テスト利用方式では、今年度はコロナ禍対策として歴公が除外されたが、 ＜共テ>(94)とやや減少で3年連続減少。	
	前期		-278	85	82	1,593	82	1,871		
	地域枠				2		2			
	後期		+85	111	15	853	15	768		
		共	-27	94	10	422	10	449		
関西医科大	大学合計		-489	88	85	3,442	117	3,931	＜変更点＞＜共テ・前期> 国+数2+理2+外→国+歴公+数2+理2+外 ＜共テ・後期> 国+数2+理2+外→数2+理2+外 募集人員<前期>72人→55人 大学合計では、489人(88)の減少で、2年連続減少。方式別では、<前期>(98)は微減だが2年連続減少。しかし、学校推薦型選抜の新設により募集人員が17人(24%)減少したため、志願倍率は24.9倍→32.1倍にアップ。<後期>(85)は前年度の1.5倍増の反動で大幅減少。<共テ・前期>(67)は30%以上の大幅減少で3年連続減少、今年度から歴公が課された負担増が要因。前年度新設の<共テ・後期>(120)は、今年度から国語が除外され負担減のため大幅増加。<共テ・併用>(83)は大幅減少で、2019年度の新設以降2年連続減少。	
	前期		-32	98	55	1,764	72	1,796		
	前期・新潟県枠					□	2			
	前期・静岡県枠					□	8			
	前期・大阪府枠					□	5			
	後期		-102	85	□	10	589	□		10
	後期・新潟県枠					□	2			
	後期・静岡県枠					□	8			
	後期・大阪府枠					□	5			
	前期	共	-272	67	10	561	10	833		
	後期	共	+10	120	□	10	59	□		10
	併用	共	-93	83	10	469	10	562		
近畿大	大学合計		+102	103	70	3,025	70	2,923	大学合計では、102人(103)の2年連続やや増加。方式別では、<前期 A>(131)は大幅増加で、4年連続減少の反動。<後期>(95)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。<共テ・前期>(67)は大幅減少。<共テ・中期>(75)も前年度30%近い大幅増加の反動で大幅減少。一方で、<共テ・後期>(111)は2年連続大幅増加に引き続き増加。	
	前期A		+382	131	55	1,618	55	1,236		
	後期		-36	95	5	722	5	758		
	前期	共	-196	67	5	404	5	600		
	前期	共	-58	75	3	178	3	236		
	前期	共	+10	111	2	103	2	93		
兵庫医科大	大学合計		-281	86	95	1,788	95	2,069	大学合計では、281人(86)の減少。方式別では、<A>の2方式になって3年目だが、<A>(86)は2年連続減少。(91)は、前年度1.8倍増の激増だったが、その反動は小さくやや減少に留まった。	
	A一般枠		-256	86	80	1,540	80	1,796		
	A兵庫県推薦枠				5		5			
	B		-25	91	10	248	10	273		
川崎医科大	大学合計		±0	100	74	1,588	74	1,588	大学合計では、前年度と同数(100)。方式別では、<一般>は23人(102)の微増だが、2年連続増加。地域枠はそれぞれ<長崎県枠>(103)は前年度ほぼ倍増に引き続きやや増加、<静岡県枠>(96)は前年度増加の反動は小さくやや減少。<岡山県枠>(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
			+23	102	50	1,427	50	1,404		
	静岡県枠		-3	96	10	67	10	70		
	岡山県枠		-21	75	10	64	10	85		
	長崎県枠		+1	103	4	30	4	29		
久留米大	大学合計		-275	91	80	2,722	80	2,997	大学合計では、275人(91)の減少で、5年ぶりの減少。方式別では、<前期>(99)は微減。新設3年目の<後期>(73)は前年度増加したが、今年度は大幅減少し、志願者数は700人を下回った。	
	前期		-22	99	75	2,034	75	2,056		
	後期		-253	73	5	688	5	941		
産業医科大		共	-368	77	85	1,248	85	1,616	＜変更点＞＜一般>2次試験の面接点数化の廃止: ＜2次>論+面:50点→論:50点、面:点数化しない 大学合計では、368人(77)の大幅減少で、3年連続減少。志願者数は1,300人を下回り、志願倍率は19.0倍→14.7倍にダウンした。	
福岡大	大学合計		-1,157	68	70	2,439	70	3,596	＜変更点＞募集人員:<一般・系統別>60人、<セ・Ⅰ期>10人 →<一般・系統別>65人、<共テ・Ⅲ期>5人 ※コロナ禍対策として入試日程を変更 大学合計では、1,157人(68)の30%以上の大幅減少で、2年連続減少。方式別では、<一般・系統別>(86)は減少で2年連続減少。<共テ・Ⅲ期>は前年度の<センター・Ⅰ期>との比較では(11)の激減。コロナ禍対策で日程を遅らせたが、共通テスト後や他大学合格発表後の出願となったことで、志願者が絞り込まれた結果、前年度の10分の1まで激減した。	
	系統別		-389	86	65	2,340	60	2,729		
	Ⅰ期	共					10	867		
	Ⅲ期	共			5	99				

2021 年度入試状況分析【私立大】

〔志願者数が多かった大学〕

大学	志願者数
帝京大	7,539 (106)
昭和大	4,617 (107)
埼玉医科大	4,278 (90)
東海大	4,090 (78)
日本医科大	3,881 (124)

〔増加数が多かった大学(増加した大学)〕

大学	増減数
聖マリアンナ医科大学	+849
昭和大	+198
東北医科薬科大	+123
近畿大	+102

〔志願倍率が高かった大学〕

大学	志願倍率
帝京大	71.1
東海大	52.4
金沢医科大	50.7
埼玉医科大	47.5
獨協医科大	43.3

〔志願者数が少なかった大学〕

大学	志願者数
東京女子医科大	945 (75)
慶應義塾大	1,248 (66)
産業医科大	1,248 (85)
川崎医科大	1,588 (74)
東京慈恵会医科大学	1,702 (110)

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数
帝京大	-1,770
福岡大	-1,157
金沢医科大	-819
埼玉医科大	-802
東海大	-746

〔志願倍率が低かった大学〕

大学	志願倍率
東京女子医科大	12.6
産業医科大	14.7
東京慈恵会医科大学	15.5
東北医科薬科大	17.7
兵庫医科大	18.8

※いずれも大学合計の数値で算出。()内は募集人員を示す。